PORSCHE

Cayenne
取扱説明書

WKD 948 04 70 **15** 08/14

車載マニュアル

取扱説明書や整備手帳など、車両に付属の印刷物は車内に常備してください。車両を売却するときは、次に購入されるお客様にお渡しください。

ご質問、ご提案

車両本体または車載マニュアルについてのご質問、ご提案がございましたら、下記までご連絡ください。

東京都目黒区下目黒1–8–1
ポルシェジャパン株式会社
アフターセールス部
マーケットサポートグループ

車両の装備について

ポルシェ社では絶えず製品の開発と改良を行っており、お客様の車両の装備品や仕様等がこの取扱説明書の内容と一部異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

オプション装備品や国別仕様、法律等の基準によっては、この取扱説明書の内容と異なります。そのような項目にはアスタリスク（＊印）を付けていますのでご留意ください。この取扱説明書に記載した装備品の一部はオプション部品です。車両ご購入の際にこれらの装備品を追加したい場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。

この取扱説明書に記載されていない装備品等の取り扱いにつきましては、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ正規販売店はすべての装備品の取り扱い方法とメンテナンスについてご説明致します。

各国の法律等の違いにより、この取扱説明書の内容の一部が車両の仕様と一部異なる場合があります。

Cayenne S E-Hybrid

Cayenne S E-Hybrid用に追加された危険に関する情報、安全に関する情報に関しましては、別添の追補版取扱説明書を参照してください。

エアバッグ警告ラベル

⚠ 危険 チャイルド・シートの助手席での使用

チャイルド・シートを助手席に取り付けた場合、助手席エアバッグが作動したときに重傷または致命傷を負う危険があります。

▷ 後ろ向きに着座するタイプのチャイルド・シートは使用しないでください。フロント・エアバッグが作動した場合、お子様が重傷または致命傷を負う危険があります。
「チャイルド・シート」（43ページ）を参照してください。

取扱説明書内の安全に関する指示

この取扱説明書内には様々な安全に関する指示が使用されています。

⚠ 危険 重傷または致命傷を負う危険があります。

「危険」の欄の安全に関する指示を守らなかった場合、重傷または致命傷を負う危険があります。

⚠ 警告 重傷または致命傷を負う恐れがあります。

「警告」の欄の安全に関する指示を守らなかった場合、重傷または致命傷を負う恐れがあります。

⚠ 注意 ケガまたは軽傷を負う恐れがあります。

「注意」の欄の安全に関する指示を守らなかった場合、ケガまたは軽傷を負う恐れがあります。

知識

車両を損傷する恐れがあります。

「知識」の欄の安全に関する指示を守らなかった場合、車両を損傷する恐れがあります。

i インフォメーション

追加情報、ヒントおよび指示は「インフォメーション」で表示されています。「インフォメーション」の内容をよく読み、指示に従ってください。

目次

＊ 日本仕様に設定はありません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

外観図

運転席

A セントラル・ロッキング・ボタン
(22ページ)

B インナー・ドア・ハンドル
(23ページ)

C パーソナル設定のメモリー・ボタン
(154ページ)

D トリップ・メーター・リセット・ボタン/インストルメント・パネル明るさ調節ボタン
(94ページ)

E イグニッション・ロック/ステアリング・ロック
(160ページ)

F ルーフ・コンソール
(10ページ)

G パワー・ウィンドウ
(79ページ)

H ドア・ミラーの調節
(53ページ)
レーン・チェンジ・アシスト(LCA)
(183ページ)

I Cayenne S E-Hybridのフィラー・フラップ解除ボタン（追補版取扱説明書を参照してください。）

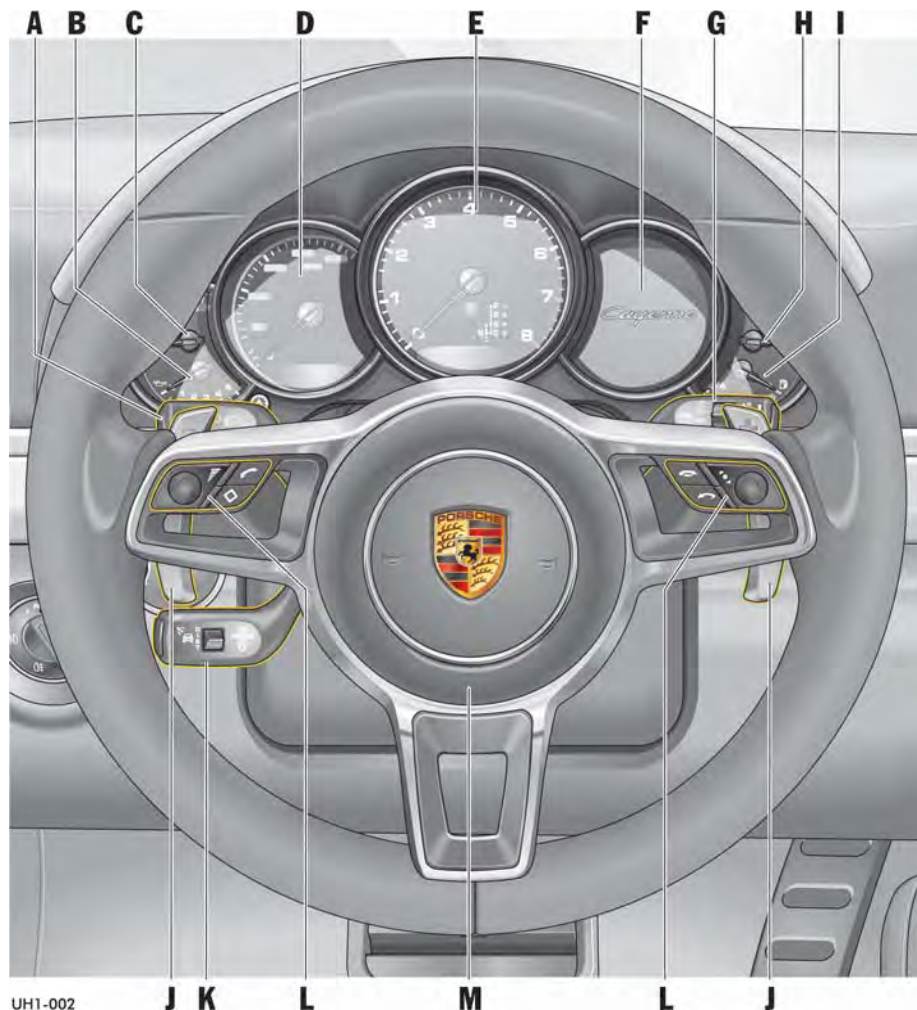
J エンジン・フードの開閉
(25ページ)

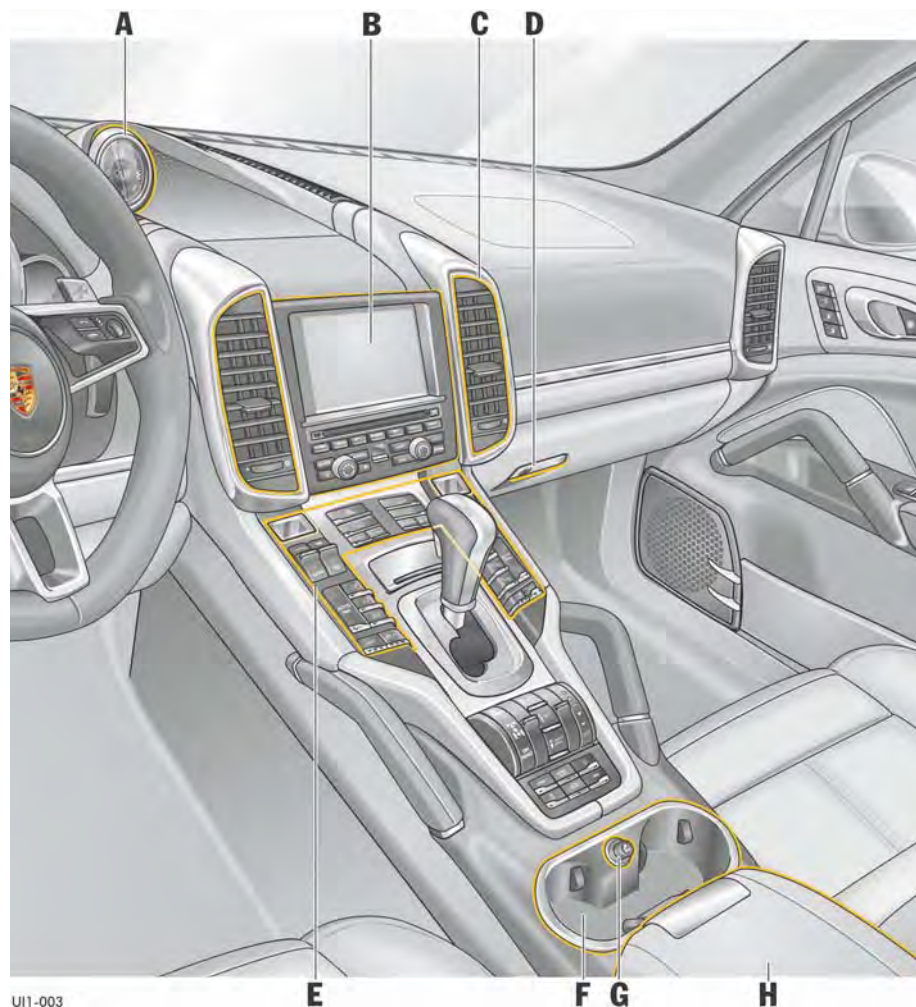
K 故障診断用ソケット
(160ページ)

L エレクトリック・パーキング・ブレーキ
(167ページ)

M ライト・スイッチ
(89ページ)

N ステアリング・ホイール調節
(58ページ)

O シート調節
(34ページ)

ステアリング・ホイールおよびインストルメント・パネル

A 方向指示灯
(92ページ)
B 油圧計
(105ページ)
C 油温計
(104ページ)
D スピードメーター
(104ページ)
E タコメーター（回転計）
(104ページ)
F マルチファンクション・ディスプレイ
(108ページ)
G フロント・ワイパー
(98ページ)
H 水温計
(104ページ)
I 燃料計
(106ページ)
J ティプトロニックSシフト・パドル
(56ページ)
K クルーズ・コントロール
(170ページ)
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)
(172ページ)
L 電話コントロール、マルチファンクション・ディスプレイ
(109ページ)
M ホーン
(56ページ)

センター・コンソール

A コンパス＊
(108ページ)
スポーツ・クロノ・ストップウォッチ
(123ページ)

B ポルシェ・コミュニケーション・システム＊
(193ページ)

C エア・ベント
(73ページ)

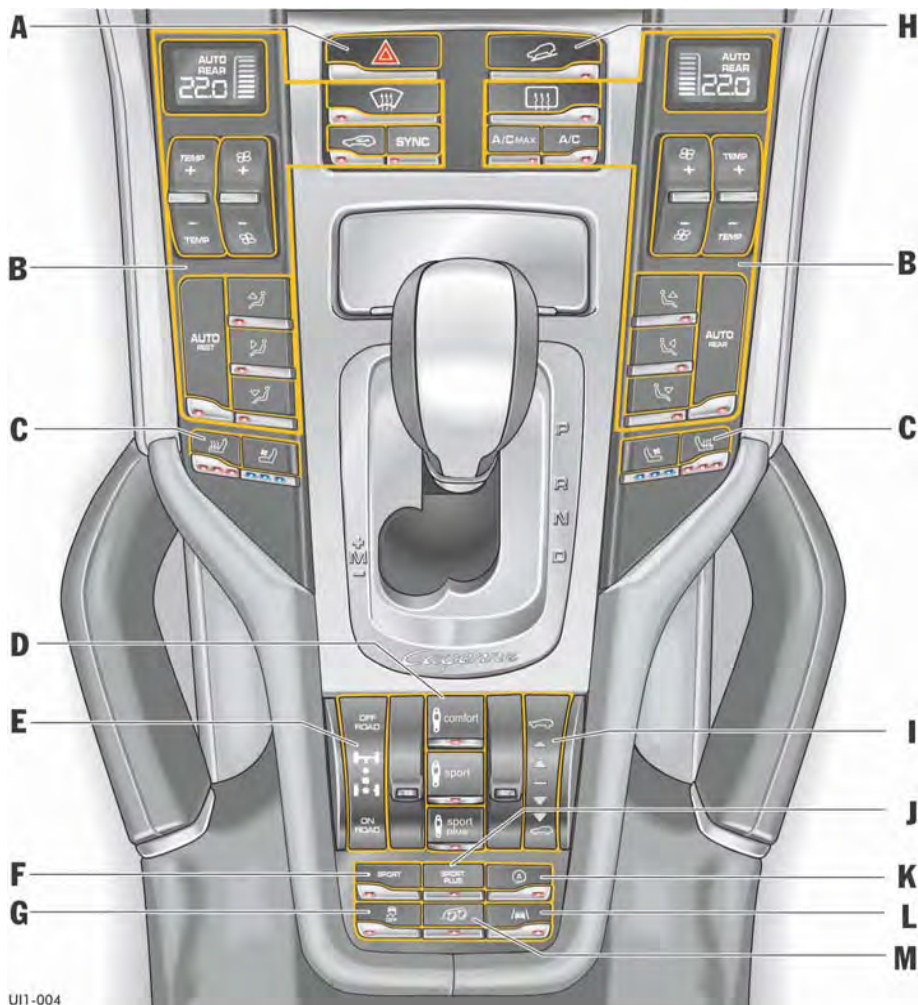
D グローブ・ボックス
(228ページ)

E コントロール・パネル
(8ページ)

F ドリンク・ホルダー /カップ・ホルダー
(229ページ)

G シガー・ライター
(231ページ)

H アームレスト、小物入れ
(228ページ)

＊ 日本仕様に設定はありません。

コントロール・パネル

A ハザード・ライト・ボタン
(94ページ)

B エアコン、左/右
(65ページ)

C シート・ヒーター/シート・ベンチレーター、左/右
(38ページ)

D ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)
(212ページ)

E オンロードおよびオフロード・ドライビング・プログラム
(219ページ)

F スポーツ・モード
(215ページ)

G ポルシェ・スタビリティ・マネージメント(PSM)
(204ページ)

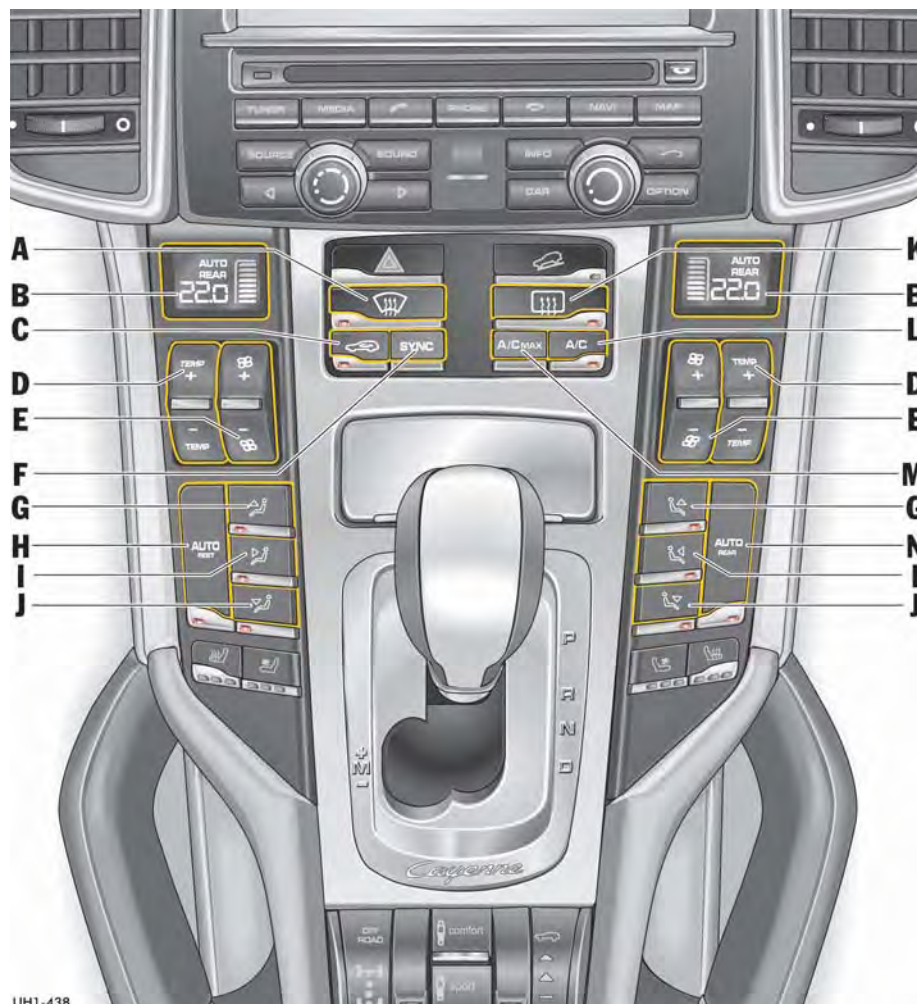
H ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)
(218ページ)

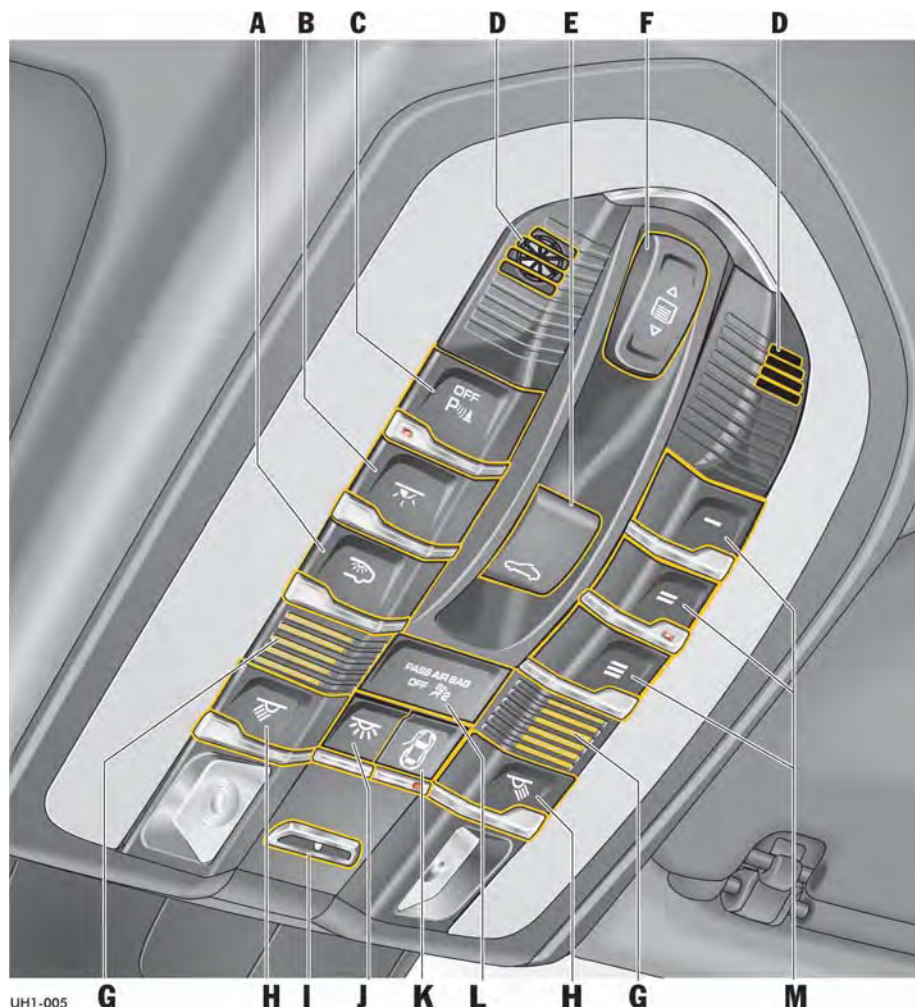
I エア・サスペンションおよびレベル・コントロール付きポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)
(212ページ)

J スポーツ・プラス・モード
(215ページ)

K オート・スタート/ストップ機能
(164ページ)

L 車線逸脱警告システム
(190ページ)

M スポーツ・エキゾースト・システム
(217ページ)

エアコン（2ゾーンおよび4ゾーン・エアコン）

A フロント・ウィンドウ・デフロスター（74ページ）
B エアコン・ディスプレイ（左/右）
C 内気循環モード（71ページ）
D 温度の設定（左/右）（66ページ）
E 風量の調節（左/右）（67ページ）
F SYNCモード（運転席のエアコン設定を室内全体に適用する）（72ページ）
G フロント・ウィンドウへの送風（左/右）（68ページ）
H AUTOモード（左）（66ページ）
RESTモード（エンジン余熱ヒーターを使用する）（72ページ）
I 中央およびサイド・ベントからの送風（左/右）（68ページ）
J 足元への送風（左/右）（68ページ）
K リヤ・ウィンドウ・ヒーター、ドア・ミラーおよびフロント・ウィンドウ・ヒーター（75ページ）
L A/Cモード（エアコン・コンプレッサーのON/OFF）（70ページ）
M A/C MAXモード（70ページ）
N AUTOモード（右）（66ページ）
REARモード（フロント・コントロール・パネルでリヤ・ゾーンを制御する）（69ページ）

ルーフ・コンソール

A リヤ・インテリア・ライト
(95ページ)

B アンビエント・ライトの明るさ調節
(96ページ)

C パーキング・アシスタントOFFボタン
(258ページ)

D 室内モニタリング・システム・センサー
(267ページ)

E スライディング/チルティング・ルーフ
(82ページ)
パノラマ・ルーフ
(84ページ)

F パノラマ・ルーフ用ロール・アップ式サンブラインド
(85ページ)

G ハンズフリー・マイク

H 読書灯（左右）
(95ページ)

I オリエンテーション・ライト
(96ページ)

J フロント・インテリア・ライト
(95ページ)

K ドア/リヤ・リッド連動インテリア・ライト
(96ページ)

L 「**助手席エアバッグOFF**」警告灯
(52ページ)

M ガレージ・ドア・オープナー /ホームリンク®*
(261ページ)

＊ 日本仕様に設定はありません。

後席

A エア・ベント
(73ページ)

B エアコン
(65ページ)

C シート・ヒーター/シート・ベンチレーター
(38ページ)
セントラル・ロッキング・ボタン
(22ページ)

D 読書灯
(95ページ)

E インナー・ドア・ハンドル
(23ページ)

F 灰皿
(231ページ)

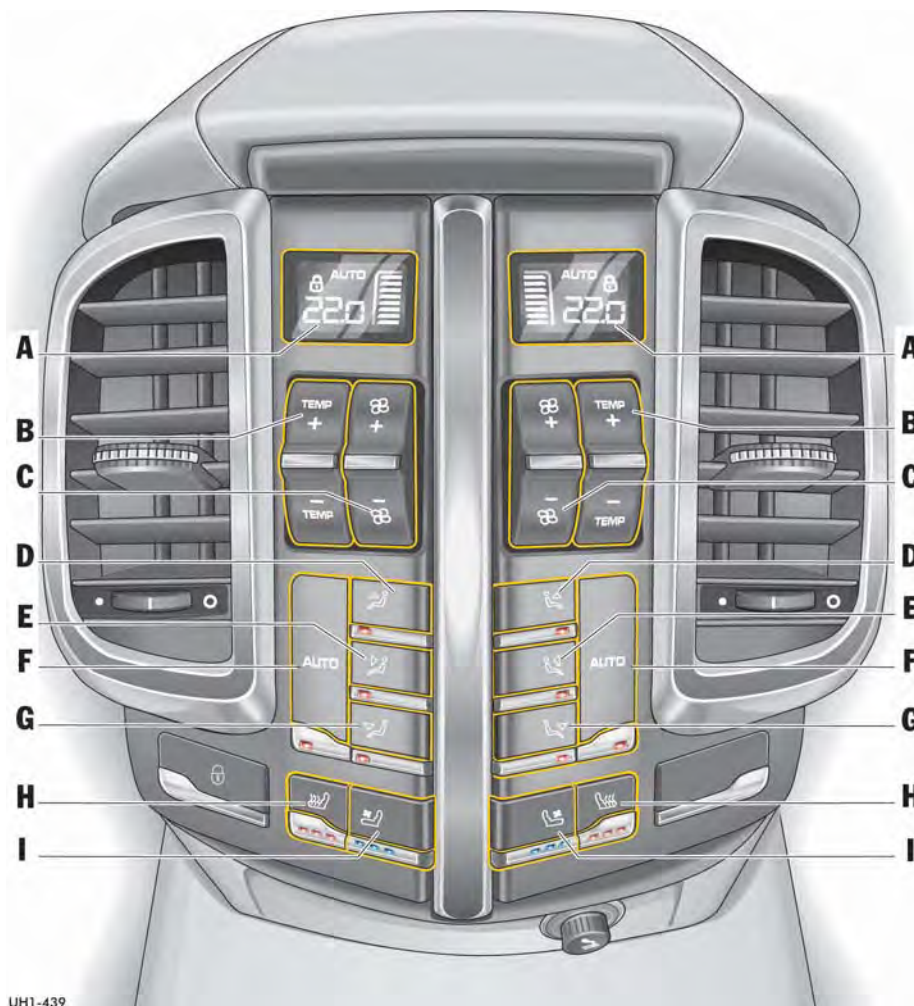
G マップ・ポケット

H シガー・ライター
(231ページ)

I リヤ・シートの前後調節
(36ページ)

J リヤ・シートのバックレスト角度の調節
(36ページ)

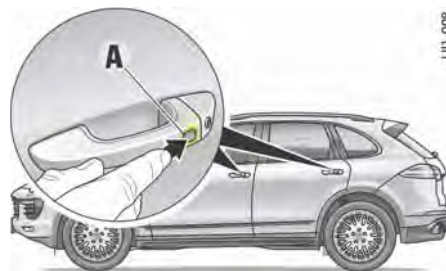
リヤ・エアコン（4ゾーン・エアコン）

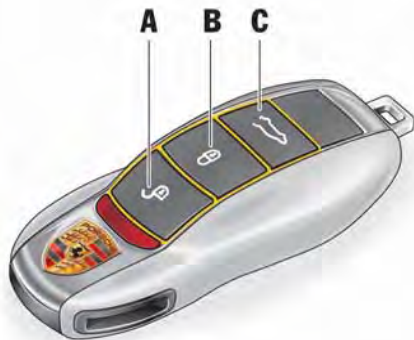
A エアコン・ディスプレイ（左/右）
B 温度の設定（左/右）
（66ページ）
C 風量の調節（左/右）
（67ページ）
D ドア・ベントへの送風（左/右）
（68ページ）
E 中央のベントへの送風（左/右）
（68ページ）
F AUTOモード（左/右）
（66ページ）
G 足元への送風（左/右）
（68ページ）
H シート・ヒーター
（38ページ）
I シート・ベンチレーター
（38ページ）

開閉操作とロック

概要 – 車外からの開閉操作とロック

ポルシェ・エントリー＆ドライブは、ドア・ハンドルのボタン**A**の操作でロック/ロック解除ができるシステムです。

この概要説明は後述の「車外からの開閉操作とロック」に代わるものではありません。操作する際は、この概要のみでなく、「警告」を必ずお読みください。

キー

ポルシェ・エントリー＆ドライブ

運転者が何をしたいか？	その操作方法は？	その結果は？
ロック解除	キーを使用する： キーのボタンを押してください。 ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車： ドア・ハンドルをしっかり握ってください。	ハザード・ライトが1回点滅します。 ドアを開くことができます。
ロックする	キーを使用する： キーのボタンを押してください。 ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車： ドア・ハンドルのボタン**A**を押してください。	ハザード・ライトが2回点滅します。 すべてのドアとリヤ・リッドがロックされます。 ドアは、インナー・ドア・ハンドルを引いて車内から開くことができません（セーフロック）。
人/動物を車両に残してロックする場合 – ロックされた車両のセーフロックの作動を解除する **および** – 室内モニタリング・システムをOFFにする	キーを使用する： キーのボタンを2回押してください（約2秒以内）。 ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車： ドア・ハンドルのボタン**A**を2回押してください（約2秒以内）。	ハザード・ライトがゆっくり1回点滅します。 ドアはロックされますが、インナー・ドア・ハンドルを引くことにより、車内からドアを開くことができます。
警報を解除する	キーのボタンを押してください。 **または** イグニッションをONにしてください。	警報が止まります。

A - 車両のロック解除
B - 車両のロック
C - リヤ・リッドおよびドアのロック解除

車外からの開閉操作とロック

車両装備により、キーまたはポルシェ・エントリー&ドライブ装備車ではキーなしでロックおよびロック解除ができます。

インフォメーション

ここでは初期設定の機能を元に説明しています。コンフォート・メモリー装備車ではインストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイを使用して設定を変更し、そのとき使用しているキーの設定情報として保存しておくことができます。

ロック/ロック解除の設定変更に関するインフォメーション：

▷ 「ロックの設定」(135ページ) を参照してください。

インフォメーション

– 運転席ドア・ロックにエマージェンシー・キーを差し込んで車両をロック解除した場合、警報システムの作動を回避するため、ドアを開いてから15秒以内にイグニッションをON（イグニッション・ロック位置**1**）にしなければなりません。その他のドアはロックしたままになります。運転席ドアを開かなかった場合、約30秒後に車両は自動的に再ロックされます。
  エマージェンシー・キーを使用した車両のロック解除に関するインフォメーション：

▷ 「エマージェンシー・キーによるロック解除」（27ページ）を参照してください。

– 国別仕様により、警報システムが作動するまでの時間は異なります。

キーを使用する場合

キーのボタン操作でロックおよびロック解除を行ってください。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車では、キーを携行していれば（例えば着衣のポケットに入れておくだけで）、キーを使用することなく開閉操作およびエンジンの始動が行えます。

インフォメーション

ポルシェ・エントリー&ドライブの機能を快適にご利用いただくため、キーを電源が入った電子機器（携帯電話、ノートパソコン、ドライバー・カード/リモート・キーパッド（ポルシェ車両追跡システム）など）と一緒に保管しないようにしてください。

▷ 「開閉操作とロックの故障」（26ページ）を参照してください。

ドア・ロックを解除してドアを開く

 インフォメーション

ドア・ロックを解除してからドアまたはリヤ・リッドを開かなかった場合、30秒後に自動的にロックされます。警報システムが起動します。自動的に再ロックされた後は、室内モニタリング・システムと傾斜センサー＊が解除されます（盗難防止機能が制限されます）。

この場合、インナー・ドア・ハンドルを引くことにより、車内からドアを開くことができます。

▷ ドアを開いた場合、警報システムが作動することを車内に残る人に伝えてください。

再度ロックされた後は、室内モニタリング・システムおよび傾斜センサー＊が再び作動します。

ドアのロック解除機能の設定

車両のロックを解除するときに、運転席ドアとリヤ・リッドのみをロック解除するか、またはすべてのドアをロック解除するか設定できます。

なお、設定内容に関係なく、すべてのドアをロック解除することができます。

▷ キーの ボタンを5秒以内に2回押してください。

ロック/ロック解除の設定変更に関するインフォメーション：

▷ 「ロックの設定」（135ページ）を参照してください。

キーによるロック解除

1. ボタンを押してください。
   ハザード・ライトが1回点滅します。
   ドアのロックが解除されます。
2. ドア・ハンドルを引いてドアを開いてください。

ポルシェ・エントリー&ドライブによるロック解除（キーレス操作）

キーを携行して運転席または助手席側のドアに近づくと、車両のロックを解除することができます。

1. ドア・ハンドルをしっかり握ってください。
   ハザード・ライトが1回点滅します。
   ドアのロックが解除されます。
2. ドア・ハンドルを引いてドアを開いてください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ドアをロックする

セーフロック

セーフロックは、ロックされた車両のインナー・ドア・ハンドルとセントラル・ロッキング・ボタンを無効にし、不正な車内への侵入を難しくします。

⚠ 警告 車外からのロック

車外からドアをロックすると、**車内からドアやウィンドウを開くことができなくなります（セーフロック）。**そのため、ロックする前に車両に人または動物が残っていないことを確認してください。ドアをロックした後は、緊急時においても容易に他者が車内へ入ることができなくなります。

▷ ドアをロックする前に、人や動物が車内にいないことを確認してください。

インフォメーション

– 運転席側ドアが完全に閉じていない場合、車両をロックできません。
  すべてのドア、エンジン・コンパートメント・リッド、リヤ・リッドが閉じている場合にのみ、ハザード・ライトが点滅して車両がロックされたことを知らせます。
– 運転席ドアのみを閉じた状態でロックをすると、車両はプリロックされます。他の開いたドアまたはリヤ・リッドを閉じるときは、キーを車内に置き忘れていないか確認してください。
  キーを車内に残したままにすると、スペア・キーを使用しなければロックを解除することができなくなります。

キーによるロック

1. ドアを閉じてください。
2. キーのボタン🔒を1回押してください。
ハザード・ライトが2回点滅します。
車外、車内のどちらからもドアを開くことができなくなります。
または
人または動物を車内に残してロックする場合、キーのボタン🔒を2回押してください。
ハザード・ライトがゆっくり1回点滅します。
ドアはインナー・ドア・ハンドルを引くことにより、内側から開くことができます。
3. ドアを開いた場合、警報システムが作動することを車内に残る人に伝えてください。

ポルシェ・エントリー＆ドライブによるドア・ロック（キーレス操作）

この操作を行うときは、キーを携行していなければなりません。

1. ドアを閉じてください。
2. ドア・ハンドルのロック・ボタン**A**を押してください。
ハザード・ライトが2回点滅します。
車外、車内のどちらからもドアを開くことができなくなります。
または
人または動物を車内に残してロックする場合、ドア・ハンドルのボタン**A**を2回押してください。
ハザード・ライトがゆっくり1回点滅します。
ドアはインナー・ドア・ハンドルを引くことにより、内側から開くことができます。
3. ドアを開いた場合、警報システムが作動することを車内に残る人に伝えてください。

インフォメーション

– すべてのドアとリヤ・リッドが完全に閉じていないと車両はロックできません。
  警告音が鳴り、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。
– ドアをロックするときはキーを車外に持ち出してください。キーが車内にあるとドアをロックできません。
– キーがポルシェ・エントリー＆ドライブの作動範囲外にある場合、ロックした後ドアを開くことはできません。

オートマチック・リヤ・リッド

リヤ・リッドにはエレクトリック・ドライブ・メカニズム（パワーリフトおよびクロージング・エイド）が組み込まれています。

リヤ・リッドを自動開閉する

危険 有毒な排気ガスの吸引

エンジンが作動している状態でリヤ・リッドが開いていると、有毒な排気ガスが室内に侵入する危険があります。

▷ エンジンが作動しているときは、必ずリヤ・リッドを閉じてください。

警告 オートマチック・リヤ・リッドの不意の自動開閉

オートマチック・リヤ・リッドが不意に開閉することによりケガを負う恐れがあります。

▷ 停車中にのみリヤ・リッドを開閉してください。

▷ リヤ・リッドの作動範囲内に人や動物がいないこと、障害物がないことを確認してからリヤ・リッドを開閉してください。

▷ 万一のときはいつでも作動を中断できるように、リヤ・リッドの開閉作動から目を離さないでください。

開閉作動の中断に関するインフォメーション：

▷ 「緊急時の開閉作動の中断」（21ページ）を参照してください。

知識

オートマチック・リヤ・リッドの不意の開閉により、損傷する恐れがあります。

開閉時にリヤ・リッドがガレージの天井に衝突したり、ルーフ・トランスポート・システムまたはラゲッジ・コンパートメントに載せた荷物に衝突したりする恐れがあります。

▷ 車両の後方や上方に十分なスペースがあることを確認してください（ルーフ・トランスポート・システムやガレージの天井など）。

▷ 積み荷がラゲッジ・コンパートメントから突き出したり、はみ出したりしないようにしてください。

リヤ・リッドを自動で開く

インフォメーション

リヤ・リッドは設定した高さまで開きます。

リヤ・リッドの開き方には3通りの方法があります。

手順1

▷ リヤ・リッドのリリース・ハンドル（矢印）を使用してリッドを開いてください。このとき、車両のロックは解除しておいてください。ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車では、キーを携行していれば（例えば着衣のポケットに入れておくだけで）、車両がロックされていてもリッドを開くことができます。

手順2

▷ イグニッションがOFFのときは、キーのボタンを約1秒間押してください。

 インフォメーション

車両がロックされている場合、運転席ドアまたはすべてのドアのロックが解除されます（マルチファンクション・ディスプレイでの設定により異なります）。

マルチファンクション・ディスプレイでのロック/ロック解除の設定に関するインフォメーション：

▷ 「ロックの設定」（135ページ）を参照してください。

手順3

▷ 運転席ドアのボタンを短く押してください。

 インフォメーション

トレーラーやキャンピング・カー、その他アクセサリー（バイク・ラックなど）をトレーラー・コネクターに接続してけん引している場合、リヤ・リッドのリリース・ボタンを操作した場合にのみリッドを開くことができます。

リヤ・リッドを自動で閉じる

⚠ 注意 パワー・クロージング・メカニズム

リヤ・リッドは、引き下げると自動的に閉じ、ロックされます。

▷ リヤ・リッドの下に指を挟まないよう注意してください。

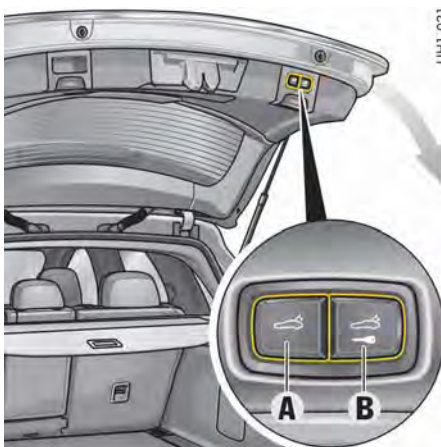
▷ パワー・クロージング・メカニズムの作動部品（ロックのロータリー・ラッチ）の近くに物を置いたり、手足を近づけないでください。

▷ お子様のみを車内に残さないでください。

▷ リヤ・リッドを閉じる前に、リッドの可動範囲に物がないことを確認してください。リッドが障害物に触れると閉作動が中断した後、リッドが再び約1cm開きます。

リヤ・リッドの閉じ方には、2通りの方法があります。

手順1

1. イグニッション・スイッチをONにした状態で運転席ドアの ボタンを押し続けてください。
   警告音が鳴り、リヤ・リッドが閉じます。
2. キーの ボタンを1回押してください。
   車両がロックされます。

A - リヤ・リッドを自動で閉じる
B - リヤ・リッドを自動で閉じてロックする
（ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車）

手順2

1. リヤ・リッドのトリム・パネルのボタン**A**を押してください。
   リヤ・リッドが閉じます。
2. キーの ボタンを1回押してください。
   車両がロックされます。

リヤ・リッドを自動で閉じてロックする（ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車）

▷ リヤ・リッドのトリム・パネルのボタン**B**を押してください。
　リヤ・リッドが閉じ、車両がロックされます。

リヤ・リッドを自動で閉じてロックするには、キーが次の位置になければなりません。

– リヤ・リッドの近く
　および
– 車外

この条件が満たされていない場合、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

インフォメーション

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車でキーが作動範囲外にある場合、ロックした後リヤ・リッドを開くことができなくなります。

インフォメーション

– ロック・ボタン**B**を押したときに、車内でキーが検出された場合、リヤ・リッドは閉じません。
– リヤ・リッドを自動で閉じているときに車内でキーが検出された場合、リヤ・リッドは閉じ、警告音が鳴ります。車両はロックされません。

緊急時の開閉作動の中断

次のいずれかのボタンを押すと、リヤ・リッドの開閉作動をすぐに中断できます：

▷ キーのボタンを押してください。
または
運転席ドアのボタンを短く押してください。
または
リヤ・リッドのトリム・パネルのボタン**A**または**B**を短く押してください。
または
リヤ・リッドのロック解除ハンドルを短く押してください。

自動作動はいつでも再開することができます。再開するには、中断するために押したボタンを再度押してください。

リヤ・リッド開作動中の障害物検出

リヤ・リッドの開作動中に障害物によって作動が妨げられると、作動が中断されて少し閉じます。警告音が鳴ります。
障害物を取り除いた後、開作動を再開するには：

▷ キーのボタンを押してください。
または
運転席ドアのボタンを短く押してください。
または
リヤ・リッドのロック解除ハンドルを押してください。

リヤ・リッド閉作動中の障害物検出

リヤ・リッドの閉作動中に障害物に作動を妨げられると、作動が中断されます。
警告音が鳴り、リヤ・リッドが約1cm開きます。障害物を取り除いた後、リヤ・リッドのトリム・パネルのボタンを押して閉じるか、手でゆっくり押して閉じてください。

リヤ・リッドが不意に作動した場合の自動停止

リヤ・リッドが降り積もった雪の重みなどで開いた状態から不意に下がると、パワー・メカニズムのブレーキ機能が作動してリッドの動きを制止するとともに、リッドの動きが止まるまで警告音が鳴ります。

▷ リヤ・リッドの動きが止まってから約1秒が経過すると、ブレーキ機能が解除されます。

リヤ・リッドを開く高さの設定

例えば天井が低い車庫の中でリヤ・リッドを開くときなど、リッドを開く高さをあらかじめ設定することができます。

インフォメーション

レベル・コントロール装備車は、レベリング・システムの設定に応じて車高が変化します。

▷ このため、レベル・コントロール装着車では、車高を最も高い状態にセットしてからリッドの開く高さを設定してください。車高が低い状態でリッドの開く高さを設定すると、レベリング・システムの設定を切り替えたときにリッドが障害物に衝突する恐れがあります。

---

1. 車両の後方に立ってリヤ・リッドを開いてください。
2. リヤ・リッドが全開時の約2/3の高さまで開いたときに、キーのボタンを押して自動開作動を中断してください。
3. 設定したい高さになるまでリッドを手で持ち上げてください。このとき、天井などの障害物との距離が十分に保たれていることを確認してください。
4. リヤ・リッドのトリム・パネルのボタン**A**を約3秒間押してください。
確認音が鳴ります。
これでリヤ・リッドを開く高さが保存されました。
作業が完了した後はボタンを短く押してリッドを閉じることができます。

リヤ・リッドを開く高さの設定は、1回保存すると消去できません。設定を変更したい場合は1～4の手順を繰り返してください。

リヤ・リッド・ドライブ・メカニズムの作動不良

バッテリーの電圧が低下するとリヤ・リッドの自動開閉機能は作動しません。
この場合、ボタンを押すとリヤ・リッドのロックのみが解除され、警告音が短く3回鳴ります。
リヤ・リッドは手動で開くことができます。

▷ バッテリーを充電してください。

または

メカニズムの故障などでリヤ・リッドの自動開閉作動が中断した場合：

▷ リヤ・リッドを手でゆっくり開閉してください。

オーバーロード・プロテクション（過負荷時の保護機能）

リヤ・リッド・ドライブの過負荷を検出すると、警告音が短く3回鳴ります。
このとき、リヤ・リッドの自動開閉機能は約30秒間作動しなくなります。

ドア・パネルのセントラル・ロッキング・ボタン

車内からの開閉操作とロック

ここでは初期設定の機能を元に説明しています。コンフォート・メモリー装備車では、インストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイでドアの設定を変更し、そのとき使用しているキーに設定情報として保存しておくことができます。

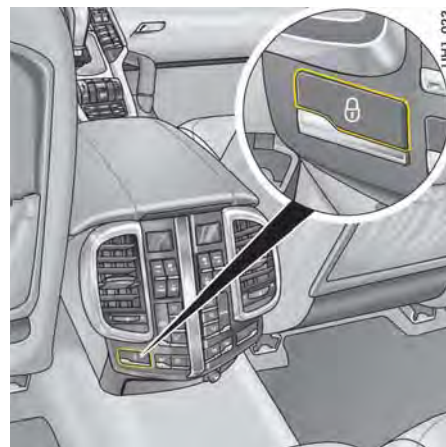
ロック/ロック解除の設定変更に関するインフォメーション：

▷ 「ロックの設定」(135ページ) を参照してください。

ドアをロックする

必要条件

すべてのドアとリヤ・リッドが完全に閉じていること。

▷ ドア・パネルのセントラル・ロッキング・ボタン、またはリヤ・センター・コンソールのセントラル・ロッキング・ボタンを押してください。
イグニッションをONにすると、ドア・パネルのセントラル・ロッキング・ボタンのインジケーター・ライト**A**およびリヤ・センター・コンソールのセントラル・ロッキング・ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
車両の**すべての**ドアとリヤ・リッドがロックされます。
ドアはインナー・ドア・ハンドルを引くことにより開くことができます。

リヤ・セントラル・ロッキング・ボタン（リヤ・シート・ヒーター /-4ゾーン・エアコン装備車のみ）

オート・ロック機能による自動ロック

この機能が作動しているときは、速度が約5km/hを超えると自動的にロックされます。

開閉操作の設定変更に関するインフォメーション：

▷ 「ロックの設定」(135ページ) を参照してください。

ドア・ロックを解除する

▷ ドア・パネルのセントラル・ロッキング・ボタン 、またはリヤ・センター・コンソールのセントラル・ロッキング・ボタンを押してください。
ドア・パネルのセントラル・ロッキング・ボタンのインジケーター・ライト**A**およびリヤ・センター・コンソールのセントラル・ロッキング・ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
車両の**すべての**ドアとリヤ・リッドのロックが解除されます。

オート・ロック機能による自動ロック解除

ポルシェ・エントリー＆ドライブ**非装備車**：
キーを抜くと、車両のロックが自動的に解除されます。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ**装備車**：
運転席ドアを開くと、車両のロックが自動的に解除されます。

 インフォメーション

キーまたはスペア・キーで車両をロックした場合、セントラル・ロッキング・ボタンでロックを解除することはできません。

ドアを開く

▷ インナー・ドア・ハンドル（**矢印**）を引いてください。

 インフォメーション

キーのボタンを1回押して車両をロックした場合、またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車のドア・ハンドルのボタンでロックした場合、車内からドアを開くことはできません（セーフロックが作動します）。

ドアを閉じる（ソフト・クローズ機能装備車）

ソフト・クローズ機能装備車には、すべてのドアにパワー・クロージング・メカニズムが装備されています。

▷ ドアを軽く押す、または引いて閉じてください。
ドアは自動的に引き込まれて閉じます。

⚠ 注意 パワー・クロージング・メカニズム

閉操作時、ドアはロックに自動的に引き込まれます。

▷ ドアと車両固定部間に指を挟まないように注意してください。

▷ パワー・クロージング・メカニズムの作動部品（ロックのロータリー・ラッチ）の近くに物を置いたり、手足を近づけないでください。

▷ お子様のみを車内に残さないでください。

緊急時の閉作動の中断

▷ インナー・ドア・ハンドルを引いてください
または
アウター・ドア・ハンドルを引いてください

閉作動がすぐに中断されます。

クロージング・メカニズムが故障した場合

▷ ドアを押す、または引いて手動で閉じてください。

右リヤ・ドアのチャイルド・ロック

リヤ・ドアをロックする

後席乗員が誤ってインナー・ドア・ハンドルを引いて、車内からドアが開くことを防ぎます。

ソフト・クローズ非装備車のチャイルド・ロック機能の作動/解除

リヤ・ドア開口部のキャッチの近くに、チャイルド・ロックを作動/解除するためのキー・スイッチがあります。
チャイルド・ロックを作動させると、インナー・ドア・ハンドルの操作でリヤ・ドアを開くことができなくなります。

▷ **作動させる**には：エマージェンシー・キーを使用して、右リヤ・ドアのチャイルド・ロックを約45°反時計回りに回してください。左リヤ・ドアのチャイルド・ロックは約45°時計回りに回してください。
チャイルド・ロックが作動すると、ロック・シリンダーが縦位置になります。

▷ **解除する**には：エマージェンシー・キーを使用して、右リヤ・ドアのチャイルド・ロックを約45°時計回りに回してください。左リヤ・ドアのチャイルド・ロックは約45°反時計回りに回してください。

エマージェンシー・キーに関するインフォメーション：

▷ 「エマージェンシー・キー」（30ページ）を参照してください。

ソフト・クローズ機能装備車のチャイルド・ロック機能の作動/解除

チャイルド・ロック機能はチャイルド・プロテクション作動時に作動します。

▷ セーフティー・ボタンを押してください。
チャイルド・ロック機能が作動している場合、セーフティー・ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

インフォメーション

チャイルド・ロック機能が作動している場合は、リヤ・ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチと、リヤ・センター・コンソールのコントロール・パネルの機能が無効になります（セントラル・ロッキング・ボタンを除く）。

チャイルド・ロック機能に故障がある場合、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141 ページ）を参照してください。

エンジン・コンパートメント・リッドの開閉

開く

知識

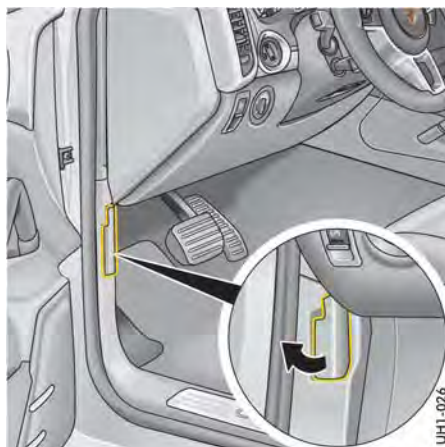
エンジン・コンパートメント・リッドまたはフロント・ワイパーを損傷する恐れがあります。

エンジン・コンパートメント・リッドを開くときにフロント・ワイパー・アームが起きていると、ワイパーまたはエンジン・コンパートメント・リッドが損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・コンパートメント・リッドを開くときは、フロント・ワイパー・アームが起きていないことを確認してください。

▷ エンジン・コンパートメント・リッドを開く前に、必ずワイパーをOFF（ワイパー・レバーを**0**の位置）にしてください。イグニッション・スイッチがOFFで、ワイパー・アームが停止位置にない場合、エンジン・コンパートメント・リッドを開くと自動的にワイパー・アームが停止位置まで移動します。エンジン・コンパートメント・リッドを閉じ、ワイパー・システムをOFFにしてから再度ONにするまで、この位置が保持されます。

フロント・ワイパーに関するインフォメーション：

▷ 「フロント・ワイパーおよびヘッドライト・ウォッシャー・システム」（98ページ）を参照してください。

1. 運転席ドアを開いてください。
2. リリース・レバー（**矢印**）を引いてください。
   エンジン・コンパートメント・リッドのロックが解除されます。

3. セーフティー・キャッチのロック解除レバー（**矢印**）を操作してください。
4. エンジン・コンパートメント・リッドを完全に開いてください。

エンジン・コンパートメント・リッドを閉じる

1. エンジン・コンパートメント・リッドを閉じる直前まで手で引き下げ、そこで手を放してエンジン・コンパートメント・リッドをロックしてください。必要な場合、セーフティー・キャッチの真上付近を手のひらで押して、エンジン・コンパートメント・リッドを確実にロックしてください。
2. リッドが完全にロックされているか、リリース・レバーが初期位置に戻っているかを確認してください。

エンジン・コンパートメント・リッドが確実にロックされていない場合、車両の発進時にマルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

開閉操作とロックの故障

リヤ・リッドがロック解除できない

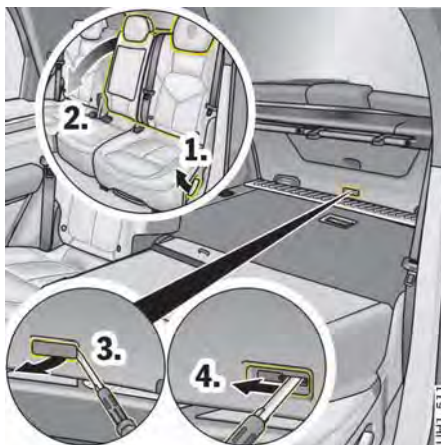
キーの操作でリヤ・リッドが開かないとき（リモート・コントロールの電池が弱くなったときなど）は、緊急操作を行う必要があります：

1. エマージェンシー・キーを使用して運転席ドアのロックを解除し、ドアを開いてください。
2. 盗難防止警報システムの作動を回避するため、ドアを開いてから15秒以内にイグニッションをONにしてください。
3. フロント・ドア・パネルまたはリヤ・センター・コンソールのセントラル・ロッキング・ボタンを押してください。
   リヤ・リッドのロックが解除され、リリース・ハンドルで開くことができます。

エマージェンシー・キーに関するインフォメーション：

▷ 「エマージェンシー・キー」（30ページ）を参照してください。

インフォメーション

国別仕様により、警報システムが作動するまでの時間は異なります。

リヤ・リッドの緊急ロック解除

それでもリヤ・リッドが開かないとき（車両がバッテリー上がりのときなど）は、緊急時のロック解除手順でリヤ・リッドを開く必要があります：

1. リヤ・シート・バックレストを前方に倒してください。
   ▷ 「リヤ・シートのバックレストを倒す、垂直位置に戻す」（37ページ）を参照してください。
2. 折り畳んだリヤ・シートを乗り越え、ラゲッジ・コンパートメント内に移動してください。
3. リヤ・リッド内側の緊急ロック解除機構のカバーをドライバーで取り外してください。
4. リヤ・リッドのロックを、ドライバーを使用して矢印の方向へ動かし、ロックを解除してください。ロック解除音が聞こえます。
5. リヤ・リッドは手で開くことができます。

1つのドアのみロックが解除される

マルチファンクション･ディスプレイを使用して、ドアおよびリヤ・リッドのロック/ロック解除の設定を変更することができます。なお、設定内容に関係なく、すべてのドアを開くことができます。

▷ キーの ボタンを5秒以内に2回押してください。

マルチファンクション･ディスプレイでの開閉操作の設定に関するインフォメーション：

▷ 「ロックの設定」（135ページ）を参照してください。

車両のロックを解除できない

リモート・コントロール・キーが、次のいずれかの状態にあることが考えられます。

– 電磁波などの影響で正常に機能していない（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車のリモート・コントロールでも同様の症状が発生することがあります）
– システムが故障している
– キーの電池が消耗している
  「キー（リモート・コントロール）の電池交換」（29ページ）を参照してください。

▷ キーを電源が入った電子機器（携帯電話、ノートパソコン、充電ケーブル、ドライバー・カード/リモート・キーパッド（ポルシェ車両追跡システム・プラス）など）と一緒に保管しないようにしてください。必要に応じて、キーの保管場所を変更してください。

▷ それでも車両のロックを解除できない場合、リヤ・ウィンドウ上部の中央付近でリモート・コントロールを保持し、 ボタンを押してください。

エマージェンシー・キーによるロック解除

1. リモート・コントロールから取り出したエマージェンシー・キーを、ドア・ハンドル下の開口部に差し込み、ロックのカバーを取り外してください。
2. エマージェンシー・キーを使用して運転席ドアのロックを解除し、ドアを開いてください。

エマージェンシー・キーに関するインフォメーション：

▷「エマージェンシー・キー」（30ページ）を参照してください。

3. 盗難防止警報システムの作動を回避するため、ドアを開いてから15秒以内にイグニッションをONにしてください。

インフォメーション

国別仕様により、警報システムが作動するまでの時間は異なります。

イグニッションをONにできない（ポルシェ・エントリー &ドライブ装備車の追加作業）

イグニッションをONにできない、またはエンジンが始動しない場合は、マルチファンクション・ディスプレイに「**キーヲニンシキシマセン イチヘンコウスル**」のメッセージが表示されます。

1. キーを電源が入った電子機器（携帯電話、ノートパソコン、ドライバー・カード/リモート・キーパッド（ポルシェ車両追跡システム・プラス）など）と一緒に保管しないようにしてください。必要に応じて、キーの保管場所を変更してください。
2. イグニッションがまだONに出来ない場合、コントロール・ユニットをイグニッション・ロック位置**0**に回してください。
3. エンジンを再度始動してください。
   エンジンが始動しない場合、メッセージ「**キーケンチフカ/ショウガイキーノイチヲヘンコウスル**」が再度表示されます。
   約1秒後に「**turn left, remove, insert ign. Key（スイッチ部：左へ回し、取り外し、キーを差し込む）**」のメッセージが表示されます。
4. コントロール・ユニットをイグニッション・ロック位置**0**に回して、イグニッション・ロックから取り外してください。
   キー（エマージェンシー・キー以外）でイグニッションをONにしてください。

車両をロックできない

この状態は、ハザード・ライトが点灯せず、ロック音が聞こえないことで判断できます。

リモート・コントロール・キーが、次のいずれかの状態にあることが考えられます。

– 電磁波などの影響で正常に機能していない（ポルシェ・エントリー &ドライブ装備車のリモート・コントロールでも同様の症状が発生することがあります）
– システムが故障している
– キーの電池が消耗している
  「キー（リモート・コントロール）の電池交換」（29ページ）を参照してください。

▷ キーを電源が入った電子機器（携帯電話、ノートパソコン、充電ケーブル、ドライバー・カード/リモート・キーパッド（ポルシェ車両追跡システム・プラス）など）と一緒に保管しないようにしてください。必要に応じて、キーの保管場所を変更してください。

エマージェンシー・キーによるロック

1. エマージェンシー・キーをドア・ハンドル下の開口部に差し込み、ロックのカバーを取り外してください。
2. エマージェンシー・キーをドア・ロックに差し込んで運転席ドアをロックしてください。

エマージェンシー・キーに関するインフォメーション：

▷「エマージェンシー・キー」（30ページ）を参照してください。

セントラル・ロッキング・システムに異常がある場合、運転席ドアのドア・ロックにエマージェンシー・キーを差し込んでロックすると、正常に機能しているロックのみが作動します。

緊急操作によるドア・ロックに関するインフォメーション：

▷ 「車両のすべてのドアを同時にロックできない」（28ページ）を参照してください。

▷ セントラル・ロッキング・システムを修理してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

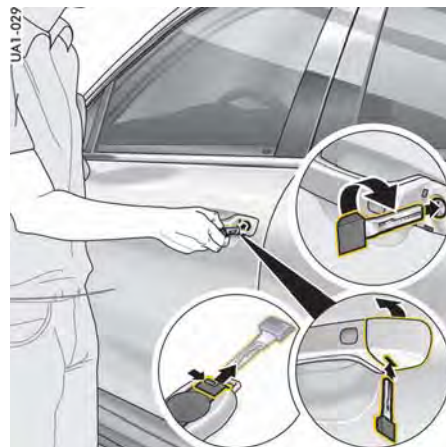
作動待機の解除（ポルシェ・エントリー &ドライブ装備車）

車両のロックを一定時間内に解除しなかった場合、ポルシェ・エントリー &ドライブの作動待機状態が解除されます。運転席ドアは96時間後、助手席ドアは36時間後に作動待機状態が解除されます。

1. ドア・ハンドルを**1回**引くと、ポルシェ・エントリー &ドライブが作動待機状態に戻ります。
2. ドア・ハンドルをもう**1回**引くと、ドアが開きます。

車両のすべてのドアを同時にロックできない

セントラル・ロッキング・システムの故障が考えられます。この場合、緊急ロック手順を使用してドアをロックする必要があります。

1. 助手席ドアを開いてください。
2. エマージェンシー・キーを使用して、キー・スイッチを車両の外側方向に回してください。
3. リヤ・ドアについても同様の作業を行ってください。
4. すべてのドアを閉じてください。
5. エマージェンシー・キーをドア・ハンドル下の開口部に差し込み、ロックのカバーを取り外してください。
6. エマージェンシー・キーをドア・ロックに差し込んで運転席ドアをロックしてください。

ドアはインナー・ドア・ハンドルを引くことにより、内側から開くことができます。

エマージェンシー・キーに関するインフォメーション：

▷ 「エマージェンシー・キー」（30ページ）を参照してください。

キーおよびセントラル・ロッキング・システムの知識

キー

この車両には2本のキーが付属しており、それぞれにエマージェンシー・キーを内蔵しています。これらのキーを使用して、車両のすべてのロックを操作できます。

▷ キーの取り扱いには細心の注意を払ってください。特別な状況を除いて、キーを放置しないでください。

▷ わずかな時間でも車両から離れるときは、キーを抜き取り、携行してください。
キーを車内に残さないでください。

▷ キーを紛失または盗難に遭遇したとき、スペア・キーを追加したり交換したときは、ご契約の損害保険会社に連絡してください。

▷ 紛失または盗難に遭遇したキーの電子コードを無効にしていても、そのキーをドア・ロックに差し込んで、車両をロック/ロック解除できます。

インフォメーション

コンフォート・メモリー装備車の場合、車両をロックしたときに、車両の様々な設定がそのとき使用しているキーに保存されます。

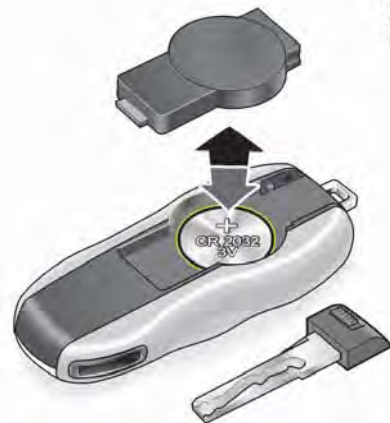
キーの車両設定の保存に関するインフォメーション：

▷ 「パーソナル設定の保存」（154ページ）を参照してください。

キー（リモート・コントロール）の電池交換

インフォメーション

▷ 電池を廃棄処分するときは、定められた法規にしたがってください。

リモート・コントロールの電池が弱まると、マルチファンクション・ディスプレイにメッセージ「**イグニッション キーノ デンチヲ コウカン**」が表示されます。
速やかに電池を交換してください。

電池の交換（CR 2032、3V）

1. エマージェンシー・キーを取り出してください。

エマージェンシー・キーに関するインフォメーション：

▷ 「エマージェンシー・キー」（30ページ）を参照してください。

2. 小さなスクリュー・ドライバーなどを使用して、キー・ハウジング背面のカバーを持ち上げてください。
3. 電池を交換してください（電極の向きに注意してください）。
4. カバーを元通りにして、確実にはめ合わせてください。
5. エマージェンシー・キーを元に戻してください。

エマージェンシー・キー

エマージェンシー・キーを取り出す

1. リリース・ボタンを横に押してください。
2. エマージェンシー・キーを抜き取ってください。

エマージェンシー・キーを収納する

▷ リリース・ボタンのロック音が聞こえるまで、エマージェンシー・キーを押し込んでください。

スペア・キー

スペア・キーは、ポルシェ正規販売店でのみお求めいただくことができます。新しいキーを注文してからお手元に届くまでには大変時間がかかる場合がございますので、いつでもスペア・キーを使えるように、あらかじめご用意いただくことを推奨します。キーは盗難の恐れがない安全な場所に保管し、車内や車両の近くには置かないでください。

新しいキーを使用するには、そのキーの電子コードを、車両のコントロール・ユニットに「登録」する必要があります。この登録作業はポルシェ正規販売店のみで実施が可能です。また、登録作業を行うときは、現在登録しているすべてのキーを同時に再登録しなければなりません。再登録しなかったキーの電子コードは、コントロール・ユニットから抹消され、以後使用できなくなります。

最大で8本のキーを登録することができます。

セントラル・ロッキング

車両にはセントラル・ロッキング・システムが装備されています。セントラル・ロッキング・システムは、次の部位をロック/ロック解除します。

– ドア
– リヤ・リッド
– フィラー・フラップ（燃料給油口カバー）

車両をロック/ロック解除すると、セントラル・ロッキング・システムが自動的に作動します。

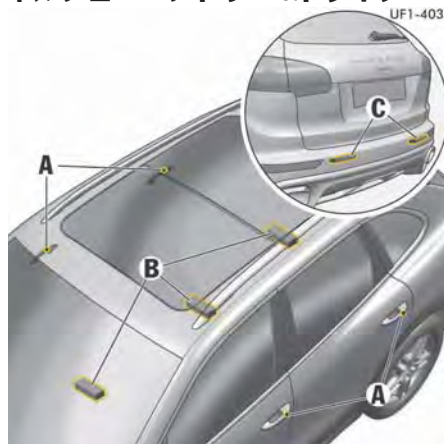
マルチファンクション･ディスプレイを使用して、ドアおよびリヤ・リッドのロック/ロック解除の設定を変更することができます。

ロック/ロック解除の設定変更に関するインフォメーション：

▷ 「ロックの設定」(135ページ) を参照してください。

なお、設定内容に関係なく、すべてのドアを開くことができます。

▷ キーの🔓ボタンを5秒以内に2回押してください。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ

ポルシェ・エントリー＆ドライブのアンテナの取り付け位置

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車は、リモート・コントロール付きキーと車両のアンテナが電波で通信することで、ドアやリヤ・リッドをロック/ロック解除できます。

植え込み型心臓ペースメーカーまたは植え込み型除細動器を装着されているお客様へ

警告

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、車室外アンテナAおよび車室内アンテナBから約22cm以内の範囲に、植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を近づけないでください。

▷ 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、車室外アンテナ**A**および車室内アンテナ**B**から約22cm以内の範囲に近づかないでください。アンテナからは電波が出ており、植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える恐れがあります。

▷ 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、医師や医療用電気機器製造業者などに電波の影響の有無について事前に確認してください。電波により医療用電気機器の作動に影響を与える恐れがあります。

シート、ミラー、ステアリング・ホイールおよび遮光装備

フロント・シート

シート位置

安全で疲れにくい運転を行うためには、正しい着座姿勢を保つことが重要です。運転席シートの位置を調節するときは、運転者の体格などに合わせて次の要領で実施することを推奨します。

1. シートの高さを頭上の空間に余裕があり、周囲がよく見える高さに調節してください。
2. シートの前後位置をブレーキ・ペダルをいっぱいに踏み込んだときに、脚が伸びきらない状態になる位置に調節してください。
3. ステアリング・ホイールの上部分を握ってください。バックレストの角度とステアリング・ホイールの位置を、肘が少し曲がる位置に調節してください。このとき、肩をバックレストに預けられる位置に調節してください。
4. 必要に応じて、シートの前後位置を再調節してください。
5. ヘッドレストの高さを、上端が耳より高くなる位置に調節してください。

シート位置の調節

⚠ 警告 運転中のシートの調節

運転中にシート調節を行うと、シートが必要以上に大きく動き、運転操作を誤る恐れがあります。

▷ 運転中はシート調節を行わないでください。

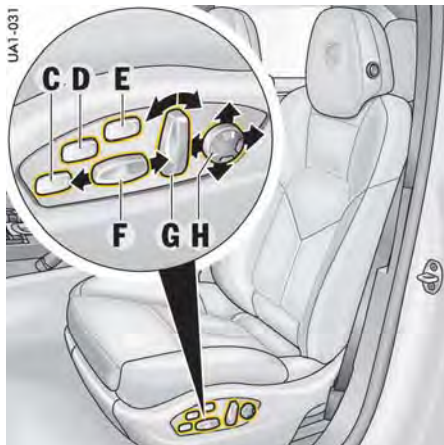
⚠ 注意 シート調節

シート位置を調節するときに、シートが動く範囲に人や動物がいると、身体の各部が挟まれる恐れがあります。

▷ シートが動く範囲に人や動物がいないことを確認してからシート位置を調節してください。

インフォメーション

ISOFIXチャイルド・シート・システムを助手席に取り付けた場合、助手席シート・バックレストの調節範囲が制限され、助手席シート・バックレストはリクライニング位置へ調節できません。

A シートの角度調節
B シートの高さ調節

C 座面の深さ調節
D 座面のサイド・サポートの調節
E バックレストのサイド・サポートの調節
F 前後の調節
G バックレストの角度調節
H ランバー・サポートの調節（骨盤と脊柱を支えるバックレストの曲がり具合）

▷ 各スイッチを矢印の方向に押して、お好みのシート位置に調節してください。

シート設定の保存（メモリー）

シート設定の保存および呼び出しに関するインフォメーション：

▷ 「パーソナル設定の保存」（154ページ）を参照してください。

イージー・エントリー機能

イージー・エントリー機能は、車両への乗り降りをしやすくするための装備です。

注意 運転席シートの自動調節

自動シート調節により、運転席の後にいる乗員や動物がシートに挟まれる恐れがあります。

▷ 運転席の真後ろに乗員がいるときはイージー・エントリー機能を解除してください。

知識

リヤ・シート・ベンチを前方に倒したまま設定を呼び出すと、車両を損傷する恐れがあります。

シートが後退し、損傷する恐れがあります。

▷ リヤ・シート・ベンチが前方に倒れているときはイージー・エントリー機能を解除してください。

必要条件

– マルチファンクション・ディスプレイ上で機能が作動状態に設定されている必要があります。

イージー・エントリー機能のON/OFFに関するインフォメーション：

▷ 「イージー・エントリーのON/OFF」（136ページ）を参照してください。

降車するとき

以下の操作を行うと、ステアリング・ホイールが上方に移動します：

– キーを抜いたとき**または**
– ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車ではイグニッションをOFFにし、**更に**運転席ドアを開いたとき

以下の操作を行うと、シートが後方に移動します：

– キーを抜き取り**更に**運転席ドアを開いたとき**または**
– ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車ではイグニッションをOFFにし、**更に**運転席ドアを開いたとき

乗車するとき

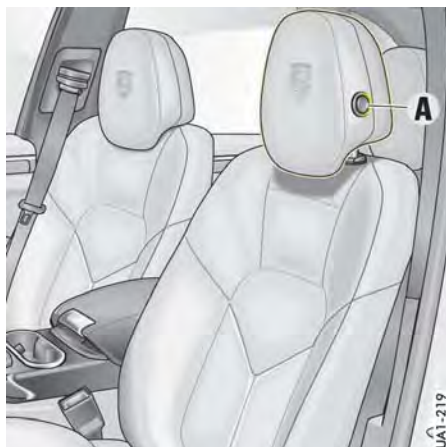
運転席シートおよびステアリング・ホイールはイージー・エントリー位置にあります。

ドアを閉じてキーを差し込む、またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車ではイグニッションをONにすると、保存された位置にステアリングおよびシートが移動します。

インフォメーション

キーを交換した場合、シートが予期しない位置に動く可能性があります。

インフォメーション

シート設定を手動で変更すると、イージー・エントリー機能が中断します。
この場合、ドライビング・ポジションを手動で設定する必要があります。

例：フロント・シート

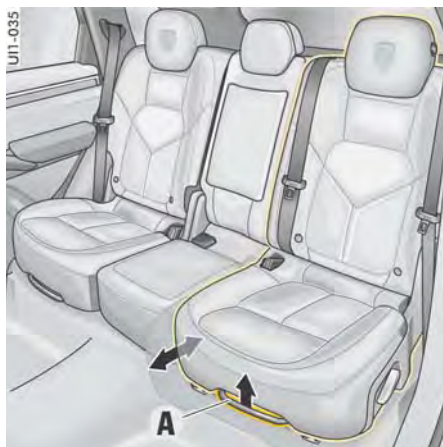
ヘッドレスト

フロント・シートおよびリヤ・シート外側のヘッドレストは高さの調節ができます。

ヘッドレストを上げる

▷ お好みの位置になるまでヘッドレストを持ち上げてください。

ヘッドレストを下げる

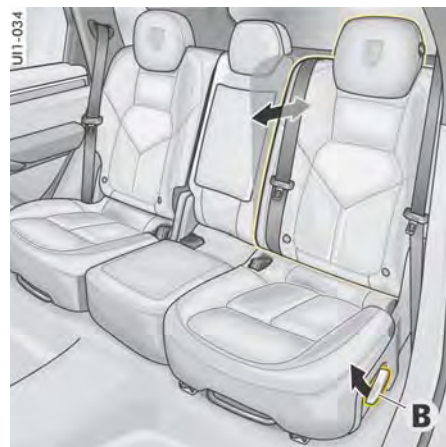
▷ ボタン**A**を押しながらお好みの位置になるまでヘッドレストを押し下げてください。

リヤ・シート

⚠ 注意 シート調節

シート位置を調節するときに、シートが動く範囲に人や動物がいると、身体の各部を圧迫されたり、挟まれたりする恐れがあります。

▷ シートが動く範囲に人や動物がいないことを確認してからシート位置を調節してください。

前後の調節

▷ レバー **A**を引き上げながらシートを前後にスライドさせてください。

バックレストの角度調節

1. シートに座ってください。
2. 3つのバックレストの角度位置が調節できます。レバー **B**を引き上げ、解除されたバックレストを前後に倒して調節してください。バックレストはレバーを放した位置で固定されます。

リヤ・シートのバックレストを倒す、垂直位置に戻す

リヤ・シート・バックレストはラゲッジ・ルームをより広く使用するため、分割して個々に前方に折り畳むことができます。

外側のシート・バックレストを前方に折り畳む

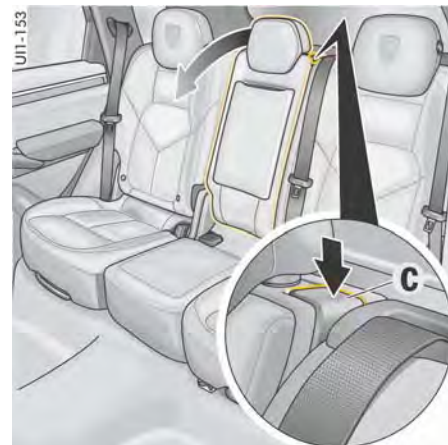
1. ヘッドレストを下げてください。
   「ヘッドレスト」（36ページ）を参照してください。
2. リトラクタブル・カバーをシートから外してください。
   「リトラクター・カバー」（238ページ）を参照してください。
3. 解除レバー**B**を引き上げながらバックレストを前方に折り畳んでください。
   バックレストを接続音がする位置まで下げてください。必要に応じて、シートの前後位置を調節してください。

 インフォメーション

左側と中央のバックレストはお互いに接続されています。このため左側のバックレストを折り畳むと、中央のバックレストも一緒に折り畳まれます。
中央のバックレストは個別に前方に折り畳むことができます。

▷ バックレストを前方に折り畳むために、リヤ・シートの前後位置を後方に移動させてください。

外側のシート・バックレストを垂直位置に調節する

1. 解除レバー**B**を引き上げながらバックレストを後方に倒してください。
2. シートベルトを挟み込まないように注意してください。
   バックレストを接続音が聞こえるまでしっかりと倒してください。

中央のシート・バックレストを前方に折り畳む

▷ 解除ボタン**C**を押しながらバックレストを前方に折り畳んでください。

中央のシート・バックレストを垂直位置に調節する

1. バックレストを接続音が聞こえるまでしっかりと起こしてください。
2. 解除ボタンの赤いマークが見えているときはしっかりロックされていません。
3. 中央のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

中央のリヤ･シートのヘッドレストを取り外す

インフォメーション

リヤ・シートが前方位置にあるときに（大きな荷物を運搬するため、ラゲッジ・ルームを広げているときなど）、中央のリヤ・シートのバックレストを前方に折り畳む場合、センター・コンソールにヘッドレストが当たらないように、ヘッドレストを取り外すことができます。

▷ 中央のシートを使用するときはヘッドレストを再度取り付けてください。

取り外し

▷ ボタン**D**を押しながら、ヘッドレストを完全に取り外してください。

取り付け

▷ ヘッドレストを挿入し、完全に押し下げてください。

A - シート・ヒーター（フロント）
B - シート・ベンチレーター（フロント）

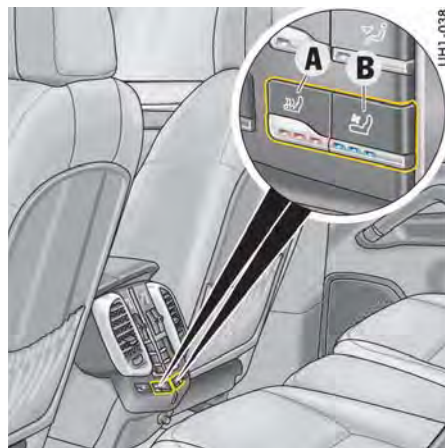
シート・ヒーター /シート・ベンチレーター

シート・ヒーター/シート・ベンチレーターは、エンジン作動中のみ操作できます。ヒーターの強さまたはシートの換気はボタンを繰り返し押すことにより3段階の設定に調節できます。

フロントおよびリヤ・シート・ヒーターをONにする

▷ ボタン**A**を（繰り返し）押してください。ヒーターの設定に応じた数のインジケーター・ライトが点灯します。

フロントおよびリヤ・シート・ヒーターをOFFにする

▷ ボタン**A**をインジケーター･ライトが消灯するまで（繰り返し）押してください。

A - シート・ヒーター、リヤ
B - シート・ベンチレーター、リヤ

フロントおよびリヤ・シート・ベンチレーターをONにする

▷ ボタン**B**を（繰り返し）押してください。ベンチレーターの設定に応じた数のインジケーター・ライトが点灯します。

フロントおよびリヤ・シート・ベンチレーターをOFFにする

▷ ボタン**B**をインジケーター･ライトが消灯するまで（繰り返し）押してください。

インフォメーション

– 室内の温度が高いときはシート・ヒーターを使用できません。
– 室内の温度が低いときはシート・ベンチレーターを使用できません。

リヤでの操作を無効にする(チャイルド・プロテクション)

運転席ドア・コントロール・パネルのセーフティー・ボタンを押すと、リヤ・ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチと、リヤ・センター・コンソールのコントロール・パネルの機能が無効になります(セントラル・ロッキング・ボタンを除く)。
チャイルド・プロテクションをONにすると、ソフト・クローズ装備車ではリヤ・ドアのチャイルド・ロック機能が作動します。

チャイルド・プロテクションのON/OFF

▷ セーフティー・ボタン を押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
シート・ヒーターおよびシート・ベンチレーターの現在の設定は変更されません。
リヤ・シート・ヒーターおよびシート・ベンチレーター・ボタンは作動解除されます。

シートベルト

⚠ 危険 シートベルトを着用していない、または正しく使用していない

シートベルトを着用していない場合、事故の際に保護効果を発揮できません。シートベルトを正しく着用していない場合、事故の際に負傷する危険が高まります。

▷ 安全のため、乗車時はすべての乗員がシートベルトを着用することが義務付けられています。
運転者はこの章で説明している内容を、すべての同乗者の方にも理解してもらってください。

▷ **1本**のシートベルトを同時に2人で使うことは、絶対に避けてください。

▷ だぶついた衣服はシートベルトが正しく着用できない上に、動作の自由を奪うことになりますので、乗車時は必ず脱ぐようにしてください。

▷ 堅い物や壊れやすい物(メガネ、ボールペン、煙草のパイプなど)の上にベルトがかからないようにしてください。
衝突の際にケガをする危険性が高くなります。

▷ シートベルトはねじれやたるみがないように着用してください。

⚠ 危険 損傷したシートベルトの使用

損傷したシートベルト、強い負荷のかかったシートベルト、または摩耗したシートベルトは、事故の際に保護効果を十分に発揮できません。
作動したシートベルト・プリテンショナー・システムは必ず交換してください。

▷ すべてのシートベルトを定期的に点検し、ベルトの帯が損傷していないか、またバックルと取り付け部が正常な状態にあるかどうか点検してください。

▷ 損傷したベルトや事故などにより強い負荷のかかったベルトは早急に交換してください。
同様に、作動したベルト・プリテンショナー・システムおよびフォース・リミッターも早急に交換してください。
更に、ベルトのアンカー部分についても点検してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ シートベルトを使用しないときは、汚れや損傷を防ぐために完全にリトラクターに巻き取らせてください。

警告灯および警告メッセージ

シートベルトの着用を促すため、運転席シートベルトのバックル・プレートがバックルに差し込まれるまで、次の機能が作動します：

– イグニッションをONにすると、インストルメント・パネルの警告灯が点灯します。
– マルチファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。
– 速度が24m/hを超えると、警告音が鳴ります。

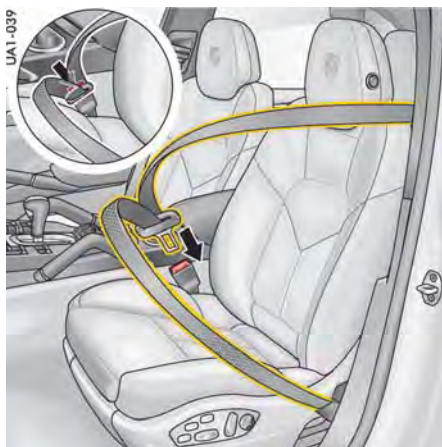
シートベルト・プリテンショナー

事故の衝撃の大きさに応じて、シートベルト・プリテンショナーが作動します。

シートベルト・プリテンショナーの作動条件:

– 前方または後方から強い衝撃を受けた場合
– 側面から強い衝撃を受けた場合
– 車両が転倒した場合

インフォメーション

シートベルト・プリテンショナー・システムは1回しか作動できません。作動した場合、早急に交換してください。
シートベルト・プリテンショナー・システムに関連する作業は、必ずポルシェ正規販売店に依頼してください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
シートベルト・プリテンショナー・システムが作動すると煙が発生しますが異常ではありません。この煙は車両火災の兆候ではありません。

シートベルトを着用する

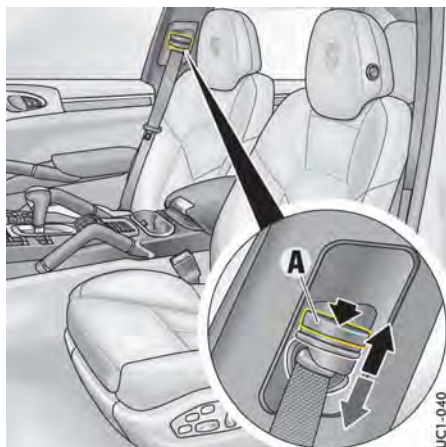
1. 自然な姿勢で安全に運転できる位置に着座してください。
2. シートベルトを着用したときにベルトが肩の中央を通って上半身を斜めに横切るように、シートのバックレストを調節してください。
3. シートベルトのバックル・プレートを手で持ち、ゆっくりと一定の速さで引き出して、腰の低い位置および胸部にかかるように着用してください。

インフォメーション

坂道など傾斜地に停車しているときや、シートベルトを急に引いたときは、ベルトがロックされて引き出せないことがあります。
加速中や減速中、コーナリング中、および上り坂を走行中はシートベルトを引き出すことができないことがあります。

4. シートベルトのバックル・プレートは、着座しているシート側部のバックルにカチッと音がするまで確実に差し込んでください。
5. シートベルトが引っかかったり、ねじれたり、鋭利な物に擦れたりしないように注意してください。
6. 腰ベルトは必ず腰の低い位置（骨盤）にぴったりとかかるようにしてください。プレートをバックルに差し込んで、肩ベルトを上に引っ張ってください。
妊娠中の方は腰ベルトをできる限り低い位置まで下げて、腹部の圧迫を避けるようにしてください。
7. 走行中も肩ベルトを定期的に引き上げ、腰ベルトが緩まないようにしてください。

シートベルトを外す

1. シートベルトのバックル・プレートを手で持ってください。
2. バックルの赤色のボタン（**矢印**）を押してください。
3. シートベルトをリトラクターに巻き取らせてください。

シートベルトの高さを調節する

フロント・シートのシートベルト・デフレクターは、高さの調節が可能です。

▷ シートベルトを着用したときに首にかかることのないように、肩の中央を通って上半身を斜めに横切るようベルトの高さを調節してください。

シートベルトの高さ調節

▷ 上げる – シートベルト・デフレクターを押し上げてください。
▷ 下げる – ロック・ボタン**A**を押してシートベルト・デフレクターを押し下げてください。

エアバッグ・システム

安全に関する注意事項

⚠ 危険 不適切なシート位置または適切に収納していない荷物

すべての乗員がシートベルトを着用し、正しいシート位置を維持している場合のみ、エアバッグ・システムは保護効果を発揮することができます。荷物は必ず安全に収納してください。

▷ **常にシートベルトを着用してください。**
▷ 運転席と助手席の間、あるいは乗員とエアバッグが膨らむ空間に人やペットを座らせたり、物を置いたりしないでください。
▷ ステアリング・ホイールは、必ずリムの外側から持つようにしてください。
▷ エアバッグが保護効果を発揮するには、乗員との間に一定の空間が必要です。
エアバッグに必要以上に近づきすぎない位置にシート位置を調節してください。
また、サイド・エアバッグ装備車では、ドア（エアバッグの拡張エリア）にもたれかからないでください。
▷ ドアの小物入れから中身がはみ出ないようにしてください。
▷ 重い荷物をシートの上や前方に置かないでください。
▷ ダッシュボードの上に物を置かないでください。
▷ 走行中はグローブ・ボックスを閉じてください。
▷ 走行中、足は常に足元の空間に置いてください。ダッシュボードやシート・クッションの上に足を乗せないでください。
▷ 運転者はこの章で説明している内容を、すべての同乗者の方に理解してもらってください。

⚠ 危険 エアバッグ・システムに変更を加えることによる不具合

変更を加えたエアバッグ・システムは保護効果を十分に発揮できません。エアバッグが不意に作動したり、全く機能しない危険があります。エアバッグが不意に作動した場合、重傷を負う危険があります。

▷ エアバッグ・システムの配線や構成部品を改造しないでください。
▷ ステアリング・ホイール、助手席エアバッグ付近、サイド・エアバッグ付近、ヘッド・エアバッグ付近にアクセサリーを取り付けたり、ステッカーなどを貼り付けないでください。
シートに保護カバーを装着しないでください。
▷ エアバッグの配線の近くには、アクセサリー類の配線を取り付けないでください。
▷ エアバッグ構成部品（ステアリング・ホイール、フロント・シート、ルーフ・トリムなど）を分解しないでください。

⚠ 危険 作動済みエアバッグ・システムの交換

エアバッグ・システムは1回のみ作動するように設計されています。

▷ 作動したエアバッグは直ちにポルシェ正規販売店で交換してください。

▷ エアバッグ・システムに不具合が発生したときは、必ずポルシェ正規販売店に修理を依頼してください。

機能

エアバッグは、シートベルトと併用することで衝突時の乗員の負傷を最小限に抑えるよう設計されています。

正面または側面から衝撃を受けた場合、エアバッグが作動し、運転者や乗員が受ける衝撃を吸収しつつ、頭部、骨盤、上半身を守ります。リヤ・シートのエアバッグは側面衝突時、最初に頭部を保護します。

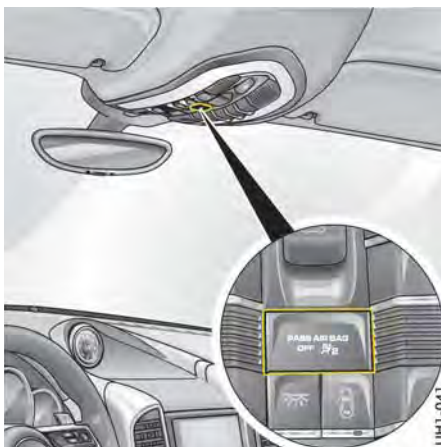
– **フロント・エアバッグ**は、運転席側はステアリング・ホイール中央のパッド内、助手席側はダッシュボードの中に取り付けられています。
– フロント・シート（リヤ・シートはオプション）の**サイド・エアバッグ**はバックレストの側面に取り付けられています。
– **ヘッド・エアバッグ**は左右のルーフ・レール内（ドア上方のルーフ部分）に取り付けられています。

それぞれのエアバッグは、衝突の角度および衝撃の大きさに応じて作動します。

エアバッグ警告灯

エアバッグ・システムが故障した場合、タコメーターの警告灯によって表示されます。

▷ 次の場合は、必ずポルシェ正規販売店で点検を受けてください：

– イグニッションをONにしたときに警告灯が点灯しない**または**
– エンジン始動後も警告灯が消灯しない**または**
– 走行中に警告灯が点灯する

助手席エアバッグOFF警告灯

助手席エアバッグOFF警告灯の機能に関するインフォメーション：

▷ 「助手席エアバッグのON/OFF」（51ページ）を参照してください。

⚠ 危険 助手席エアバッグの故障または不具合

助手席エアバッグの作動を解除してイグニッションをONにしたときに**助手席エアバッグOFF**警告灯が点灯しなかった場合、システムに不具合が発生している可能性があります。

▷ 助手席にチャイルド・シートを取り付けないでください。

▷ ポルシェ正規販売店で早急に故障を修理してください。

⚠ 危険 助手席エアバッグOFF

チャイルド・シートを取り外した後も助手席エアバッグをOFFにしたままにしておくと、事故の際にエアバッグが作動しません。

▷ チャイルド・シートを取り外した後は、必ず助手席エアバッグを再びONにしてください。

廃棄

未作動のガス発生器、エアバッグが付いたままの車両、およびエアバッグ・ユニットなどは、一般の廃棄物やスクラップとして処分できません。

エアバッグ関連の部品を廃棄するときは、正規販売店にお任せください。処分に関する詳しい情報は、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

チャイルド・シート

ポルシェ社では、ポルシェ・テクイップメント製品のチャイルド・シートを使用することを推奨いたします。

▷ 車両に適合するチャイルド・シートについては、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

▷ 「推奨するチャイルド・シート（シートベルトによる固定）」（45ページ）を参照してください。

▷ 「推奨するチャイルド・シート（ISOFIXシステムによる固定）」（46ページ）を参照してください。

⚠ 危険 チャイルド・シート装置の不正な使用

車種に適さないチャイルド・シートを使用した場合、またはチャイルド・シートを車両に正しく取り付けていない場合、事故の際に保護効果を十分に発揮できません。

▷ チャイルド・シートに付属の取扱説明書の内容（取り付け方法、使用方法、お子様の適切な着座方法）をよく読み、注意事項を必ず遵守してください。

▷ ポルシェ社が推奨するチャイルド・シートのみを使用してください。
ポルシェ社推奨のチャイルド・シートは、ポルシェ社がテストを実施し、この車両のインテリアやお子様の体重グループに適するように調整されています。
推奨外のISOFIXシステム付きチャイルド・シートを使用すると、万一のときに負傷する危険性が高まります。

⚠ 危険 チャイルド・シートの助手席での使用

助手席エアバッグは、ある程度の体格と最低限の体重のある乗員にのみ保護効果を発揮します。チャイルド・シートを助手席に取り付けた場合、または体格が小柄な乗員が助手席に乗車している場合、助手席エアバッグが作動したときに重傷または致命傷を負う危険があります。

▷ チャイルド・シートを助手席に取り付けるときは、必ず助手席エアバッグをOFFにしてください。車両に適合するチャイルド・シートについては、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

▷ 助手席シートとチャイルド・シートがしっかりと接するように、助手席シートのバックレスト角度を調節してください。

▷ チャイルド・シートを取り付けるときは、常にシート・ヒーターのスイッチをOFFにしてください。

▷ 前向きに着座するタイプのチャイルド・シートを取り付ける前には、ヘッドレストを可能な限り高く調節してください。

ヘッドレストの調節に関するインフォメーション：

▷ 「ヘッドレスト」（36ページ）を参照してください。

助手席エアバッグの作動解除

▷ 「助手席エアバッグのON/OFF」（51ページ）を参照してください。

チャイルド・シートの体重グループによる分類

体重グループ0、0+のお子様：13kgまで

この体重グループのお子様は、**後ろ向きに着座するタイプ**のチャイルド・シートを必ず使用してください。
このタイプのチャイルド・シートは、可能な限りリヤ・シートに取り付けてください。

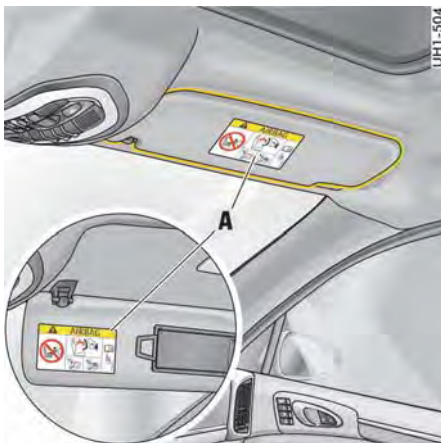
体重グループIのお子様：9～18kg

この体重グループのお子様は、**前向きに着座するタイプ**のチャイルド・シートを必ず使用してください。この体重グループのお子様は、特別な状況に限り、後ろ向きに着座するタイプのチャイルド・シートを使用することができます。
このタイプのチャイルド・シートは、可能な限りリヤ・シートに取り付けてください。

体重グループIIのお子様：15～25kg

この体重グループのお子様は、**前向きに着座するタイプ**のチャイルド・シートを必ず使用してください。
このタイプのチャイルド・シートは、可能な限りリヤ・シートに取り付けてください。

体重グループIIIのお子様：22～36kg

この体重グループのお子様は、**前向きに着座するタイプ**のチャイルド・シートを必ず使用してください。
このタイプのチャイルド・シートは、可能な限りリヤ・シートに取り付けてください。

サン・バイザーのエアバッグ警告ラベル

▷ いかなる場合であっても、警告ラベルや警告表示の表面を汚したり読み取りできない状態にしないでください。

推奨するチャイルド・シート（シートベルトによる固定）

▷「チャイルド・シートの使用（シートベルトによる固定）」（47ページ）を参照してください。

体重グループ	メーカー	タイプ	承認番号	ポルシェ部品番号	外側のリヤ・シートへの取り付け[1]	中央のリヤ・シートへの取り付け	助手席への取り付け
グループ0および0+：13kgまで	Britax-Römer	ポルシェ・ベビー・シート G0+	E_1 04301146	955.044.802.94	可能	可能	– 後ろ向きに取り付けること。 – 助手席エアバッグをOFFにすること。 – 助手席シートをいっぱいまで後方、上方に調節すること[1]。
グループI：9～18kg	Britax-Römer	ポルシェ・ジュニア・シート ISOFIX G1	E_1 04301199	955.044.802.92	可能	不可[2]	– 前向きに取り付けること。 – 助手席エアバッグをOFFにすること。 – 助手席シートをいっぱいまで後方、上方に調節すること[1]。 – チャイルド・シートのベルト・ガイドが助手席シートベルト引き出し口よりも前側および下側に位置していることを確認すること。 – 助手席シートとチャイルド・シートがしっかりと接するように、助手席シートのバックレスト角度を調節すること。
グループII：15～25kg	Britax-Römer	ポルシェ・ジュニア・プラス G2 + G3	E_1 04301169	955.044.802.90	可能	可能	
グループIII：22～36kg	Britax-Römer	ポルシェ・ジュニア・プラス G2 + G3	E_1 04301169	955.044.802.90	可能	可能	

[1] フロント・シートとその後方に座っているお子様との間に十分な距離を確保すること。
[2] 中央のリヤ・シートは、サポート・レッグ付きのチャイルドシートの取り付けに適していません。

推奨するチャイルド・シート（ISOFIXシステムによる固定）

▷「チャイルド・シートの使用（ISOFIXシステムによる固定）」（48ページ）を参照してください。

体重グループ	メーカー	タイプ	承認番号	ポルシェ部品番号	外側のリヤ・シートへの取り付け[1]	中央のリア・シートへの取り付け[2]	助手席への取り付け[4]
グループ0および0+：13kgまで	Britax-Römer	ポルシェ・ベビー・シート ISOFIX G0 + **使用部品**：ISOFIXベース	E_1 04301146	955.044.802.94 **使用部品**：955.044.802.95	可能	不可[3]	– 後ろ向きに取り付けること。 – 助手席エアバッグをOFFにすること。 – 助手席シートをいっぱいまで後方、上方に調節すること[1]。
グループI：9～18kg	Britax-Römer	ポルシェ・ジュニア・シート ISOFIX G1	E_1 04301199	955.044.802.92	可能	不可[3]	– 前向きに取り付けること。 – 助手席エアバッグをOFFにすること。 – 助手席シートをいっぱいまで後方、上方に調節すること[1]。 – チャイルド・シートのベルト・ガイドが助手席シートベルト引き出し口よりも前側および下側に位置していることを確認すること。 – 助手席シートとチャイルド・シートがしっかりと接するように、助手席シートのバックレスト角度を調節すること。
グループII：15～25kg	Britax-Römer	ポルシェ・ジュニア・プラス ISOFIT G2 + G3	E_1 04301198	955.044.802.96	可能	ISOFIX非装備車の場合、シートベルトでのみ取り付けが可能。	
グループIII：22～36kg	Britax-Römer	ポルシェ・ジュニア・プラス ISOFIT G2 + G3	E_1 04301198	955.044.802.96	可能	ISOFIX非装備車の場合、シートベルトでのみ取り付けが可能。	

[1] フロント・シートとその後方に座っているお子様との間に十分な距離を確保すること。
[2] 中央のシートにチャイルド・シートを取り付ける場合、すべてのポルシェ ISOFIXチャイルド・シートをシートベルトで固定する必要があります。
[3] 中央のリヤ・シートは、サポート・レッグ付きのチャイルドシートの取り付けに適していません。
[4] **助手席シート**にISOFIX用のリテーニング・ラグ（一部の国で使用可）が装備されている場合、「準汎用（セミ・ユニバーサル）」のチャイルド・シートの取り付けに適しています。

チャイルド・シートの使用（シートベルトによる固定）

下表は、ECE-R16規格に沿ってシートベルトで固定して使用できるチャイルド・シートの概要です。
「汎用（ユニバーサル）」または「準汎用（セミ・ユニバーサル）」のマークは、チャイルド・シートのECEラベル（オレンジ色）に表示されています（図を参照）。

体重グループ	リヤ・シートで使用できるチャイルド・シート		助手席で使用できるチャイルド・シート[1、2]
	外側のリヤ・シート	中央のリヤ・シート[3]	
グループ 0：10 kgまで	U/L	U/L	U/L
グループ 0+：13kgまで	U/L	U/L	U/L
グループI：9〜18kg	U/L	U/L	U/L
グループII：15〜25kg	U/L	U/L	U/L
グループIII：22〜36kg	U/L	U/L	U/L

ECEラベルの例

A サイズ分類
B 「汎用（ユニバーサル）」または「準汎用（セミ・ユニバーサル）」マーク
C 体重グループ

U：この体重グループに属する「汎用（ユニバーサル）」のチャイルド・シートの取り付けに適しています。

L：45ページに記載されているチャイルド・シート、および「準汎用（セミ・ユニバーサル）」のチャイルド・シートの取り付けに適しています。
チャイルド・シートに付属の適応車種一覧表、およびインターネット上でチャイルド・シート・メーカーが公開している適応車種一覧表を参照してください。

[1] 助手席エアバッグをOFFにすること。
[2] チャイルド・シートを助手席に取り付ける手順（45ページ）を参照してください。
[3] 中央のリヤ・シートは、サポート・レッグ付きのチャイルドシートの取り付けに適していません。

チャイルド・シートの使用（ISOFIXシステムによる固定）

下表は、ECE-R16規格を遵守し、シートベルトで固定して使用できるチャイルド・シートの概要です。
「汎用（ユニバーサル）」または「準汎用（セミ・ユニバーサル）」のマークは、チャイルド・シートのECEラベル（オレンジ色）に表示されています。

体重グループ	サイズ分類	固定具	車両のISOFIXリテーニング・ラグ		
			外側のリヤ・シート	中央のリヤ・シート[4]	助手席シート[1, 2, 3]
ベビー・シート（左向きまたは右向きチャイルド・シート）	F G	ISO/L1 ISO/L2	X X	X X	X X
グループ 0：10 kgまで	E	ISO/R1	IL	X	IL
グループ 0+：13kgまで	E D C	ISO/R1 ISO/R2 ISO/R3	IL IL IL	X X X	IL IL IL
グループI：9～18kg	D C B B1 A	ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2 ISO/F2X ISO/F3	IL IL IL/IUF IL/IUF IL/IUF	X X X X X	IL IL IL IL IL
グループII：15～25kg			IL	X	IL
グループIII：22～36kg			IL	X	IL

X： このサイズ分類のチャイルド・シートには適していません。

IL：46ページに記載されているチャイルド・シート、および「準汎用（セミ・ユニバーサル）」ISOFIXシステム認証のチャイルド・シートの取り付けに適しています。チャイルド・シートに付属の適応車種一覧表、およびインターネット上でチャイルド・シート・メーカーが公開している適応車種一覧表を参照してください。

IUF：この体重グループへの使用が認可され、ISOFIXシステムおよび「トップ・テザー」固定ストラップで固定する「汎用（ユニバーサル）」分類の前向きタイプのチャイルド・シートに適しています。
「ISOFIXトップ・テザー付きチャイルド・シートの固定位置」（49ページ）を参照してください。

[1] 助手席エアバッグをOFFにすること。
[2] 助手席へのチャイルド・シート取り付けに関する注記（46ページ）を参照してください。
[3] **助手席シート**にISOFIX用のリテーニング・ラグ（一部の国で使用可）が装備されている場合、「準汎用（セミ・ユニバーサル）」のチャイルド・シートの取り付けに適しています。チャイルド・シートに付属の車両リストおよびポルシェ社が推奨するチャイルド・シート（46ページ）を参照してください。
[4] 中央のリヤ・シートは、サポート・レッグ付きのチャイルド・シートの取り付けに適していません。

外側のリヤ・シートのISOFIXリテーニング・ラグ

ISOFIXチャイルド・シートの取り付け

▷ 「推奨するチャイルド・シート（ISOFIXシステムによる固定）」（46ページ）を参照してください。

ISOFIXチャイルド・シートを固定するリテーニング・ラグの部位を示すマークは、助手席シート（装備仕様による）およびリヤ・シート・バックレストの左右に表示されています。

ISOFIX付きチャイルド・シートを固定するリテーニング・ラグ**A**はシート・クッションとバックレストの間にあります。

1. エマージェンシー・キーを使用して、助手席エアバッグ・スイッチを**OFF（解除）**にしてください。
   ルーフ・コンソールの「**助手席エアバッグOFF**」警告灯が点灯します。
   エマージェンシー・キーおよび助手席エアバッグのOFFに関するインフォメーション：「助手席エアバッグのON/OFF」（51ページ）を参照してください。
2. チャイルド・シートを付属の説明書に従ってリテーニング・ラグ**A**に固定してください。
3. チャイルド・シートを引っ張って、両側のリテーニング・ラグに確実に固定されているか点検してください。

ISOFIXトップ・テザー付きチャイルド・シートの固定位置

ISOFIXトップ・テザー付きチャイルド・シートを使用する場合、リヤ・シート・バックレスト後部の固定位置**B**を使用してトップ・テザーを固定してください。

ISOFIXトップ・テザー付きチャイルド・シートの取り付け

▷ チャイルド・シートに付属の取扱説明書をよく読み、注意事項を必ず遵守してください。

1. チャイルド・シートを付属の説明書に従ってリテーニング・ラグ**A**に固定してください。
2. チャイルド・シートを引っ張って、両側のリテーニング・ラグに確実に固定されているか点検してください。
3. ISOFIXトップ・テザー**C**をヘッドレストに通してください。

4. ISOFIXトップ・テザー**C**をバックレスト後方の固定箇所に取り付け、テザー・ストラップを締め付けてください。

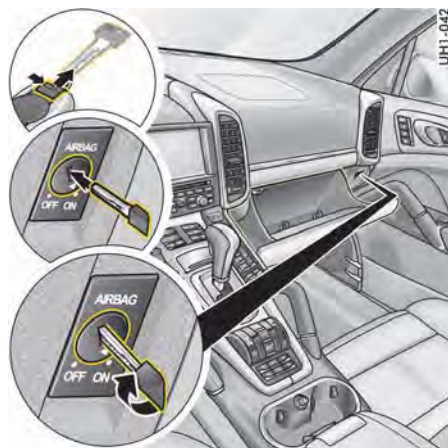
ベビー・シート

サイズ分類FおよびGの左向きまたは右向きタイプのチャイルド・シート（ベビー・キャリアなど）は、いかなるシートにも使用できません。

▷ 「チャイルド・シートの使用（ISOFIXシステムによる固定）」（48ページ）を参照してください。

ポルシェ社では、ポルシェ・テクイップメント製品のチャイルド・シート（ポルシェ・ベビー・シートISOFIX GO+など）を使用することを推奨します。

▷ 「推奨するチャイルド・シート（シートベルトによる固定）」（45ページ）を参照してください。

▷ 「推奨するチャイルド・シート（ISOFIXシステムによる固定）」（46ページ）を参照してください。

助手席エアバッグのON/OFF

1. イグニッションをOFFにしてください。
2. グローブ・ボックスを開いてください。
3. エマージェンシー・キーをキーから取り外してください。
   エマージェンシー・キーに関するインフォメーション：
   ▷ 「エマージェンシー・キー」（30ページ）を参照してください。
4. キー・スイッチにエマージェンシー・キーを2回抵抗を感じる位置まで挿入してください。
   キーの歯がキー・スイッチ内に約3/4まで挿入されます。
5. エマージェンシー・キーを大きな力をかけずに回して、助手席エアバッグを**OFF（解除）**または**ON（作動）**にしてください。
6. エマージェンシー・キーをキー・スイッチから抜き取ってください。
7. グローブ・ボックスを閉じてください。

危険 助手席エアバッグをOFFにする

チャイルド・シートを取り外した後も、助手席エアバッグをOFFにしたままにしておくと、事故の際にエアバッグが作動しません。

▷ 特別な場合でチャイルド・シートを助手席に取り付けているときにのみ、助手席エアバッグをOFFにしてください。

▷ チャイルド・シートを取り外した後は、必ず助手席エアバッグを再びONにしてください。

危険 助手席エアバッグの不意の作動

キー・スイッチにエマージェンシー・キーを挿入したまま走行した場合、振動によってエマージェンシー・キーが不意に回転してエアバッグが作動し、重傷または致命傷を負う危険があります。

▷ エマージェンシー・キーを助手席エアバッグ・スイッチに挿入したまま走行しないでください。

知識

助手席エアバッグ・スイッチまたはエアバッグ・システムが損傷することがあります。

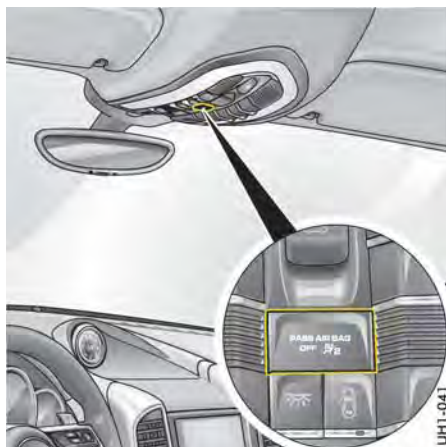
▷ エマージェンシー・キーは、キー・スイッチに挿入するときに、2回抵抗を感じた位置でのみ回してください。

▷ 助手席エアバッグはイグニッションがOFFのときのみ、OFFまたはONに切り替えてください。

インフォメーション

助手席シートのISOFIXアタッチメント・ブラケットは標準装備されていません。助手席のISOFIXアタッチメント・ブラケットは後から取り付けることができます（国別仕様により異なります）。

このシステムを取り付けた場合、助手席シート・バックレストの調節範囲が制限されます。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

助手席エアバッグOFF警告灯

助手席エアバッグをOFFにした場合、イグニッションをONにしたときにオーバーヘッド・コンソールの「**助手席エアバッグOFF**」警告灯が常時点灯します。

危険 助手席エアバッグの故障または不具合

助手席エアバッグをOFFにしてイグニッションをONにしたときに、**助手席エアバッグOFF**警告灯が点灯しなかった場合、システムに不具合が発生している可能性があります。

▷ 助手席にチャイルド・シート を取り付けないでください。

▷ ポルシェ正規販売店で早急に故障を修理してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

エアバッグに関する重要なインフォメーション：

▷ 「エアバッグ・システム」（41 ページ）を参照してください。

▷ 車両に適合するチャイルド・シートについては、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

ドア・ミラー

後方視野を広くするため、助手席ドア・ミラーは凸面形、運転席ドア・ミラーは非球面形になっています。

警告 ドア・ミラーに映る周囲の様子は実際の大きさより小さく、距離が離れているように見えます

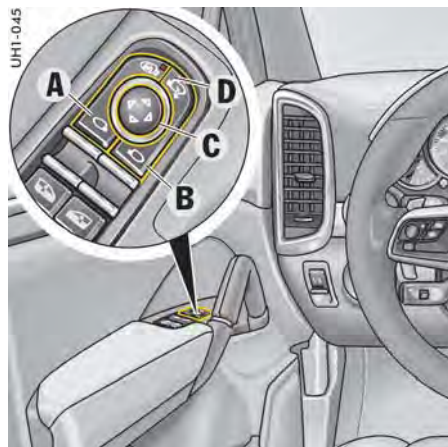
凸面形ミラーでは、車両や物が小さく映るため、実際の距離よりも遠く感じられます。

▷ 後続車との距離を判断するときや、後退して駐車するときなどは、凸面形ミラーの特性を念頭に置いてください。

▷ 距離の判断はルーム・ミラーと併用して行ってください。

知識

洗車機で洗車を行う場合にドア・ミラーを損傷する恐れがあります。

▷ 洗車機を使用する前にドア・ミラーを格納してください。

A - ドア・ミラーの選択 – 運転席側
B - ドア・ミラーの選択 – 助手席側
C - ドア・ミラーの調節
D - ドア・ミラーの格納/復帰

ドア・ミラーの調節

電動調節式ドア・ミラーを操作するには：

– イグニッションがONのとき
– イグニッションをOFFにしてから最大10分以内で、運転席ドアまたは助手席ドアを最初に開くまで

1. 運転席側のドア・ミラーを調節する時はボタン**A**を、助手席側ドア・ミラーを調節する時はボタン**B**を押してください。
   選択したボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
2. 調節ボタン**C**を操作して、ドア・ミラーの角度を希望の位置に調節してください。

電動調節機能が故障した場合

▷ ミラー表面を手で押して角度を調節してください。

ドア・ミラーの格納/復帰

▷ ボタン**D**を押してください。
両方のドア・ミラーが自動的に格納/復帰します。

電動調節機能が故障した場合

▷ ドア・ミラーを手で格納してください。

インフォメーション

速度が約50km/hを超えると、ドア・ミラーは格納できなくなります。

ドア・ミラーの自動的な格納/復帰

車両をロックした後、ドア・ミラーを自動的に格納することができます。

ドア・ミラーの自動格納

▷ キーのボタンを少なくとも1秒間押し続けてください。
または
ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車は、運転席ドア・ハンドルのボタンを少なくとも1秒間押し続けてください。
ドア・ミラーが格納されます。

インフォメーション

すべてのウィンドウとパノラマ・ルーフ・システムまたはスライディング/チルティング・ルーフを完全に閉じると、ハザード・ライトが1回点滅します。

ドア・ミラーの自動復帰

▷ イグニッションをONにしてください。
　ドア・ミラーが元の位置に復帰します。

 インフォメーション

ボタン**D**を押して手動でドア・ミラーを格納した場合、イグニッションをONにした後、ミラーは自動的に元の位置に復帰しません。

電動調節機能が故障した場合

▷ ドア・ミラーを手で元の位置に戻してください。

ドア・ミラー設定の保存

運転席メモリー機能またはコンフォート・メモリー機能装備車の場合、調節したドア・ミラーの位置を、運転席ドアのメモリー・ボタンとキーに保存することができます。

復帰および車両設定に関するインフォメーション：

▷ 「パーソナル設定の保存」（154ページ）を参照してください。

ドア・ミラー・ヒーター

エンジン作動中にリヤ・ウィンドウ・ヒーターをONにすると、ドア・ミラー・ヒーターが自動的に作動します。

リヤ・ウィンドウ・ヒーターの操作に関するインフォメーション：

▷ 「リヤ・ウィンドウ・ヒーター、ドア・ミラーおよびフロント・ウィンドウ・ヒーター」（75ページ）を参照してください。

自動防眩ドア・ミラー

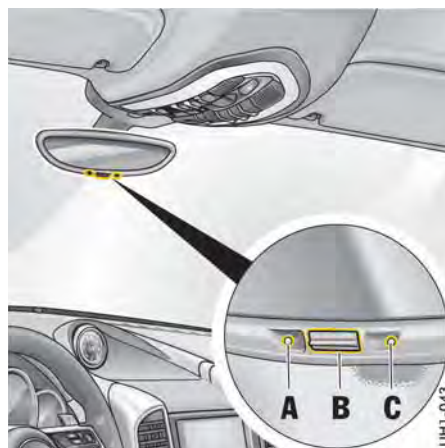
ルーム・ミラーの自動防眩機能の切り替えに合わせて、ドア・ミラーの防眩機能が作動します。

ルーム・ミラーの自動防眩機能の切り替えに関するインフォメーション：

▷ 「自動防眩ルーム・ミラー」（54ページ）を参照してください。

駐車時のドア・ミラー下向き自動切り替え

運転席メモリーまたはコンフォート・メモリー装備車は、リバース（後退）ギヤを選択すると、**助手席ドア・ミラー**が自動的に下向きになり、助手席側の車両後方下部にある障害物を視認しやすくなります。

▷ 「駐車時の助手席ドア・ミラー下向き自動切り替え」（261ページ）を参照してください。

自動防眩ルーム・ミラー

ルーム・ミラーの正面と背面に組み込まれているセンサーが、ミラーに投射する光を測定します。光の強さに応じて防眩機能が自動的に作動し、ミラーが暗くなったり、明るくなったりします。

 インフォメーション

照度センサー**C**の検知エリアにあたる光を妨げないでください（リヤ・ウィンドウにステッカーを貼り付ける、後方視界を妨げるほど大きな荷物をラゲッジ・コンパートメントまたはラゲッジ・コンパートメント・カバーに積むなど）。同様に、フロント・ウィンドウを通ってフロント・ライト・センサーに照射される光をステッカー等で妨げないようにしてください。

自動防眩機能をOFFにする

▷ ボタンBを押してください。
インジケーター・ライトAが消灯します。

インフォメーション

次の場合、自動防眩機能が自動的にOFFになります：
– リバース（後退）ギヤを選択した場合または
– インテリア・ライトが点灯している場合

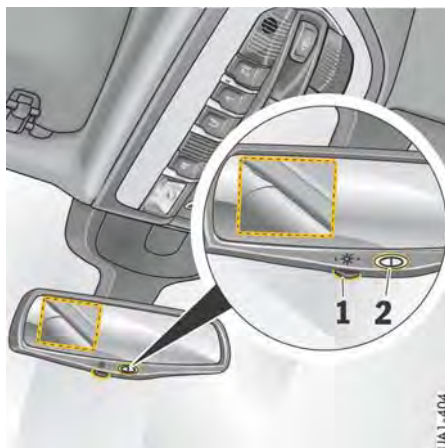
自動防眩機能をONにする

▷ ボタンBを押してください。
インジケーター・ライトA が点灯します。

注意 自動防眩ミラーのガラスが破損すると、電解液が漏れ出すことがあります

破損したミラー・ガラスから電解液が漏れ出すことがあります。この液体には皮膚や目への刺激性があります。
▷ 電解液が目や皮膚に触れた場合は、速やかにきれいな水で洗い流してください。
必要に応じて医師の診察を受けてください。

知識

塗装面、本革部品、プラスチック部品および着衣などに損傷を与える恐れがあります。
電解液は乾くと取り除けなくなるため、濡れている間に取り除いてください。
▷ 電解液が付着した部品は水で洗い流してください。

1 - 明るさ調節ノブ
2 - 電源ボタン

サイドビュー・モニター付きルーム・ミラー

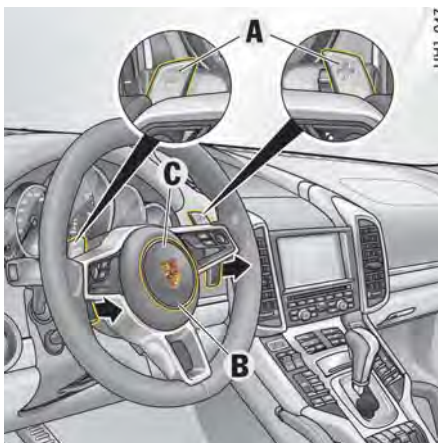
サイドビュー・モニターは、助手席の死角を補うための補助的な装置です。助手席側ドア・ミラー・カバーに小型のカメラが取り付けてあり、ルーム・ミラーにはTFT液晶を使ったディスプレイが組み込まれています。電源をONにすると、カメラの映像をルーム・ミラーで見ることができます。

注意 サイドビュー・モニターは視野を完全に補うものではありません

サイドビュー・モニターはドライバーの死角を補うための補助的な装置であり、その視野を完全に補うものではありません。サイドビュー・モニターが装備されていても、直接目視するなど安全確認を怠らないでください。
▷ サイドビュー・モニターはドライバーの注意力を補うものではありません。サイドビュー・モニターを装備していても、車の周囲の安全を常に確認することは運転者の責務です。
▷ 特にルーム・ミラーの映像が見えにくいときや、画像で識別できない物体があるときは、周囲の安全を必ず目視で確認してください。細い電柱や杭など、障害物の形状によっては解像度が不足して画像が鮮明に表示されなかったり、まったく表示されないこともあります。状況によっては車から降りて、周囲の人や物に危険を及ぼす恐れがないか確認してください。
▷ サイドビュー・モニターは高感度で、夜間など周囲の明るさが不足しているときでも使用できますが、照明などがない暗闇では映像が見えにくくなります。必要に応じて目視で安全を確認してください。
▷ システムの特性上、ルーム・ミラーには2次元の平面画像を表示します。したがって立体的な障害物や奥行きがある突起物などは実際の形状と異なって見えたり、画像に映らないことがあります。
▷ 走行中は、サイドビュー・モニターの明るさ調節や電源のON/OFFを行わないでください。また、ルーム・ミラーの画像を必要以上に注視しないでください。注意力が散漫になって事故を起こす恐れがあります。

▷ サイドビュー・モニターが故障した状態で運転するときは、周囲の安全に特に気を使ってください。またカメラの画像に異常を感じたときは使用しないでください。
▷ サイドビュー・モニターが故障したときや、障害物との接触などでカメラの取り付け状態に異常があるときは直ちに修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ 注意 サイドビュー・モニターを損傷する恐れがあります

▷ 高圧洗車装置などを使用するときは、高圧の水をカメラに直接かけないでください。
▷ レンズの汚れにより画像が曇ったときは、湿らせた布でレンズの表面を丁寧に拭き取ってください。洗浄剤や溶剤、研磨剤入りのクリーナなどは使用しないでください。レンズ表面の耐水コーティングが剥がれる恐れがあります。
▷ 温水や熱水をカメラにかけないでください。レンズに亀裂が入る恐れがあります。

シフト・パドル付きマルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイール
A - シフト・パドル
B - ホーン
C - エアバッグ・ユニット

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイール

⚠ 警告 運転中の設定と操作

運転中にマルチファンクション・ディスプレイ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話などの機器の操作、設定を行うと、注意力が散漫になり、車両のコントロールを失う恐れがあります。
▷ 周囲の交通状況が安全を確保できる場合に限って運転中の操作を行ってください。（*運転中のナビゲーションの操作、注視は道路交通法で禁止されています。）
▷ 複雑な操作、設定は必ず車両を停止してから行ってください。

車両の装備仕様により、マルチファンクション・ステアリング・ホイールのファンクション・ボタンを使用して、次のポルシェ・コミュニケーション・システム＊の操作ができます：
– 電話＊
– PCMおよびCDR＊
– インストルメント・パネルおよびマルチファンクション・ディスプレイ

シフト・パドル

ポルシェ・ティプトロニックSはオートマチック・モードとマニュアル・セレクション・モードを備えた8段変速トランスミッションです。
マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのシフト・パドル**A**を操作して、一時的にマニュアル・モードに切り替えたり、マニュアル・モードでギヤ・シフトすることができます。
ティプトロニックS装備車のギヤ・チェンジに関する詳しいインフォメーション：
▷ 「ティプトロニックS」（195ページ）を参照してください。

ホーン

▷ ステアリング・ホイールのパッド**B**を押すとホーンが鳴ります。

エアバッグ・ユニット

ステアリング・ホイールのパッド**C**の内部には、エアバッグ・ユニットが内蔵されています。
エアバッグは、シートベルトと併用することで衝突時の運転者の負傷を最小限に抑えるよう設計されています。
エアバッグ・システムに関するインフォメーション：
▷ 「エアバッグ・システム」（41ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールの操作準備

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールは、イグニッションをONにするとスタンバイ状態になります。

▷ ファンクション・ボタンを操作する前に、ポルシェ・コミュニケーション・システム＊の取扱説明書をよく読み、機能を把握してください。

インフォメーション

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールの操作では、ポルシェ・コミュニケーション・システム＊をON/OFFできません。

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのファンクション・ボタンの機能

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイール上部の左右にあるロータリー・ノブは、押して操作することもできます。

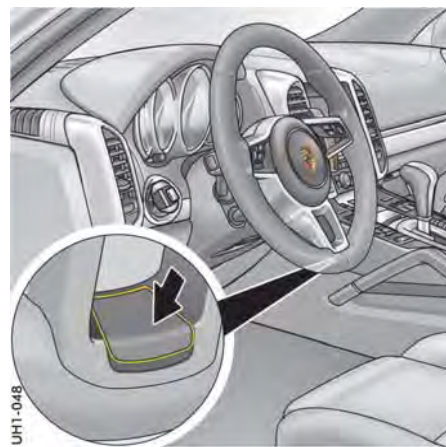
ボリューム・スイッチを回す
上方 – 音量が上がります。
下方 – 音量が下がります。
ボリューム・スイッチを押す
ミュート機能がON/OFFします。

ロータリー・ノブを回す
ロータリー・ノブを上方向または下方向に回して、マルチファンクション・ディスプレイのメイン・メニューまたはメニュー項目を選択/ハイライトします。
ロータリー・ボタンを押す
サブ・メニューに進む、または選択した機能が作動します。

ボタンを押してください。
保存した機能を呼び出します。
マルチファンクション・ディスプレイ内の任意の機能をボタンに割り当てることができます。＊

バック・ボタンを押す
メニューに戻ります。

ハンドセット・ピックアップ・ボタンを押す
Bluetooth対応携帯電話が接続されている場合、着信時に通話を開始します。

ハンドセット・ハングアップ・ボタンを押す
Bluetooth対応携帯電話が接続されている場合、通話を終了します。

ステアリング・ホイール・ヒーター

ステアリング・ホイール・ヒーターはエンジンが作動中にのみ作動します。ステアリング・ホイール・センター・スポーク裏側のボタンを押すことにより、ON/OFFします。

ステアリング・ホイール・ヒーターのON/OFF

▷ ボタンを押してください。
「**ステアリングホイールヒーターオン**」または「**ステアリングホイールヒーターオフ**」がマルチファンクション・ディスプレイに2秒間表示されます。

ステアリング・ホイールの調節

車両の装備仕様により、手動または電動でステアリング・ホイールを前後上下に調節できます。

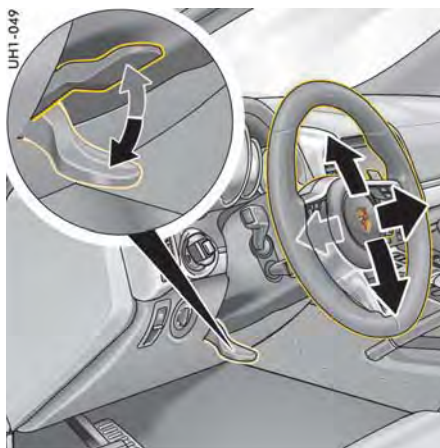
⚠ 警告 運転中のステアリング・ホイールの調節

運転中にステアリング・ホイール調節を行うと、ステアリングが予期せず大きく動き、運転操作を誤る恐れがあります。

▷ 運転中はステアリング・ホイールの調節を行わないでください。

⚠ 注意 メモリー設定の不意の呼出し

車両停止時にメモリー・ボタンが不意に押された場合や、ステアリング・コラム下のコントロール・スイッチが不意に押された場合に、身体の一部が挟まれたり圧迫される恐れがあります。

▷ お子様のみを車内に残さないでください。

ステアリング・ホイールの手動調節

ステアリング・ホイールの電動調節

ステアリング・ホイールの手動調節

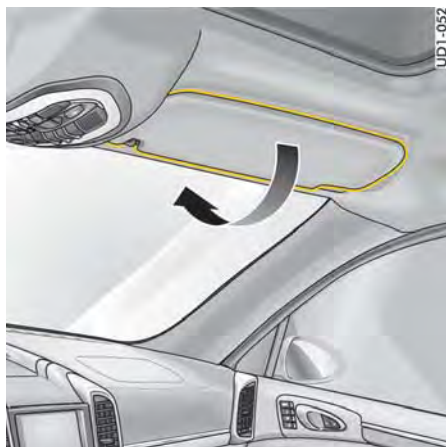
1. キーをイグニッション・ロックに完全に差し込んでください。
2. ロック・レバーを押し下げてください。
3. シート・バックレスト角度や着座位置に合わせて、ステアリング・ホイールを手で持って前後上下に動かし、お好みの位置に調節してください。
4. ステアリング・ホイールが確実に固定されるまで、ロック・レバーを元の位置まで戻してください。必要な場合はステアリング・ホイールを前後に動かしてください。

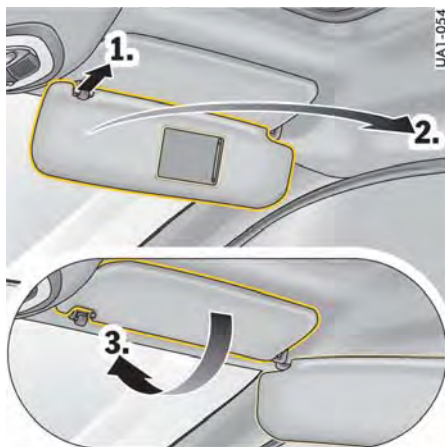
ステアリング・ホイールの電動調節

▷ ステアリング・コラム下に取り付けられているコントロール・スイッチを前後上下に押して、ステアリング・ホイールをお好みの位置に調節してください。

ステアリング・ホイール位置が車両設定に保存されます。

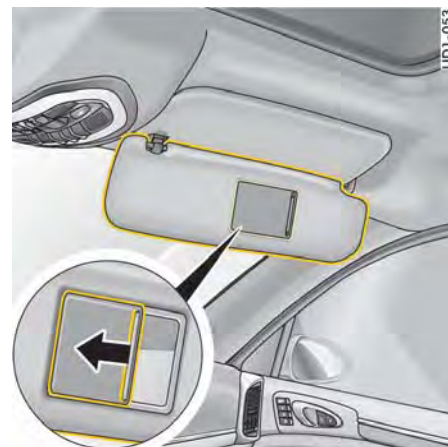
ステアリング・ホイール設定の保存と呼び出しに関する詳細なインフォメーション：

▷ 「パーソナル設定の保存」(154ページ) を参照してください。

サンバイザー

▷ サンバイザーを手で下げて、正面方向からの直射日光を遮ってください。

横方向からの直射日光を遮る場合：

1. サンバイザーを内側のブラケットから外してください。
2. サンバイザーをドア・ウィンドウ側に回転させてください。
3. 更に、2枚目のサンバイザーを回転させて下げることができます。

インフォメーション

サンバイザーを元の位置に戻すときは、先に2枚目のサンバイザーを戻してから行ってください。2枚目のサンバイザーを戻さなかった場合、サンバイザーは収納位置に戻りません。

バニティー・ミラー

サンバイザーの裏側には、スライド式のカバーが付いたバニティー・ミラーが装備されています。

⚠ 注意 バニティー・ミラーのカバーを開く

カバーを開いているときに事故が起きた場合、ミラーが割れて車内にガラスの破片が散乱する恐れがあります。

▷ 走行中はスライド・カバーを閉じてください。

▷ スライド・カバー（**矢印**）を開くと、バニティー・ミラーの照明が自動的に点灯します。

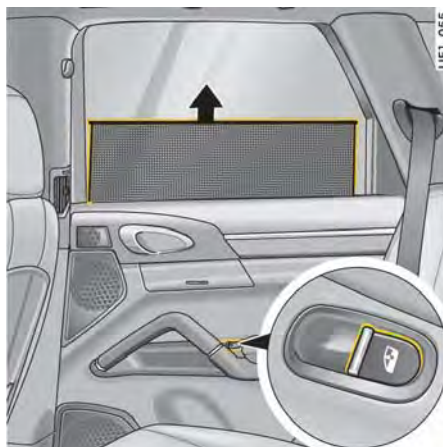
サンブラインド（リヤ・サイド・ウィンドウ）

 インフォメーション

リヤ・サイド・ウィンドウのサンブラインドは、リヤ・サイド・ウィンドウが閉じているときのみ上昇/下降させることができます。
ロール・アップ式サンブラインドは、自動的に上昇/下降の停止位置まで作動します。

チャイルド・ロック機能が作動しているときは、運転席ドアのパワー・ウィンドウ・ボタンを使用したときのみリヤ・サイド・ウィンドウのサンブラインドを操作できます。

チャイルド・ロックの機能に関するインフォメーション：

▷ 「リヤ・ドア操作を無効にする（チャイルド・ロック）」（80ページ）を参照してください。

リヤ・パワー・ウィンドウ/ロール・アップ式サンブラインド・ボタン

リヤ・サイド・ウィンドウのサンブラインドを上げる

▷ 運転席ドアまたはリヤ・ドアの該当するパワー・ウィンドウ・ボタンを引き上げてください。

運転席パワー・ウィンドウ/ロール・アップ式サンブラインド・ボタン

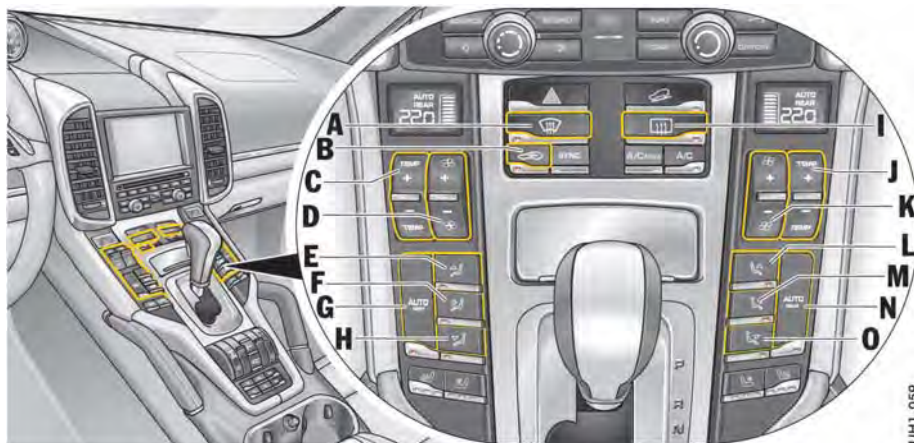
リヤ・サイド・ウィンドウのサンブラインドを下げる

▷ 運転席ドアまたはリヤ・ドアの該当するパワー・ウィンドウ・ボタンを押し下げてください。

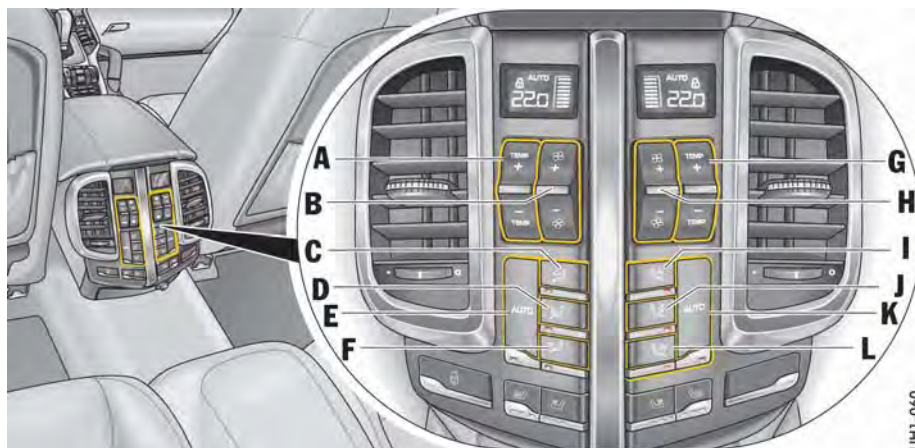
エアコン

＊ 日本仕様に設定はありません。

概要 – フロント・コントロール・パネル

この概要説明は後述の「オート・エアコン」に代わるものではありません。操作する上での概要のみでなく、注意事項は必ずお読みください。

運転者が何をしたいか？	その操作方法は？
オート・エアコンを使用する	左側のボタン**G**または右側のボタン**N**を押してください。
温度を設定する	車内左側：ボタン**C**を上（温度を上げる）または下（温度を下げる）に押してください。 車内右側：ボタン**J**を上（温度を上げる）または下（温度を下げる）に押してください。
送風量を手動設定する	車内左側：ボタン**D**を上（風量を多くする）または下（風量を少なくする）に押してください。 車内右側：ボタン**K**を上（風量を多くする）または下（風量を少なくする）に押してください。
送風口を手動で切り替える	フロント・ウィンドウへの送風：ボタン**E**または**L**を押してください。 中央および左右のエア・ベントからの送風：ボタン**F**または**M**を押してください。 足元への送風：ボタン**H**または**O**を押してください。
フロント・ウィンドウ・デフロスターを作動させる	ボタン**A**を押してください。
リヤ・ウィンドウ・ヒーター、ドア・ミラーおよびフロント・ウィンドウ・ヒーターのスイッチをONにする	ボタン**I**を押してください。
内気循環モードをONにする	ボタン**B**を押してください。

概要 – リヤ・コントロール・パネル (4ゾーン・エアコン)

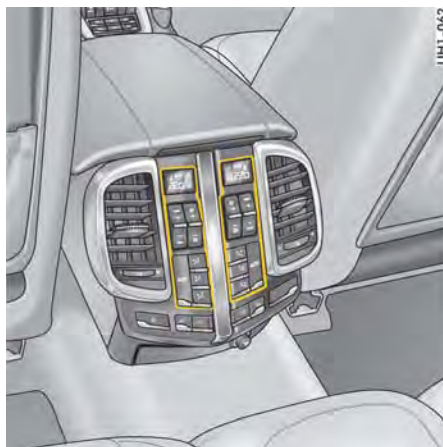
この概要説明は後述の「オート・エアコン」に代わるものではありません。操作する上での概要のみでなく、注意事項は必ずお読みください。

運転者が何をしたいか？	その操作方法は？
オート・エアコンを使用する	左側のボタン**E**または右側のボタン**K**を押してください。
温度を設定する	車内左側：ボタン**A**を上（温度を上げる）または下（温度を下げる）に押してください。 車内右側：ボタン**G**を上（温度を上げる）または下（温度を下げる）に押してください。
送風量を手動設定する	車内左側：ボタン**B**を上（風量を多くする）または下（風量を少なくする）に押してください。 車内右側：ボタン**H**を上（風量を多くする）または下（風量を少なくする）に押してください。
送風口を手動で切り替える	ドア・ベント、中央のベントおよび足元からの送風：左側のボタン**C**または右側のボタン**I**を押してください。 ドア・ベントおよび中央のエア・ベントからの送風：ボタン**D**または**J**を押してください。 ドア・ベントおよび足元からの送風：ボタン**F**または**L**を押してください。

フロント・エアコン・コントロール・パネル

エアコン・システムの概要

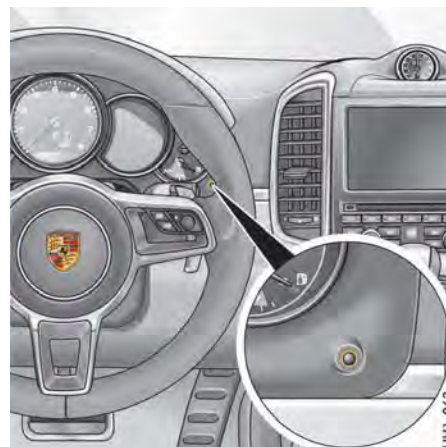
車両の装備仕様により、次のいずれかのエアコン・システムが装備されています：

2ゾーン・オート・エアコン

エアコン・システムが設定温度を維持するため全自動制御します。
また、車内を2つのゾーン（**左側**と**右側**）に分けて、それぞれ車内温度、送風量および送風口を個別に設定できます。

リヤ・エアコン・コントロール・パネル（4ゾーン・エアコン）

4ゾーン・オート・エアコン

エアコン・システムが設定温度を維持するために全自動制御します。
また、車内を4つのゾーン（**フロント左側**、**フロント右側**、**リヤ左側**、**リヤ右側**）に分けて、それぞれ車内温度、送風量および送風口を個別に設定できます。

4ゾーン・オート・エアコン装備車は、リヤ・センター・コンソールにもエアコン・コントロール・パネルを備えています。

エアコン用室内温度センサー

センサー

エアコン・システムの能力を維持するために、次のことを遵守してください。

▷ エアコン・システムの車内温度センサーの上に、カバーを付けたり、ステッカー類を貼り付けないでください。

オート・エアコン・コントロール

様々な環境条件（日射量、空気の状態、外気温度、ウィンドウの曇り具合など）に応じて、車内の設定温度を維持するように、エアコン・システムが送風温度、送風量、送風口を全自動で制御します。

エアコン・システムの設定を手動で変更すると、オート・モードが直ちに解除されます。ただし手動操作で変更しなかった機能については、自動制御を継続します。

 インフォメーション

送風の強さやダッシュボード上のベンチレーション・パネルの作動など、エアコン・システムに関係する機能をマルチファンクション・ディスプレイで設定することができます：

▷ 「マルチファンクション･ディスプレイのエアコン設定」（73ページ）を参照してください。

▷ 「エアコン設定」（136ページ）を参照してください。

コンフォート・メモリー装備車では、車両をロックするとエアコン・システムのすべての設定が、そのとき使用しているキーの設定として保存されます。

オート・モードのON/OFF

フロント・ゾーン（前席エリア）とリヤ・ゾーン（後席エリア）は、個別にオート・モードに切り替えることができます。

▷ オート・モードに切り替えたいゾーンのコントロール・パネル（フロントまたはリヤ）でAUTOボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトと、エアコン・ディスプレイのAUTOインジケーターが点灯します。
オート・モードに切り替えたゾーンでは、温度、送風量、送風口が自動的に制御されます。

 インフォメーション

必要であればオート･モードの制御を手動調節できます。
手動で設定を変更すると、その機能の設定を再度変更するか、またはAUTOボタンを押すまで設定が維持されます。

バッテリー電圧低下時の自動OFF

バッテリーの充電状態が著しく低下した場合、次のエアコン･システムまたはヒーター機能の一部が制限され、その後自動的にOFFになります：

– シート・ヒーター
– リヤ･ウィンドウ･ヒーター/ドア･ミラー･ヒーター
– フロント・ウィンドウ・ヒーター
– フレッシュ・エア・ブロアー
– エアコン・コンプレッサー

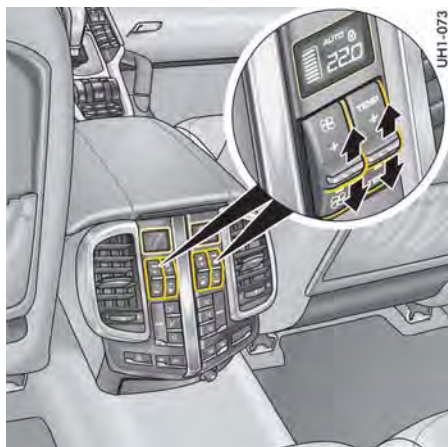
温度設定および送風量調節（フロント・コントロール・パネル）

温度の設定

このエアコン・システムでは、それぞれの乗員が快適と感じる車内温度を16～29.5℃の範囲で個別に設定できます。推奨：22℃

TEMPボタンの上部にあるエアコン・ディスプレイに設定温度が表示されます。

温度を上げる

▷ 温度を上げたいゾーンのTEMPボタンを上方向に押してください。
設定温度がエアコン・ディスプレイに表示されます。

温度設定および送風量調節（リヤ・コントロール・パネル）（4-ゾーン・エアコン）

温度を下げる

▷ 温度を下げたいゾーンのTEMPボタンを下方向に押してください。
設定温度がエアコン・ディスプレイに表示されます。

ディスプレイに**LO**または**HI**が表示された場合は、エアコンの作動は最大の冷房または暖房になっています。このときオート・モードはOFFになります。

インフォメーション

– いずれかのゾーンで温度設定を**LO**または**HI**にすると、その他のゾーンも**LO**または**HI**になります。
いずれかのゾーンでAUTOボタンを押すと、設定温度に切り替わります。
– エアコン・システムは、設定温度を維持するために、常に最大能力で車内を冷房または暖房します。
このため、設定温度を一時的にお好みの温度より上げ下げしても、希望する温度に到達する時間は**変わりません。**

送風量の設定

ボタンの上部にあるエアコン・ディスプレイに設定した送風量がバーで表示されます。バーの数が多くなるほど、風量が多いことを示しています。

送風量を多くする

▷ 送風量を多くしたいゾーンのボタンを上方向に押してください。

送風量を少なくする

▷ 送風量を少なくしたいゾーンのボタンを下方向に押してください。

AUTOボタンを押すと、そのゾーンがオート・モードに戻ります。

スイッチを押して送風量を最小にすると、エアコン・ディスプレイに**OFF**が表示され、外気導入による送風が停止します。

⚠ 警告 送風設定**OFF**による視界の低下

送風を**OFF**にした状態では、ウィンドウが曇りやすくなります。

▷ フロント・コントロール・パネルの左右のボタンを上方向に押して、送風を開始してください（風量が増加します）。

送風口の切り替え（フロント・コントロール・パネル）

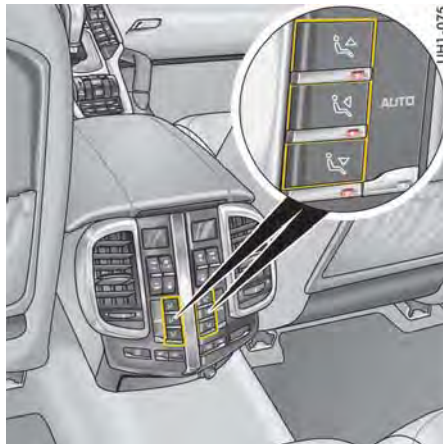
送風口を手動で切り替える

フロント・コントロール・パネル

▷ ボタンを押してください。
フロント・ウィンドウおよびサイド・ウィンドウへの送風を開始します。

▷ ボタンを押してください。
中央および左右エア・ベントからの送風を開始します。エア・ベントのダイヤルを回して、吹き出し口を開いてください。

▷ ボタンを押してください。
足元への送風を開始します。

ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

送風口の切り替え（4ゾーン・エアコン装備車のリヤ・コントロール・パネル）

リヤ・コントロール・パネル（4ゾーン・エアコン）

▷ ボタンを押してください。
ドア・ピラーからの送風を開始します。
エア・ベントのダイヤルを回して、吹き出し口を開いてください。

▷ ボタンを押してください。
中央のエア・ベントからの送風を開始します。

▷ ボタンを押してください。
足元への送風を開始します。

ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

送風口の手動切り替えの解除

▷ インジケーター・ライトが点灯している（手動で切り替えた）送風口切り替えボタンを再度押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
または
操作したいゾーンのAUTOボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
風量と吹き出し口が自動制御されて外気温が変動しても車内の温度は一定に保たれます。

REARモード – フロント・コントロール・パネルでリヤ・ゾーンを制御する（4ゾーン・エアコン）

4ゾーン・エアコン装備車では、エアコン・システム用フロント・コントロール・パネルでリヤ・ゾーンのエアコン機能を制御できます。

REARモードをONにする

▷ AUTO REARボタンを約**2**秒間押し続けてください。
エアコン・ディスプレイに**REAR**が表示されます。
フロント・コントロール・パネルでリヤ・ゾーンのエアコンを操作できます。

 インフォメーション

リヤ・エアコンの設定を変更してから約4秒経過するとこの機能は自動的に停止します。ディスプレイの**REAR**表示が消灯します。

REARモードをOFFにする

▷ AUTO REARボタンを約2秒間押し続けてください。
ディスプレイの**REAR**表示が消灯します。

REARモード作動時のリヤ・ゾーンのエア配分（4ゾーン・エアコン）

フロント・コントロール・パネルのまたはボタンを押すと、リヤ・ゾーンの中央および左右エア・ベントから送風します。

フロント・コントロール・パネルのボタンを押すと、リヤ・ゾーンの足元に送風します。

リヤ・ゾーン用コントロール・パネルの機能解除（4ゾーン・エアコン）

運転席ドア・コントロール・パネルのセーフティー・ボタンを押すと、リヤ・ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチと、リヤ・センター・コンソールのコントロール・パネルの機能が無効になります（セントラル・ロッキング・ボタンを除く）。

チャイルド・プロテクションのON/OFF

▷ セーフティー・ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
リヤ・ゾーン用操作ユニットのディスプレイにロック・シンボルが表示されます。
リヤ・ゾーンの現在のエアコン設定が維持されます。
リヤ・エアコン・コントロール・パネルのボタンが無効になります。

A/Cモード

オート・モードのときは、A/Cモードが常に作動します。
エアコン・システムの作動状況に応じてコンプレッサーの出力が全自動で制御されます。
外気温度が約3℃を下回ると、コンプレッサーが自動的にOFFになります。
オート・モードのON/OFFに関するインフォメーション：

▷ 「オート・モードのON/OFF」（66ページ）を参照してください。

A/CモードをONにする

外気温度よりも低い温度で車内を冷房したいときは、A/CモードをONにしてください。

▷ A/Cボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
エアコン・コンプレッサーがONになります。
または
左右どちらかのゾーンのAUTOボタンを押してください。

A/CモードをOFFにする

例えば燃費を優先した運転をしたいときなどにA/Cモードを手動でOFFにすることができます。

▷ A/Cボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
エアコン・コンプレッサーがOFFになります。
冷房機能が解除されます。

AC MAXモード

A/C MAXモードでは、エアコン・システムが最大出力で車内を冷房します。
このとき車内温度は自動調節されません。

A/C MAXモードをONにする

▷ A/C MAXボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

A/C MAXモードをOFFにする

▷ A/C MAXボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
または
左右どちらかのゾーンのAUTOボタンを押してください。

エアコン・コンプレッサーに関するインフォメーション

エアコン・コンプレッサー：

– エンジンの負荷が過渡的に大きくなると、コンプレッサーが一時的にOFFになり、エンジンの過熱を回避します。
– 外気温度が約3℃を下回るとコンプレッサーが自動的にOFFになり、このときは手動操作でもコンプレッサーをONにできません。
– ウィンドウを閉じるとエアコン・システムの作動効率が高まります。
  炎天下で長時間駐車したときは、まずウィンドウを開いて車内の空気を入れ替えてから、エアコンを使用すると効果的です。
– 外気温度や湿度によっては、除湿した水分が水滴となってエバポレーターから排出され、車両の下に水たまりができることがあります。
  これは正常な状態で、液漏れ等の故障ではありません。

内気循環モード

内気循環モードをONにする

▷ ボタンを押してください。
  ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
  外気導入が遮断され、車内の空気を循環させます。

内気循環モードをOFFにする

▷ ボタンを押してください。
  ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。

 インフォメーション

手動または自動でエアコン・コンプレッサーがOFFになると、約3分後に内気循環モードがOFFになります。

自動内気循環モードの設定

自動内気循環モードでは、空気の状態に応じて自動的に外気導入と内気循環を切り替えます。

自動内気循環モードはマルチファンクション・ディスプレイ上でON/OFFの切り替えができます。

外気温度が約5℃を下回ると、ウィンドウの曇りを防止するため、内気循環モードが自動的に停止します。

自動内気循環モードのマルチファンクション・ディスプレイでの調節に関するインフォメーション：

▷ 「エアコン設定」（136ページ）を参照してください。

 インフォメーション

通常は自動内気循環モード（初期設定）にしておくことを推奨します。

SYNCモード – 車内全体を運転席のA/C設定に同期させる

SYNC（同期）モードをONにすると、すべてのゾーンのエアコン設定が、運転席の設定と同じになります。

SYNC（同期）モードをONにする

▷ SYNCボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
ディスプレイに表示されるすべてのゾーンのエアコン設定が、運転席の設定と同じになります。

SYNC（同期）モードをOFFにする

▷ SYNCボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
または
運転席以外のいずれかのゾーンのエアコン設定を変更すると、SYNC（同期）モードがOFFになります。

SYNCモード作動時のリヤ・ゾーンのエア配分（4ゾーン・エアコン）

フロント・コントロール・パネルのまたはボタンを押すと、リヤ・ゾーンの中央および左右エア・ベントから送風します。
フロント・コントロール・パネルのボタンを押すと、リヤ・ゾーンの足元に送風します。

1名乗車時に推奨するエアコン設定

SYNC（同期）モードをONにすると、車内が最も快適な状態に維持されます。
SYNC（同期）モードの作動に関するインフォメーション：

▷ 「SYNCモード – 車内全体を運転席のA/C設定に同期させる」（72ページ）を参照してください。

リヤ・ゾーンへの送風量を少なくしても、フロント・ゾーンの快適性は向上しません（4ゾーン・エアコン装備車のみ）。
送風量の調節に関するインフォメーション：

▷ 「送風量の設定」（67ページ）を参照してください。

RESTモード

エンジンの余熱を利用して暖房する

イグニッションをOFFにしてから最大20分間は、エンジンの余熱を利用したヒーターで車内を暖めることができます。

▷ イグニッションをOFFにしたときに、フロント・コントロール・パネルのAUTO RESTボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
RESTモードではエアコン・システムの設定を変更できません。

RESTモードを停止する

▷ フロント・コントロール・パネルのAUTO RESTボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
または
イグニッションをONにしてください。
ボタンのインジケーター・ライトがそれまでの設定を表示します。

 インフォメーション

バッテリー電圧が低いときは、最初にRESTモードの作動が制限され、その後自動的にOFFになります。

マルチファンクション･ディスプレイのエアコン設定

エアコン・システムに関係する機能をマルチファンクション･ディスプレイで設定することができます。

マルチファンクション･ディスプレイでのエアコン設定機能に関するインフォメーション：

▷ 「エアコン設定」(136ページ) を参照してください。

送風量の調節

オート・モードでは3段階で送風の強さを調節できます：

– **「弱」**：
エア・ベントからの送風が和らぎます。
空気の流れに敏感な乗員に適しています。
– **「標準」**：
標準の設定です。
– **「強」**：
室内への送風が強くなります。
風の流れをはっきりと感じられるようになります。

間接ベンチレーション・パネル

ダッシュボード上にある間接ベンチレーション・パネルは、インストルメント・パネルのマルチファンクション･ディスプレイの設定で個別にON/OFFを切り替えることができます。
このベンチレーション・パネルを作動させると、車内の空気の流れが拡散され、乗員に直接当たる風が和らぎます。
エアコン・システムは、間接ベンチレーション・パネルからの送風量を自動調節します。

間接ベンチレーション･コントロールの作動に関するインフォメーション：

▷ 「エアコン設定」(136ページ) を参照してください。

自動内気循環モード

自動内気循環モードに関するインフォメーション：

▷ 「内気循環モード」(71ページ) を参照してください。

エア・ベント

フロント・ダッシュボード、リヤ・センター・コンソール、Bピラー上にエア・ベント（吹き出し口）があり、手動で開閉することができます。送風方向も調節できます。

吹き出し口を開く

▷ ダイヤルを時計回りに回してください。

吹き出し口を閉じる

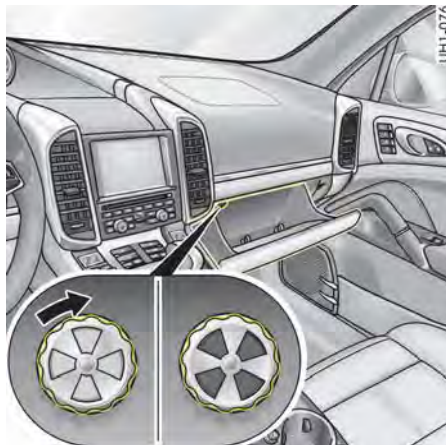
▷ ダイヤルを反時計回りに回してください。

送風方向の調節

▷ ルーバー角度を調節して希望の方向に風を送ることができます。

外気導入口

外気の導入を確保するには：

▷ エンジン・コンパートメント・リッドとフロント・ウィンドウの間の外気導入口に雪、氷、木の葉などによる詰まりがないことを確認してください。

クーラー機能付きグローブ・ボックス

グローブ・ボックスには冷気を直接送り込むためのエア・ベントがあります。
このエア・ベントは手動で開閉できます。

 インフォメーション

グローブ・ボックスに送り込まれた冷気は、グローブ・ボックス・リッドのすき間から車内に流れ出します。

▷ 外気温度が低いときは、グローブ・ボックスに送り込まれた冷気で車内の暖房効果が下がらないように、グローブ・ボックスのエア・ベントを閉じてください。

フロント・ウィンドウ・デフロスター

デフロスターを作動させる

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
フロント・ウィンドウおよびフロント・サイド・ウィンドウへの送風を開始します。
フロント・ウィンドウの曇りや氷結を素早く取り除きます。

デフロスターを停止する

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
または
左右どちらかのゾーンのAUTOボタンを押してください。

 インフォメーション

2ゾーン・エアコン：
リヤのエア・ベントを閉じると、フロント・ウィンドウの曇りを素早く取ることができます。
エア・ベントに関するインフォメーション：

▷ 「エア・ベント」（73ページ）を参照してください。

4ゾーン・エアコン：
デフロスター・モードではリヤへのエアの供給が自動的にOFFになり、曇りを取り除く効果を最大にします。
フロント・ウィンドウおよびフロント・サイド・ウィンドウに向けて風が吹き出します。
リヤ・ゾーン用操作ユニットのディスプレイにロック・シンボルが表示されます。エアコン・システムの設定を変更することはできません。

リヤ・ウィンドウ・ヒーター、ドア・ミラーおよびフロント・ウィンドウ・ヒーター

リヤ・ウィンドウ・ヒーター/ドア・ミラーおよびフロント・ウィンドウ・ヒーターは、エンジンが作動中にのみ作動します。

ONにする

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

外気温度によって、約1～6分後にフロント・ウィンドウ・ヒーターのスイッチが、約5～20分後にリヤ・ウィンドウ・ヒーター/ドア・ミラー・ヒーターのスイッチが自動的にOFFになります。

▷ ボタンを再び押すとヒーターはONに戻ります。

インフォメーション

ヒーターをONにすると、再度フロント・ウィンドウが曇る場合：

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。

▷ ボタンを再度押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

OFFにする

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。

補助ヒーター/追加ヒーター＊

補助ヒーターはエンジンが作動していない状態でも、車室内を暖めたり、フロント・ウィンドウの氷結を溶かしたりすることができます。

補助ヒーター非装備のディーゼル・エンジン車には、自動的に作動してメイン・ヒーター・システムを補助する追加ヒーターを装備することができます。

危険 有毒な排気ガスの吸引

補助ヒーターをONにすると燃料を燃焼します。このときに発生する有毒な排気ガスは、車両の床下から排出されます。

▷ 補助ヒーターは換気の悪い場所（ガレージの中など）で作動させないでください。

警告 高温の排気ガス

補助ヒーターの作動中に排出される排気ガスは非常に高温になっています。

▷ 燃料を給油する前に補助ヒーター＊をOFFにしてください。

▷ ボディ下側から高温の排気ガスを十分に換気できる場所、草や葉など燃えやすい物と接触しない場所に駐車してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

作動準備

補助ヒーターはイグニッションの位置に関係なく使用できます：

– エンジンが作動していないとき
– 外気温が約15°Cを下回るとき
– 十分な量の燃料が燃料タンクに入っているとき（燃料が少ないときは作動しません）
– バッテリーが十分に充電されているとき

 インフォメーション

– 十分な余熱が利用できる場合、余熱を使いきってから補助ヒーターのバーナーがONになります。
– まれに補助ヒーターを長期間使用せず（夏季を過ぎた後など）、最初にスイッチを入れたときに作動しなかった場合、2度目を試す必要がある場合があります。
– 外気温が低い時に補助ヒーターを作動させると、水蒸気がエンジン・コンパートメントまたは車両下部から出ることがあります。これは正常な状態であり、故障ではありません。

マルチファンクション･ディスプレイでの補助ヒーターのON/OFF

補助ヒーターは、マルチファンクション・ディスプレイの「**ホジョ ヒータ**」メニューで操作します。

マルチファンクション・ディスプレイでの補助ヒーターのON/OFFに関するインフォメーション：

▷ 「補助ヒーターのON/OFF」（115ページ）を参照してください。

補助ヒーターの自動作動開始時間をマルチファンクション・ディスプレイで設定できます。

補助ヒーターのプログラミングに関するインフォメーション：

▷ 「補助ヒーター/タイマーのプログラミング」（115ページ）を参照してください。

補助ヒーターがONになると、インストルメント・パネルのマルチファンクション･ディスプレイのインジケーター・ライト♨が点灯します。

補助ヒーターはリモート･コントロールでも操作できます。

▷ 「リモート・コントロールによる補助ヒーターの作動/停止」（76ページ）を参照してください。

 インフォメーション

– イグニッションがOFFのとき、補助ヒーターはフロント・ウィンドウの曇りや氷結を取り、車室内の温度を快適な状態に調整します。
  車両が停止しているときは設定に関係なく、補助ヒーターが送風量、送風口および温度を自動的に調節します。
– イグニッションがONで補助ヒーターが作動中の場合、送風量、空気の配分、および温度を個別に調節することができます。
– 補助ヒーターは、エンジンが始動して約2分後、またはエンジンがOFFのままの場合は最長で30分後に自動的に停止します。

リモート・コントロールによる補助ヒーターの作動/停止

ONにする

▷ リモート・コントロールのボタン**A**を押してください。
  リモート・コントロールのインジケーター・ライトが緑色に点灯します。

OFFにする

▷ リモート・コントロールのボタン**B**を押してください。
  リモート・コントロールのインジケーター・ライトが赤色に点灯します。

補助ヒーター用のリモート･コントロールの作動範囲は最大500mです。建物など周囲の状況により、電波の届く範囲が狭くなることがあります。

送信インジケーター・ライト

リモート・コントロールのインジケーター・ライトの色と点滅速度で命令が正しく送信されたかどうかを表示します。

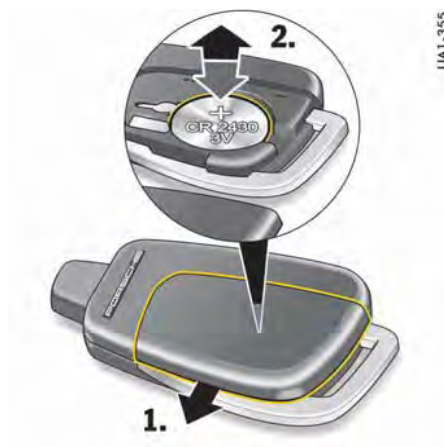
ONにしたときにインジケーター・ライトが緑色に点灯し、点滅し始めた場合、信号は正しく送信されています。
作動準備状態の点検が正しく完了すると、補助ヒーターは自動的にOFFになります。

リモート・コントロールのインジケーター・ライトが緑色に点灯した後、赤色に変わって点滅した場合、

– 車両が作動範囲外にある**または**
– 補助ヒーターの作動準備ができていない（燃料が少ない、バッテリーが弱っているなど）**または**
– 故障しているなどの可能性があります。

▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

OFFにしたときにインジケーター・ライトが赤色に点灯し、点滅し始めた場合、信号は正しく送信されています。
補助ヒーターが停止します。

リモート・コントロールのインジケーター・ライトが点灯しない場合、リモート・コントロールの電池が弱っています。

リモート・コントロールの電池交換

リモート・コントロールのインジケーター・ライトが点灯しない場合、リモート・コントロールの電池が弱っています。

1. バッテリー・カバーを後方へ引き抜いてください。
2. 電池を交換してください。
3. バッテリー・カバーをスライドさせて取り付けてください。

ウィンドウおよびスライディング/チルティング・ルーフ

パワー・ウィンドウ

⚠ 警告 ウィンドウの開閉

ウィンドウを開閉するときは、作動中のウィンドウと車両の固定部分に身体の各部が挟まれないように十分注意してください。特にワンタッチ操作で閉じるときは十分に注意してください。

▷ ウィンドウを開閉するときは同乗者がケガをしないように十分注意してください。

▷ 車両を離れるときは必ずキーを抜いてください。またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車ではイグニッションをOFFにしてください。車両から離れるときは、必ずキーを携行してください。同乗者がパワー・ウィンドウを誤って操作し、ケガをする恐れがあります。

▷ 危険が生じたときは、直ちにキーのボタンを放してください。ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車は、直ちにドア・ハンドルのボタンを放してください。

▷ お子様のみを車内に残さないでください。

インフォメーション

▷ オフロードを走行する場合、泥などが車内に入るため必ずウィンドウを閉じてください。

パワー・ウィンドウの作動条件

次の条件下で、パワー・ウィンドウを開閉することができます：

– イグニッションがONのとき

– イグニッションをOFFにしてから最大10分以内で、運転席ドアまたは助手席ドアを最初に開くまで（ドア・ウィンドウのワンタッチ操作はイグニッションがONのときのみ作動します）。

A - 運転席ドア・パワー・ウィンドウ
B - 助手席ドア・パワー・ウィンドウ
C - 左リヤ・パワー・ウィンドウ
D - 右リヤ・パワー・ウィンドウ

ウィンドウの開閉

スイッチ操作でウィンドウを開く

▷ ウィンドウがお好みの位置になるまで希望のウィンドウのスイッチを押してください。

スイッチ操作でウィンドウを閉じる

▷ ウィンドウがお好みの位置になるまで希望のウィンドウのスイッチを引いてください。

助手席ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチ

インフォメーション

スイッチには2段階の作動位置があります。この2段階の作動位置は、スイッチを操作する際にはっきりと感じ取れます。

– **1段目 – 手動操作**
スイッチを1段目まで動かすと、ウィンドウは手動操作で開閉します。
スイッチを放すとウィンドウが止まります。

– **2段目 – ワンタッチ操作**
スイッチを2段目まで素早く動かすと、ウィンドウは自動的に開閉します。
ウィンドウを希望の位置で止めたいときは、もう1回スイッチを操作してください。

リヤ・パワー・ウィンドウ

インフォメーション

ドア・ウィンドウを閉じるときに作動が妨げられると、ウィンドウが止まった後、再び数センチ下がり、挟み込みを防止します。
ウィンドウの作動が約10秒以内に2度妨げられると、そのウィンドウのワンタッチ操作ができなくなります。

ウィンドウは手動操作で閉じることができます。このときウィンドウは最大の力で閉じます。

ワンタッチ操作を再度有効にするには、ウィンドウを1回手動操作で完全に閉じるか、10秒後に再度スイッチを操作してください。

警告 ウィンドウの手動閉操作

ワンタッチ操作がウィンドウの抵抗を感じて無効になった場合、手動閉機能を使用してウィンドウを閉じると、最大の力で閉じようとします。

▷ ウィンドウを閉じる前に、同乗者が挟まれたり圧迫される恐れがないか確認してください。

リヤ・ドア操作を無効にする（チャイルド・ロック）

運転席ドア・コントロール・パネルのセーフティー・ボタンを押すと、リヤ・ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチと、リヤ・センター・コンソールのコントロール・パネルの機能が無効になります（セントラル・ロッキング・ボタンを除く）。

チャイルド・プロテクションのON/OFF

▷ セーフティー・ボタンを押してください。
チャイルド・プロテクションが作動している場合、セーフティー・ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ非装備車

キーによるウィンドウの開閉

▷ ウィンドウが希望の位置になるまでキーのロック/ロック解除ボタンを押し続けてください。

 インフォメーション

– リヤ・サイド・ウィンドウのロールアップ式サンブラインドが閉じている場合、リヤ・ウィンドウは開きません。
– すべてのウィンドウとパノラマ・ルーフ・システムまたはスライディング/チルティング・ルーフを完全に閉じると、ハザード・ライトが1回点滅します。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車

ドア・ハンドルのボタンでウィンドウを閉じる（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車）

▷ 車両をロックするときにウィンドウが希望の位置になるまで、ドア・ハンドルのボタンを押し続けてください。

 インフォメーション

– すべてのウィンドウとパノラマ・ルーフ・システムまたはスライディング/チルティング・ルーフを完全に閉じると、ハザード・ライトが1回点滅します。

バッテリー接続後のウィンドウ停止位置の保存

バッテリーを外したり、再接続したときは、ウィンドウの停止位置が消去されます。ウィンドウのワンタッチ操作が無効になります。

すべてのウィンドウで以下の作業を行ってください：

1. スイッチを引き上げて、**1回**ウィンドウを完全に閉じてください。
2. ウィンドウが完全に閉じた後、スイッチを再度短く引き上げてください。
3. スイッチを押して、**1回**ウィンドウを完全に開いてください。

スライディング/チルティング・ルーフ

電動スライディング/チルティング・ルーフは、1枚構造の着色安全ガラスで構成されています。ガラス・ルーフには手動開閉式のスライディング・ルーフ・カバーが付いており、頭上からの直射日光を遮ることができます。

スライディング/チルティング・ルーフは、ガラス・ルーフを後方にスライドさせて開いたり、チルト・アップすることができます。

⚠ 警告 スライディング/チルティング・ルーフの開閉操作

スライディング/チルティング・ルーフを開閉するときは、作動中のルーフと車両の固定部分に身体の各部が挟まれないように十分注意してください。特にワンタッチ操作で閉じるときは十分に注意してください。

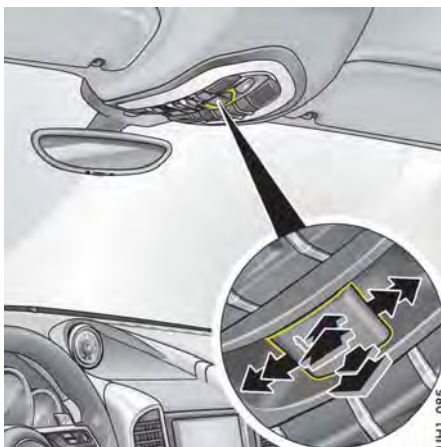
▷ スライディング/チルティング・ルーフを操作するときは、乗員がケガをしないように十分注意してください。

▷ 車両を離れるときは必ずキーを抜いてください。またはポルシェ・エントリー&ドライブ装備車ではイグニッションをOFFにしてください。車両から離れるときは、必ずキーを携行してください。同乗者（お子様など）がスライディング/チルティング・ルーフを誤って操作し、ケガをする恐れがあります。

▷ 危険が生じたときは、スライディング/チルティング・ルーフ・スイッチを反対方向に操作してください。コンフォート機能を使用している場合、直ちにキーのボタンを放してください。

スライディング/チルティング・ルーフの作動条件

以下の条件でスライディング/チルティング・ルーフを操作できます：

– イグニッションがONのとき
– イグニッションをOFFにしてから最大10分以内で、運転席ドアまたは助手席ドアを最初に開くまで

スライディング/チルティング・ルーフの操作

スライディング/チルティング・ルーフは、ルーフ・コンソールのボタンで操作してください。

 インフォメーション

このスライディング・ルーフ・スイッチには、各操作方向に2段階の作動位置があります。この2段階の作動位置は、スイッチを操作する際にはっきりと感じ取れます。

– **1段目 – 手動操作**
  スイッチを特定の方向に1段目まで動かすと、スライディング/チルティング・ルーフは手動操作で開閉します。
  スイッチを放すとルーフがその位置で止まります。

– **2段目 – ワンタッチ操作**
  スイッチを2段目まで操作すると、スライディング/チルティング・ルーフは自動的に開閉します。
  スライディング/チルティング・ルーフを希望の位置で止めたいときは、もう1回スイッチをいずれかの方向に操作してください。

 インフォメーション

– スライディング/チルティング・ルーフは、極端に走行速度が高い場合や気温が極端に低い場合作動しません。
– スライディング/チルティング・ルーフは、挟み込み防止機能を備えています。閉作動の途中で抵抗があると、閉作動が中断されてルーフが直ちに開きます。

ルーフを開いたときの停止位置（風切り音を最小限に抑える位置）

スライディング/チルティング・ルーフは、手動操作でもワンタッチ操作でも、風切り音を最小限に抑える位置までスライドして開きます。

スライディング/チルティング・ルーフを全開にする

ルーフが開く方向にスイッチを再度操作すると、スライディング/チルティング・ルーフを全開にすることができます。

ルーフを全開にした場合、速度により風切り音が発生します。

キーによるスライディング/チルティング・ルーフの開閉

車内の換気を効率よく行うため、キーを使用してスライディング/チルティング・ルーフを操作することができます。

スライディング/チルティング・ルーフを開く

▷ スライディング/チルティング・ルーフが希望の位置になるまでキーのロック解除用ボタンを押し続けてください。

スライディング/チルティング・ルーフを閉じる

▷ スライディング/チルティング・ルーフが希望の位置になるまでキーのドア・ロック用ボタンを押し続けてください。

インフォメーション

すべてのウィンドウとスライディング/チルティング・ルーフが完全に閉じると、ハザード・ライトが1回点滅します。

ドア・ハンドルのボタンでスライディング/チルティング・ルーフを閉じる(ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車)

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車の場合、ドア・ハンドルのボタンでスライディング/チルティング・ルーフを閉じることができます。

▷ スライディング/チルティング・ルーフが希望の位置になるまでドア・ハンドルのロック・ボタンを押し続けてください。

インフォメーション

すべてのウィンドウとスライディング/チルティング・ルーフが完全に閉じると、ハザード・ライトが1回点滅します。

スライディング/チルティング・ルーフの停止位置の保存

バッテリー上がり、ジャンパー・ケーブルでのエンジン始動、スライディング/チルティング・ルーフのヒューズの交換、緊急操作、バッテリーの切り離し/再接続を行うと、スライディング/チルティング・ルーフの停止位置(全開/全閉の位置)のメモリーが消去されます。

⚠ 警告 停止位置の保存

停止位置の保存時はルーフが最大の力で閉じます。

▷ スライディング/チルティング・ルーフを閉じる前に、同乗者が挟まれたり圧迫される恐れがないか確認してください。

スライディング/チルティング・ルーフの停止位置の保存は、車両を停止した状態で行ってください。

1. イグニッションをONにしてください。
2. ルーフを閉じる方向にスイッチを押し続けてください。
   約10秒後に、停止位置を保存するプロセスが開始されます。
   ルーフの動きが完全に停止するまで、そのままスイッチを押し続けてください。
   このプロセスは最大45秒で完了します。
   プロセスが完了する前にボタンから手を放した場合は、最初からやり直してください。

インフォメーション

パノラマ・ルーフ装備車では、ロール・アップ式サンブラインドの停止位置も保存する必要があります。

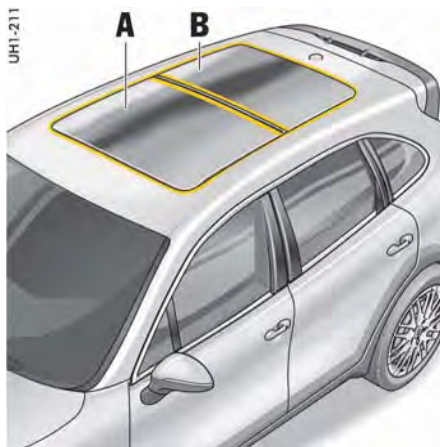
▷ ルーフおよびサンブラインドの停止位置の保存は、それぞれ個別に行ってください。停止位置の保存が中断された場合、もう一方の停止位置の保存ができません。

ロール・アップ式サンブラインドの停止位置の保存に関するインフォメーション：

▷ 「ロール・アップ式サンブラインドの停止位置の保存」(85ページ)を参照してください。

スライディング/チルティング・ルーフの緊急操作

スライディング/チルティング・ルーフが故障した場合、車載工具の六角キー・レンチを使用して手動で開閉作動を行えます。

▷ 「スライディング/チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システムの緊急操作」(86ページ）を参照してください。

A - スライディング/チルティング・ルーフ
B - 固定式ガラス・ルーフ

パノラマ・ルーフ

パノラマ・ルーフは計2枚のルーフ・コンポーネントで構成されています。

ルーフ・エレメント**A**はスライディング/チルティング・ルーフであり、前後方向に動かしたり、チルト・アップすることができます。これらの機能により、室内を効率よく換気することができます。

スライディング/チルティング・ルーフの作動条件と操作に関するインフォメーション：

▷ 「スライディング/チルティング・ルーフ」(82ページ）を参照してください。

ルーフ・エレメント**B**は固定式ガラスでパノラマ・ルーフ・システムの構成部品です。

警告 パノラマ・ルーフの開閉操作

パノラマ・ルーフ・システムの開閉時、特にワンタッチ操作で閉じるときは、作動中のルーフと車両の固定部分に身体の各部が挟まれないように十分注意してください。

▷ パノラマ・ルーフを操作するときは乗員がケガをしないように十分注意してください。

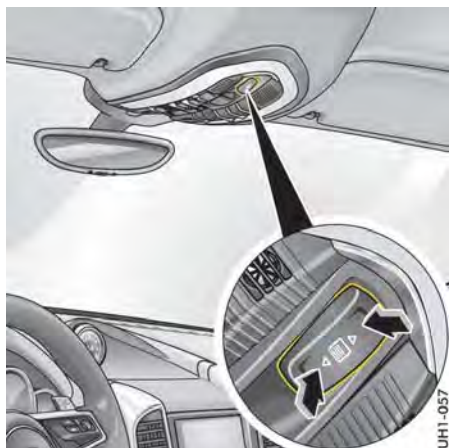
▷ 車両から離れるときは必ずキーを抜いてください。またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車ではイグニッションをOFFにしてください。車両から離れるときは、必ずキーを携行してください。同乗者（お子様など）がパノラマ・ルーフを誤って操作し、ケガをする恐れがあります。

▷ 危険が生じたときは、パノラマ・ルーフ・スイッチを反対方向に操作してください。コンフォート機能を使用している場合は直ちにキーのボタンを放してください。

知識

ルーフ・アタッチメントの取り付けに不具合があると、パノラマ・ルーフを操作したときに損傷する恐れがあります。

▷ 走行前にルーフ・アタッチメントが正しく取り付けられていることを確認してください。

▷ パノラマ・ルーフとルーフ・アタッチメントの間に十分なスペースがあることを確認してください。

ロールアップ式サンブラインド

ロール・アップ式サンブラインドはパノラマ・ルーフ・システムに組み込まれており、ルーフ・コンソールのスイッチで操作できます。

ロール・アップ式サンブラインドの開閉

スイッチには2段階の作動位置があります。

– **1段目 – 手動操作**
  スイッチを1段目まで押すと、スイッチを押している間のみロール・アップ式サンブラインドが開閉します。
– **2段目 – ワンタッチ操作**
  スイッチを2段目まで押すと、ロール・アップ式サンブラインドは自動的に開閉します。

ロール・アップ式サンブラインドを開く：

▷ スイッチを後方に押してください。

ロール・アップ式サンブラインドを閉じる：

▷ スイッチを前方に押してください。

閉作動のメモリー機能

ルーフとロール・アップ式サンブラインドは同時に閉じることができません。

– ルーフの閉作動中にロール・アップ式サンブラインドのスイッチを2段目まで押した場合（ワンタッチ操作）、ルーフが完全に閉じてからサンブラインドが停止位置まで閉じます。
– サンブラインドの閉作動中にスイッチを押してルーフを閉じた場合（ワンタッチ操作）、サンブラインドの閉作動が中断されます。ロール・アップ式サンブラインドはルーフが停止位置まで閉じた後、停止位置まで閉じます。

ロール・アップ式サンブラインドを自動的に開く

ロール・アップ式サンブラインドが閉じた状態でルーフを開いた場合、サンブラインドも自動的に開きます。

– ルーフを前後方向に開いた場合、ロール・アップ式サンブラインドも自動的に開きます。
– ルーフをチルト位置にした場合、サンブラインドも自動的に約10cm開きます（換気位置）。

インフォメーション

ルーフをチルト位置にした場合、ロール・アップ式サンブラインドは換気位置までしか閉じません。

ロール・アップ式サンブラインドの停止位置の保存

バッテリーの接続を切り離したとき、バッテリーがあがったとき、ジャンパー・ケーブルでエンジンを始動したとき、ロール・アップ式サンブラインドのヒューズを交換したとき、または緊急操作を行った後は、ロール・アップ式サンブラインドの停止位置（全開/全閉の位置）のメモリーが消去されます。

 インフォメーション

スライディング/チルティング・ルーフの停止位置も保存してください。

▷ ルーフおよびロール・アップ式サンブラインドの停止位置の保存はそれぞれ個別に行ってください。
  停止位置の保存が中断された場合、もう一方の停止位置の保存ができません。

スライディング/チルティング・ルーフの停止位置の保存に関するインフォメーション：

▷ 「スライディング/チルティング・ルーフの停止位置の保存」（83ページ）を参照してください。

⚠ 警告 停止位置の保存

停止位置の保存時はロール・アップ式サンブラインドが最大の力で閉じます。

▷ ロール・アップ式サンブラインドを閉じる前に、同乗者が挟まれたり圧迫される恐れがないか確認してください。

ロール・アップ式サンブラインドの停止位置の保存は、車両を停車した状態で行ってください。スライディング/チルティング・ルーフとロール・アップ式サンブラインドは必ず閉じてください。

1. イグニッションをONにしてください。
2. 閉じる方向にスイッチを押し続けてください。約10秒後に、停止位置を保存するプロセスが開始されます。
ロール・アップ式サンブラインドの動きが完全に停止するまで、そのままスイッチを押し続けてください。
このプロセスは最大45秒で完了します。
ロール・アップ式サンブラインドが完全に停止する前にスイッチから手を放した場合は、保存作業を再度行ってください。

ロール・アップ式サンブラインドの清掃機能

ロール・アップ式サンブラインドの清掃機能を作動させる場合、車両を停車した状態で行ってください。

1. イグニッションをONにしてください。
2. スライディング/チルティング・ルーフを完全に開いてください。
3. ロール・アップ式サンブラインドを可能な限り閉じてください。
4. 閉じる方向にスイッチを押し続けてください。ロール・アップ式サンブラインドが3秒後に閉じ初めます。ロール・アップ式サンブラインドが完全に閉じるまで、そのままスイッチを押し続けてください。
5. ゴミ（落ち葉など）を取り除きます。

清掃機能を終了するには：

▷ 走行を開始してください。ロール・アップ式サンブラインドが自動的に開きます。
または
スライディング/チルティング・ルーフを操作してください。ロール・アップ式サンブラインドが自動的に開きます。
または
スイッチ操作でロール・アップ式サンブラインドを開いてください。

スライディング/チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システムの緊急操作

⚠ 警告

スライディング/チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システムの緊急閉操作

ルーフを緊急操作で閉じる際、必要に応じて自動的に閉じる力が段階的に強くなります。

▷ スライディング/チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システムを操作する前に、同乗者が挟まれたり圧迫されたりする恐れがないか確認してください。

挟み込み防止機能が繰り返し作動した後の緊急閉作動

▷ 障害物を取り除いてください。

▷ スライディング / チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システムが閉じて停止位置になるまで、スイッチを閉じる方向に繰り返し押すか押し続けてください。

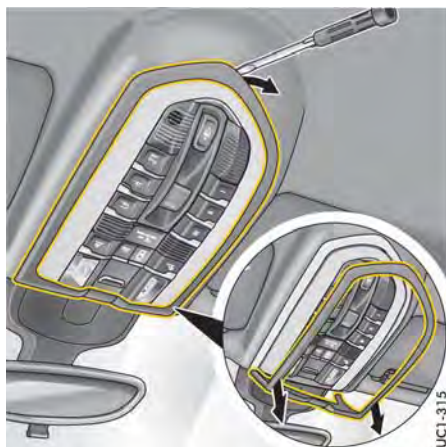
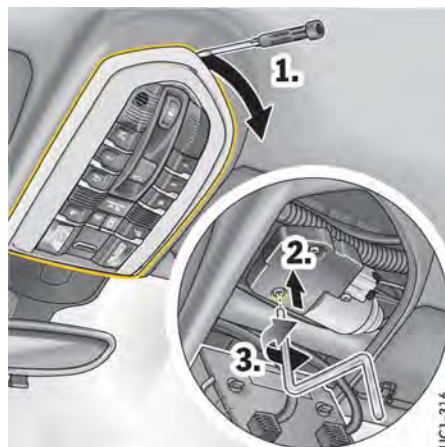
ルーフ・ドライブ・メカニズムが故障した場合の緊急操作

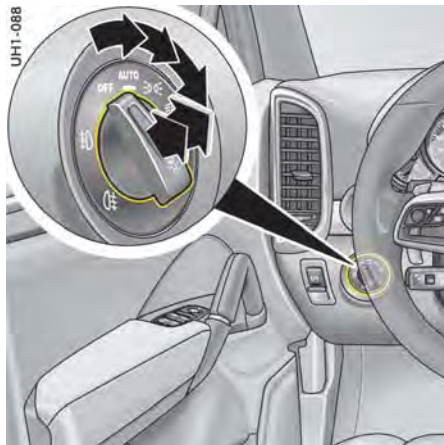
スライディング/チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システムが故障したときは、車載工具の六角キー・レンチを使用して手動で開閉操作を行うことができます。

▷ 緊急操作を行う前に、ヒューズが切れていないか点検してください。

ヒューズの点検に関するインフォメーション：

▷ 「ヒューズの交換」（320ページ）を参照してください。

1. 運転席側インストルメント・パネルのカバーから六角キー・レンチ**A**を取り出してください。

2. 手またはドライバーでルーフ・コンソールのクリップ・オン・フレームのクリップを外し、注意して引き下げてください。
   クリップ・オン・フレームを損傷しないように注意してください。
3. クリップ・オン・フレームを取り外してください。
4. 手またはドライバーでルーフ・コンソールを下方向に外して下げてください。
5. 六角キー・レンチをモーターの奥まで差し込み、開閉の希望の方向に応じて左右どちらかに回してください。六角キー・レンチが滑って損傷しないように、六角キー・レンチを押し上げながら回してください。
6. 六角キー・レンチを取り外し、保管場所に戻してください。
7. ルーフ・コンソールおよびクリップ・オン・フレームを取り付けてください。

▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ライト、方向指示灯、フロント・ワイパー

ライト・スイッチ

OFF **ライト消灯**
イグニッションがONのとき、デイタイム・ドライビング・ライト＊が点灯します。

AUTO **オートマチック・ヘッドライト**

車幅灯
ライセンス・ライト、インストルメント・ライト、車幅灯が点灯、デイタイム・ドライビング・ライトが消灯します。＊

ロー・ビーム/ドライビング・ライト＊
イグニッションがONのときのみ。

フォグ・ライト
スイッチをロー・ビームまたは車幅灯の位置で1段階引いてください。インジケーター・ライトが点灯します。

リヤ・フォグ・ライト
スイッチをロー・ビームまたは車幅灯の位置で2段階引いてください。インジケーター・ライトが点灯します。

インフォメーション
灯火類が点灯した状態でキーを抜いてドアを開くと、警告音が鳴り、バッテリー上がりを防止します。
各国の法律等に準拠して、ライトの仕様が異なる場合があります。

インフォメーション
気温と湿度により、車両のエクステリア・ライトが曇ることがあります。十分な距離を走行すると、この曇りは取れます。

オートマチック・ヘッドライト

オートマチック・ヘッドライトは運転快適性を高める機能です。この車両のドライビング・ライト（ロー・ビーム）は、周囲の明るさに応じて自動的に点灯/消灯します。
オートマチック・ヘッドライト機能は、デイタイム・ドライビング・ライト＊、オートマチック・カミングホーム・ライト、ダイナミック・コーナリング・ライトの作動を制御します。
ライト・スイッチを**AUTO**位置にすると、オートマチック・ヘッドライトが作動します。
なおオートマチック・ヘッドライトを作動させていても、法律等を遵守し、ライト・スイッチの手動操作でドライビング・ライトを点灯/消灯することは運転者の責務です。
オートマチック・ヘッドライト機能によるヘッドライトの点灯は、運転者を支援するためのものであり、ドライビング・ライトの操作は運転者が正しく行わなければなりません。

警告 無灯火での走行

ライトを点灯しないで走行するとドライバーの視界を大きく制限するのみでなく、他のドライバーに対する視認性を大きく妨げることになります。
▷ オートマチック・ドライビング・ライトの作動状況を常に監視してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

インフォメーション

オートマチック・ドライビング・ライト・アシスタント/ポルシェ・ダイナミック・ライト・システム(PDLS)が故障した場合、インストルメント・パネルのPDLS警告灯が点灯し、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

インストルメント・パネルのインジケーター・ライトおよび警告灯に関するインフォメーション：

▷ 「インストルメント・パネル」（103ページ）を参照してください。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

ロー・ビーム/ドライビング・ライト

ライト・スイッチをAUTOの位置にすると、次の状況でヘッドライト・ロー・ビームが自動的に点灯します：

– 夕暮れ時
– 夜間
– トンネル内走行時
– 雨天時

ロー・ビームの点灯時には、スピードメーターのインジケーター・ライトが点灯します。

 インフォメーション

オートマチック・ヘッドライトは、霧を感知することができません。

▷ 霧が発生したときは、手動でドライビング・ライトを点灯させてください。

雨天時の作動

ワイパーを連続作動に切り替えてから5秒が経過すると、ドライビング・ライトが自動的に点灯します。

その後、ワイパーを停止してから約4分が経過すると、ドライビング・ライトが消灯します。

オートマチック・ヘッドライト・レベリング（ヘッドライトの高さ自動調整）

イグニッションがONでロー・ビームが点灯しているときは、車体の姿勢変化に合わせてヘッドライトの照射角度が自動調整されます。

加速および減速時も、ヘッドライトの照射高さが一定に維持されます。

 インフォメーション

ライト・スイッチが（ヘッドライト・ロー・ビーム/ドライビング・ライト）の位置にあるときも、オートマチック・ヘッドライト・レベリングが作動します。

デイタイム・ドライビング・ライト＊

イグニッションがONの状態で、ライト・スイッチをOFFの位置（ライトOFF）にすると、デイタイム・ドライビング・ライトが自動的に点灯します。

イグニッションがONおよび周囲が明るい状態で、ライト・スイッチをAUTOの位置にすると、デイタイム・ドライビング・ライトが自動的に点灯します。

ライト・スイッチが（ヘッドライト・ロー・ビーム/ドライビング・ライト）の位置にあるときは、デイタイム・ドライビング・ライトは作動しません。

国別の法律に応じて、デイタイム・ドライビング・ライトの機能が異なります。

オートマチック・カミング・ホーム・ライト（ウェルカム・ホーム機能/エントリー機能）

オートマチック・カミング・ホーム・ライトをONにする

▷ ライト・スイッチをAUTOにしてください。

一定時間、次のライトが点灯したままになり、車両に乗降するときの足元を明るく照らして安全性を高めます。

– デイタイム・ドライビング・ライト＊
– ドア・ミラーのカーテシー・ライト（コンフォート・メモリーおよび格納ドア・ミラー装備車）
– フロントおよびリヤの車幅灯
– ライセンス・ライト

ウェルカム・ホーム機能（遅延消灯）

車両をロックするとマルチファンクション・ディスプレイで設定した時間ライトが点灯したままになり、遅延消灯時間が経過すると自動的に消灯します。

エクステリア・ライトの消灯遅延時間設定に関するインフォメーション：

▷ 「エクステリア・ライトの設定」（133ページ）を参照してください。

エントリー機能

車両をロック解除すると、マルチファンクション・ディスプレイで設定した消灯遅延時間、車両の周囲が照らされます。

イグニッションをONにするか、またはライト・スイッチをAUTOの位置以外に設定すると、ライトが消灯します。

エクステリア・ライトの消灯遅延時間設定に関するインフォメーション：

▷ 「エクステリア・ライトの設定」（133ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ポルシェ・ダイナミック・ライト・システム(PDLS)

ライト・スイッチがAUTO位置のときに、スタティックおよびダイナミック・コーナリング・ライトおよび夜間の高速道路走行機能が作動します。

スタティック・コーナリング・ライト

この機能は、スイッチがONで時速約130km/h以下で走行しているときに、ステアリング・ホイールを操作すると作動します。

 インフォメーション

ライト・スイッチが(ヘッドライト・ロー・ビーム/ドライビング・ライト)の位置にあるときも、スタティック・コーナリング・ライトを使用できます。

ダイナミック・コーナリング・ライト

時速約8km/h 以上で走行している場合、そのときの速度やステアリング・ホイールの切れ角によって、コーナーの先に向けてロー・ビームまたはハイ・ビームが向きを変え、進行方向の路面を照らします。

ダイナミック・コーナリング・ライトが故障した場合、インストルメント・パネルのポルシェ・ダイナミック・ライト・システム(PDLS)の警告灯が点滅し、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」(141ページ)を参照してください。

夜間の高速道路走行時の作動

夜間は速度が約130km/hを超えるとドライビング・ライトの配光特性が変化します。

このときドライビング・ライトは、より遠くが見渡せるように照射距離を長くします。

フォグ・ライト

速度が約60km/h以下でフォグ・ライトが点灯している場合、ドライビング・ライトの配光特性が変化します。

このときドライビング・ライトは、眩しさを抑えるように照射され、より広範囲が見えるように照射エリアが広がります。

ポルシェ・ダイナミック・ライト・システム・プラス(PDLS Plus)

ジャンクション・ライト＊

ジャンクション・ライト機能は、ナビゲーション・データを使用して交差点や分岐点を検出し、他の車両や歩行者の確認を容易にしてくれます。

左右スタティック・ライトが交差点や分岐点で点灯し、最適な明るさで照らしてくれます。

周囲が暗い状態で以下の条件が揃うと、ジャンクション・ライト機能が作動します：

– ライト・スイッチがAUTO位置に選択されている
– 約40km/h（スポーツ走行時、約60km/h以下）以下の速度で走行している
– 分岐点または交差点までの距離が約60m以下である

分岐点や交差点を通過した後、速度が約60km/h以上、または次の交差点までの距離が約150m以上になると、ジャンクション・ライトは自動的に消灯します。

 インフォメーション

高速道路を走行している場合、または交差点と交わっている道路が高速道路の場合、ジャンクション・ライト機能は作動しません。

ダイナミック・ハイ・ビーム

ダイナミック・ハイ・ビーム装備車では、カメラAで前方の走行車および対向車の光源を検知し、ドライビング・ライトの遮光ラインをハイ・ビームからロー・ビームの間で段階的に調節します。ドライビング・ライトの遮光ラインは、検出された車両が認識できるように調節されます。

周囲が暗い状態で以下の条件が揃うと、この機能が作動します：

– ライト・スイッチのAUTO位置が選択されている
– 速度が約60km/h以上
– インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイでダイナミック・ハイ・ビームが作動するように設定している「ダイナミック・ハイ・ビームの作動/停止」(134ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

– ダイナミック・ハイ・ビームがONになっている
「作動/停止（ダイナミック・ハイ・ビーム装備車）」（93ページ）を参照してください。

市街地走行時にフル・ハイ・ビーム・ライトに切り替わらないようにするため、ダイナミック・ハイ・ビームは約30km/h以下の速度では作動しません。

また、カメラが複数の街路灯を検出した場合も自動的にハイ・ビームからロー・ビームに切り替わります。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

インフォメーション

▷ カメラの作動を干渉する物がないことを確認してください：
カメラの視界**A**をステッカーなどで遮らないでください。

▷ システムの正常な機能を維持するために、カメラの視界**A**に付着した汚れ、氷、雪などを取り除いてください。
車両のお手入れについて：
「車両のお手入れ」（288ページ）を参照してください。

⚠ 警告 集中力の低下

ダイナミック・ハイ・ビームを過信せず、走行時の周囲の明るさ、視界、交通状況に応じてハイ・ビームを手動で調節し、責任ある運転を心がけてください。このシステムは、あくまでも補助的な機能であり、運転時には細心の注意を払う必要があります。

次のような場合には手動での設定が必要になることがあります：

– 悪天候（雨水、雪、氷、多量の水しぶきなど）
– 対向車を確認しにくい道路（高速道路など）
– 明るさが弱いライトの他車（自転車など）が走行している場合
– 急カーブ、起伏の激しい路面、坂道
– 明かりが少ない市街地
– 光を強く反射する物体（看板など）がある道路
– フロント・ウィンドウのカメラの視界に曇り、汚れ、凍結がある、またはステッカーで覆われている

▷ 十分注意して運転してください。
▷ 交通状況と車両周囲には常に注意を払ってください。
▷ 周囲の明るさ、視認性、交通状況に応じて、ハイ・ビームに手動で変更してください。

方向指示灯/ハイ・ビーム/パッシング・レバー

方向指示灯、ロー・ビームおよびハイ・ビームは、イグニッションがONの状態で操作できます。

1 – 方向指示灯、左
2 – 方向指示灯、右
3 – ハイ・ビーム、ダイナミック・ハイ・ビーム
4 – ヘッドライト・パッシング
操作レバー中央位置 – ロー・ビーム

方向指示灯

▷ 操作レバーを下方向**1**または上方向**2**に抵抗を感じる位置を超えて動かしてください。
方向指示灯は、操作レバーを手動で初期位置に戻すか、ステアリング・ホイールを回したときに自動的に初期位置に戻るまで、作動したままになります。

▷ 抵抗を感じる位置まで操作レバーを下方向**1**または上方向**2**に動かしてください。
方向指示灯が3回点滅します。

ハイ・ビーム

点灯/消灯（ダイナミック・ハイ・ビーム非装備車）

▷ **点灯**：抵抗を感じる位置まで操作レバーを前方向**3**に1回動かしてください。
タコメーターのインジケーター・ライトが点灯します。

▷ **消灯**：抵抗を感じる位置まで操作レバーを後方**4**に1回動かしてください。

作動/停止（ダイナミック・ハイ・ビーム装備車）

ダイナミック・ハイ・ビームを作動させるには、次の条件を満たさなければなりません。

– 夜間
– ライト・スイッチの**AUTO**位置が選択されている
– 速度が約60km/h以上
– インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイでダイナミック・ハイ・ビームが作動するように設定している
「ダイナミック・ハイ・ビームの作動/停止」（134ページ）を参照してください。

▷ **作動**：抵抗を感じる位置まで操作レバーを前方**3**に1回動かしてください。
スピードメーター内のインジケーター・ライトが点灯します。ロー・ビームとハイ・ビームの間で段階的に配光が自動調節されます。
ハイ・ビームの一時的な点灯時または完全な点灯時には、タコメーター内のインジケーター・ライトが点灯します。

▷ **停止**：抵抗を感じる位置まで操作レバーを後方**4**に1回動かしてください。
タコメーターのインジケーター・ライトが点灯している場合のみダイナミック・ハイ・ビームを停止できます。

点灯/消灯（ダイナミック・ハイ・ビーム装備車）

ダイナミック・ハイ・ビームを停止した場合、または条件が満たされなかった場合、ハイ・ビーム・ヘッドライトは手動操作で点灯および消灯できます。
以下の条件を満たさなければなりません：

– 夜間
– ライト・スイッチの**AUTO**位置が選択されている

▷ **点灯**：抵抗を感じる位置まで操作レバーを前方**3**に1回動かしてください。
タコメーターのインジケーター・ライトが点灯します。

▷ **消灯**：抵抗を感じる位置まで操作レバーを後方**4**に1回動かしてください。

ヘッドライト・パッシング

▷ 抵抗を感じる位置まで操作レバーを後方**4**に1回動かしてください。
タコメーターのインジケーター・ライトが短時間点灯します。

パーキング・ライト

パーキング・ライトは、イグニッションがOFFのときのみ点灯します。

▷ 操作レバーを上または下に動かすと右または左側のパーキング・ライトが点灯します。

パーキング・ライトが点灯している状態でイグニッションをOFFにし、ドアを開くとインストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイにメッセージ「**パーキング ライト オン**」が表示されます。
マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

アダプティブ・ブレーキ・ライト

急制動（パニック・ブレーキ）時、減速中にブレーキ・ライトが点滅します。

インストルメント・ライト

ライト・センサー**B**により、周囲の明るさによって、ライトが自動的に調整されます。
更に、車両のライト・スイッチがONのときはインストルメント・パネルおよびスイッチの照明を手動で調節することができます。

▷ 調節ボタン**A**を、お好みの明るさになるまで左右どちらかに回して保持してください。

⚠ 警告 走行中の輝度の調節

運転中に明るさ調節を行うと、車両のコントロールを失う恐れがあります。

▷ 運転中は、ステアリング・ホイールのスポークの間に手を入れて調節を行わないでください。

ハザード・ライト

ハザード・ライトはイグニッションの位置に関係なくONにできます。

ON/OFF

▷ センター・コンソールのハザード・ライト・ボタンを押してください。
ハザード・ライトを作動させると、すべての方向指示灯と、ボタンのインジケーター・ライトおよびタコメーターの方向指示灯インジケーター・ライトが点滅します。

ハザード・ライトを長時間作動させた場合、ライトを保護するため、ライトの点灯時間が短くなります。

急制動時のハザード・ライトの自動点滅機能

約70km/h以上の速度で走行中、目前に渋滞の最後尾が現れたとき、停車するために急ブレーキをかけると、制動中にブレーキ・ライトが点滅し、車両の停止後にハザード・ライトが自動的に作動します。

▷ センター・コンソールのボタンを押して、ハザード・ライトを停止させてください。
車両が動き出すと、ハザード・ライトが自動的に停止します。

衝突時のハザード・ライトの自動点滅機能

衝突時、ハザード・ライトが自動的に作動します。

▷ ハザード・ライトを停止するためには、イグニッションをOFFにした後、再度イグニッションをONにしてください。

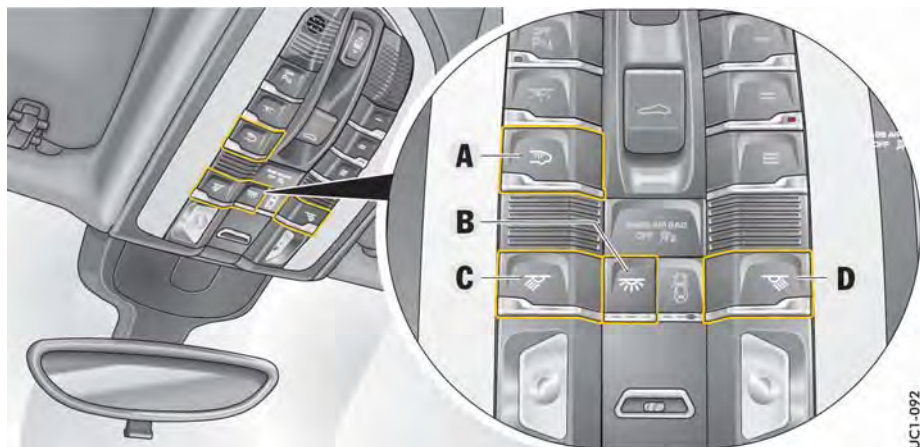
イグニッションのON/OFFに関するインフォメーション：

▷ 「イグニッション・ロック、ステアリング・ロック」（160ページ）を参照してください。

ライトの作動不良または故障

車両のいずれかのライトに不具合または故障が生じると、マルチファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

A - リヤ・インテリア・ライト用ボタン
B - フロント・インテリア・ライト用ボタン
C, **D** - フロント読書灯用ボタン

インテリア・ライト

インテリア・ライト

フロント･インテリア･ライトを点灯/消灯する

▷ ボタン**B**を押してください。

リヤ・インテリア・ライトを点灯/消灯する

▷ フロント・ルーフ・コンソールのボタン**A**、**または**左右リヤ・ドアの上部にあるボタン**E**を押してください。

減光する（明るさを調節する）

▷ フロント・インテリア・ライトのボタン**B**、**または**リヤ・インテリア・ライトのボタン**E**を希望の明るさになるまで少なくとも1秒間押し続けてください。

読書灯

フロントの読書灯を点灯/消灯する

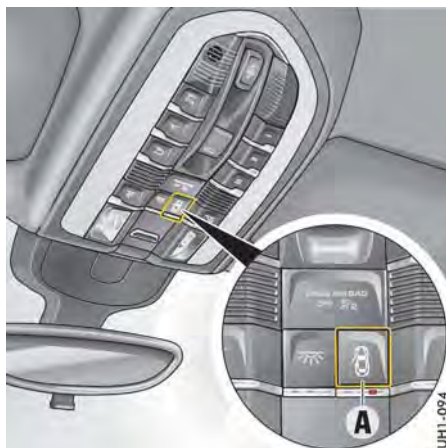
▷ ボタン**C**または**D**を押してください。

リヤの読書灯を点灯/消灯する

▷ 左右いずれかのドア上部のボタン**E**を押してください。

E - リヤ読書灯またはリヤ・インテリア・ライト用ボタン

減光（明るさを調節する）

▷ フロント読書灯のボタン**C**、**D**、**または**リヤ読書灯のボタン**E**を希望の明るさになるまで少なくとも1秒間押し続けてください。

インテリア・ライトの自動点灯/消灯機能

▷ ボタン**A**を押してください。

インテリア・ライトの自動点灯機能がOFFの場合、ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

インテリア・ライトの自動点灯機能をONにすると、周囲が暗いときに次のように作動します。

– ドアまたはリヤ・リッドのロックを解除したとき、ドアまたはリヤ・リッドを開いたとき、イグニッション・ロックからキーを抜き取ったとき、またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車ではステアリング・ロックを作動させたときに、インテリア・ライトが**点灯**します。
– ドアまたはリヤ・リッドを閉じ、消灯遅延時間の約120秒が経過するとインテリア・ライトが**消灯**します。この消灯遅延時間は、マルチファンクション・ディスプレイで変更できます。

イグニッションをONにしたときや、車両をロックしたときは、直ちにインテリア・ライトが消灯します。

インテリア・ライトの消灯遅延モード設定に関するインフォメーション：

▷ 「インテリア・ライトの遅延消灯モードを設定する」（134ページ）を参照してください。

オリエンテーション・ライト

フロント・ルーフ・コンソール、小物トレー、リヤ・ライト・ユニットのライトが点灯し、周囲が暗いときに車両の主要な装備の位置を照らして乗降性を高めます。これらのライトは車両のロックを解除したときに点灯し、車両をロックすると自動的に消灯します。

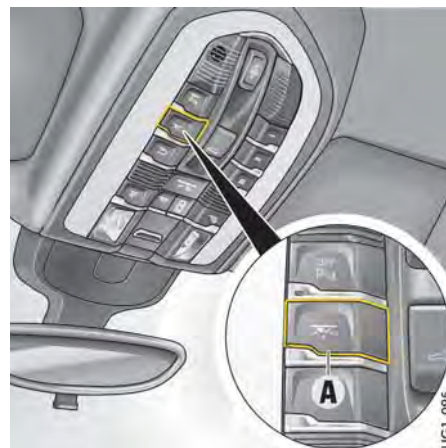
減光（明るさを調節する）

オリエンテーション・ライトの明るさはマルチファンクション・ディスプレイで調節できます。

オリエンテーション・ライトの明るさ調整に関するインフォメーション：

▷ 「オリエンテーション・ライトの明るさを調節する」（134ページ）を参照してください。

アンビエント・ライト

夜間の運転中、控えめな明るさのライトが車内をやわらかく照らします。アンビエント・ライトは、車両をロックすると自動的に消灯します。

アンビエント・ライトを点灯/消灯する

▷ ボタン**A**を押してください。

減光する（明るさを調節する）

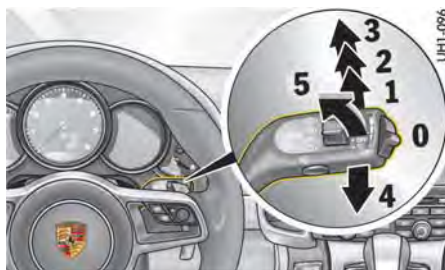
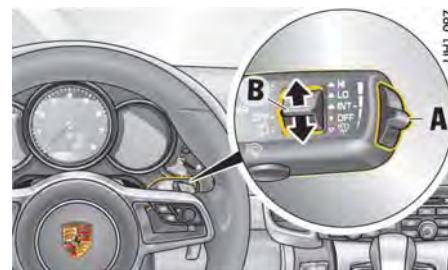
▷ アンビエント・ライトの減光ボタン**A**を希望の明るさになるまで少なくとも1秒間押し続けてください。

インテリア・ライトの自動消灯機能

周囲が暗いとき、バッテリー上がりを防止するためにエンジンを停止してから16分後にインテリア・ライトが消灯します。

▷ 周囲が明るいときは、インテリア・ライトを手動で点灯した後、10分が経過すると自動的に消灯します。

概要 – フロント・ワイパー

この概要説明は後述の「フロント・ワイパー / ウォッシャー・レバー」に代わるものではありません。
操作する上での概要のみでなく、「警告」を必ずお読みください。

フロント・ワイパー操作レバー

レイン・センサー・スイッチ

運転者が何をしたいか？	その操作方法は？
フロント・ワイパー・オート作動（レイン・センサー）	操作レバーを**1**の位置にしてください。
レイン・センサーの調節	操作レバー右部のスイッチ**A**を上（作動回数が増える）または下（作動回数が減る）方向に調節してください。
フロント・ワイパー作動	低速：操作レバーを**2**の位置にしてください。 高速：操作レバーを**3**の位置にしてください。 ワンタッチ：操作レバーを**4**の位置に短く押してください（**4**の位置で保持すると、ワイパーの動きが速くなります）。
フロント・ワイパー &ウォッシャー作動	操作レバーをステアリング・ホイール方向**5**に引いて、保持してください。
リヤ・ワイパー（間欠作動）	操作レバーのスイッチ**B**を上方向**INT**位置まで押してください。
リヤ・ワイパー &ウォッシャー作動	操作レバーのスイッチ**B**を上下方向いっぱいに**INT**位置を超えて押してください。

フロント・ワイパー/ウォッシャー・レバー

⚠ 注意 ワイパーの不意の作動

レイン・センサー・モードでは、フロント・ウィンドウに水分を検出すると自動的にワイプ作動を行います。

▷ (レイン・センサー機能により)不意に作動することのないよう、フロント・ウィンドウを清掃する前に必ずワイパーをOFFにしてください。

知識

エンジン・コンパートメント・リッド、フロント・ウィンドウまたはワイパー・システムを損傷する恐れがあります。

▷ フロント・ウィンドウが十分に濡れた状態でワイパーを作動させてください。乾いた状態での使用はウィンドウの擦り傷の原因になります。

▷ 運転前にワイパーの凍結を溶かしてください。

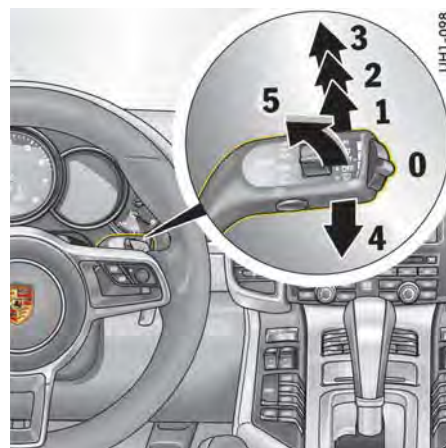
▷ 凍結時はヘッドライト・ウォッシャーを操作しないでください。

▷ (レイン・センサー機能により)不意に作動することのないよう、洗車機で洗車する前に必ずフロント・ワイパーをOFFにしてください。

▷ 洗車機での洗車中はヘッドライト・ウォッシャーを操作しないでください。

▷ (レイン・センサー機能により)不意に作動することのないよう、フロント・ウィンドウを清掃する前に必ずワイパーをOFFにしてください。

▷ ワイパー・ブレードを交換する場合は、ワイパー・アームをしっかりと保持してください。

▷ エンジン・コンパートメント・リッドを開く前に、必ずワイパーをOFF(ワイパー・レバーを**0**の位置)にしてください。イグニッション・スイッチがOFFで、ワイパー・アームが停止位置にない場合、エンジン・コンパートメント・リッドを開くと自動的にワイパーアームが停止位置まで移動します。エンジン・コンパートメント・リッドを閉じ、ワイパーシステムをOFFにしてから再度ONにするまで、この位置が保持されます。

フロント・ワイパーおよびヘッドライト・ウォッシャー・システム

0 – ● OFF: フロント・ワイパー OFF
フロント・ワイパーをOFFまたはイグニッションをOFFにすると、ワイパー・アームが静止位置からわずかに上方に動きます。この動きにより、ワイパー・ブレードのウィンドウ接触面の向きを整えます。

1 – ▲ INT: レイン・センサーの作動(フロント・ワイパー)
ワイパー・レバーを上方向に1段階動かしてください。

2 – ▲ LOフロント・ワイパー – 低速作動
ワイパー・レバーを上方向に2段階動かしてください。

3 – ▲ HIフロント・ワイパー – 高速作動
ワイパー・レバーを上方向に3段階動かしてください。

4 – ▽ 🅆: **フロント・ワイパーのワンタッチ作動**

ワイパー・レバーを下側に動かしてください。フロント・ワイパーが1回作動します。

ワイパー・レバーを長く操作すると、ワイパーが高速で作動します。

5 – ▽ FRONT: **フロント・ワイパーおよびウォッシャー・システム**

ワイパー・レバーをステアリング・ホイールの方向に引いてください。

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー・システムとワイパーが作動します。レバーを放すと、ウォッシャー・システムが停止し、その後ワイパーが数回作動します。

フロント・ウィンドウのウォッシャーが10回作動するごとに、ヘッドライト・ウォッシャー・システムが自動的に作動します。

インフォメーション

▷ 汚れが激しい場合はウォッシャーを繰り返し作動させてください。

▷ 頑固な汚れ（昆虫の死骸など）は定期的に清掃してください。

車両のお手入れに関するインフォメーション：

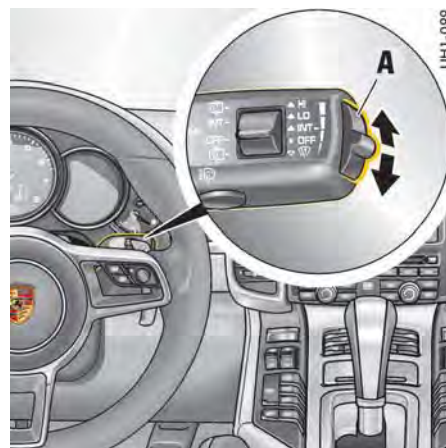
▷ 「車両のお手入れ」（288ページ）を参照してください。

良好な視界を確保するためには、完全な状態のワイパー・ブレードが不可欠です。

▷ 「ワイパー・ブレード」（280ページ）を参照してください。

外気温が10°C以下のときにイグニッションをONにすると、凍結を予防するために**フロント・ウィンドウ・ウォッシャーのノズル**を温めます。ただし、この機能を装備していても、冬季などでは必要に応じて凍結防止剤を加えたウォッシャー液を使用してください。

アイス・シールドまたはサン・シールドの取り付けおよびワイパー・ブレードの交換作業

▷ イグニッションをOFFにして、ワイパー・レバーを1回下方向**4**に押してください。
ワイパーが上方約45°の角度まで移動します。

レイン・センサーの作動（フロント・ワイパー）

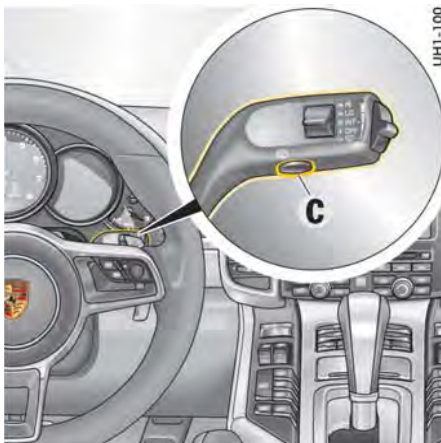
レイン・センサーが作動すると、フロント・ウィンドウに付着する水滴の量を感知して、ワイパーの作動速度を自動調節します。ワイパーの作動間隔は、状況に応じて自動的に調整されます。

フロント・ワイパーをONにしているときに速度が約4km/h以下になると、レイン・センサーが自動的に作動します。速度が約8km/hを超えると、ワイパーの動きがレバーで設定した速さに復帰します。

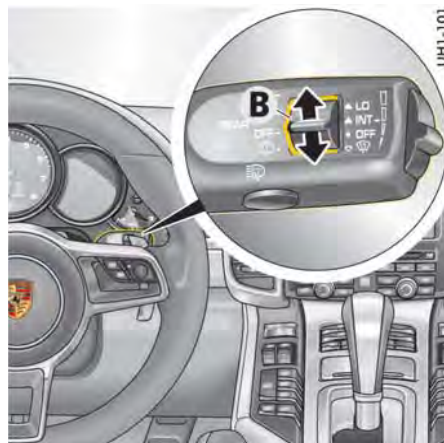
インフォメーション

– イグニッションをONにしたときに、すでにワイパー・レバーが**1**の位置にある場合、レイン·センサーは速度が約4km/hを超えると作動します。
– イグニッションをONにしたときに、すでにワイパー・レバーが**2**または**3**の位置にある場合、フロント・ワイパーはワイパー・レバーを操作しなければ作動しません。

レイン・センサー感度の調節

▷ スイッチ**A**を**上方向**に動かしてください – センサー感度が**高くなります。**
フロント・ワイパーが1回ワイプ作動を行い、感度が切り替わったことを知らせます。
▷ スイッチ**A**を**下方向**に動かしてください – センサー感度が**低くなります。**

ヘッドライト・ウォッシャー・システム

ヘッドライト・ウォッシャー・システムは、ロー・ビームまたはハイ・ビームを点灯しているときのみ作動します。

▷ ワイパー·レバーの下側のボタン**C**を押してください。
▷ なお、フロント·ウィンドウのウォッシャーが10回作動するごとに、ヘッドライト・ウォッシャー・システムが自動的に作動します。ロー・ビームを消灯すると、フロント・ウィンドウ・ウォッシャーの作動回数カウントがリセットされ、再度ゼロからカウントします。

リヤ・ワイパー

リヤ・ワイパーの間欠作動をONにする

▷ 操作レバーのスイッチ**B**を上方向**INT**位置まで押してください。

リヤ・ワイパーの間欠作動をOFFにする

▷ 操作レバーのスイッチ**B**を下方向**OFF**位置まで押してください。

手動ワイパー /ウォッシャー

▷ ワイパー・レバーのスイッチ**B**を下方向に**OFF**位置から押す、または上方向に**INT**位置から押してください。
スイッチを押している間、ウォッシャー・システムとワイパーが作動します。
レバーを放すと、ウォッシャー・システムが停止し、その後ワイパーが数回作動します。

リバース（後退）ギヤ選択時にリヤ・ワイパーをONにする

雨天時やフロント・ワイパーを作動させているときにリバース（後退）ギヤを選択した場合に、リヤ・ワイパーが自動的に作動するかどうかをマルチファンクション・ディスプレイで切り替えることができます。

オートマチック・リヤ・ワイパー機能の設定に関するインフォメーション：

▷「リバース（後退）ギヤ選択時のリヤ・ワイパーの作動設定」（135ページ）を参照してください。

 インフォメーション

良好な視界を確保するためには、完全な状態のワイパー・ブレードが不可欠です。

ワイパー・ブレードに関するインフォメーション：

▷「ワイパー・ブレード」（280ページ）を参照してください。

インストルメント・パネルおよびマルチファンクション・ディスプレイ

＊ 日本仕様に設定はありません。

インストルメント・パネル

A 油温計
B スピードメーター
C スピードメーター(Cayenne Turbo)
D ディーゼル予熱インジケーター・ライト（Cayenneディーゼル、Cayenne Sディーゼル）＊
E タコメーター（回転計）
F マルチファンクション・ディスプレイ
G 水温計、水温警告灯
H 油圧計
I トリップ・メーター・リセット・ボタン/インストルメント・パネル明るさ調節ボタン
J オドメーター（積算距離計）
K 「スポーツ」/「スポーツ・プラス」インジケーター・ライト
L ティプトロニックSセレクター・レバー・ポジション・インジケーター/ギヤ・ポジション・ディスプレイ
M デジタル・スピードメーター
N シフトアップ・インジケーター
O タコメーター（Cayenneディーゼル、Cayenne Sディーゼル）＊
P タコメーター(Cayenne Turbo)
Q 燃料計、燃料タンク残量警告灯
R フィラー・フラップ位置の表示

スピードメーターの警告灯およびインジケーター・ライト

HOLD HOLD機能インジケーター・ライト

タイヤ空気圧警告灯

PDLS警告灯

ディーゼル予熱インジケーター・ライト＊

ロー・ビーム・インジケーター・ライト

ダイナミック・ハイ・ビーム・インジケーター・ライト

リヤ・フォグ・ライト・インジケーター・ライト

タコメーターの警告灯およびインジケーター・ライト

エレクトリック・パーキング・ブレーキ(EPB)警告灯

エミッション・コントロール警告灯（チェック・エンジン）

トレーラー方向指示灯

エアバッグ警告灯

シートベルト警告灯

ブレーキ警告灯

方向指示灯、左

ハイ・ビーム・インジケーター・ライト

方向指示灯、右

ABS警告灯

PSM警告灯

PSM OFF警告灯

＊ 日本仕様に設定はありません。

インストルメント・パネル・ディスプレイ

A – 油温計

エンジン油温が異常に高まると、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ 直ちにエンジンの回転数を下げ、エンジンの負荷を軽減してください。
▷ マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：
「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

B、C、D – スピードメーター

インストルメント・パネルのタコメーターの左横にアナログ表示のスピードメーターがあります。

E、O、P – タコメーター（回転計）

タコメーターの目盛りが赤色の部分は、エンジン回転数の許容上限を示しています。

加速中に指針がレッド・ゾーンに達すると、エンジンを保護するために燃料供給が遮断されます。

F – マルチファンクション・ディスプレイ

マルチファンクション・ディスプレイに関するインフォメーション：

▷ 「マルチファンクション・ディスプレイの操作」（108ページ）を参照してください。

G – 水温計

▷ クーリング・システムに異常がある場合は、ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

指針が低温域を示しているとき – エンジン冷間時

▷ エンジンを高回転域まで回さないでください。また、大きな負荷をかけないでください。

指針が中央付近にあるとき – エンジン暖機後（通常の温度）

外気温度が高いときにエンジンに大きな負荷をかけると、指針が赤色の部分に達することがあります。

水温警告

エンジン水温が異常に高まると、水温計の警告灯が点灯します。
またインストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージ「**エンジンコウオン レイキャクノタメ テイシャスル**」が表示されます。

▷ エンジンをOFFにして冷やしてください。
▷ 車両前部のラジエーター表面や空気取り入れ口がゴミなどで塞がれていないか点検してください。
▷ クーラント・レベルを点検してください。必要に応じてクーラントを補充してください。
▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。
▷ クーラント・レベルの点検と補充に関するインフォメーション：
「クーラント・レベルの点検と補充」（299ページ）を参照してください。
▷ マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：
「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

 インフォメーション

エンジンの過熱を防ぐため、冷却風の取り入れ口をフィルムやストーン・ガードなどで塞がないでください。

クーラント・レベル警告

エンジン水量が異常に少なくなると、水温計の警告灯が点滅します。
またインストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージ「**クーラント タダチニホジュウ ウンテンフカ**」が表示されます。

▷ エンジンをOFFにして冷やしてください。
▷ クーラントを補充してください。
ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
▷ クーラント・レベルの点検と補充に関するインフォメーション：
「クーラント・レベルの点検と補充」（299ページ）を参照してください。
▷ マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：
「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

知識

エンジンを損傷する恐れがあります。
▷ クーラント・レベルが適正でも警告が表示され続けるときは、運転を続けないでください。
▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。

H – 油圧計

エンジン油圧は、エンジンの作動状態に応じて制御されており、エンジン回転数が3,000rpmのときは少なくとも2.0bar、5,000rpmのときは少なくとも3.0barでなければなりません。

エンジン油圧は、エンジンの回転数や油温、エンジンの負荷によって変化します。

エンジン作動中または走行中に油圧が突然低下し、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージ「ユアツ ヒクスギ アンゼンニテイシャスル」が表示されたときは：
▷ 直ちに適切な場所に停車してください。
▷ エンジンをOFFにしてください。
▷ エンジンまたは車両下部に明らかなオイル漏れがないか点検してください。
▷ マルチファンクション・ディスプレイ上で「**オイル レベル**」を選択してください。
「エンジン・オイル・レベルの表示と測定」(113ページ）を参照してください。
▷ 必要に応じてエンジン・オイルを補充してください。

知識

エンジンを損傷する恐れがあります。
▷ 明らかなオイル漏れがあるときは走行を続けないでください。
▷ オイル・レベルが適正でも警告メッセージが表示されるときは、運転を続けないでください。
▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

I – トリップ・メーター・リセット・ボタン/インストルメント・パネル明るさ調節ボタン

トリップ・メーターのリセット

▷ ロータリー・スイッチ**I**を約1秒間押してください。
トリップ・メーターが「**0**」に戻ります。

インストルメント・ライトの明るさ調節

インストルメント・ライトの明るさ調節に関するインフォメーション：
▷ 「インストルメント・ライト」(94ページ）を参照してください。

J – オドメーター（積算距離計）

総走行距離計（オドメーター）および区間走行距離計（トリップ・メーター）がスピードメーター内にあります。

ディスプレイの上段は総走行距離を表示し、下段は区間走行距離を表示しています。

トリップ・メーターの最大表示値は9,999kmで、それを超えると「**0**」に戻ります。

L – ティプトロニックSセレクター・レバー・ポジション・インジケーター/ギヤ・ポジション・ディスプレイ

イグニッションがONのとき、セレクター・レバーの位置（**P**、**R**、**N**または**D**）を表示します。

エンジン作動中は、セレクター・レバー・ポジションが表示されます。セレクター・レバーが**D**または**M**位置にあるときはギヤ・ポジションが表示されます。

ティプトロニックS装備車のギヤ・チェンジに関する詳しいインフォメーション：
▷ 「ティプトロニックS」(195ページ）を参照してください。

M – デジタル・スピードメーター

タコメーター内にデジタル表示のスピードメーターがあります。

ブースト・メーター（過給圧計）(Cayenne S、Cayenne Turbo)

マルチファンクション・ディスプレイにブースト・プレッシャー（過給圧）を表示できます。
▷ 「マルチファンクション・ディスプレイの表示を変更する」(126ページ）を参照してください。

この車両のエンジンは、ブースト圧制御機能を装備しており、ブースト圧が変化します。ブースト圧は速度、大気圧、燃料のオクタン価などに応じて変化します。

N – シフトアップ・インジケーター

タコメーター内のデジタル・スピードメーター右横にあるシフトアップ・インジケーターNは、経済的な運転を促すシフトアップのタイミングを知らせます。
現在選択しているギヤ、エンジン回転数、アクセル・ペダルの踏み込み量に応じてこのインジケーターが点灯し、1段高いギヤにシフトアップする適切なタイミングをお知らせします。

シフトアップ・インジケーターは、「Sport」または「Sport Plus」モードが作動していない場合のみ表示されます。

マニュアル・モードでのみシフトアップ・インジケーターが使用可能です。

▷ シフトアップ・インジケーターが点灯したときは、1段高いギヤにシフトアップしてください。

Q – 燃料計

イグニッションがONのときに燃料の残量を示します。

燃料の品質および給油量に関するインフォメーション：

▷ 「充填容量」(347ページ) を参照してください。

燃料および給油に関するインフォメーション：

▷ 「燃料の給油」(282ページ) を参照してください。

坂道などで車両の傾きが変化すると、燃料計の表示位置が少し変化することがあります。

燃料残量警告灯

燃料タンクの残量が予備燃料のみになるか、または残量での走行可能距離が約50km以下になると、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージ「**ソウコウカノウ キョリ チュウイ**」が表示され、燃料計の警告灯が点灯します。

▷ 最寄りの給油所で給油してください。

車両	燃料タンク容量	予備燃料
Cayenne Turbo	約100リットル	約15リットル
Cayenne S	約85リットル（オプション：約100リットル＊）	約15リットル
Cayenne S ディーゼル＊	約85リットル（オプション：約100リットル）	約13リットル
Cayenne ディーゼル＊	約85リットル（オプション：約100リットル）	約13リットル

知識

燃料が不足した状態で走行を続けると、エミッション・コントロール・システムに損傷を与える恐れがあります。

▷ 燃料タンクが空になるまで走行しないでください。

▷ 警告灯が点灯した場合は、カーブを曲がるときにスピードを出さないでください。

エミッション・コントロール・システムに関するインフォメーション：

▷ 「エミッション・コントロール・システム」(281ページ) を参照してください。

バッテリー/オルタネーター

警告メッセージ

車両エレクトリカル・システムの電圧が著しく低下するか、またはオルタネーターに不具合が発生した場合、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージ「**オルタネーター コショウ テイシャスル**」が表示されます。

▷ 安全な場所に停車してエンジンをOFFにしてください。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」(141ページ) を参照してください。

考えられる原因

– バッテリー充電システムの故障
– ドライブ・ベルトの不具合

⚠ 警告 パワー・ステアリングの作動不良

ドライブ・ベルトに不具合があると、パワー・ステアリングが作動しなくなります。ステアリング操作に大きな力が必要になります。

▷ 走行を続けないでください。

▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

＊ 日本仕様に設定はありません。

⚠ 警告 パワー・ステアリングの作動不良

水たまりや浅瀬を長時間走行すると、ドライブ・ベルトが滑りやすくなる恐れがあります。ステアリング操作に大きな力が必要になります。

▷ パワー・ステアリングが故障すると、ステアリング操作に大きな力が必要になります。

知識

エンジンを損傷する恐れがあります。

ドライブ・ベルトに不具合があると、エンジン冷却システムが作動しなくなります。

▷ 運転を続けないでください。

▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

Cayenneディーゼル＊、Cayenne Sディーゼル＊、Cayenne S E-Hybrid車用インテリジェント・メンテナンス・コンピューター

マルチファンクション・ディスプレイに走行距離、最後にメンテナンスを行ってからの期間および車両の使用状況に応じてメンテナンス・インターバル（サービス・インジケーター）が表示されます。

車両が過酷な条件下で使用されている場合、通常の使用条件の車両に比べてメンテナンス間隔が短くなります。

マルチファンクション・ディスプレイに表示されるメッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

エミッション・コントロール

警告灯

エミッション・コントロール・システムは、排気ガス中の有害物質が増加する原因となるような故障や、それに起因した損傷が引き起こされる前に、排気に関連するシステムの不具合を検出します。

不具合が検出されると、インストルメント・パネルの警告灯が点灯または点滅します。

また不具合の内容が、コントロール・ユニットのフォルト（故障）メモリーに保存されます。

インストルメント・パネルの警告灯は、イグニッションをONにするとバルブ切れチェックのために点灯し、エンジンが始動すると約1秒後に消灯します。

エミッション・コントロール・システムの部品が損傷する原因となるような作動状態（エンジンの失火など）が発生すると、警告灯が点滅します。

▷ このような場合、直ちにアクセル・ペダルから足を放し、エンジンにかかる負荷を小さくしてください。

エンジンやエミッション・コントロール・システム（触媒コンバーターなど）の損傷を避けるために：

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

知識

エミッション・コントロール・システムに損傷を与える恐れがあります。

アクセル・ペダルから足を放しても警告灯が点滅を続ける場合は、エミッション・コントロール・システムがオーバーヒートしている可能性があり、損傷する恐れがあります。

▷ 直ちに安全な場所に停車してください。可燃物（乾燥した草や枯れ葉など）が高温の排気システムに接触しないよう注意してください。

▷ エンジンをOFFにしてください。

▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。

エンジンの故障：Cayenneディーゼル＊、Cayenne Sディーゼル＊

走行中にエンジン・コントロール・システムに故障が発生した場合、インジケーター・ライトが点滅して表示します。

▷ エンジンを早急に点検してください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ 警告 事故を起こす恐れがあります

▷ ポルシェ正規販売店で早急に故障を修理してください。

知識

エンジンを損傷する恐れがあります。

▷ ポルシェ正規販売店で早急に故障を修理してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

インフォメーション

イグニッションをONにすると、インジケーター・ライトも点灯する場合があります。このような場合は、始動前のエンジン予熱機能（エンジン・プレヒーティング）が作動していることを表示しています。

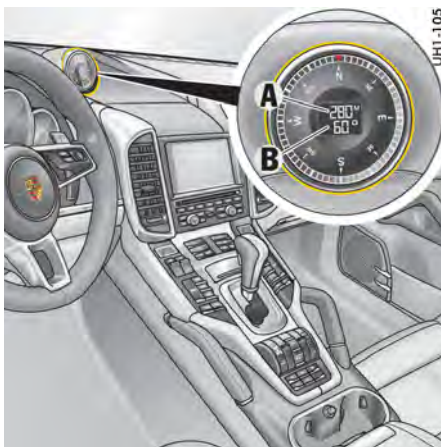
▷ 「CAYENNEディーゼル＊、CAYENNE Sディーゼル＊：ディーゼル予熱インジケーター・ライト」（164ページ）を参照してください。

警告音

インストルメント・パネルには警告音を発するスピーカーが装備されています。

このスピーカーに不具合が生じると、インストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージ「**コショウ メーターパネル/パークアシスト シュウリヒツヨウ**」が表示されます。

このときは、スピーカーが警告音を発することができません。

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

ダッシュボードのコンパス＊

走行中にコンパスの外側のリングが回転し、四方の基本的な方向とその中間の方向を確認することができます。

▷ ディスプレイの中ほどには、標高(**A**)および気温(**B**)が表示されます。

コンパスの単位はマルチファンクション・ディスプレイで設定することができます：

▷ 「単位の設定」（138ページ）を参照してください。

コンパス・ディスプレイの明るさを調節できます：

▷ 「インストルメント・ライト」（94ページ）を参照してください。

コンパス・ディスプレイはOFFにすることもできます：

▷ 「ダッシュボードのコンパス・ディスプレイをOFFにする＊」（138ページ）を参照してください。

コンパスの時刻の表示

マルチファンクション・ディスプレイでダッシュボードのコンパスが時刻を表示するように設定することができます。

コンパスの時刻表示に関するインフォメーション：

▷ 「ダッシュボードのコンパスの時刻表示＊」（131ページ）を参照してください。

マルチファンクション・ディスプレイの操作

マルチファンクション・ディスプレイでは、車両の装備に関する様々な情報の確認、オーディオ（ラジオ、CD、iPodなど）やナビゲーション・システムの操作＊、オイル・レベルやタイヤ空気圧の点検などが行えます。

更に、「**シャリョウ**」メニューでは車両の設定を変更することもできます。

この取扱説明書のみで、すべての機能を詳細に説明することはできません。ここではメニューの構成や、主な機能を例示し、操作方法をわかりやすく説明します。

警告 運転中の設定と操作

運転中にマルチファンクション・ディスプレイ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話などの機器の操作、設定を行うと、注意力が散漫になり、車両のコントロールを失う恐れがあります。

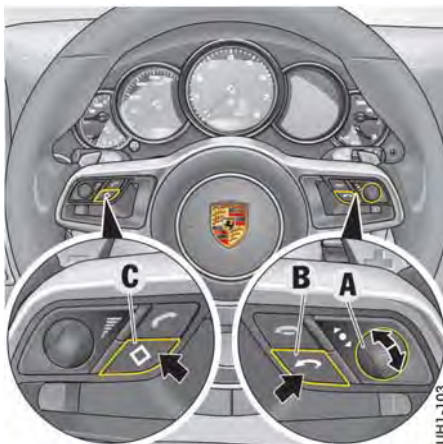
▷ 周囲の交通状況が安全を確保できる場合に限って運転中の操作を行ってください。
（*運転中のナビゲーションの操作、注視は道路交通法で禁止されています。）

▷ 複雑な操作、設定は必ず車両を停止してから行ってください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

マルチファンクション・ディスプレイ

インフォメーション

マルチファンクション・ディスプレイはイグニッションがONのときのみ操作できます。
また、タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定など一部のメニューは停車中のみ利用できます。

マルチファンクション・ディスプレイの基本操作

マルチファンクション・ディスプレイは、ロータリー・ノブ**A**、バック・ボタン**B**、**MFS**ボタン**C**で操作してください。

メニュー、機能、設定の選択

▷ ロータリー・ノブ**A**を上方向または下方向に回してください。

選択の確定

▷ ロータリー・ノブ**A**を押してください。

1つ前、または複数前のメニューに戻る

▷ ボタン**B**（バック・ボタン）を押してください。

◇ MFSボタンのパーソナル設定＊

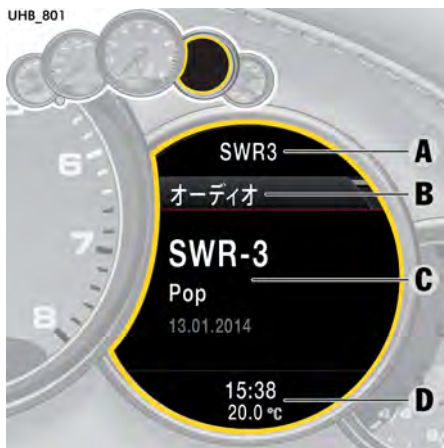
ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)＊、CDR＊、またはマルチファンクション・ディスプレイの機能を、マルチファンクション・ディスプレイで**MFS**ボタン**C**に割り当てることができます。初期設定ではオーディオ・ソースの選択に設定されています。

MFSボタンのパーソナル設定に関するインフォメーション：

▷ 「マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのボタンの割り当て変更＊」（137ページ）を参照してください。

ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)＊およびCDR＊に関するインフォメーション：

▷ 取扱説明書（別冊）＊を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

A - 上部ステータス・エリア
B - タイトル・エリア/メニュー・インジケーター
C - インフォメーション・エリア
D - 下部ステータス・エリア

マルチファンクション･ディスプレイの表示エリア

上部ステータス・エリア/下部ステータス・エリア

上部ステータス・エリア**A**および下部ステータス・エリア**D**には、現在受信しているラジオ放送局、時刻、外気温度、燃料残量での走行可能距離などの基本情報が常に表示されます。

上下ステータス･エリアに表示する項目は個別の設定ができます。

マルチファンクション･ディスプレイの設定に関するインフォメーション：

▷ 「マルチファンクション･ディスプレイの表示を変更する」（126ページ）を参照してください。

タイトル・エリア/メニュー・インジケーター

タイトル・エリアには、現在選択しているメニュー項目が表示されます。

右側のメニュー・インジケーターには、選択可能な全メニューにおける現在のメニュー項目の位置および、選択できるメニュー項目の数が表示されます。
メニュー・インジケーターの幅が広いほど、選択できるメニュー項目の数が少ないことを意味します。

インフォメーション・エリア

インフォメーション・エリア**C**には、現在選択できるメニュー項目が表示されます。メニューを選択した後は、そのメニュー項目に関係する情報や、その他の選択肢が表示されます。

メイン･メニューから機能を作動させる / サブ・メニューを開く / 設定メニューにアクセスする

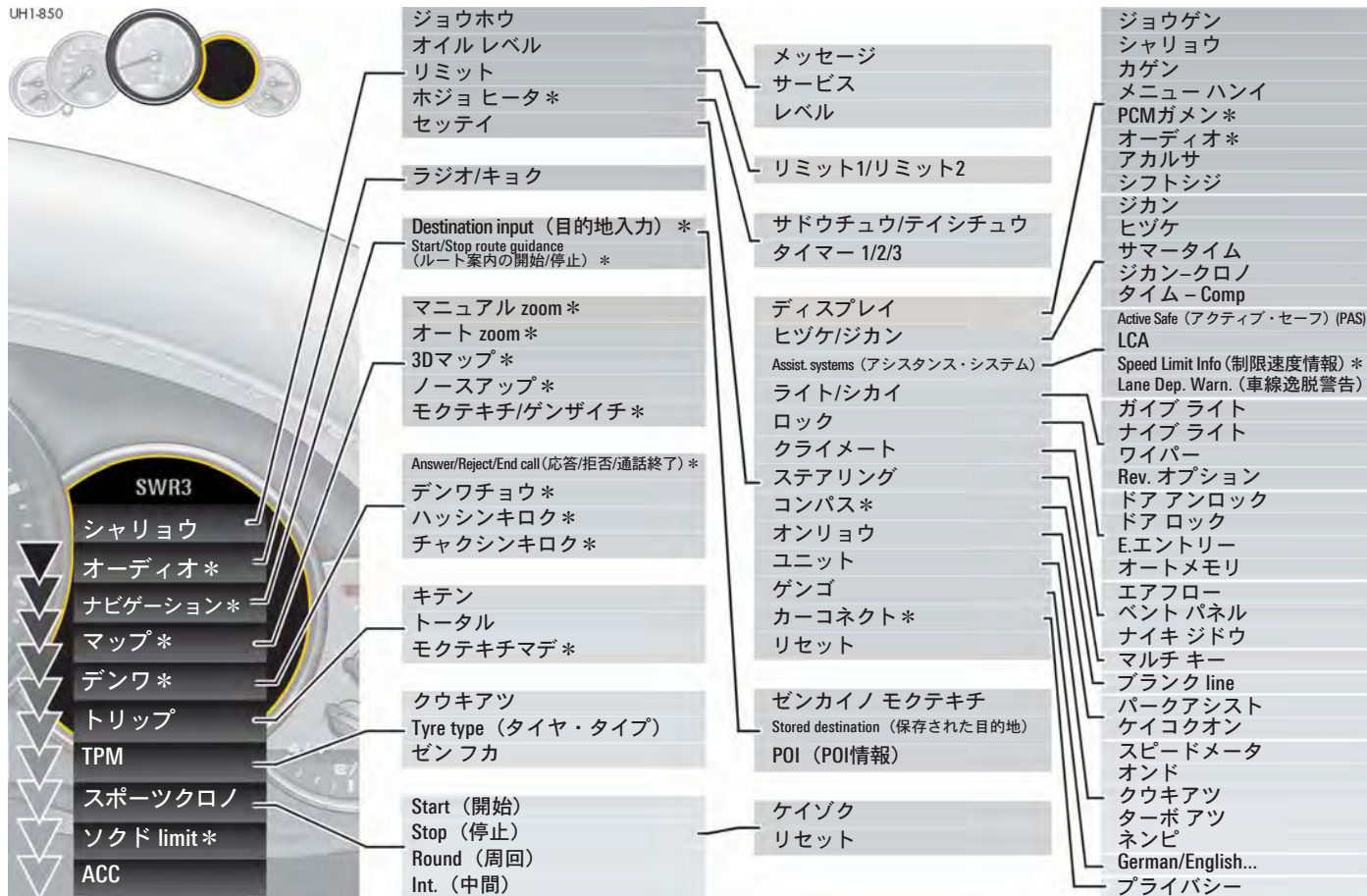
ロータリー・ノブ**A**を押すことにより、メイン･メニューの内容に合わせ、サブ・メニュー、その他の機能、または設定オプションなどを呼び出すことができます。

1. メイン・メニューを選択し、決定してください。
2. 機能、サブ・メニュー、設定オプションを選択し、決定してください。

項目数の多いリストの閲覧

PCM装備車で、数多くの登録情報がある電話帳/オーディオ・リストを閲覧するときは、頭文字で直接スキップすることができます。＊

▷ ロータリ・ノブ**A**を短く押してください。
頭文字を選択する画面が表示されます。

▷ 任意の頭文字を選択し、決定してください。
選択した頭文字ではじまる登録情報の、最初の項目にスキップします。

＊ 日本仕様に設定はありません。

仕様変更により画面表示がこの取扱説明書の内容と異なる場合がありますのでご了承ください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

車両メニュー

マルチファンクション・ディスプレイのメイン・メニュー「**シャリョウ**」では、様々な車両情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」を選択してください。

車両情報の表示は、個別に設定ができます。

車両メニューの設定に関するインフォメーション：

▷ 「マルチファンクション・ディスプレイの表示を変更する」（126ページ）を参照してください。

車両情報の表示

メイン・メニュー「**シャリョウ**」の下にあるサブ・メニュー「**ジョウホウ**」では、未解決の警告メッセージ、近い将来のサービス・インターバル情報、現在のシャーシ設定を呼び出すことができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
> 「**ジョウホウ**」を選択し、
決定してください。

メッセージの表示

現在のすべての警告メッセージや車両メッセージをマルチファンクション・ディスプレイに表示できます。
下部のステータス・エリアに表示される警告シンボル・マークは、未解決の警告メッセージの数を示しています。
複数の警告メッセージが未解決の場合、メッセージ・リストで閲覧できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
> 「**ジョウホウ**」

2. 「**メッセージ**」を選択し、
決定してください。

サービス・インターバルの表示

走行距離カウンターが、次回のメンテナンス・サービス（点検）の時期を表示します。

オイル・サービス（交換）時期は、エンジンの仕様に応じて固定またはダイナミック・インターバルで設定できます。

1. メイン・メニュー：**「シャリョウ」** >**「ジョウホウ」**
2. **「サービス」**を選択し、決定してください。
3. 任意のサービス・インターバルを選択し、決定してください。

選択できるサービス・インターバル：
- **「メンテナンス」**
- **「Interm.サービス」**
- **「オイルコウカン」**

選択したシャーシ設定の表示

現在のシャーシ設定の情報を表示できます。

1. メイン・メニュー：**「シャリョウ」** >**「ジョウホウ」**
2. **「レベル」**を選択し、決定してください。

エンジン・オイル・レベルの表示と測定

エンジン・オイル・レベルの点検に関するインフォメーション：

▷ 「エンジン・オイル・レベルの点検」（276ページ）を参照してください。

知識

エンジンに損傷を与える恐れがあります。

オイル・レベルが下限マークを下回っている場合、エンジン・オイルが不足しており、適切な潤滑ができません。

▷ 毎回、給油する前にオイル・レベルを点検してください。

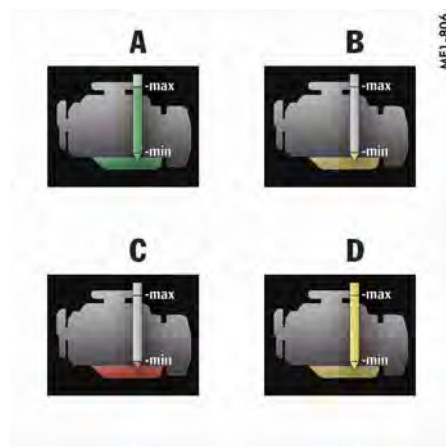
▷ オイル・レベルが下限マークを下回らないように注意してください。

オイル・レベルの測定条件：

1. 車両を平坦な場所に駐車してください。
2. エンジンを作動温度に達している状態でOFFにしてください。
3. 約2分間お待ちください。
4. マルチファンクション･ディスプレイで**「オイル レベル」**機能を選択してください。

マルチファンクション・ディスプレイでオイル・レベル機能を作動させる

1. メイン・メニュー：**「シャリョウ」** >**「オイル レベル」**を選択し、決定してください。

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

オイル・レベル表示例
A - オイル・レベルは適正
B - 最低オイル・レベルに達している
C - オイル・レベルが下限を下回っている
D - オイル・レベルが上限を超えている

オイル・レベルの測定結果

「オイル レベル」メニューでは、測定したオイル・レベルが表示されます。

表示が緑色の場合(**A**)、オイル・レベルは適正です。

最下部が黄色で表示されている場合(**B**)、オイル・レベルが下限(min)まで低下しています。

エンジン・オイルの最大補充量がマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

▷ 次の機会に表示された量のエンジン・オイルを補充してください。

最下部が赤色で表示されている場合(**C**)は、オイル・レベルが下限(min)を下回っています。

エンジン・オイルの最大補充量がマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

▷ 早急に表示された量のエンジン・オイルを補充してください。

最上部まで黄色で表示されている場合(**D**)、エンジン・オイルが容量の上限を超えて補充されていることを示しています。オイル・レベルが上限を超えていると排気ガスが青白い色になり、過剰なオイルの量や外的要因によって、長期的には触媒コンバーターを損傷する原因になります。

▷ 表示された補充量以上のエンジン・オイルを補充しないでください。

不正確なオイル・レベル

オイル・レベルの測定時、車両が平坦な場所に駐車されていない場合、またはエンジンが作動温度に達していない場合は、マルチファンクション・ディスプレイに「**Meas. inaccurate Vehicle misaligned（不正確な測定、駐車位置が平坦でない）**」または「**Meas. inaccurate Engine not warm（不正確な測定、エンジンが暖まっていない）**」のメッセージが表示されます。

▷ 車両を平坦な場所に駐車、またはエンジンが作動温度に達した状態で、オイル・レベル測定をやり直してください。

補充量

オイル・レベルが下限(min)まで低下すると、最大補充量がマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

オイルの補充量が多すぎたときは、マルチファンクション・ディスプレイにメッセージ「**オイルレベル ジョウゲン ハンバイテンヘ ウンテンカノウ**」が表示されます。

▷ 次の機会にオイル量を適正に戻してください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

エンジン・オイル補充後、またはエンジン・コンパートメント・リッドを開いたときのオイル・レベルの測定

エンジンが作動温度に達した状態で平坦な場所に駐車し、約2分間待った後測定可能になります。

故障

オイル・レベル・インジケーターが故障すると、マルチファンクション・ディスプレイに「**オイルレベル ソクテイコショウ ハンバイテンヘ ウンテンカノウ**」のメッセージが表示されます。

制限速度の設定

マルチファンクション・ディスプレイで制限速度を設定して機能を作動させると、その速度を超えたときに警告メッセージが表示され、警告音がなります。

例えば、装着しているタイヤの最高許容速度に合わせて制限速度を設定するなど、運転者に注意を喚起したいときに利用できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**リミット**」を選択し、
   決定してください。

制限速度を設定する

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**リミット**」
2. 「**リミット 1：---**」または
   「**リミット 2：---**」を選択し、
   決定してください。
3. 「**ゲンザイソクド**」または
   「**---**」を選択し、
   決定してください。

現在の速度、または任意の速度を制限速度として設定できます。

速度制限機能を作動/解除する

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**リミット**」
2. 「**リミット 1：---**」または
   「**リミット 2：---**」を選択し、
   決定してください。
3. 「**サドウ**」を選択してください。
4. 選択を決定してください。
   ☑ 速度制限が作動します。
   ☐ 速度制限が停止します。

マルチファンクション·ディスプレイでの補助ヒーターの操作＊

補助ヒーターのON/OFF

補助ヒーターはイグニッションがONのとき、マルチファンクション・ディスプレイでON/OFFすることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**ホジョ ヒータ**」
2.「**サドウチュウ**」または 「**テイシチュウ**」を選択し、 決定してください。

補助ヒーターをONにすると、マルチファンクション・ディスプレイのインジケーター・ライトが点灯します。

補助ヒーター /タイマーのプログラミング

イグニッションがONのときに、補助ヒーターの3回分の自動作動開始時間をマルチファンクション・ディスプレイでプログラムできます。

タイマーの設定

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**ホジョ ヒータ**」
2.「**タイマー 1**」または 「**タイマー 2**」または 「**タイマー 3**」 を選択し、決定してください。
3.「**セット**」を選択し、 決定してください。
4. 時刻と日付を設定し、 決定してください。

インフォメーション

プログラムする日時は未来時刻になるようにしてください。

タイマーの作動

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**ホジョ ヒータ**」
2.「**タイマー 1**」または 「**タイマー 2**」または 「**タイマー 3**」 を選択し、決定してください。
3.「**サドウ**」を選択し、 決定してください。

タイマーが作動すると、マルチファンクション・ディスプレイのインジケーター・ライトが、イグニッションをOFFにすると点滅を開始し、車両をロックするまで、または最大30秒間点滅し続けます。

インフォメーション

1回に**1つ**のタイマー設定のみが作動します。

タイマーのリセット

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**ホジョ ヒータ**」
2.「**タイマー 1**」または 「**タイマー 2**」または 「**タイマー 3**」 を選択し、決定してください。
3.「**クリア**」を選択し、 決定してください。

インフォメーション

タイマーがリセットされると、日時は表示されません。
最初のデジタル・スペースは時刻、次のスペースは日付を表します。

車両設定の調節

「シャリョウ」サブメニューで様々な設定を変更できます。

車両設定の変更に関するインフォメーション：

▷「マルチファンクション·ディスプレイの車両設定機能」（126ページ）を参照してください。

オーディオ・メニュー＊

メイン・メニュー「**オーディオ**」では、設定状況に応じて「放送局リスト」または「登録した放送局」から任意のラジオ放送局を選択できます。または、CDなど現在再生しているオーディオ・ソースの任意のトラックを選択できます。

1. メイン・メニュー：「**オーディオ**」 を選択し、決定してください。
2. 任意の放送局または曲を選択し、 決定してください。

オーディオ・メニューの調節に関してのインフォメーション：

▷「オーディオ・メイン・メニューの表示項目を変更する＊」（128ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ナビゲーション・メニュー＊

メイン・メニュー「ナビゲーション」では、ナビゲーション目的地の入力、ルート案内の開始、ルート上のナビゲーション情報の呼び出しができます。

1. メイン・メニュー：「**ナビゲーション**」
選択し、決定してください。

ナビゲーション目的地を入力する

マルチファンクション・ディスプレイでナビゲーションの目的地を入力できます。
ここでは、過去にルート案内した目的地のリスト、POI情報のリスト、または登録されている目的地からの選択のみができます。

1. メイン・メニュー：「**ナビゲーション**」
＞「**Destination input（目的地入力）**」

2.「**ゼンカイノ モクテキチ**」または
「**Stored destination（保存された目的地）**」または
「**POI（POI情報）**」
を選択し、決定してください。

3. 任意のナビゲーション目的地を選択し、決定してください。

ルート案内の開始

ルート案内を停止した状態で新しい目的地を入力した場合、新しい目的地へのルート案内を開始できます。

1. メイン・メニュー：「**ナビゲーション**」

2.「**Start route guidance（ルート案内の開始）**」を選択し、決定してください。

ルート案内の停止

実行中のルート案内を停止できます。

1. メイン・メニュー：「**ナビゲーション**」

2.「**stop route guidance（ルート案内の停止）**」を選択し、決定してください。

マップ・メニュー＊

メイン・メニュー「マップ」では、ナビゲーション・システムの地図画面を表示し、変更することができます。

1. メイン・メニュー：「**マップ**」
を選択してください。

地図画面の変更

1. メイン・メニュー：「**マップ**」
を選択し、決定してください。

2. 表示オプションを選択し、
決定してください。

3. 選択を決定してください。
☑ 機能が作動します。
☐ 機能が停止します。

選択できる表示オプションの種類：

– 「**オート zoom**」
現在地点から次の注意点までの距離に応じて、地図の縮尺が自動的に切り替わります。
– 「**3Dマップ**」
3次元地図を表示します。
– 「**ノースアップ**」
常に地図の上方が北になります。

地図の縮尺を切り替える

地図の縮尺を自由に変更できます。

1. メイン・メニュー：「**マップ**」
＞「**マニュアル zoom**」を選択し、
決定してください。

2. 任意の縮尺を選択し、
決定してください。

現在地または目的地を表示する

現在地または目的地を地図上で拡大表示できます。

1. メインメニュー：「**マップ**」

2.「**モクテキチ**」または
「**ゲンザイチ**」
を選択し、決定してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

電話メニュー＊

メイン・メニュー「デンワ」では、電話帳、最近の通話履歴、または着信履歴から電話番号を呼び出すことができます。

1. メイン・メニュー：「デンワ」を選択し、決定してください。

電話番号をダイヤルする

1. メインメニュー：「デンワ」
2. 「**Phonebook（電話帳）**」または「**Previous calls（発信履歴）**」または「**Received calls（着信履歴）**」を選択し、決定してください。
3. 任意の電話番号を選択し、決定してください。

着信を受ける

1. メインメニュー：「デンワ」
2. 「**Answer（応答）**」を選択し、決定してください。

着信を拒否する

1. メインメニュー：「デンワ」
2. 「**Reject（拒否）**」を選択し、決定してください。

通話を終了する

1. メインメニュー：「デンワ」
2. 「**End call（通話終了）**」を選択し、決定してください。

複数の通話を同時に受ける

通話中に、別の相手と通話を開始できます。1つの電話から別の電話に切り替えることも、両方の相手と同時に通話することもできます。

別の相手と通話を開始する

通話中に次の操作をしてください：

1. メインメニュー：「デンワ」
2. 「**New call（新規通話）**」を選択し、決定してください。

2つの電話を切り替える

1. メインメニュー：「デンワ」
2. 「**Swap（切り替え）**」を選択し、決定してください。

両方の相手と通話する

1. メインメニュー：「デンワ」
2. 「**Conference（会議）**」を選択し、決定してください。

トリップ・メニュー

メイン・メニュー「トリップ」を使用して、ドライビング・データの呼び出しとリセットができます。

1. メイン・メニュー：「トリップ」を選択してください。

ドライビング・データを表示する

3種類のドライビング・データが利用できます。

1. メイン・メニュー：「トリップ」
2. 「**1 – キテン**」または「**2 – トータル**」または「**3 – モクテキチマデ＊**」を選択し、決定してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

選択できるドライビング・データの種類：
– 「**キテン**」
  現在運転中のドライビング・データです。
  イグニッション・キーを抜き取って2時間以上停車すると、ドライビング・データが自動的にリセットされます。
– 「**トータル**」
  累積したドライビング・データです。
  手動でリセットするまでデータが蓄積されます。イグニッションをOFFにしてもデータがリセットされません。
– 「**モクテキチマデ**」
  ナビゲーション目的地までのドライビング・データです。
  ルート案内を開始すると目的地までのドライビング・データが計算され、表示されます。

ドライビング・データをリセットする

選択したドライビング・データをリセットできます。

1. メイン・メニュー：「**トリップ**」
2. 任意のドライビング・データを選択し、決定してください。
3. 「**リセット**」
   を選択し、決定してください。

タイヤ空気圧メニュー（タイヤ空気圧モニタリング、TPM）

タイヤ空気圧モニタリング・システムは4輪すべてのタイヤ空気圧とタイヤ温度を常時監視し、空気圧が異常に低下したときはマルチファンクション・ディスプレイで運転者に警告します。
ただし実際のタイヤ空気圧は、タイヤそのもので調整しなければなりません。

▷ 「冷間時のタイヤ空気圧(20℃)」（345ページ）を参照してください。

⚠ 警告 不正なタイヤ空気圧

タイヤ空気圧が正常でない場合、安全な走行に支障をきたす恐れがあります。タイヤ空気圧モニタリング・システムには、様々な利点があります。しかしマルチファンクション・ディスプレイの設定を常に更新したり、タイヤ空気圧を適正に維持することは運転者の責務です。

▷ タイヤ空気圧が適正であることを確認してください。
  車両の現在の積載荷重も考慮してください。
▷ マルチファンクション・ディスプレイのタイヤ空気圧モニタリング(TPM)設定が、車両に装着されているタイヤおよび積載重量と一致しているか点検してください。

⚠ 警告 突発的なタイヤ損傷

タイヤ空気圧モニタリング・システムは、タイヤの損傷の原因となる自然な空気圧低下や、タイヤに異物が刺さったときなどの空気圧のゆっくりとした低下を検出して警告します。
その一方、突発的な外的要因によるタイヤのパンクなど、急激な空気圧の低下は検出できず、警告しません。

⚠ 警告 タイヤ空気圧の不足

タイヤ空気圧が不足すると車両の走行安全性が低下するのみでなく、タイヤやホイールを損傷する恐れがあります。

▷ 赤色のタイヤ空気圧警告が表示されたときは、直ちに適切な場所に停車し、タイヤの損傷がないか点検してください。必要に応じてパンク修理剤で応急処置を行ってください。
▷ いかなる場合も、タイヤの不具合を放置したまま運転を続けないでください。
▷ パンク修理剤を使用したタイヤのシーリングは、緊急の場合の応急処置であり、最寄りの修理工場までの短距離移動のみに使用してください。
  このときの最高許容速度は**80km/h**です。
▷ 空気圧を調整しても短時間で空気が抜ける場合、そのタイヤでの運転を続けないでください。ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。
▷ 不具合があるタイヤは、直ちにポルシェ正規販売店で交換してください。
  いかなる場合も、タイヤを修理しないでください。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムに不具合が発生した場合、直ちにポルシェ正規販売店で修理を受けてください。
タイヤ空気圧モニタリング・システムに不具合があると、タイヤ空気圧を監視できません。

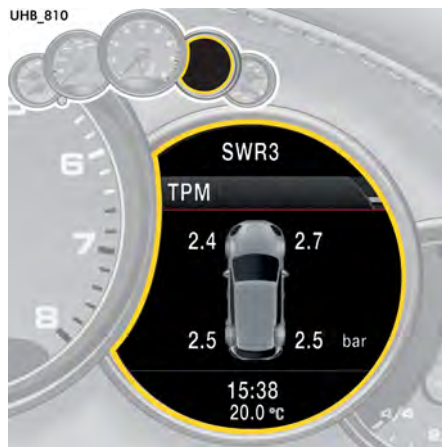
▷ マルチファンクション・ディスプレイへの入力情報が不足していたり、タイヤの選択を誤ると、警告とメッセージ表示の正確さに悪影響を及ぼします。
タイヤを交換したときや、積載荷重が変化したときは、タイヤ空気圧メニューの設定を更新しなければなりません。

▷ タイヤ空気圧を補正するときは、メイン・メニュー「**TPM**」の「**クウキアツ**」ディスプレイに表示される空気圧の差、または該当するタイヤ空気圧警告のみを使用してください。

▷ パンク等の不具合が発生していなくとも、タイヤ空気圧は徐々に低下します。この場合も、マルチファンクション・ディスプレイにタイヤ空気圧警告が表示されます。
次の機会に空気圧を点検してください。

タイヤ空気圧モニタリング・システムの概要

タイヤ空気圧モニタリング・システムには次の機能があります：

– 走行中の実際のタイヤ空気圧を表示します。
– 空気圧の低下を2段階（黄色/赤色）で警告します。
– 「**TPM**」メニューでは、停車時に「**クウキアツ**」（規定空気圧との差、補充する空気圧の表示）、「**Tyre type（タイヤ・タイプ）**」および「**ゼン フカ**」の設定が行えます。

マルチファンクション・ディスプレイでのタイヤ空気圧の表示

マルチファンクション・ディスプレイでタイヤ空気圧機能を選択する

1. メイン・メニュー：「**TPM**」を選択してください。

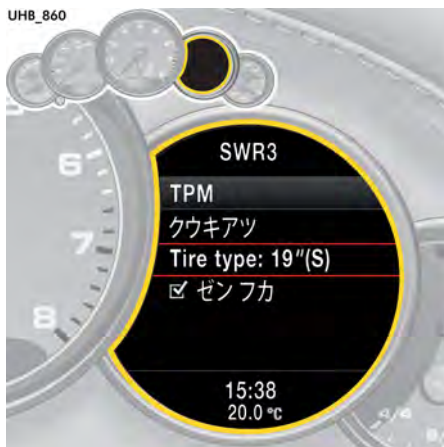
「**TPM**」機能は、速度が約25km/hを超えると、温度により変化するタイヤ空気圧（現在の空気圧）を4輪すべてについて表示します。
走行中の温度の上昇に伴うタイヤ空気圧の増加を読み取ることができます。

インフォメーション

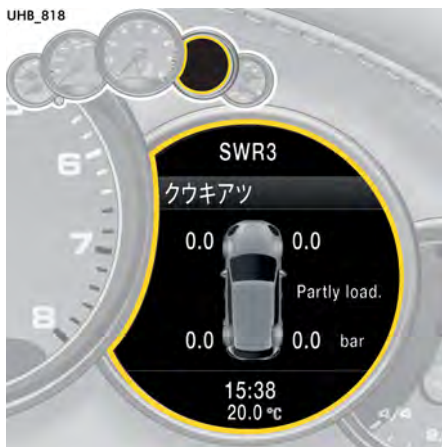
この空気圧表示は、情報としてのみ利用してください。

▷ いかなる場合も、この表示を元にタイヤ空気圧を調整しないでください。

インフォメーション

イグニッションをONにした後、車両の速度が約25km/hを超えたときのみタイヤ空気圧が「登録」されます。空気圧を表示するまではダッシュ記号「-.-」を表示します。通常、タイヤ空気圧の表示には約1分かかります。

TPMメニューの現在の設定を見る（停車中のみ）

この表示でタイヤ空気圧の設定を見ることができます。

1. メイン・メニュー：「**TPM**」
を選択し、決定してください。

TPMメニューの「クウキアツ」を選択する

この表示で補正すべきタイヤ空気圧を読み取ることができます。

1. メイン・メニュー：「**TPM**」

2.「**クウキアツ**」
を選択し、決定してください。

ディスプレイの各輪の位置に、補正すべきタイヤ空気圧（補充する空気圧）が表示されます。

例：右リヤ・タイヤの位置に「**-0.1bar**」と表示された場合は、このタイヤに0.1barの空気を補充してください。

表示されている空気圧は、タイヤ温度を考慮した結果の数値です。

▷ タイヤ空気圧を補正するときは、「**TPM**」メニューの「**クウキアツ**」ディスプレイに表示される空気圧の差、または該当するタイヤ空気圧警告のみを使用してください。

タイヤをまだ「登録」していない場合、現在のタイヤ空気圧差の代わりに、新しい規定空気圧が表示されます。

タイヤの登録に関するインフォメーション：

▷ 「システムの登録」（122ページ）を参照してください。

 インフォメーション

約5分以上車両を停車し、イグニッションをOFFにして再度ONにした後、「**TPM**」メニューは、現在の空気圧ではなくダッシュ記号「-.-」を表示し、一方「**クウキアツ**」は前回のタイヤ空気圧測定値を表示します。タイヤに空気を補充したとき、0.1barを超える圧力差が検出された場合は圧力差の値が再度更新されます。

TPMメニューの設定を選択する（タイヤの種類とサイズ）

タイヤ/ホイールを交換したときは、新しく装着したタイヤ/ホイールの種類とサイズが従来と同一であっても、改めて選択しなければなりません。

1. メイン・メニュー：「**TPM**」
2.「**Tyre type（タイヤ・タイプ）**」を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、決定してください。

選択できる設定オプション：

– 「**18" サマー**」
– 「**18" ウインター**」
– 「**18" シーズン**」
– 「**19" サマー**」
– 「**19" ウインター**」
– 「**19" シーズン**」
– 「**20" サマー**」
– 「**20" ウインター**」
– 「**20" シーズン**」
– 「**21" サマー**」

選択した設定が「TPM」メニューの「**Tyre type（タイヤ・タイプ）**」に表示されます（例：「**19" シーズン**」を選択した場合は「**19"(AS)**」）。

マルチファンクション・ディスプレイに次のようなメッセージが表示されたときのみ、タイヤの設定が完了になります：

「**No monitoring System learning above 25km/h（モニターシステムは25km/h以上でないと学習しません）**」

▷ 「システムの登録」（122ページ）を参照してください。

インフォメーション

設定のプロセスが中断されると、「**サドウ カイジョ**」のメッセージが表示されます。この時点までの入力情報がすべて無効になり、元の設定に戻ります。

マルチファンクション・ディスプレイに登録されていないサイズのタイヤを装着するときは、そのタイヤを装着する前に、ポルシェ正規販売店でマルチファンクション・ディスプレイに不足情報を追加する必要があります。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ ポルシェ社が承認したタイヤのみを使用してください。

タイヤ空気圧メニューの項目は、車両のモデル・タイプにより異なります。このため本書で説明している選択項目の中には、お客様の車両のマルチファンクション・ディスプレイで利用できないものが含まれることがあります。

TPMメニューの負荷を選択する

1. メイン・メニュー：「**TPM**」
2.「**ゼン フカ**」を選択し、決定してください。
3. 選択を決定してください。 ☑ 全積載が選択されます。 ☐ 部分積載が選択されます。

▷ 選択した荷重タイプに応じてタイヤ空気圧を調整してください。補正すべきタイヤ空気圧に関するインフォメーション：「TPMメニューの「クウキアツ」を選択する」（120ページ）を参照してください。

インフォメーション

選択した荷重タイプが表示されない場合は、荷重タイプに応じてタイヤ空気圧の調整が必要ないことを意味します。

システムの登録

タイヤ/ホイールを交換、ホイール・トランスミッターを交換、またはタイヤの設定を更新すると、タイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの登録を開始します。このプロセスによって、タイヤ空気圧モニタリング・システムが各タイヤとその装着位置を認識します。

マルチファンクション・ディスプレイにメッセージ「**No monitoring System learning above 25 km/h（モニターシステムは25km/h以上でないと学習しません）**」が表示されます。

タイヤ登録のプロセスは、車両が動いているとき（速度が25km/h以上のとき）のみ実行されます。

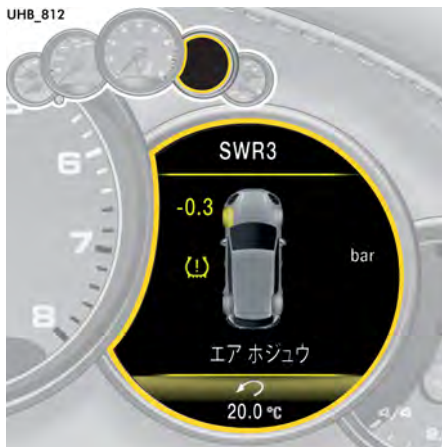
タイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの登録を完了するまでには一定の時間が必要です。このプロセスを実行中は、マルチファンクション・ディスプレイに現在のタイヤ空気圧が表示されません。

– すべてのタイヤの登録が完了するまで、タイヤ空気圧警告灯が点灯したままになります。
– 「**TPM**」機能のディスプレイに「-.-」が表示されます。
– 「**TPM**」メイン・メニューの「**クウキアツ**」に、冷間時(20°C)のタイヤ空気圧が表示されます。

タイヤ空気圧モニタリング・システムが各タイヤの装着位置を割り当てると、直ちにタイヤの位置と空気圧情報が表示されます。

▷ 「**クウキアツ**」ですべてのタイヤの空気圧を点検してください。
▷ 必要に応じて、タイヤ空気圧を適正値（空気圧の差「**0.0**」）に調整してください。

タイヤ空気圧警告

インストルメント・パネルのタイヤ空気圧警告灯、およびマルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージは、空気圧低下の程度に応じて2段階（黄色/赤色）で異常を知らせます。

黄色の警告「エア ホジュウ」

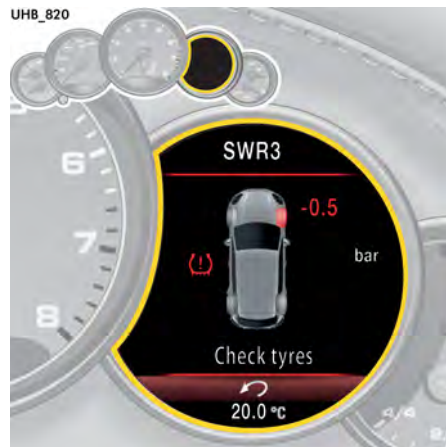
タイヤ空気圧が**0.3～0.5bar**不足しています。タイヤ空気圧警告は、空気圧が不足しているタイヤを特定し、補充すべき空気圧を表示します。

▷ 次の機会にタイヤ空気圧を調整してください。

タイヤ空気圧警告灯は次のような状況で表示されます：

– 停車してイグニッションを OFF にしたときに約10秒間、**または**
– イグニッションを再度ONにしたとき

イグニッションをONにすると警告を確認できます。

タイヤ空気圧を適正値（空気圧の差「**0.0**」）に調整すると、インストルメント・パネルのタイヤ空気圧警告灯が消灯します。

赤色の警告「タイヤ テンケン」

速度が**160km/h以下**で走行している場合：

– タイヤ空気圧が**適正値より20%**または**少なくとも0.5bar**不足しています。走行安全性が低下して危険です。

速度が**160km/h以上**で走行している場合：

– タイヤ空気圧が**少なくとも0.4bar**不足しています。走行安全性が低下して危険です。

▷ タイヤ空気圧警告が表示されたときは、直ちに適切な場所に停車し、該当するタイヤに損傷がないか点検してください。必要に応じてパンク修理剤で応急処置を行い、タイヤ空気圧を適正値に調整してください。

このタイヤ空気圧警告は走行中でも表示され、異常を知ることができます。

タイヤ空気圧を適正値（空気圧の差「**0.0**」）に調整すると、インストルメント・パネルのタイヤ空気圧警告灯が消灯します。

警告灯

インストルメント・パネルの警告灯が点灯します：
– 空気圧の低下を検出した場合（警告灯が点灯し続ける）
– タイヤ空気圧モニタリング・システムが故障、または一時的な不具合が生じた場合（警告灯が60秒間点滅し、その後点灯し続ける）
– 新しく装着したホイール/ホイール・トランスミッターを学習している場合、またはホイールを認識できない場合（警告灯が60秒間点滅し、その後点灯し続ける）

マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージも表示されます。

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

不具合が解消した場合のみ、インストルメント・パネルのタイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ/ホイールの交換

▷ 新しいホイールには、タイヤ空気圧モニタリング・システムの無線式トランスミッターを取り付けなければなりません。
タイヤ交換の前に、ホイール・トランスミッターのバッテリーの充電状態を点検してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ ホイールを交換するときは、イグニッションをOFFにしてください。

ホイールを交換した後は、マルチファンクション・ディスプレイのタイヤ設定を必ず更新してください。

設定を更新しなかった場合、「**タイヤ ヘンコウ？ サイセッテイヲ シテクダサイ**」のメッセージがマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

▷ 次回車両が停止したときにマルチファンクション・ディスプレイの設定を更新してください。

温度が上昇することによる空気圧の上昇

物理原則にしたがい、空気圧は温度変化に応じて変動します。タイヤ空気圧は10°Cの温度変化につき、約0.1bar増加、または減少します。

タイヤ空気圧の監視が行えない場合

故障が発生すると、タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤ空気圧の監視を行うことができません。

インストルメント・パネルの警告灯が点灯し、マルチファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

以下の場合、タイヤ空気圧の監視を行うことができません：
– タイヤ空気圧モニタリング・システムまたはタイヤ空気圧モニタリング構成部品が故障した場合
– タイヤ空気圧モニタリング・システム用のホイール・トランスミッターが取り付けられていない場合
– タイヤの設定を更新した直後の登録プロセス中
– ホイールを交換した後、設定を更新しなかった場合
– 4個以上のホイール・トランスミッターが検出された場合
– ワイヤレス・ヘッドホンなどの外部からの電波干渉を受けている場合
– タイヤの温度が高すぎる場合

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

スポーツ・クロノ・メニュー（ストップウォッチ）

ストップウォッチはレース・サーキットや業務上の走行時等の時間計測にご使用いただけます。ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)装備車では測定したラップ時間を保存したり、必要に応じて評価することができます。＊

▷ PCM取扱説明書＊の「スポーツ・ディスプレイ」の章を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ダッシュボードのストップウォッチ

ストップウォッチにはアナログ・ディスプレイとデジタル・ディスプレイがあります。
アナログ・ディスプレイの長針は秒を計測し、短針2本は時間と分を計測します。このディスプレイは12時間が経過するとゼロから再スタートします。
秒および1/10秒、1/100秒の単位はデジタル・ディスプレイで読み取ることができます。
デジタル・ディスプレイおよびマルチファンクション・ディスプレイは99時間と59分まで表示できます。

ストップウォッチ・ディスプレイの明るさを調節できます：

▷ 「インストルメント・ライト」(94ページ)を参照してください。

ストップウォッチ・タイミング・ディスプレイ

ストップウォッチの時間はダッシュボードの別の場所に表示されます：

– ダッシュボードのストップウォッチ
– マルチファンクション・ディスプレイの「**スポーツクロノ**」メニュー
– PCMの「CAR」メイン・メニュー＊

ストップウォッチの時刻の表示

マルチファンクション・ディスプレイでダッシュボードのストップウォッチが時刻を表示するように設定することができます。

ストップウォッチの時刻表示に関するインフォメーション：

▷ 「ダッシュボードのストップウォッチの時刻表示」(130ページ)を参照してください。

マルチファンクション・ディスプレイのスポーツ・クロノ

すべてのストップウォッチ・ディスプレイはマルチファンクション・ディスプレイの「**スポーツクロノ**」メニューから開始/停止できます。

マルチファンクション・ディスプレイの使用に関するインフォメーション：

▷ 「マルチファンクション・ディスプレイの操作」(108ページ)を参照してください。

1. メイン・メニュー：「**スポーツクロノ**」を選択し、決定してください。

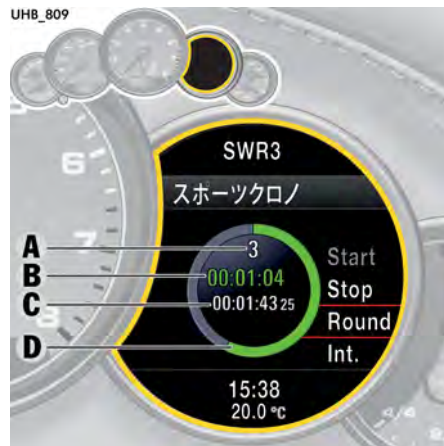
インフォメーション

ストップウォッチ作動中に「**スポーツクロノ**」メニューから抜けても、計測は続きます。

ストップウォッチはイグニッションをOFFにすると停止します。約4分以内にイグニッションを再度ONにすると、ストップウォッチは作動を再開します。

ストップウォッチをゼロにリセットするには、「**スポーツクロノ**」メニューの「**リセット**」を選択してください。

ストップウォッチのリセットに関するインフォメーション：

▷ 「時計のリセット」(125ページ)を参照してください。

A - 周回したラップ数
B - 現在のストップウォッチ時間
C - 基準タイム（最速ラップ）
D - サークル・ディスプレイ：現在のラップ・タイムと基準タイムの比較

計時の開始

1. メイン・メニュー：「**スポーツクロノ**」を選択してください。

2.「**Start（開始）**」を選択し、決定してください。

ストップウォッチ・タイム**B**は車両のすべてのストップウォッチ・ディスプレイに同時に表示されます。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ラップの停止/新しいラップの開始

現在のストップウォッチ・タイムをラップ・タイムとして保存できますが、ストップウォッチは停止しません。

1. メイン・メニュー：「**スポーツクロノ**」を選択してください。
2. 「**Round（周回）**」を選択し、決定してください。

ラップ・カウンターの値**A**が1ずつ増えます。
最速コンプリート・ラップのタイムが参照値**C**として一時的に保存されます。
ストップウォッチ・タイム**B**とサークル・ディスプレイ**D**の色が変更されることによって、現在のラップ・タイムが参照値より速いか、遅いか、または同一かを表します。
– 緑：現在のラップ・タイムが速い
– 黄：現在のラップ・タイムと同一
– 赤：現在のラップ・タイムが遅い

 インフォメーション

参照値がまだ保存されていない場合は、参照タイムの位置**C**は空白のままです。
セグメント・ディスプレイに色の変化はありません。

1回のセッションで最高63ラップを保存することができます。

中間ラップの保存

中間タイムを保存できますが、ストップウォッチは停止しません。

1. メイン・メニュー：「**スポーツクロノ**」を選択してください。
2. 「**Int.（中間）**」を選択し、決定してください。

中間タイムは、マルチファンクション・ディスプレイに表示されます。保存はされません。
時間測定はバックグランドで継続しています。

計時の停止

ストップウォッチはいつでも止めることができます。

1. メイン・メニュー：「**スポーツクロノ**」を選択してください。
2. 「**Stop（停止）**」を選択し、決定してください。

ストップウォッチ・タイム**B**が停止します。

計時の継続

ストップウォッチを停止後、再開することができます。

1. メイン・メニュー：「**スポーツクロノ**」>「**Stop（停止）**」を選択してください。
2. 「**Cont.（継続）**」を選択し、決定してください。

ストップウォッチ・タイム**B**が継続します。

時計のリセット

計時をゼロにリセットすることができます。

1. メイン・メニュー：「**スポーツクロノ**」>「**Stop（停止）**」を選択してください。
2. 「**Reset（リセット）**」を選択し、決定してください。

すべてのストップウォッチ・タイムをゼロにリセットすることができます。

制限速度表示メニュー＊

制限速度表示に関するインフォメーション：
▷ 「制限速度表示＊」（188ページ）を参照してください。

ACCメニュー

アダプティブ・クルーズ・コントロール/ACCに関するインフォメーション：
▷ 「アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)」（172ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

マルチファンクション・ディスプレイの車両設定機能

車両の装備仕様により、マルチファンクション・ディスプレイで様々な設定を変更できます。

コンフォート・メモリー装備車は、車両の設定を、そのとき使用しているキーや運転席ドアのメモリー・ボタンに保存することができます。

コンフォート・メモリーに関するインフォメーション：

▷「コンフォート・メモリー」（154ページ）を参照してください。

設定メニューの選択

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」を選択し、
 決定してください。

設定オプションの選択/車両機能の作動

各設定メニュー・オプションの項目名の前に付いているシンボル・マークは、その項目が選択されているかどうか、その機能が作動しているかどうかを示します。

複数のオプションから1つを選択してください

◉ 選択されたオプション
○ 選択されていないオプション

機能の作動/停止

☑ 機能が作動します
☐ 機能が停止します

工場出荷時の設定に戻す

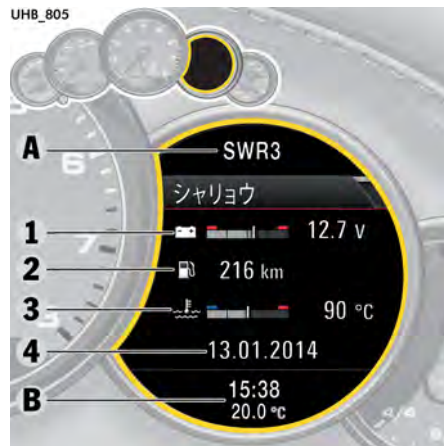
マルチファンクション・ディスプレイのすべての設定を工場出荷時の設定に戻すことができます：

インフォメーション

工場出荷時の設定に戻すと、それまでに設定したすべての個別設定が失われます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」

2.「**リセット**」
 を選択し、決定してください。

3.「**ハイ**」
 を選択し、決定してください。

マルチファンクション・ディスプレイの構成例
A - 上部ステータス・エリア（上段）
1-4 - 表示フィールド
B - 下部ステータス・エリア（下段）

マルチファンクション・ディスプレイの表示を変更する

マルチファンクション・ディスプレイに表示するメニュー項目や、表示方法を個別に設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ディスプレイ**」を選択し、
 決定してください。

上部のステータス・エリアの表示を変更する

マルチファンクション・ディスプレイ上部のステータス・エリア**A**には、様々な車両情報を表示させることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**セッテイ**」 ＞「**ディスプレイ**」
2.「**ジョウゲン**」 を選択し、決定してください。
3. 任意の表示項目を選択し、 決定してください。

選択できる表示項目の種類：
- 「**ソクド limit**」＊
- 「**ラジオ／キョク**（現在のラジオ放送局／トラック）」＊
- 「**Fuel Range**（残燃料での走行可能距離）」
- 「**コンパス**」＊
- 「**ターボ アツ**」(Cayenne S、Cayenne Turbo)
- 「**ブランク line**」
  上部のステータス・エリア**A**には何も表示しません。

インフォメーション

- 「**ソクド limit**」の表示項目も作動させることができます。例えば、「**ソクド limit**」と「**Fuel Range**」の表示項目が選択されている場合、適用できる制限速度がない場合やメイン・メニューの「**ソクド limit**」が選択されている場合に燃料残量での走行可能距離が表示されます。＊
- 上部のステータス・エリアには最大1つの交通標識が表示されます。交通標識の後ろに箇条書きがある場合、情報エリアに更に交通標識が表示されていることを示しています。＊

情報エリアの表示項目を変更する

「**シャリョウ**」メニューでは、様々な車両情報の中から4種類を選び出し、ディスプレイ**1**、**2**、**3**、**4**のエリアに割り当てることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**セッテイ**」 ＞「**ディスプレイ**」
2.「**シャリョウ**」 を選択し、決定してください。
3.「**フィールド1：**」または 「**フィールド2：**」または 「**フィールド3：**」または 「**フィールド4：**」 を選択し、決定してください。
4. 任意の表示項目を選択し、 決定してください。

選択できる表示項目の種類：
- 「**デンアツ**」
- 「**ターボ アツ**」(Cayenne S、Cayenne Turbo)
- 「**ユアツ**」
- 「**ユオン**」
- 「**スイオン**（冷却水温度）」
- 「**Fuel Range**（残燃料での走行可能距離）」
- 「**Int: Trip time**（中間目的地までの走行時間）」＊
- 「**Int: Arrival**（中間目的地への到着時刻）」＊
- 「**Dst: Trip time**（目的地までの走行時間）」＊
- 「**Dst: Arrival**（目的地への到着時刻）」＊
- 「**コンパス**（マルチファンクション・ディスプレイ上）」＊
- 「**ジョウショウ**（車両の海抜標高）」
- 「**ヒヅケ**」
- 「**ラジオ/キョク**（現在のラジオ放送局/トラック）」＊
- 「**デンワ info**（電波の強さ/ネットワーク名）」＊
- 「**ブランク line**（空白）」

インフォメーション

1つの情報を複数のディスプレイ・エリアに同時に割り当てたり、1つのエリア**と上部のステータス・エリア**に同時に表示することはできません。

下部のステータス・エリアの表示を変更する

マルチファンクション・ディスプレイの下部のステータス・エリア**B**に、現在時刻および外気温度を表示させることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**セッテイ**」 ＞「**ディスプレイ**」
2.「**カゲン**」 を選択し、決定してください。
3. 任意の表示項目を選択し、 決定してください。

選択できる表示項目の種類：
- 「**ジカン**」
- 「**オンド**」
- 「**ジカン/オンド**」

＊ 日本仕様に設定はありません。

メイン・メニューの表示項目を選択する

メイン・メニューの各項目を表示/非表示させることができます。

 インフォメーション

メニュー項目「**シャリョウ**」および「**ACC**」は非表示にできません。

---

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
  >「**ディスプレイ**」

2.「**メニュー ハンイ**」
 を選択し、決定してください。

3. 任意のメイン・メニュー項目を選択してください。

4. 選択を決定してください。
 ☑ メニュー項目が表示されます。
 ☐ メニュー項目が非表示になります。

マルチファンクション·ディスプレイにPCMインフォメーションを表示する＊

ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)に関連する様々な情報を、マルチファンクション·ディスプレイに一時的に表示させることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
  >「**ディスプレイ**」

2.「**PCMガメン**」
 を選択し、決定してください。

3. 任意のPCM情報を選択してください。

4. 選択を決定してください。
 ☑ 情報が表示されます。
 ☐ 情報は表示されません。

選択できるPCM情報：

– 「**コウサテン**（地図情報）」
 ナビゲーション情報を利用すると、ナビゲーション地図が自動的に表示されます。
– 「**メーター オフ**（矢印）」
 ナビゲーション情報を利用すると、進行方向を示す矢印が自動的に表示されます。
– 「**デンワ info**」
 着信/発信電話の情報が表示されます。
– 「**オンリョウ**」
 ボイス・コントロール・ボタンを押すとヘルプ・テキストが表示されます。
– 「**ソクド limit**」＊
 ナビゲーション地図に速度制限が表示されます。

 インフォメーション

制限速度表示装備車の場合、「**ソクド limit**」メニュー項目は表示されません。

制限速度表示に関するインフォメーション：

▷ 「制限速度表示＊」（188ページ）を参照してください。

オーディオ・メイン・メニューの表示項目を変更する＊

オーディオ・メイン・メニューでは、「現在受信できるすべてのラジオ放送局のリスト」または「登録しているすべてのラジオ放送局のリスト」のいずれかを表示できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
  >「**ディスプレイ**」

2.「**オーディオ**」
 を選択し、決定してください。

3. 任意の表示項目を選択し、
 決定してください。

選択できる表示項目の種類：

– 「**ラジオリスト**」
 現在受信可能な放送局のリスト
– 「**プリセット**」
 登録している放送局のリスト

現在受信できる放送局、登録している放送局のリストに関するインフォメーション：

▷ PCMまたはCDRの取扱説明書（別冊）を参照してください。＊

＊ 日本仕様に設定はありません。

ディスプレイの明るさを調節する

マルチファンクション・ディスプレイの明るさをお好みに調節することができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ディスプレイ**」
2. 「**アカルサ**」
 を選択し、決定してください。
3. 任意の明るさを選択し、
 決定してください。

シフトアップインジケーターの表示/非表示を切り替える

ティプトロニックSトランスミッションをマニュアル操作する場合、タコメーター内のデジタル・スピードメーターに、経済的な運転を促すためのシフトアップ・インジケーターを表示することができ、経済的な運転に適したシフト・アップのタイミングを知らせます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ディスプレイ**」
2. 「**シフトシジ**」
 を選択してください。
3. 選択を決定してください。
 ☑ シフトアップ・インジケーターが表示されます。
 ☐ シフトアップ・インジケーターは表示されません。

日付と時刻の設定

車内に表示される日時を個別に設定できます。

インフォメーション

ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)装備車は、GPS衛星からの信号を利用して日時を自動的に同期することができます。＊
衛星電波の受信状態により、いくつかの設定オプションが一時的に利用できないことがあります。

---

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ヒヅケ/ジカン**」
 を選択し、決定してください。

時刻の設定

「**ジカン**」メニューでは、時刻、時刻の表示モード、タイム・ゾーンを設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ヒヅケ/ジカン**」
 >「**ジカン**」
 を選択し、決定してください。

現在時刻の設定

「時」と「分」をそれぞれ設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ヒヅケ/ジカン**」
 >「**ジカン**」
2. 「**ジ/フン**」
 を選択し、決定してください。
3. 任意の時間を設定し、
 決定してください。

タイム・ゾーンの設定

タイム・ゾーンを個別に設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ヒヅケ/ジカン**」
 >「**ジカン**」
2. 「**チク**」
 を選択し、決定してください。
3. 任意のタイム・ゾーンを選択し、
 決定してください。

時刻表示の設定

時刻は12時間表示/24時間表示を切り替えることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ヒヅケ/ジカン**」
 >「**ジカン**」
2. 「**Format**（フォーマット）」
 を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、
 決定してください。

選択できる設定オプション：
– 「**12h（12時間表示）**」
– 「**24h（24時間表示）**」

＊ 日本仕様に設定はありません。

GPS時刻の表示＊

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
>「**セッテイ**」
>「**ヒヅケ/ジカン**」
>「**ジカン**」

2.「**GPSタイム**」
を選択し、決定してください。

3. 選択を決定してください。
☑ 時刻をGPSと同期します。
☐ 時刻をGPSと同期しません。

 インフォメーション

GPS時刻に設定した場合、日時を手動で設定することはできません。

日付の設定

「**ヒヅケ**」メニューでは、日付、日付の表示モードを設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
>「**セッテイ**」
>「**ヒヅケ/ジカン**」
>「**ヒヅケ**」
を選択し、決定してください。

日付表示の設定

日付の表示方法を切り替えることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
>「**セッテイ**」
>「**ヒヅケ/ジカン**」
>「**ヒヅケ**」

2.「**Format**（フォーマット）」
を選択し、決定してください。

3. 任意の設定を選択し、
決定してください。

選択できる設定オプション：
– 「**DD.MM.YYYY（日.月.西暦年）**」
– 「**MM/DD/YYYY（月/日/西暦年）**」
– 「**YYYY/MM/DD（西暦年/月/日）**」

現在の日付の設定

ナビゲーション非装備車では、「日」、「月」、「西暦年」をそれぞれ設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
>「**セッテイ**」
>「**ヒヅケ/ジカン**」
>「**ヒヅケ**」
を選択し、決定してください。

2.「**ヒヅケ**」を選択してください。

3. 任意の日付を設定し、
決定してください。

サマー・タイムの設定

サマー・タイムに合わせて時計の表示時刻を変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
>「**セッテイ**」
>「**ヒヅケ/ジカン**」

2.「**サマー タイム**」を選択してください。

3. 選択を決定してください。
☑ サマー・タイムが有効になります。
☐ サマー・タイムが無効になります。

ダッシュボードのストップウォッチの時刻表示

ダッシュボードのストップウォッチに時刻を表示させる設定をすることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
>「**セッテイ**」
>「**ヒヅケ/ジカン**」

2.「**ジカン–クロノ**」を選択してください。

3. 選択を決定してください。
☑ 時刻が表示されます。
☐ 時刻は表示されません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ダッシュボードのコンパスの時刻表示＊

ダッシュボードのコンパスに時刻を表示させる設定をすることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ヒヅケ/ジカン**」
2. 「**タイム – Comp**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。
   ☑ 時刻が表示されます。
   ☐ 時刻は表示されません。

アシスタンス・システム

ポルシェ・アクティブ・セーフ(PAS)

ポルシェ「**Active Safe（アクティブ・セーフ）**」機能は全体または部分的に無効にできます。

設定はイグニッションのON/OFFを切り替えても保存され続けます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**Assist. Systems（アシスタンス・システム）**」
   >「**Active Safe (PAS)**」
   を選択し、決定してください。

システムON

すべてのポルシェ「**Active Safe（アクティブ・セーフ）**」機能は有効/無効にできます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**Assist. systems（アシスタンス・システム）**」
   >「**Active Safe (PAS)**」
2. 「**システム オン**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。
   ☑ アクティブ・セーフがONになります。
   ☐ アクティブ・セーフがOFFになります。

すべてのポルシェ「**Active Safe（アクティブ・セーフ）**」機能をOFFにすると、マルチファンクション・ディスプレイの下方にグレーのシンボルが表示されます。

ポルシェ「**Active Safe（アクティブ・セーフ）**」に関するインフォメーション：

▷ 「アクティブ・セーフティー – ポルシェ「アクティブ・セーフ」」（181ページ）を参照してください。

予期警告作動

潜在的または予期警告機能は初期設定ではOFFになっています。緊急警告機能は作動状態になっています。

潜在的および予期警告機能は「**Prewarning on（予期警告作動）**」から作動させます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**Assist. systems（アシスタンス・システム）**」
   >「**Active Safe (PAS)**」
2. 「**Prewarning on（予期警告ON）**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。
   ☑ 予期警告がONになります。
   ☐ 予期警告がOFFになります。

＊ 日本仕様に設定はありません。

レーン・チェンジ・アシスト(LCA)

ドア・ミラーの警告インジケーター（インフォメーションおよび警告）は周囲の明るさによって自動的に調節されます。

ドア・ミラーの警告表示の明るさを調節する

基本的な明るさを調節できます。

1. メイン・メニュー：「シャリョウ」
   >「セッテイ」
   >「**Assist. systems（アシスタンス・システム）**」
   >「**LCA**」
2. 「**アカルサ**」
   を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、決定してください。

選択できる設定オプション：

- 「**Dark（暗い）**」
- 「**Medium（中間）**」
- 「**Bright（明るい）**」

設定作業中に新しく設定する明るさが短時間表示されます。これはインフォメーション・ステージで表示される明るさのレベルです。警告ステージの明るさはインフォメーション・ステージの明るさに基づきます。

▷ インフォメーション・ステージの明るさは、ドア・ミラーを見た際に警告インジケーターの点灯がはっきりと確認でき、フロント・ウィンドウを通してまっすぐ前を見ているときはこの点灯が確認できないように設定してください。

レーン・チェンジ・アシストのインフォメーション/警告ステージに関するインフォメーション：

▷ 「インフォメーションおよび警告ステージ」（184ページ）を参照してください。

トレーラーけん引中の制限速度表示＊

「**トレーラモード**」機能を使用すると、トレーラーけん引用の制限速度を表示できます。

1. メイン・メニュー：「シャリョウ」
   >「セッテイ」
   >「**Assist. systems（アシスタンス・システム）**」
   >「**Speed Limit Info（制限速度情報）**」
2. 「**トレーラモード**」
   を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、
   決定してください。

選択できる設定オプション：

- 「**オート**」
  トレーラーを検出すると（トレーラー・ヒッチおよびトレーラー・コネクター接続状態）、トレーラーけん引用の制限速度が自動的に表示されます。
- 「**スイッチ オフ**」
  トレーラーをけん引していない場合の制限速度が表示されます。この設定は、バイク・ラックなどを装着した車両に使用できます。

⚠ 警告 集中力の低下

ドライバーは、制限速度表示に関係なく、適切な速度で走行するなど、トレーラーけん引時の安全運転に努めてください。このシステムは、あくまでも補助的な機能のため運転時には細心の注意を払ってください。
制限速度表示には、車両が制限速度を超過した場合の警告機能はありません。設定した制限速度に車両の速度を調整する機能でもありません。

▷ 十分注意して運転してください。
▷ 走行中の道路標識に常に注意を払ってください。
▷ 交通状況に応じた速度で運転してください。
▷ 交通状況と車両周囲には常に注意を払ってください。
▷ トレーラーをけん引する場合、「**オート**」が選択されていることを確認してください。

インフォメーション

- トレーラーをけん引している車両の最高制限速度は80km/hです。
- ポルシェ以外のサプライヤーのトレーラー・ヒッチを後付けした車両では、トレーラーまたはキャンピング・カーけん引用の制限速度は表示できません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

車線逸脱警告システム

警告音が鳴るタイミングおよび音量は、マルチファンクション・ディスプレイで個別に調節できます。

警告タイミングの設定

気づかないうちに車線を逸脱していることをドライバーに警告するタイミングを調整することができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**Assist. systems（アシスタンス・システム）**」
 >「**Lane Dep.Warn.（車線逸脱警告）**」
2. 「**Warning time（警告タイミング）**」
 を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、
 決定してください。

選択できる設定オプション：
– 「**Late（遅い）**」
– 「**Middle（標準）**」
– 「**Early（早い）**」

警告音量の設定

気づかないうちに車線を逸脱しているときの警告音量を調整することができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**Assist. systems（アシスタンス・システム）**」
 >「**Lane Dep.Warn.（車線逸脱警告）**」
2. 「**ケイコクオン**」
 を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、
 決定してください。

選択できる設定オプション：
– 「**オオキイ**」
– 「**ヒョウジュン**」
– 「**チイサイ**」

ライト/視界の設定

エクステリア・ライト、インテリア・ライト、リバース（後退）ギヤ選択時の運転支援機能などを個別に設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ライト/シカイ**」
 を選択し、決定してください。

エクステリア・ライトの設定

「**ガイブ ライト**」メニューでは、ダイナミック・ハイ・ビーム、ウェルカム・ホーム/エントリー機能の遅延消灯モードなど、車両に装備されているエクステリア・ライトの機能を変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ライト/シカイ**」
 >「**ガイブ ライト**」
 を選択し、決定してください。

ウェルカム・ホーム/エントリー機能（遅延消灯）の設定

ウェルカム・ホーム/エントリー機能の遅延消灯モードを設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
 >「**セッテイ**」
 >「**ライト/シカイ**」
 >「**ガイブ ライト**」
2. 「**チエン**」
 を選択し、決定してください。
3. 任意の遅延消灯を設定し、
 決定してください。

右側/左側通行でヘッドライトを切り替える（ポルシェ・ダイナミック・ライト・システム）

ポルシェ・ダイナミック・ライト・システム装備車では、右側/左側通行でヘッドライトを切り替えることができます。

インフォメーション

停車中のみ、ヘッドライトの右側/左側通行の切り替えができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ライト/シカイ**」
   >「**ガイブ ライト**」
2. 「**L/R ドライブ**」
   を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、
   決定してください。

選択できる設定オプション：

– 「**ヒョウジュン**」
  ヘッドライトが右側通行の位置になります（左ハンドル車）。
– 「**ハンテン**」
  ヘッドライトが左側通行の位置になります（左ハンドル車）。

インフォメーション

ヘッドライトの位置を「**ハンテン**」にすると、イグニッションをONまたはヘッドライトを点灯したときに毎回、マルチファンクション・ディスプレイに「**LHD/RHD ヘッドライト テキオウ**」のメッセージが表示されます。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

ダイナミック・ハイ・ビームの作動/停止

ダイナミック・ハイ・ビーム・コントロールの作動/停止が切り替えられます。設定はイグニッションのON/OFFを切り替えても保存され続けます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ライト/シカイ**」
   >「**ガイブ ライト**」
2. 「**Dyn. High Beam（ダイナミック・ハイ・ビーム）**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。
   ☑ ダイナミック・ハイ・ビームが作動します。
   ☐ ダイナミック・ハイ・ビームが停止します。

インテリア・ライトの設定

「**ナイブ ライト**」メニューでは、車両に装備しているインテリア・ライトの機能を変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ライト/シカイ**」
   >「**ナイブ ライト**」
   を選択し、決定してください。

オリエンテーション・ライトの明るさを調節する

オリエンテーション・ライトの明るさを個別に調節できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ライト/シカイ**」
   >「**ナイブ ライト**」
2. 「**ジョウコウ**」
   を選択し、決定してください。
3. 任意の明るさを選択し、
   決定してください。

インテリア・ライトの遅延消灯モードを設定する

車両のドアを閉じた後の車内照明の遅延消灯モードを個別に設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ライト/シカイ**」
   >「**ナイブ ライト**」
2. 「**チエン**」
   を選択し、決定してください。
3. 任意の遅延消灯を設定し、
   決定してください。

リバース（後退）ギヤ選択時のリヤ・ワイパーの作動設定

雨天時にリバース（後退）ギヤを選択したとき、リヤ・ワイパーを自動的に作動させるかどうかを設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ライト/シカイ**」
   >「**ワイパー**」
2. 「**リヤ ワイパー**」
   を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、
   決定してください。

選択できる設定オプション：

– 「**オート**」
  リバース（後退）ギヤを選択したとき、
  リヤ・ワイパーが自動的に作動します。
– 「**マニュアル**」
  リバース（後退）ギヤを選択しても、リヤ・ワイパーは自動的に作動しません。

駐車時に助手席ドア・ミラーを下向きにする

運転席メモリーまたはコンフォート・メモリー装備車は、助手席側の車両後方下部にある障害物を視認しやすくするため、リバース（後退）ギヤを選択したときに、助手席ドア・ミラーを自動で下向きに切り替えることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ライト/シカイ**」
   >「**Rev. オプション**」を選択し、
   決定してください。
2. 「**ロワ ミラー**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。

ドア・ミラーが下向きになります。
ドア・ミラーは下向きになりません。

ロックの設定

車両のロック/ロック解除の設定を変更できます。イージー・エントリー機能をON/OFFすることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ロック**」
   を選択し、決定してください。

ドアのロック解除機能の設定

車両のロックを解除したときに、ロックが解除されるドアを特定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ロック**」
2. 「**ドア アンロック**」
   を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、
   決定してください。

選択できる設定オプション：

– 「**スベテノドア**」
  車両のロックを解除すると、すべてのドアとリヤ・リッドのロックが解除されます。
– 「**ウンテンセキ**」
  車両のロックを解除すると、運転席ドアとリヤ・リッドのロックが解除されます。

ドアのロック機能の設定

乗車した後の自動ロック機能を選択できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**セッテイ**」 ＞「**ロック**」
2.「**ドア ロック**」 を選択し、決定してください。
3. 任意の設定を選択し、 決定してください。

選択できる設定オプション：

– 「**オフ**」
乗車後にドアは自動でロックされません。
– 「**IGオンノアト**」
イグニッションをONにすると、ドアが自動的にロックされます。
– 「**ハッシン ゴ**」
車両を発進させると、ドアが自動的にロックされます。

イージー・エントリーのON/OFF

運転者の乗降性を高めるため、運転席シートとステアリング・ホイールを自動的に遠ざけることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**セッテイ**」 ＞「**ロック**」
2.「**E. エントリー**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。 ☑ イージー・エントリーが作動します。 ☐ イージー・エントリーは作動しません。

オート・メモリーのON/OFF

車両をロックしたとき、パーソナル設定を自動的に車両キーに保存するかどうかを設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**セッテイ**」 ＞「**ロック**」
2.「**オートメモリ**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。 ☑ オート・メモリーが作動します。 ☐ オート・メモリーは作動しません。

パーソナル設定の保存および呼び出しに関するインフォメーション：

▷「パーソナル設定の保存」（154ページ）を参照してください。

エアコン設定

オートマチック・エアコン・システムの設定を個別に変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**セッテイ**」 ＞「**クライメート**」 を選択し、決定してください。

風量調節

送風の強さと送風量を調節できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 ＞「**セッテイ**」 ＞「**クライメート**」
2.「**エアフロー**」を選択し、 決定してください。
3. 任意の設定を選択し、 決定してください。

選択できる設定オプション：

– 「**ソフト（弱い）**」
エア・ベントからの送風が和らぎます。
空気の流れに敏感な乗員に適しています。
– 「**ノーマル（標準）**」
標準の設定です。
– 「**ストロング（強い）**」
室内への送風が強くなります。風の流れをはっきりと感じられるようになります。

間接ベンチレーション・パネルのON/OFF

ダッシュボード上にある間接ベンチレーション・パネルは、ON/OFFを切り替えることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**クライメート**」
2. 「**ベント パネル**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。
   ☑ ベンチレーション・パネルが作動します。
   ☐ ベンチレーション・パネルは作動しません。

内気循環モードのON/OFF

外気の汚れ具合に応じて、外気導入と内気循環を自動的に切り替えることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**クライメート**」
2. 「**ナイキ ジドウ**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。
   ☑ 自動内気循環モードが作動します。
   ☐ 自動内気循環モードは作動しません。

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのボタンの割り当て変更＊

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールの**MFS**ボタンの割り当てを個別に変更できます。
マルチファンクション・ディスプレイ、またはPCM/CDRの機能を、**MFS**ボタンに割り当てることができます。＊

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ステアリング**」
2. 「**マルチ キー**」
   を選択し、決定してください。
3. 「**PCM キノウ＊**」または
   「**Cluster function（クラスター機能）**」または
   「**Vehicle function（車両機能）**」を選択し、決定してください。
4. 任意の機能割り当てを選択し、
   決定してください。

選択できるPCM機能：＊
- 「**ソース**」
  オーディオ・ソースを切り替えます。
- 「**オンリョウ**」
  ボイス・コントロールが作動します。
- 「**リピート**」
  ナビゲーションの音声案内を繰り返します。
- 「**Station/track（放送局/トラック）<**」
  前の放送局/オーディオ・トラック
- 「**Station/track（放送局/トラック）>**」
  次の放送局/オーディオ・トラック
- 「**マップ**」
  PCMにナビゲーション地図を表示します。
- 「**Menu change（メニュー変更）**」
  メイン・メニュー・エリアを変更します。
- 「**Surround View（サラウンド・ビュー）**」
  PCMのサラウンド・ビューのON/OFFを切り替えます。

利用できるインストルメント・パネルの機能：
- 「**Start/Stop Chr.（スタート/ストップ クロノ）**」
  Start/stop タイミング
- 「**Vehicle menu（車両メニュー）**」
  車両メニューを表示します。
- 「**Trip menu（トリップ・メニュー）**」
  トリップ・メニューを表示します。
- 「**TPM menu（TPMメニュー）**」
  TPMメニューを表示します。
- 「**Chrono menu（クロノ・メニュー）**」
  スポーツ・クロノ・メニューを表示します。
- 「**ACC menu（ACCメニュー）**」
  ACCメニューを表示します。
- 「**Audio menu（オーディオ・メニュー）＊**」
  オーディオ・メニューを表示します。
- 「**Phone menu（電話メニュー）＊**」
  電話メニューを表示します。
- 「**Navi menu（ナビゲーション・メニュー）＊**」
  ナビゲーション・メニューを表示します。
- 「**Map menu（マップ・メニュー）＊**」
  マルチファンクション・ディスプレイにナビゲーション地図を表示します。
- 「**ソクド limit＊**」
  マルチファンクション・ディスプレイに交通標識を表示します。

利用できる車両機能：
- 「**Start/Stop（スタート–ストップ）**」
  オート・スタート/ストップ機能のON/OFFを切り替えます。
- 「**Lane Dep.Warn.（車線逸脱警告）**」
  車線逸脱警告システムのON/OFFを切り替えます。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ダッシュボードのコンパス･ディスプレイをOFFにする＊

ダッシュボード上にあるコンパス･ディスプレイは、ON/OFFを切り替えることができます。

コンパス･ディスプレイに関するインフォメーション：

▷「ダッシュボードのコンパス＊」(108ページ)を参照してください。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**コンパス**」
2. 「**ヒョウジ ナシ**」を選択してください。
3. 選択を決定してください。
   ☑ コンパス・ディスプレイがOFFになります。
   ☐ コンパス・ディスプレイがONになります。

警告/インフォメーション音量を設定する

警告/パーキング･アシスタント･インフォメーション音量を変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**オンリョウ**」
   を選択し、決定してください。

パーキング･アシスタントの警告音量を設定する

パーキング・アシスタント・インフォメーションのボリュームを変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**オンリョウ**」
2. 「**パークアシスト**」を選択してください。
3. 任意の設定を選択し、決定してください。

選択できる設定オプション：
- 「**オオキイ**」
- 「**ヒョウジュン**」
- 「**チイサイ**」

警告音量を設定する

警告音のボリュームを個別に変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**オンリョウ**」
2. 「**ケイコクオン**」を選択してください。
3. 任意の設定を選択し、決定してください。

選択できる設定オプション：
- 「**オオキイ**」
- 「**ヒョウジュン**」
- 「**チイサイ**」

単位の設定

インストルメント・パネルのデジタル・スピード・メーター、コンパス、エアコン・ディスプレイの温度計、マルチファンクション･ディスプレイのタイヤ空気圧表示など、車両の測定単位を設定できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ユニット**」
   を選択し、決定してください。

スピードメーターおよびコンパスの単位設定

スピードメーターのスピードおよび距離情報、コンパス表示の単位を変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
   >「**セッテイ**」
   >「**ユニット**」
2. 「**スピードメータ**」を選択してください。
3. 任意の設定を選択し、決定してください。

選択できる設定オプション：
- 「**km / km/h**」
- 「**Miles / mph**」

＊ 日本仕様に設定はありません。

温度計の単位の設定

温度計の測定単位を変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
　>「**セッテイ**」
　　>「**ユニット**」

2.「**オンド**」を選択してください。

3. 任意の設定を選択し、
決定してください。

選択できる設定オプション：
– 「**°C（摂氏）**」
– 「**°F（華氏）**」

タイヤ空気圧モニタリング・システムの表示単位の設定

タイヤ空気圧モニタリング・ディスプレイの測定単位を変更できます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
　>「**セッテイ**」
　　>「**ユニット**」

2.「**クウキアツ**」を選択してください。

3. 任意の設定を選択し、
決定してください。

選択できる設定オプション：
– 「**bar**」
– 「**psi**」

ブースト圧計（過給圧計）の単位の設定

Cayenne SおよびCayenne Turboではブースト圧計（過給圧計）の単位を設定することができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
　>「**セッテイ**」
　　>「**ユニット**」

2.「**ターボ アツ**」を選択してください。

3. 任意の設定を選択し、
決定してください。

選択できる設定オプション：
– 「**bar**」
– 「**psi**」

平均燃費の表示単位の設定

平均燃費の表示単位の設定ができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
　>「**セッテイ**」
　　>「**ユニット**」

2.「**ネンピ**」を選択してください。

3. 任意の設定を選択し、
決定してください。

選択できる設定オプション：
– 「**l/100km**」
– 「**mpg (US)**」
– 「**mpg (UK)**」
– 「**km/l**」

言語設定

マルチファンクション・ディスプレイに表示するテキストの言語を切り替えることができます。

1. メイン・メニュー：「**シャリョウ**」
　>「**セッテイ**」
　　>「**ゲンゴ**」

2. 希望の言語を選択し、
決定してください。

ポルシェ・カー・コネクトの設定＊

お客様の車両とポルシェ・カー・コネクト・アプリ間の通信を無効にすることができます。

1.	メイン・メニュー：「**シャリョウ**」 >「**セッテイ**」 >「**カーコネクト**」
2.	「**プライバシー**」を選択してください。
3.	選択を決定してください。 ☑ 通信が無効になります。 ☐ 通信が有効になります。

「**プライバシー**」機能を作動すると、車両とアプリ間の通信が無効になります。車両固有の情報がポルシェ・カー・コネクト・アプリに送信されません。このアプリを使用した車両設定は実施できません。

契約が有効でない場合、「**プライバシー**」機能は使用できません。

ポルシェ・カー・コネクト・アプリに関するインフォメーション：

▷ 「ポルシェ・カー・コネクト＊」（195ページ）を参照してください。

▷ 更に詳しい情報はwww.porsche.com/connectまたはポルシェ正規販売店から入手できます。

 インフォメーション

– 「**プライバシー**」機能を作動していても、故障時、緊急電話をかけたとき、または盗難に遭遇したときなどに車両位置に関する情報が送信可能になります。
  ポルシェ・カー・コネクト・アプリ機能に関する更に詳しい情報はwww.porsche.com/connectまたはポルシェ正規販売店から入手できます

– 次に購入されるお客様に「**プライバシー**」機能を作動することが可能であることについて説明してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

警告と情報メッセージの概要

警告メッセージが表示されたときは、本書の該当する説明を必ず読んでください。
すべての作動条件が満たされた場合のみ、警告メッセージが表示されます。
このため、すべてのフルード・レベルを定期的に点検してください。特にエンジン・オイル・レベルは、給油の前に毎回点検してください。

警告と情報メッセージの分類

赤色 **システムの故障または警告**

▷ 直ちにポルシェ正規販売店で点検を受けてください(*)。

黄色 **作動の不具合、またはシステム故障を知らせる警告**

▷ 次の機会にポルシェ正規販売店で点検を受けてください(*)。

白色 **インフォメーション/メッセージ**

▷ 次の機会にポルシェ正規販売店で点検を受けてください(*)。または、お客様ご自身で対処してください。

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	ユアツ ヒクスギ アンゼンニ テイシャスル	直ちに安全な場所に停車してエンジンをOFFにしてください。運転を続けないでください。 マルチファンクション・ディスプレイ上で「**オイル レベル**」を選択してください。必要に応じてエンジン・オイルを補充してください。 オイル・レベルが適正でも警告灯が点灯するときは、運転を続けないでください。ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	ユアツソクテイ コショウ ウンテンカノウ ハンバイテンヘ	油圧を自動的に測定することができません。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	オイルオンド タカスギ フカヲサゲル	油温が高すぎます。エンジンをOFFにして冷やしてください。 エンジン・オイル・レベルを点検してください。必要に応じてエンジン・オイルを補充してください。
	オイルオンド ヒョウジコショウ ウンテンカノウ ハンバイテンヘ	油温を自動的に測定することができません。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	オイルレベル ソクテイコショウ ハンバイテンヘ ウンテンカノウ	オイル・レベルを自動的に測定することができません。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	オイルレベル カゲンニトウタツ オイルホジュウ	早急にエンジン・オイルを補充してください。
	オイルカゲンイカ タダチニホジュウ ウンテンフカ	早急にエンジン・オイルを補充してください。

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	オイルレベル ジョウゲン ハンバイテンヘ ウンテンカノウ	次の機会にポルシェ正規販売店でオイル・レベルを適正値に調整してください。*
	エンジンコウオン レイキャクノタメ テイシャスル	クーラント温度または油温が高すぎます。エンジンをOFFにして冷やしてください。 クーラントまたはエンジン・オイルのレベルを点検してください。 クーラントまたはエンジン・オイルを、必要に応じて補充してください。
水温計の警告灯が点滅	クーラント タダチニホジュウ ウンテンフカ	エンジンをOFFにして冷やしてください。 クーラント・レベルを点検してください。必要に応じてクーラントを補充してください。
水温計の警告灯が点滅	クーラントオンド ヒョウジコショウ ウンテンカノウ ハンバイテンヘ	水温を自動的に測定することができません。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	レイキャク フラップコショウ フカヲサゲル ハンバイテンヘ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	オルタネーター コショウ テイシャスル	安全な場所に停車してエンジンをOFFにしてください。運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	ブーストアツ ヒョウジコショウ シュウリヒツヨウ	ブースト圧計（過給圧計）に不具合があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	エンジンパワー テイカ ウンテンカノウ ハンバイテンヘ	ポルシェ正規販売店にご相談ください。*
	エンジンセイギョ コショウ ハンバイテンヘ ウンテンカノウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	バッテリデンアツ テイカ デンソウヒン ショウフカ	バッテリーの放電を防ぐため、様々なコンフォート機能への電源供給が停止されます。
	バッテリーホゴハ チュウシャ チュウ サドウシマス	バッテリーの放電を防ぐため、駐車中は様々な機能への電源供給が停止されます。
	スタート/ストップ シヨウ フカ	スタート/ストップ機能が利用できません。

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	イグニッション OFFニスル	バッテリー上がりを防ぐため、エンジンが自動的に停止した後、車両から離れるときはイグニッションをOFFにしてください。
	スタータ マニュアル	イグニッションを使用して、手動でエンジンを始動してください。
	T/Mコショウ アンゼンニ テイシャスル	直ちに適切な場所に停車してください。運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	T/Mコショウ Rギヤフカ ウンテンカノウ	スムーズな変速ができなくなります。 早急にポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	T/Mオンド タカスギ フカヲサゲル	トランスミッションの温度が高すぎます。エンジン・トルクが制限されます。例えば坂道では、アクセル・ペダルの操作で車両を静止させないでください。停車中はブレーキ・ペダルを踏んでください。エンジンにかかる負荷を小さくしてください。可能であれば安全な場所に停車してください。警告が消えるまでセレクター・レバーをPまたはN位置にしてエンジンをアイドリングさせてください。
	シフトレバーヲ Pポジションヘ ソウサ	ティプトロニックSトランスミッション：イグニッション・ロックからキーを抜き取る前にセレクター・レバーをPの位置にしてください。 危険：セレクター・レバーをPの位置にしなかった場合、車両が不意に動き出す危険があります。
	ギヤ レバーヲ P マタハ N ソウサ	ティプトロニックSトランスミッション： セレクター・レバーがPまたはNの位置にあるときのみ車両を始動することができます。
	ブレーキペダルヲ ソウサ	ティプトロニックSトランスミッション： 始動時はフットブレーキを踏んでください。
	テンケン ディーゼルフィルター シュウリヒツヨウ	ディーゼル・パティキュレート・フィルターがすすでいっぱいです。フィルターを自動清掃するためのドライビング・スタイルで運転してください。約15分間、60km/h以上の速度と2,000rpm以上のエンジン回転数を維持して走行してください。法定速度を遵守してください。＊警告メッセージが消えない場合、ポルシェ正規販売店で修理してください。*
	エンジン シドウ	このメッセージは、ディーゼル・エンジン車の始動時に外気温やエンジン温度に応じて、グロー・プラグ予熱フェーズ中に表示されます。エンジンが始動すると、メッセージは消えます。＊
	ブレーキフルード レベル アンゼンニ テイシャスル	直ちに適切な場所に停車してください。運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	ブレーキリョク ハイブンコショウ アンゼンニ テイシャスル	直ちに適切な場所に停車してください。運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	ABS/PSM コショウ ウンテンカノウ ソクドチュウイ	状況に応じた走行スタイルと速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*

＊ 日本仕様に設定はありません。

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	マモウゲンド ブレーキパッド ウンテンカノウ	直ちにポルシェ正規販売店でブレーキ・パッドを交換してください。 ポルシェ正規販売店にご相談ください。*
点滅	パーキング ブレーキカイジョ	エレクトリック・パーキング・ブレーキのスイッチを引いてください。
	ブレーキペダルヲ ソウサ	エレクトリック・パーキング・ブレーキを解除するときは、ブレーキ・ペダルを踏んでください。
	パーキング ブレーキコショウ ウンテンカノウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
点滅	キンキュウブレーキ	エレクトリック・パーキング・ブレーキの緊急ブレーキ機能が作動しています。
	パーキングブレーキ サービス モード	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	PSM コショウ ハンバイテンヘ ウンテンカノウ ソクドチュウイ	状況に応じた走行スタイルと速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
OFF	PSM オフ	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがOFFになっています。
	PSM オン	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがONになっています。
	PASMコショウ PSMオン ウンテンカノウ ソクドチュウイ	状況に応じた走行スタイルと速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	PDCC コショウ PSMオン ウンテンカノウ ソクドチュウイ	状況に応じた走行スタイルと速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	PSM シンダンチュウ	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントが診断モードです。
	ロールモード サドウ	ロール・モードがONになっています。

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	4WDコショウ PSMオン ウンテンカノウ ソクドチュウイ	ポルシェ・トラクション・マネージメントの負荷が過大です。負荷を小さくしてください。 状況に応じた走行スタイルと速度で運転してください。 故障が継続する場合、ポルシェ正規販売店で修理してください。＊
	ソクド サゲル	オフロード・ドライビング・プログラムは30km/h以下の速度で使用できます。速度を落としてください。
	オンドゲンカイ 4WDシステム フカヲサゲル	ポルシェ・トラクション・マネージメントの負荷が過大です。負荷を小さくしてください。
	4WDシステム カフカ コウリンノミクドウ フカヲサゲル	ポルシェ・トラクション・マネージメントの負荷が過大です。負荷を小さくしてください。
	4WDシステム コショウ ウンテンカノウ ソクドチュウイ	状況に応じた走行スタイルと速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
	センターデフ ロックオン/ ロックオフ	センター・ディファレンシャル・ロックのON/OFF
	リア ディファレンシャル ロックオン/ロックオフ	リヤ・ディファレンシャル・ロックのON/OFF
	リヤデフロック コショウ ウンテンカノウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
	Sportムコウ オフロード キノウ サドウ	スポーツ・モードを作動させるため、オンロード・ドライビング・プログラムを作動させてください。
	スポーツモード シヨウフカ	スポーツ・モードが一時的に使用できません。
	パフォーマンス スタートサドウ	パフォーマンス・スタートが作動しています。 最大加速での発進が実行されます。
燃料計の警告灯が点灯	ソウコウカノウ キョリ チュウイ	最寄りの給油所で給油してください。
	ネンリョウケイ コショウ シュウリヒツヨウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	ネンリョウタンク キャップテンケン	燃料給油口のキャップを正しく取り付け、確実に閉じてください。
	ウォッシャーエキ ホジュウ	ウォッシャー液を補充してください。
	シートベルトヲ シテクダサイ	車両に乗車したら、安全のため、すべての乗員がシートベルトを着用してください。
	エアバッグ ケイコクコショウ シュウリヒツヨウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	コショウ ドアハサミコミ ボウシキノウ	リヤ・ドア用チャイルド・ロックが故障しています。チャイルド・ロックをOFFにしてから再度ONにしてください。 故障が継続する場合、ポルシェ正規販売店で修理してください。*
	ステアリング ロック カイジョ	ステアリング・ホイールを左右に回して、ステアリング・ロックを解除してください。
	コショウ ステアリング ロック	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	ステアリング フルード ホジュウ ウンテンカノウ	PDCC装備車：パワー・ステアリング・フルード・レベルが低すぎます。 ポルシェ正規販売店にご相談ください。*
	IGNキー ヌキトル	キーを抜き取ってください。
	ラゲッジルームカラ キーヲ トリダシマス	キーをラゲッジ・コンパートメントから取り外してください。
	キーケンチフカ/ショウガイ キーノイチヲ ヘンコウスル	キーを携行していることを確認してください。
	イグニッション キーノ デンチヲ コウカン	キーの電池を交換してください。
	Panel: turn left, remove, insert ign. key（スイッチ部：左へ回し、取り外し、キーを差し込む）	キーが車両内で認識されない場合、イグニッションをONにすることができません。またエンジンを始動することもできません。コントロール・ユニットをイグニッション・ロック位置**0**に回して、イグニッション・ロックから取り外してください。 キー（エマージェンシー・キー以外）でイグニッションをONにしてください。
	シャーシ システムコショウ ウンテンカノウ ソクドチュウイ	状況に応じた走行スタイルと速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	シャーシ システムコショウ アンゼンニ テイシャスル	直ちに適切な場所に停車してください。運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	シャリョウリヤ サゲテイマス	車両の後部を下げています。
	シャリョウリヤ サゲラレマセン	車両の後部を下げることができません。すべてのドアを閉じ、リヤ・リッドを開いてください。
	シャーシ システムコショウ ウンテンカノウ ソクドチュウイ	状況に応じた走行スタイルと速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	タイヤ テンケン	タイヤ空気圧モニタリング・システムが空気圧の低下を検出しました。160km/h以下で走行中は空気圧が少なくとも0.5bar不足しており、160km/h以上で走行中は空気圧が少なくとも0.4bar不足しています。安全な場所に停車し、タイヤの損傷を点検してください。必要に応じてパンク修理剤で応急処置を行い、タイヤ空気圧を適正値に調整してください。または、タイヤを交換してください。
	エア ホジュウ	タイヤ空気圧モニタリング・システムが少なくとも0.3bar の空気圧の低下を検出しました。 次の機会にタイヤ空気圧を調整してください。
	No monitoring System learning above 25km/h (モニターシステムは25km/h以上でないと学習しません)	タイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの登録を完了するまでには一定の時間が必要です。このプロセスを実行中は、マルチファンクション・ディスプレイに現在のタイヤ空気圧が表示されません。
	タイヤクウキアツ モニター コショウ シュウリヒツヨウ	タイヤ空気圧モニタリング・システムが故障しています。タイヤ空気圧は監視されません。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	タイヤモニター サドウセズ イチジテキ	外部からの干渉など（別のホイール・トランスミッターなど）のためにタイヤ空気圧モニタリング・システムの一時的な不具合が発生、またはホイール・トランスミッターがオーバーヒートしています。タイヤ空気圧は監視されません。
	タイヤ ヘンコウ？ サイセッテイヲ シテクダサイ	ホイールを交換した後は、マルチファンクション・ディスプレイのタイヤ設定を必ず更新してください。
	サイドマーカー オン	ドライビング・ライトまたは車幅灯が点灯しています。
	パーキングライト オン	左または右のパーキング・ライトが点灯しています。
	例： テンケン ヒダリ フロント インジケーター	表示されたライトが点灯していません。該当するライトを点検してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	ヘッドライトビームチョウセイコショウ シュウリヒツヨウ	状況に応じた速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
点滅	コーナリング ライトコショウ シュウリヒツヨウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
点灯	ヘッドライト セイギョコショウ シュウリヒツヨウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	ミギ/ヒダリ コーナーライト コショウ シュウリヒツヨウ	表示されたライトが点灯していません。 該当するライトを点検してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	ヘッドライト セイギョコショウ シュウリヒツヨウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	ヘッドライトビームチョウセイコショウ シュウリヒツヨウ	状況に応じた走行スタイルと速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	PDLS+コショウ ハイビーム シュドウソウサ シュウリヒツヨウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	PDLS+ゲンザイ セイゲン カメラガゾウナシ ガラスセイソウ	PDLS＋がカメラ故障のために一時的に利用できなくなっています。
	アシストシステム/ カメラ ショウフカ シュウリヒツヨウ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	フロントカメラ セイゲン ガラスセイソウ	アシスタンス・システム/カメラが天候状態やフロント・ウィンドウの汚れにより一時的に使用できなくなっています。必要であればウィンドウを清掃してください。
	レイン/ライト センサーコショウ シュウリヒツヨウ	ワイパーおよびライトは手動で操作してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	ワイパー コショウ ハンバイテンヘ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	サンルーフ カンゼンニ トジル	スライディング・ルーフを完全に閉じてください。
	レーンアシスト ゲンザイ ショウフカ	レーン・チェンジ・アシスト(LCA)が天候状態や粉塵により一時的に利用できなくなっています。ボタンを押してLCAを再作動させてください。
	レーンアシスト ショウフカ シュウリヒツヨウ	レーン・チェンジ・アシスト(LCA)が故障しています。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	レーンアシスト センサーヨゴレ リヤバンパー セイソウ	レーン・チェンジ・アシスト(LCA)センサーがキャリア、ステッカー、汚れまたは氷結などにより阻害されています。原因を取り除き、ボタンを押してLCAを再作動させてください。
	レーンアシスト トレーラーモード ショウフカ	けん引しているときはレーン・チェンジ・アシスト(LCA)を使用できません。
	シャセンケイコク ゲンザイセイゲンカメラガゾウナシ ガラスセイソウ	車線逸脱警告が天候状態やフロント・ウィンドウの汚れにより一時的に使用できなくなっています。
	シャセンイツダツ ケイコク ゲンザイ ショウフカ	車線逸脱警告が一時的に制限されています。
	シャセンケイコク コショウ シュウリヒツヨウ	車線逸脱警告が故障しています。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	アンゼンニ テイシャスル トレーラヒッチ ロックスル	直ちに適切な場所に停車してください。運転を続けないでください。ボール・ヒッチがロック位置になっていません。 ロック位置になるまでボタンを押してください。
	キョリ ブレーキ	前走車との車間距離が十分ではありません。ブレーキを踏んで、車間距離を調節してください。
	ACC/PAS ショウフカ シュウリヒツヨウ	アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)：車両前部のセンサーがほこりや雪などに覆われているか、または悪天候の影響を受けている可能性があります。
	ACC ショウフカ PHCサドウ	ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)が作動中またはスタンバイ状態になっています。
	ACC ショウフカ	ブレーキが過熱しているなどの状況にあるとき、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は利用できません。
	ACC フカ Pブレーキモドス	エレクトリック・パーキング・ブレーキが作動したため、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の制御が中断されました。

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	コショウ メーターパネル/ パークアシスト シュウリヒツヨウ	方向指示灯の音、警告音および距離信号（パーキング・アシスタントなど）が作動していません。 駐車するときなどは注意してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	コショウ リヤ パークアシスト シュウリヒツヨウ	警告音およびパーキング・アシスタントの距離信号などが使用できません。 駐車するときなどは注意してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	セイゲンソクド ゲンザイセイゲン カメラガゾウナシ ガラスセイソウ	速度制限表示が天候状態やフロント・ウィンドウの汚れにより一時的に使用できなくなっています。＊必要であればウィンドウを清掃してください。
	ソクドセイゲンinfo ゲンザイセイゲンチュウ	ナビゲーション・データの受信が一時的に使用できなくなっています。＊
	ソクドセイゲンinfo ゲンザイムコウ	カメラの画質評価が一時的に使用できなくなっています。＊
	セイゲンソクド ヒョウジコショウ シュウリヒツヨウ	カメラまたはナビゲーション・システムに故障があります。＊ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	VTSユウコウ コード イレテカクテイスル	リモート・キーパッドを使用してコードを入力し、選択を決定し、PVTSプラスを停止してください（ポルシェ車両追跡システム・プラス）。＊
	VTSユウコウ Xフン イナイニコード イレル	リモート・キーパッドを使用してコードを入力し、選択を決定し、PVTSプラスを停止してください（ポルシェ車両追跡システム・プラス）。＊
	ドライバー カード ヒケンシュツ	キーを使用してドライバー・カードを再度作動してください。必要に応じてコントロール・センターにご相談ください。＊
	ドライバーカード デンチホウデン コウカンヒツヨウ	バッテリー電圧が低すぎます。ドライバー・カード・バッテリーを交換してください。＊
	Remoteキーパッド デンチホウデン コウカンヒツヨウ	バッテリー電圧が低すぎます。リモート・キーパッド・バッテリーを交換してください。＊
	エマージェンシー コール サドウ	車両からの緊急電話がコントロール・センターで確認されました（スマートフォン・アプリ・ポルシェ・カー・コネクト用）。＊

＊ 日本仕様に設定はありません。

インストルメント・パネルのライト	マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味/対処法
	システムコショウ ウンテンカノウ ハンバイテンへ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	例： メンテナンス: XXX km	サービス・インジケーター 表示されている距離/期日を過ぎる前にメンテナンスを行ってください。 ただし、整備手帳に掲載されているサービス・インターバルを優先してください。
	AdBlueホジュウ レンジ：XXX km	表示の距離内でAdBlue®を補充してください。＊
	AdBlueホジュウ シドウフノウ - XXX km	表示の距離内でAdBlue®を補充してください。＊
	エンジンシドウ フカ AdBlueホジュウ	直ちにAdBlue®を補充してください。＊
	AdBlueフリョウ シドウフノウ - XXX km	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
	AdBlueフリョウ エンジンシドウ フカ	ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*

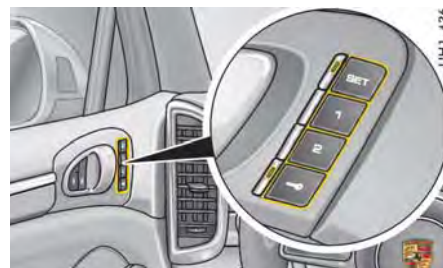
* この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

＊ 日本仕様に設定はありません。

パーソナル設定

概要 – パーソナル設定

この概要説明は後述の「パーソナル設定」に代わるものではありません。
操作する上での概要のみでなく、「警告」を必ずお読みください。

設定のキーへの自動保存
（「オート・メモリー」機能作動時）

設定の運転席ドアボタンへの手動保存

どこで設定の保存/呼び出しができますか？	どのような設定の保存/呼び出しができますか？
キーによりドアをロック/ロック解除すると自動的に行われます。	**人間工学に基づいた設定** – 運転席シートおよびドア・ミラー（運転席メモリー・パッケージ） – 運転席シート、ドア・ミラー、電動ステアリング・コラム（コンフォート・メモリー・パッケージ） **コンフォート設定**（コンフォート・メモリー・パッケージ） – エアコン、マルチファンクション・ディスプレイおよびポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)＊ 必要条件：マルチファンクション・ディスプレイで、「**オート・メモリー**」機能を有効にしてください。 ▷「オート・メモリーのON/OFF」（136ページ）を参照してください。 **知識**：「**オート・メモリー**」機能を有効にした場合、キーまたはキー・ボタン に保存した設定は、車両をロックするたびに更新されます。
ボタン**1**、**2**または**3**（助手席ドア）を使用して手動で行います。	**人間工学に基づいた設定** – 運転席シートおよびドア・ミラー（運転席メモリー・パッケージ） – 運転席シート、ドア・ミラー、助手席シート、電動ステアリング・コラム（コンフォート・メモリー・パッケージ）
キー・ボタン を使用して手動で行います。	**人間工学に基づいた設定** – 運転席シートおよびドア・ミラー（運転席メモリー・パッケージ） – 運転席シート、ドア・ミラー、電動ステアリング・コラム（コンフォート・メモリー・パッケージ） **コンフォート設定**（コンフォート・メモリー・パッケージ） – エアコン、マルチファンクション・ディスプレイおよびポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)＊ 設定は運転席ドアのキー・ボタン およびキーに保存されます。

＊ 日本仕様に設定はありません。

運転席メモリー・ボタン（運転席メモリーまたはコンフォート・メモリー）

助手席ドア・メモリー・ボタン（コンフォート・メモリー）

パーソナル設定の保存

運転席メモリー機能またはコンフォート・メモリー機能と併用することで、パーソナル設定をキーおよびドアのメモリー・ボタンに保存することができます。

運転席メモリー装備車の場合、運転席ドアにメモリー・ボタンがあります。コンフォート・メモリー装備車の場合、運転席ドアと助手席ドアにメモリー・ボタンがあります。

運転席メモリー

運転席メモリー機能では、以下の**人間工学に基づいた設定**を保存することができます：

– 運転席シート
– ドア・ミラー

コンフォート・メモリー

コンフォート・メモリー機能では、以下の**人間工学に基づいた設定**を保存することができます：

– 運転席シート
– 助手席シート（設定は助手席ドアのメモリー・ボタンにのみ保存されます。）
– 電動ステアリング・コラム
– ドア・ミラー

以下の**コンフォート設定**も保存できます：

– エアコン
– マルチファンクション・ディスプレイ
– ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)＊

⚠ 注意 シート、ミラー、および電動ステアリング・コラムの自動設定の呼び出し

メモリー設定が予期せぬタイミングで起動した場合、身体の一部が挟まれたり、圧迫される恐れがあります。

▷ メモリー・ボタンまたはシート調節ボタンのいずれかを押すと、設定の自動呼び出し機能をキャンセルできます。
▷ お子様のみを車内に残さないでください。

i インフォメーション

マルチファンクション・ディスプレイで自動保存機能を作動状態に設定している場合、車両をロックすると、設定内容がキーに自動的に保存されます。

自動保存機能のON/OFFに関するインフォメーション：

▷ 「オート・メモリーのON/OFF」（136ページ）を参照してください。

マルチファンクション・ディスプレイ上で自動保存機能が作動状態に設定されているかどうかに関係なく、設定内容はキー（キー・ボタン 🔑 を押す）およびメモリー・ボタン**1**または**2**に保存でき、そこから呼び出すことができます。

＊ 日本仕様に設定はありません。

キーへの設定の保存

人間工学に基づいた設定とコンフォート設定をキーに個別に割り当てることができます。

インフォメーション

各メモリーの情報は最大で4本のキーに保存することができます。この他のキーについては、4本目のキーのメモリー情報が保存されます。

車両のロックによる自動保存

マルチファンクション・ディスプレイで、この機能を作動させる設定に切り替えてください。

自動保存機能のON/OFFに関するインフォメーション：

▷ 「オート・メモリーのON/OFF」（136ページ）を参照してください。

– 車両をロックすると、設定が使用中のキーに保存されます。

– ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車の場合、ドア・ハンドルのロック・ボタンを押すと、設定が保存されます。

「オート・メモリー」機能が役立つ状況

各ドライバーは個別のキーを使用しています。車両をロックすると、最後に選択した設定がキーに保存されます。ドライバーが交代すると、パーソナル設定が個々のキーから呼び出されます。

インフォメーション

「**オート・メモリー**」機能を有効にした場合、手動操作でキーに保存した設定は、車両をロックするたびに更新されます。

運転席ドアのキー・ボタンによる保存

▷ イグニッションをONにしてください。

1. **SET**ボタンを押してください。ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
2. 10秒以内にキー・ボタンを押してください。
3. 人間工学に基づいた設定およびコンフォート設定（キー特定）が保存されます。保存されると確認音が鳴り、**SET**ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。

設定をキー・ボタンに保存することが役立つ状況

車両のロック/ロック解除時に加えて、停車中に設定の保存/呼び出しを行いたい場合があります。このような場合は「**オート・メモリー**」機能が無効になっていることを確認してください。有効のままだと、車両ロック時に設定が更新されます。

キーから設定を呼び出す

人間工学に基づいた設定とコンフォート設定をキーから個別に呼び出すことができます。

車両のロック解除による自動呼び出し

車両をロック解除して、運転席ドアを開くと、使用中のキーから設定が呼び出されます。

運転席ドアのキー・ボタンを押す

▷ すべての設定が呼び出されるまでキー・ボタンを押し続けてください。
または

▷ 運転席ドアを開いてイグニッションをOFFにした状態で、キー・ボタンを**短く**押してください。
設定が自動的に呼び出されます。

キー・ボタンの設定が保存した内容と違う場合

「**オート・メモリー**」機能をマルチファンクション・ディスプレイで有効にした場合、人間工学に基づいた設定およびコンフォート設定は車両ロック時に保存されます。このとき、キー・ボタンに保存された設定が更新されます。

ボタン1、2および3への設定の保存

人間工学に基づいた設定を運転席ドアのボタン1と2に個別に割り当てることができます。

助手席シートの設定を助手席ドアのボタン1、2および3に個別に割り当てることができます。

▷ イグニッションをONにしてください。

1. **SET**ボタンを押してください。ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
2. 10秒以内にボタン**1**、**2**または**3**（助手席側のみ）を押してください。
3. 人間工学に基づいた設定および助手席シートの設定が該当するボタンに保存されます。保存されると確認音が鳴り（運転席側のみ）、**SET**ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。

ボタン1、2または3による設定の呼び出し

運転席ドアのボタン1または2による人間工学に基づいた設定の呼び出し

▷ すべての設定が呼び出されるまでボタン**1**または**2**を**押し続けて**ください。
または

▷ 運転席ドアを開き、イグニッションをOFFにしてボタン**1**または**2**を**短く**押してください。
設定が自動的に呼び出されます。

助手席ドアのボタン1 、2または3による助手席シートの設定の呼び出し

▷ すべての設定が呼び出されるまでボタン**1**、**2**または**3**を**押し続けて**ください。
または

▷ 助手席ドアを開き、イグニッションをOFFにしてボタン**1**、**2**または**3**を**短く**押してください。
設定が自動的に呼び出されます。

ロック時にキーの設定を自動保存する機能のキャンセル

マルチファンクション・ディスプレイで、この機能を作動解除させる設定に切り替えてください。

自動保存機能のON/OFFに関するインフォメーション：

▷ 「オート・メモリーのON/OFF」（136ページ）を参照してください。

安全運転について

＊ 日本仕様に設定はありません。

お出かけの前に

▷ すべてのタイヤの空気圧、トレッドおよびその他の状態に異常はありませんか？
▷ ヘッドライト・レンズ、リヤ・ライト、方向指示灯、ウィンドウ、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)のレーダー・センサー、カメラ・レンズが汚れていませんか？
▷ イグニッションをONにしたとき、ヘッドライト、ブレーキ・ライト、方向指示灯が正常に作動しますか？
▷ イグニッションON（エンジンOFF）状態で、各種警告灯/インジケーター・ライトが正常に作動しますか？
▷ 燃料が不足していませんか？
▷ ルーム・ミラーおよび外部ミラーは、後方がきちんと確認できる位置にありますか？
▷ 運転者および同乗者は、シートベルトを着用していますか？
▷ 各種オイル/フルード・レベルは、指定された点検時期以外でも定期的に点検してください。

運転中は

インフォメーション

燃費とCO_2排出量は、車両を正しく使用する、定期的なメンテナンスを行う、適切なドライビング・スタイル（不必要なアイドリングや積荷をしない、安全運転、控えめな速度、予測ブレーキ、適正なタイヤ空気圧など）を採用することによって削減することができます。

慣らし運転の知識

車両の性能を最良の状態で維持するために、新車時は慣らし運転を行うことをお薦め致します。

最新鋭の精密な製造技術を採り入れても、可動部分が馴染む過程で初期摩耗することを完全には防げません。この初期摩耗は、主に新車時から3,000kmまでの期間に生じます。

走行距離が3,000kmに達するまでに遵守しなければならない事項：

▷ 慣らし運転中はなるべく長距離を運転することを推奨します。
▷ 冷間始動と近距離運転の繰り返しは、できる限り避けてください。
▷ 自動車レース、スポーツ・ドライビング・スクール等に参加しないでください。
▷ エンジンを高回転域まで回さないでください。特に、エンジンの暖機が完了するまでは、高回転を避けてください。

オイル消費量/燃費

慣らし運転中は、オイルと燃料の消費量が通常よりも若干多くなります。

オイルと燃料の消費量については「テクニカル・データ」の章を参照してください：

▷ 「燃費と排出ガス（メーカー発表値）」（343ページ）を参照してください。
▷ 「エンジン・データ（メーカー発表値）」（342ページ）を参照してください。

新しいブレーキ・パッドの慣らし運転

新品のブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクも、エンジンと同様に慣らし運転が必要です。新しい部品を装着してから最初の数百kmは、ブレーキ性能を完全には発揮できません。
通常よりもわずかながらブレーキの効きが弱くなるため、強めにペダルを踏む必要があります。
ブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクを新品に交換した場合も、同様に慣らし運転が必要です。

新しいタイヤの慣らし運転

▷ 注意してください：新しいタイヤは、そのグリップ性能を十分に発揮できません。
新品のタイヤを装着してから最初の100～200kmは、ゆっくりとした速度で慣らし運転を行ってください。

車両の技術的な仕様変更

▷ 車両の技術的な仕様変更はポルシェ正規販売店で実施してください。
これにより、お客様のポルシェの信頼性と走行安全性を維持することができ、改造に起因する不具合を回避できます。
ウインター・タイヤについては、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ正規販売店では、お客様のご要望に応じた適切なアドバイスを行います。

知識

▷ 部品交換やアクセサリーの取り付けには、ポルシェ純正部品、またはポルシェ社が要求する性能、品質基準に適合する同等部品のみを使用してください。ポルシェ純正部品は、ポルシェ正規販売店で入手することができます。安全性に関係するアクセサリーを取り付けるときは、ポルシェ・テクイップメント製品またはポルシェ社がテストを実施し、承認した部品のみをお選びください。アクセサリーについてご不明な点は、ポルシェ正規販売店にお気軽にご相談ください。
ポルシェ純正部品、またはポルシェ社が承認した以外の部品やアクセサリーの使用は、車両に悪影響を及ぼす可能性があります。この結果として生じた損害、損傷に対してポルシェ社では責任を負いかねます。
ポルシェ純正部品や承認部品、アクセサリーを供給しているメーカーの製品でも、特定の部品を使用することで車両の安全性に悪影響を与える可能性があります。

マーケットには膨大な数の部品、アクセサリーが流通しているため、ポルシェ社はそれらのすべてについて評価と承認を行うことができません。

▷ また、ポルシェ純正部品または承認部品以外の部品を使用した場合、保証期間内であってもメーカー保証を適用できなくなる可能性がありますのでご注意ください。

⚠ 警告 空力特性の変化

スポイラーやアンダー・パネルなど、空力に影響する部品が損傷または欠損すると、走行安定性に悪影響を及ぼす危険性があります。

▷ 不具合の兆候などがないか、日頃から定期的な点検を実施してください。

▷ これらの不具合が発生したときは、直ちに修理してください。

国外での走行

すべてのポルシェ・モデルがすべての国で入手可能であるとは限りません。このため、スペア・パーツが入手できない、あるいは、ポルシェ正規代理店で修理作業が行えないことがあります。

▷ 国外への旅行前に確認しておくこと

– 車両が故障した場合、修理は可能ですか？

– 車両の技術的な調整は必要ではありませんか？

– 条件を満たす品質の燃料は入手可能ですか？

燃料の品質に関するインフォメーション：

▷ 「燃料の給油」（282ページ）を参照してください。

サーキット走行（スポーツ・ドライビング・スクール、クラブ・スポーツ・イベントなど）

ブレーキ・フルード、ブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスク

ブレーキ液には吸湿性があり、長期間使用すると大気中の水分を吸収します。ブレーキ液が水分を含むと沸点が下がり、サーキット走行時（スポーツ・ドライビング・スクール、クラブ・スポーツ・イベントなど）の高温、高負荷時においてブレーキ性能に悪影響を及ぼします。

このため、使用開始から1年以上経過したブレーキ液は、サーキット走行時（スポーツ・ドライビング・スクール、クラブ・スポーツ・イベント）に使用しないでください。

▷ 「整備手帳」のインフォメーションも参照してください。

ブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクの摩耗は、運転の仕方やメンテナンスによって大きく左右されます。サーキット走行（スポーツ・ドライビング・スクール、クラブ・スポーツ・イベントなど）によって高温、高負荷がかかるとブレーキ構成部品は激しく摩耗します。

▷ サーキット走行（スポーツ・ドライビング・スクール、クラブ・スポーツ・イベント）の前後に、必ずブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクに摩耗がないか目視点検してください。

リサイクル

使用済み自動車のリサイクルは、日本国内の法律により定められています。

ポルシェ社の車両はリサイクル性を考慮して開発されています。

▷ 法に定められた適切なリサイクル処理を行うため、廃車の際はポルシェ正規販売店にご相談ください。

テール・パイプ

⚠ 警告 高温のテール・パイプ

エンジン作動中や、エンジンを停止してからしばらくの間はテール・パイプが熱くなっています。

▷ 車両後方に近づくときは、テール・パイプの近くで立ち止まったり、テール・パイプに触れないでください。

▷ お子様がテール・パイプの熱で火傷をしないように注意してください。

故障診断用ソケット

⚠ 警告 車両エレクトリカル・システムへの不適切な作業

外部機器（ナビゲーション・ユニット、ヘッドアップ・ディスプレイなど）を故障診断用ソケットに接続すると、車両システムの機能に悪影響を及ぼす恐れがあります。

▷ いかなる機器も故障診断用ソケットに接続しないでください。

⚠ 警告 運転席足元の機器がゆるんでいる、またはケーブルが垂れ下がっている場合

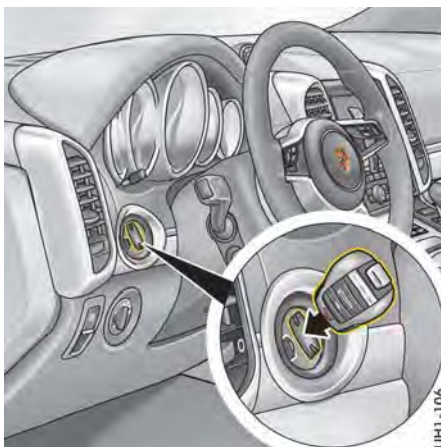
運転席足元の機器の取り付けがゆるんでいる場合、またはケーブルが垂れ下がっている場合、制動時またはカーブ走行時にペダル操作の障害となったり、ペダル間に挟まったりする可能性があります。

▷ 運転席の足元に機器またはケーブルなどの物を置かないでください。

知識

故障診断用ソケットは、ポルシェ正規販売店で故障診断機器を接続するために使用されます。

イグニッションをOFFにした状態で外部機器（ナビゲーション・ユニット、ヘッドアップ・ディスプレイなど）を故障診断用ソケットに接続して作動させると、バッテリーが放電します。車両を長期にわたって駐車したままにすると、バッテリーが完全に消耗し、損傷する（完全に上がる）可能性があります。

▷ 故障診断用ソケットにはいかなる機器も接続しないでください。

イグニッション・ロック、ステアリング・ロック

知識

過剰な負荷により損傷する恐れがあります。

差し込んだキーに過剰な負荷（重たいキーの束、キー・ホルダーなど）がかかると、イグニッション・ロックが損傷する恐れがあります。

▷ 差し込んだキーに過剰な負荷がかからないようにしてください。

キーは、ステアリング・コラム左側のライト・スイッチの上にあるイグニッション・ロックに差し込んでください。

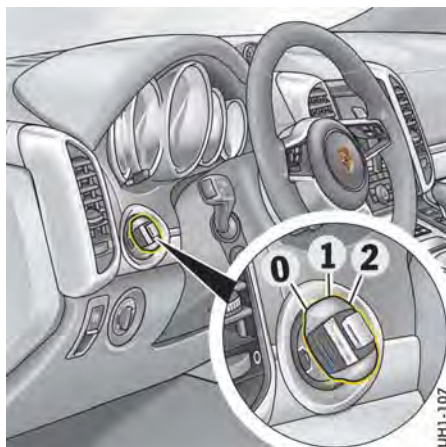
ポルシェ・エントリー &ドライブ装備車では、キーを携行していればイグニッション・ロックにキーを差し込む必要がありません。

キーはイグニッション・ロック内のコントロール・ユニットに変更されました。このコントロール・ユニットは、けん引のときを除いて**常時**イグニッション・ロックに差し込んでおいてください。

 インフォメーション

キーを差し込んだまま放置するとバッテリーが消耗します。

バッテリーが上がった場合、キー抜き取りの緊急操作を行った場合のみイグニッション・ロックからキーを抜き取ることができます：

▷ 「緊急操作 – キー /コントロール・ユニットのロック解除」（162ページ）を参照してください。

キーの位置
0 - 初期位置
1 - イグニッションON
2 - エンジン始動

イグニッション・ロックには3つのスイッチ位置があります。

イグニッション・ロック位置0 – イグニッションOFF（初期位置）

イグニッション・ロックが位置**0**のときは、エンジンとイグニッションはOFFになっています。キーはこの位置で抜き取ることができます。

イグニッション・ロック位置1 – イグニッションON

▷ キーまたはコントロール・ユニットを位置**1**に回してください。

すべての電装品が使用可能になります。インストルメント・パネルの警告灯が点灯し、ライトの作動を点検します。

イグニッションをONにしてから2分以上電装品をONにしなかった場合、再度イグニッションをONにする必要があります。

最初に、キー /コントロール・ユニットをイグニッション・ロック位置**0**（初期位置）に戻してください。

イグニッションをONにする、またはエンジンを始動すると、キーが抜き取れなくなります。

キーを抜き取るには：

▷ 停車してください。
▷ セレクター・レバーを**P**の位置にしてください。
▷ イグニッションをOFFにしてください。
▷ キーを抜き取ってください。

イグニッション・ロック位置2 – エンジン始動

▷ キーまたはコントロール・ユニットをイグニッション・ロック位置**2**に回してください。

エンジンが始動すると、キーまたはコントロール・ユニットがロック位置**2**から**1**に自動的に戻ります。

インフォメーション

Cayenne S E-Hybrid：電動モーター走行のための作動条件（バッテリー電圧、温度など）が満たされている場合、内燃エンジンが始動していなくても車両はスタンバイ状態になります。

ステアリング・コラム・ロック

ポルシェ・エントリー &ドライブ非装備車

キーをイグニッション・ロックから抜き取ると、ステアリング・ホイールが自動的にロックされ、キーをイグニッション・ロックに差し込むと、ステアリング・ホイールが自動的にロック解除されます。

ポルシェ・エントリー &ドライブ装備車

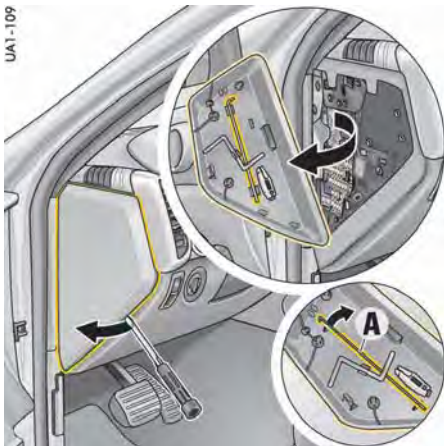
イグニッションをOFFにして運転席ドアを開いた場合、または車両をロックした場合、ステアリング・ホイールが自動的にロックされます。

警報システムをキーで無効にした場合、ポルシェ・エントリー &ドライブで運転席ドアを開いた場合、またはイグニッションをONにした場合、ステアリング・ホイールが自動的にロック解除されます。

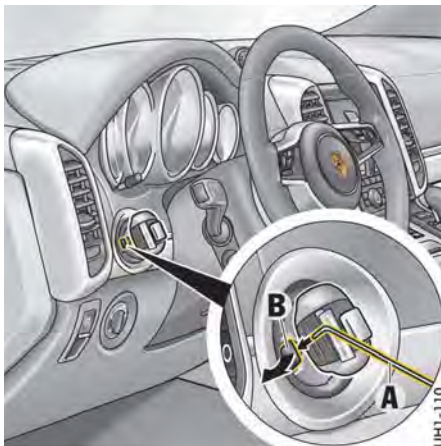
ポルシェ・エントリー &ドライブの緊急操作

車両とイグニッション・ロック間の電波通信が混信したときや、キーのバッテリー残量が低下すると、ポルシェ・エントリー &ドライブが正常に機能しなくなります。

このような場合、イグニッション・ロックからコントロール・ユニットを取り外し、キーで車両を始動することができます。

▷ 「緊急操作 – キー /コントロール・ユニットのロック解除」（162ページ）を参照してください。

緊急操作 – キー/コントロール・ユニットのロック解除

バッテリーが上がった場合、キーを抜き取るには、緊急操作を行う必要があります。
ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車のイグニッション・ロックからコントロール・ユニットを取り外す場合も緊急操作を行わなければなりません。

1. 運転席側のヒューズ・ボックス・カバーをスクリュードライバーで慎重にこじ開け、取り外してください。
2. ヒューズ・ボックス・カバーの裏に収納してある金属製フック**A**を取り出してください。
3. 金属製フック**A**を使用して、イグニッション・ロックのプラスチック・カバー **B**を取り外してください。
   取り外したプラスチック・カバー **B**は紛失しないように十分注意してください。
4. キー /コントロール・ユニットをイグニッション・ロック位置**0**（初期位置）に回してください。
5. 金属製フック**A**を開口部**C**に解除音が聞こえるまで押し込んでください。
6. キー/コントロール・ユニットをロック位置**0**（初期位置）に回して抜き取ってください。
7. プラスチック・カバー **B**を元の位置に取り付けてください。

エンジンの始動および停止

あらかじめ登録されているキーを使用したときのみイモビライザーが解除され、エンジンを始動することができます。

▷ 「イモビライザー」（268ページ）を参照してください。

危険 有毒な排気ガス

排気ガスには無色無臭の一酸化炭素を含んでいます。一酸化炭素は少量でも人体に有害で、中毒を起こす危険があります。オート・スタート/ストップ機能によってエンジンが自動停止した場合、降車後にエンジンが再始動することがあります。

▷ 換気の悪い場所でエンジンを始動したり、アイドリングをしないでください。

▷ 車両を離れるときには、**必ず**キーを抜いてください。
ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、**必ず**コントロール・ユニットをイグニッション・ロックに差し込んだままにしてください。「停止」（164ページ）を参照してください。

警告 高温の排気ガスおよびエキゾースト・システム

エンジン作動中のエキゾースト・システムや排気ガスは非常に熱くなっています。火傷を負ったり火災が起きる恐れがあります。

▷ 可燃物（乾燥した草や枯れ葉など）が高温のエキゾースト・システムに接触するような場所に駐車したり、走行しないでください。

エミッション・コントロール・システムに関するインフォメーション：

▷ 「エミッション・コントロール・システム」（281ページ）を参照してください。

エンジンの始動

▷ フット・ブレーキを踏んでください。

▷ ティプトロニックSセレクター・レバーを**P**または**N**の位置にしてください。

▷ アクセル・ペダルは踏まないでください。
エンジン・コントロール・ユニットが、エンジン始動に適切な燃料補正を行います。

▷ キーまたはコントロール・ユニット（ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車）をロック位置**2**に回してください。
ロック位置**2**（エンジン始動）にすると、直ちにエンジン始動制御が実行され、エンジンが自動的に始動します。
キーまたはコントロール・ユニットが、ロック位置**1**（イグニッションON）に自動的に戻ります。

▷ エンジン・スターターを約10秒以上連続して作動させないでください。エンジンが始動しない場合は、10秒程度間をおいてから再度始動させてください。再始動する場合は、はじめにキーをロック位置**0**（初期位置）に戻してください。
1回でエンジンが始動すると、スターターが自動的に停止します。
1回でエンジンが始動しない場合は、引き続きスターターが作動し、自動停止はしません。

▷ 停車したまま暖機運転を行わず、直ちに発進してください。ただしエンジンが通常の作動温度になるまでは、スロットル操作を控えめにし、エンジン回転数を上げすぎないよう注意して運転してください。

バッテリー電圧が低すぎる場合は、ジャンパー・ケーブルを使用してエンジンを始動してください。

ジャンパー・ケーブルによるエンジンの始動に関するインフォメーション：

▷ 「外部電源、ジャンパー・ケーブルによる始動」（327ページ）を参照してください。

インフォメーション

バッテリー上がりを防止し、エンジンの始動性を確保するためにも、エンジンを停止したままイグニッションをONにしているときや、渋滞などでエンジン回転数が低いまま運転を続けるときは、不要なアクセサリーの電源をOFFにしてください。

インフォメーション

Cayenneディーゼル＊、Cayenne Sディーゼル＊：
ディーゼル・エンジン車＊の始動時（イグニッション・ロック位置**2**）の外気温やエンジン温度に応じて、グロー・プラグ予熱フェーズ中にマルチファンクション・ディスプレイにメッセージ「**エンジン シドウ**」が表示されます。
エンジンが始動すると、メッセージが消えます。

エンジン・スターターを約10秒以上連続して作動させないでください。
エンジンが始動しない場合は、10秒程度間をおいてから再度始動させてください。はじめに、キー/コントロール・ユニットをイグニッション・ロック位置 **0**（初期位置）に戻してください。

Cayenneディーゼル＊、Cayenne Sディーゼル＊：ガス欠後の始動

燃料タンクが完全に空になるまで走行し、その後ディーゼル燃料を給油した場合、燃料システムのエア抜きが行われるため、エンジンの始動に時間がかかる場合があります。

＊ 日本仕様に設定はありません。

Cayenneディーゼル＊、Cayenne Sディーゼル＊：ディーゼル予熱インジケーター・ライト

イグニッションをONにしたときにインジケーター・ライト が点灯する場合、グロー・プラグが予熱中であることを示しています。エンジンが始動すると、インジケーター・ライトはすぐに消灯します。エンジンがすでに通常の作動温度にある場合、インジケーター・ライトはライト点検用に短い時間のみ点灯します。エンジンはすぐに始動することができます。

停止

⚠ 警告 車両が不意に動き出す恐れがあります

車両を正しく駐車しなかった場合、不意に動き出し人や物に損傷を与える危険があります。

▷ 車両から離れるときは、必ずエレクトリック・パーキング・ブレーキを作動させ、セレクター・レバーを**P**の位置にしてください。

エレクトリック・パーキング・ブレーキに関するインフォメーション：

▷ 「エレクトリック・パーキング・ブレーキ」（167ページ）を参照してください。

ティプトロニックSおよびセレクター・レバー**P**位置に関するインフォメーション：

▷ 「ティプトロニックS」（195ページ）を参照してください。

▷ キーを抜く前に、必ず車両を停止させてください。

▷ イグニッションをOFFにするときは、必ず車両を停止させてください。エンジンがOFFになると、パワー・ステアリングおよびブレーキ・ブースターが効かなくなります。

▷ 車両から離れるときは、**必ず**キーを抜き取り、エレクトリック・パーキング・ブレーキを作動させ、セレクター・レバーを**P**の位置にしてください。
ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、**必ず**コントロール・ユニットをイグニッション・ロックに差し込んだままにしてください。

オート・スタート/ストップ機能

例えば信号待ちや渋滞などで停車した場合、エンジンを自動で停止するすべての条件が満たされるとオート・スタート/ストップ機能が作動してエンジンが自動停止します。車両が徐行中に停車した場合も、エンジンが自動的に停止することがあります。これにより燃料の消費を節約します。

エンジンが自動停止した後もイグニッションはONの状態が維持され、すべての安全機能が作動可能な状態になっています。

エンジンを自動停止するための条件

– オート・スタート/ストップ機能がONになっている
– ブレーキ・ペダルが踏み込まれている（Cayenneディーゼル＊およびCayenne Sディーゼル＊に適用：運転席シートベルトを着用しており、運転席ドアが閉じられている）
– ティプトロニックSセレクター・レバーが**D**、**N**または**P**の位置にある、またはトランスミッション・レンジ**1**または**2**が手動選択されている
– エンジン・コンパートメント・リッドが閉じている
– エンジン、トランスミッション、バッテリー、エアコンが作動温度に達している
– バッテリーが規定電圧に達している
– 前回エンジンが自動停止してから、車両が走行した

インフォメーション

イグニッションがONのとき、バッテリーは消耗します。イグニッションONで長時間停車した場合、バッテリーの消耗が増加します。

▷ 車両から離れるときは、イグニッションをOFFにしてください。

エンジンの停止

車両が停車すると、オート・スタート/ストップ機能が直ちにエンジンを停止します。

1. ブレーキ・ペダルを踏んで停車してください。
2. ブレーキ・ペダルを踏み続けてください。
   または
   停車中は、ティプトロニックSセレクター・レバーを**P**の位置にしてください。

インフォメーション

停車中にブレーキ・ペダルを素早くいっぱいまで踏み込むと、HOLD機能が作動します。
この機能は、ブレーキ・ペダルを踏まなくても車両を停止した状態に維持します。エンジンはアクセル・ペダルを踏む、またはエンジンを始動する必要が生じたときに自動的に始動します。
Cayenneディーゼル＊（国別仕様による）およびCayenne Sディーゼル＊では、ブレーキ・ペダルを放すとすぐにエンジンが始動します。

▷ 「HOLD機能：発進アシスタント、停止制御」（210ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

インフォメーション

– 車両を停止させた後でエンジンが自動停止するための条件が満たされた場合、遅れてエンジンが停止することもあります（車両が停止した直後ではない場合があります）。
▷ 「オート・スタート/ストップ機能の例外」（165ページ）を参照してください。
– アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)がONの場合、前走車が停車すると車両は走行を停止し、エンジンが自動的に停止します。この機能は、Cayenneディーゼル＊では国別仕様により異なります。Cayenne Sディーゼル＊では使用できません。

エンジンの始動

次の条件を満たすとオート・スタート/ストップ機能がエンジンを始動します：

▷ ティプトロニックSセレクター・レバーが**D**、**N**の位置にある、またはトランスミッション・レンジ**1**、**2**が手動選択されているときにブレーキ・ペダルを放してください。
または
アクセル・ペダルを踏んでください。
または
ステアリング・ホイールを動かしてください。
または
▷ ティプトロニックSセレクター・レバーを**R**の位置にしてください。

エンジンが始動した後は通常の運転操作で発進できます。

 インフォメーション

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)がONの場合は、次の条件が満たされるとエンジンは自動的に始動します。

– 前走車が発進した
または
アクセル・ペダルが踏まれた
または
コントロール・レバーを操作してクルーズ・コントロール/車間距離制御を再開した（位置**4**、**RESUME**）
▷ 「RESUME（自動車速制御と自動車間距離制御の再開）」（178ページ）を参照してください。
– アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)がOFFの場合、エンジンが自動的に始動し、ギヤが締結されている場合ゆっくり発進します。

 インフォメーション

坂道などで車両が動き始めたとき、エアコンの快適性が低下したとき、ブレーキ・ブースターの負圧が減少したときなど、特定の条件でエンジンが自動的に始動します。

オート・スタート/ストップ機能の例外

例えば次のような状況では、オート・スタート/ストップ機能は**利用できません**：

– 「スポーツ」または「スポーツ・プラス」モードが作動しているとき
– PSMがOFFのとき
– オフロード走行プログラムが作動しているとき（オフロード・モード）
– クリーピング時
– A/C MAXモードが作動しているとき
– 「フロント・デフロスター」が作動しているとき
– 連結されたトレーラー車両が検出されたとき（バイク・ラック・コネクターまたはトレーラー・コネクターが接続されていると検出されます。）
– 標高が高い場所を走行しているとき
– 車高を変えているとき
▷ 他社製のトレーラー・ヒッチを車両に連結している場合はオート・スタート/ストップ機能を手動で停止してください。

オート・スタート/ストップ機能のON/OFFに関するインフォメーション：

▷ 「オート・スタート/ストップ機能および惰性走行モードのON/OFF」（166ページ）を参照してください。

例えば次のような状況では、オート・スタート/ストップ機能は作動解除されます：

– エアコンやヒーターを高負荷で作動させているとき、またはデフロスターを長時間作動させているとき
– バッテリー電圧が低下したとき
– 上り坂や下り坂で停車したとき
– オート・エンジン・チェック機能など車両点検を実行しているとき

 インフォメーション

エンジンが自動停止した後、上記のいずれかの条件が満たされると、エンジンが自動的に再始動します。

＊ 日本仕様に設定はありません。

降車後の作動（セレクター・レバーが、DまたはNの位置にあるとき）

エンジンが自動停止した後、ティプトロニックSセレクター・レバーを**D**、**M**または**N**位置にして、降車しようとした場合（運転席ドアが開いていて、フット・ブレーキが踏まれていない場合）、エンジンが**自動的に**始動し、オート・スタート/ストップ機能がONであることを運転者に知らせます（Cayenneディーゼル＊およびCayenne Sディーゼル＊には適用されません）。

エレクトリック・パーキング・ブレーキはセレクター・レバー位置**D**または**M**でも作動します。

ボタンのインジケーター・ライトとインストルメント・パネルのブレーキ警告灯が点灯します。

▷「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

 インフォメーション

Cayenneディーゼル＊およびCayenne Sディーゼル＊では、降車時に運転席ドアを開いた、またはシートベルトを外した場合、エンジンは自動的に**始動しません**。

マルチファンクション・ディスプレイにメッセージ「**スタータ マニュアル**」が表示されます。

▷「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

降車後の作動（セレクター・レバーがPの位置にあるとき）

エンジンが自動停止した後、ティプトロニックSセレクター・レバーを**P**位置にして、ガレージ・ドアを開くためなどの理由で車両から降車しようとした場合（運転席ドアが開いていて、フット・ブレーキが踏まれていない場合）には、エンジンは自動的に**始動しません**。

ドライバーが降車した後30秒以内に車両に戻ると（運転席ドアを閉じてフット・ブレーキを踏むと）、スタート/ストップ機能が再開します。（Cayenneディーゼル＊およびCayenne Sディーゼル＊では、シートベルトの着用も作動条件です。）

上記の条件が満たされなかった場合、エンジンは**手動操作**で始動する必要があります。マルチファンクション・ディスプレイに「**スタータ マニュアル**」のメッセージが表示されます。

▷「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

オート・スタート/ストップ機能および惰性走行モードのON/OFF

OFFにする

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
エンジンの自動停止が抑制され、惰性走行モードがOFFになります。

ONにする

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
車両が停車すると、自動的にエンジンが停止し、惰性走行モードがONになります。

▷「惰性走行モードで走行する」（198ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

インフォメーション

惰性走行モードはCayenne Sディーゼル＊では利用できません。

オート・スタート/ストップ機能の表示

エンジンの自動停止および再始動の準備

オート・スタート/ストップ機能でエンジンが自動停止した場合、マルチファンクション・ディスプレイのインジケーター・ライトが緑色に点灯します。

エンジンが自動停止しない、または再始動可能な状態になっていない

オート・スタート/ストップ機能が利用できない、またはエンジンが自動停止した後に再始動しない場合は、停車中にマルチファンクション・ディスプレイのインジケーター・ライトが黄色に点灯します。

オート・スタート/ストップ・システムは、次の状態を検出します：

– エンジンを自動停止するための条件のいずれか1つが満たされていない。

または

– オート・スタート/ストップ機能の例外条件が、少なくとも1つ以上満たされている。

エンジンを自動停止するための条件に関するインフォメーション：

▷ 「エンジンを自動停止するための条件」(164ページ）を参照してください。

オート・スタート/ストップ機能の例外に関するインフォメーション：

▷ 「オート・スタート / ストップ機能の例外」(165ページ）を参照してください。

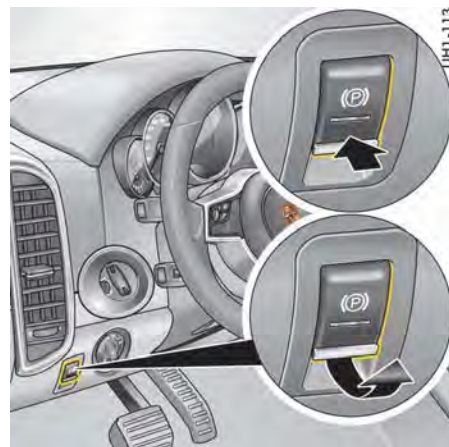
 インフォメーション

停車時にマルチファンクション・ディスプレイの黄色のインジケーター・ライトが点灯し、自動停止の条件が満たされているにもかかわらずエンジンが自動停止しない場合、バッテリー電圧の低下が考えられます。

▷ 次の機会にポルシェ正規販売店でオート・スタート/ストップ機能の点検を受けてください。

故障の表示

システムが故障したときは、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージ「**スタート/ストップ モード カイジョ**」が表示されます。

▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。
この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

エレクトリック・パーキング・ブレーキ

エレクトリック・パーキング・ブレーキは後輪に作用し、駐車中に車両が動き出さないように固定します。

パーキング・ブレーキを作動させる

▷ (P)ボタンを押してください。
(P)ボタンのインジケーター･ライトとインストルメント・パネルのブレーキ警告灯(!)が点灯します。

インストルメント・パネルのインジケーター・ライトおよび警告灯に関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」(141ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

パーキング・ブレーキを解除する

エレクトリック・パーキング・ブレーキは、イグニッションがONのときのみ解除できます。

1. ブレーキ・ペダルを踏んでください。
2. (P)ボタンを引いてください。
   (P)ボタンのインジケーター・ライトとインストルメント・パネルのブレーキ警告灯(!)が消灯します。

ドライバーの発進操作検出時のエレクトリック・パーキング・ブレーキ自動解除

エンジンが作動し、運転席ドアが閉じた状態で運転席シートベルトを着用している場合、パーキング・ブレーキをかけたままで発進することができます。

エレクトリック・パーキング・ブレーキはドライバーの発進操作を検出し、パーキング・ブレーキを自動解除します。

(P)ボタンのインジケーター・ライトとインストルメント・パネルのブレーキ警告灯(!)が消灯します。

運転席ドアが閉じていない、または運転席のシートベルトを着用していない場合、ドライバーが発進操作を行ってもエレクトリック・パーキング・ブレーキは自動解除されません。このときマルチファンクション・ディスプレイに「**パーキング ブレーキ カイジョ**」のメッセージが表示されます。(P)ボタンのインジケーター・ライトとインストルメント・パネルのブレーキ警告灯(!)が点滅します。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

エレクトリック・パーキング・ブレーキの自動ロック

ティプトロニックSセレクター・レバーが**D**、**R**または**M**の位置にあり、車両が停止状態で、運転席ドアが開いている場合、エレクトリック・パーキング・ブレーキがロックされます。

(P)ボタンのインジケーター・ライトとインストルメント・パネルのブレーキ警告灯(!)が点灯します。

インストルメント・パネルのインジケーター・ライトおよび警告灯に関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141 ページ）を参照してください。

緊急ブレーキ機能

ブレーキ・システムが故障した場合、エレクトリック・パーキング・ブレーキを使用して急制動をかけ、停車させることができます。

▷ (P)ボタンを押し続けてください。
  (P)ボタンのインジケーター・ライトとインストルメント・パネルのブレーキ警告灯(!)が点滅します。
  更に警告音が鳴り、マルチファンクション・ディスプレイに(P)が表示されます。
  緊急ブレーキ機能はボタンから手を放すと解除されます。

⚠ 警告 急減速

緊急ブレーキ機能が作動すると非常に高い制動力が発揮されます。周囲の走行を妨げる恐れがあります。

▷ 緊急ブレーキ機能は緊急時にのみ使用してください。
▷ 通常走行時に緊急ブレーキ機能を使用しないでください。

(!) ブレーキ警告灯

停車中にエレクトリック・パーキング・ブレーキが確実にかからない場合、(P)ボタンのインジケーター・ライトとインストルメント・パネルのブレーキ警告灯(!)が点滅します。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

フット・ブレーキ

⚠ 警告 ペダル操作の妨げ

不適切なフロア・マット、正しく固定されていないフロア・マット、またはその他の障害物はペダルの可動域を制限したり、またはペダル操作の妨げになる可能性があります。

▷ フロア・マットなどでペダルの動きを妨げないようにしてください。
  正しいサイズのすべり止め加工がされたフロア・マットが、ポルシェ正規販売店で入手できます。

⚠ 警告 ブレーキ・ブースターの機能停止

ブレーキ・ブースターは、エンジンがかかっているときのみ作動します。エンジンOFF時やブレーキ・ブースターの負圧が低下している場合は、ブレーキ・ペダルを踏み込むときに強い力が必要になります。

▷ ブレーキが故障した車両をけん引しないでください。

けん引およびけん引によるエンジンの始動に関するインフォメーション：

▷ 「けん引およびけん引によるエンジンの始動」（335ページ）を参照してください。

⚠ 警告 ブレーキ・ディスクに付着した水膜

激しい降雨時や水たまりを通過したとき、または洗車後は、ブレーキの効きが悪くなり、ペダルを強く踏まなければならない場合があります。

▷ ブレーキを乾燥させるため、後方の安全を確認した上で定期的にブレーキをかけてください。このとき、後方の交通状況に注意してください。

⚠ 警告 制動力の低下

凍結防止剤（塩分）が撒かれた道路や砂塵の多い道路を長距離にわたって走行すると、ブレーキ・ディスクやパッドが塩や砂で覆われて摩擦力が大幅に低下し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

ブレーキ・ディスクは鋳鉄合金製ですが、長期間にわたり車両を駐車したまま放置した場合、腐食は避けられません。その結果、ブレーキは「引きずり」を発生します。

腐食の程度や範囲、影響は、駐車していた期間、凍結防止剤（塩分）や砂塵の付着、洗車時に油脂溶剤を使用したかどうかなどの条件で変わります（ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ装備車を除く）。

▷ ブレーキ・ディスクの腐食を避けるため、「ブレーキを乾燥させてから」駐車してください（ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ装備車を除く）。

▷ ブレーキに気になるほどの不快感がある場合は、ポルシェ正規販売店でブレーキ・システムを点検してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ ブレーキの効きを持続するため、下り坂を走行するときは、タイミング良くギヤを落とし、エンジン・ブレーキを利用してください。
急な下り坂でエンジン・ブレーキの効果のみでは不十分な場合、間隔をおいてブレーキ・ペダルを踏んでください。ブレーキ・ペダルを連続して踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなります。

ブレーキ液とブレーキ液レベルに関するインフォメーション：

▷ 「ブレーキ・フルード」（300ページ）を参照してください。

ブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスク

ブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクの摩耗は、ユーザーの運転の仕方や使用環境によって大きく左右されるため、必ずしも走行距離には依存しません。

この車両の高性能ブレーキ・システムは、すべての速度域および温度下で、最適な制動効果が得られるように設計されています。
このため、特定の速度、ブレーキング力や車両を取り巻く環境（気温、湿度等）によってブレーキから異音が発生することがあります。

警告メッセージ

ブレーキ・パッドが摩耗限度に達すると、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

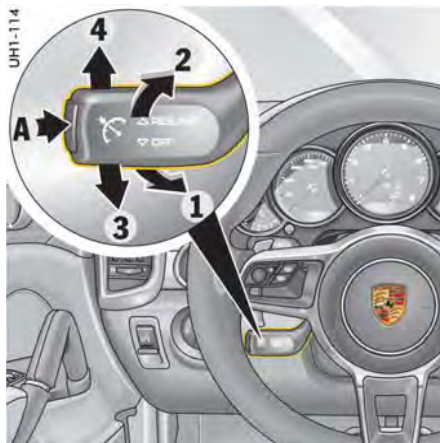
マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

▷ 直ちにポルシェ正規販売店でブレーキ・パッドを交換してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ(PCCB)

この車両の高性能ブレーキ・システムは、すべての速度域および温度下で、最適な制動効果が得られるように設計されています。
このため、特定の速度、ブレーキング力や車両を取り巻く環境（気温、湿度等）によってブレーキから異音が発生することがあります。
ブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクなどのブレーキ・システムおよび関連部品の摩耗は、ユーザーの運転の仕方や使用環境によって大きく左右されるため、必ずしも走行距離には依存しません。
ポルシェ社が使用している数値は、交通状況に合わせた通常の運転操作に基づいています。サーキット走行や過激な運転スタイルは、摩耗を大幅に促進させます。

▷ 車両をサーキット走行などに使用する場合は、現在のガイドラインについてポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

A - クルーズ・コントロールのON/OFF
1 - 加速/速度の設定
2 - 減速
3 - 中断(OFF)
4 - クルーズ・コントロールの再開(RESUME)

クルーズ・コントロール

クルーズ・コントロールを使用すると、約30～240km/hの範囲でアクセル・ペダルを踏まずに希望する速度を維持したまま走行できます。
クルーズ・コントロールは、ステアリング・コラム左下にあるレバーで操作してください。

インフォメーション

アクティブ・ブレーキ機能は、特に下り坂などで設定速度を維持するため、自動的に作動します。

⚠ 警告 危険な交通状況や路面状態が悪い状況での走行

前走車との車間距離を適切に保ちながら、一定速度で走行できない場合、クルーズ・コントロールを使用すると、事故を起こす恐れがあります。

▷ 激しい渋滞、カーブの多い道、路面状態が悪い場合（冬場の滑りやすい路面、濡れた路面、起伏の多い路面など）でクルーズ・コントロールを使用しないでください。

クルーズ・コントロールON（スタンバイ）

▷ クルーズ・コントロール操作レバーのボタン**A**を押してください。

クルーズ・コントロールON

クルーズ・コントロールがスタンバイ状態になると、マルチファンクション・ディスプレイに灰色のシンボル・マークが表示されます。

速度の設定（維持）

1. アクセル・ペダルの操作で希望する速度まで加減速してください。
2. ステアリング・コラムのクルーズ・コントロール操作レバーを前方（**1**の位置）に押してください。
   そのときの速度が保存され、自動的に維持されます。

設定速度

保存した速度がマルチファンクション・ディスプレイのシンボル・マークの下に表示され、全体が橙色になります。

加速（追い越しなど）

オプション1

▷ 通常走行と同じようにアクセル・ペダルを踏むと加速します。
アクセル・ペダルから足を放すと、設定速度に戻ります。

オプション2

▷ ステアリング・コラムのクルーズ・コントロール操作レバーを前方（**1**の位置）に押してください。
速度が1km/h単位で上がります。
または
ステアリング・コラムの操作レバーを希望の速度になるまで前方（**1**の位置）に押し続けてください。
速度が10km/h単位で上がります。

新しく設定した速度がマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

減速

▷ ステアリング・コラムのクルーズ・コントロール操作レバーを手前（**2**の位置）に素早く引いてください。
速度が1km/h単位で下がります。
または
ステアリング・コラムの操作レバーを希望の速度になるまで手前（**2**の位置）に引き続けてください。
速度が10km/h単位で下がります。

新しく設定した速度がマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

クルーズ・コントロールの中断(OFF)

クルーズ・コントロールを中断したときは、直前の設定速度が保存され、クルーズ・コントロール操作レバーを押すと設定速度を呼び出すことができます。

▷ 「クルーズ・コントロールの再開(RESUME)」(171ページ）を参照してください。

▷ 操作レバーを下方向（**3**の位置）に押してください。
または
ブレーキ・ペダルを踏み、更にティプトロニックSセレクター・レバーを**N**の位置にしてください。

クルーズ・コントロールが自動的に中断する条件：

– 設定速度より約25km/h以上速い速度で、20秒以上走行した場合
– ポルシェ・スタビリティ・マネージメント(PSM)が0.5秒以上作動した場合

クルーズ・コントロールの再開(RESUME)

▷ 操作レバーを上方（**4**の位置）に押してください。
保存されている設定速度まで加減速します。

インフォメーション

周囲の交通状況や路面状態が設定速度での走行に適しているときのみクルーズ・コントロールを再開させてください。

クルーズ・コントロールOFF

▷ クルーズ・コントロール操作レバーのボタン**A**を押してください。
設定速度が消去され、シンボルマークが消灯します。

駐車してイグニッションをOFFにすると、保存されている設定速度は消去されます。

インフォメーション

– クルーズ・コントロール作動中はPSMをOFFにすることはできません。警告メッセージは表示されません。
PSMがOFFのときにクルーズ・コントロールを作動させると、PSMは自動的にONになります。マルチファンクション・ディスプレイに「**PSM オン**」のメッセージが表示されます。
マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」(141ページ）を参照してください。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)を使用すると、前走車がいない場合に約30～210km/hの範囲でアクセルペダルを踏まなくても希望する速度を維持したまま走行できます。
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は自車と同一車線上に、設定した速度よりも遅い前走車を検出すると、あらかじめ設定した車間距離を自動的に維持するように速度を調節します。
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は前走車との車間距離が短くなると減速し、車間距離が長くなると設定速度の範囲内で加速します。

⚠ 警告 集中力の低下

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)により快適性は向上しますが、ドライバーは運転に責任を持ち、安全運転を心がけてください。ドライバーは、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が作動していても、安全な車間距離を保ち、適切なスピードで走行するなど、常に安全運転に努めてください。このシステムはドライバーの代わりになるものではありません。

▷ 十分注意して運転してください。
▷ アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の減速が不十分な場合は、直ちにフット・ブレーキをかけて車両を減速させてください。
▷ 常に車両がコントロールできるか確認してください。

⚠ 警告 危険な交通状況や路面状態が悪い状況での走行

交通状況により前走車との安全な距離を保って走行できない場合、または一定の車速で走行できない場合は、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)を使用すると事故を起こす恐れがあります。

▷ 激しい渋滞、道路工事区間、市街地、カーブの多い道、路面状態が悪い場合（冬場の滑りやすい路面、濡れた路面、起伏の多い路面）などでアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)を使用しないでください。

⚠ 警告 アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)により他の車両や障害物を検出できない場合

アダプティブ・クルーズ・コントロールは、停車中または低速走行中の車両、歩行者、路上の障害物、同一車線上の対向車、前方を斜め方向に横切る車両などを検出できません。

▷ 必要に応じて適切な運転操作をしてください。
▷ 進行方向の状況に常に気を配ってください。

レーダー・センサー

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は、フロント・バンパー中央（**矢印**）のレーダー・センサーを使用します。

⚠ 警告 レーダー・センサーの視界の妨げ

雨水、雪、氷、多量の水しぶきなどでレーダー・センサーの機能が阻害される場合があります。前走車を正しく検出できないことや、まったく検出できなくなることがあります。

▷ 上記のような状況下ではアダプティブ・クルーズ・コンロール(ACC)を使用しないでください。

例外

レーダー・センサーの汚れが激しい場合や雪などで覆われているとき、豪雨など悪天候のとき、トンネルを通過中などにアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が自動的に作動を停止することがあります。

このような場合、マルチファンクション・ディスプレイに「**ACC シヨウフカ センサーヨゴレセイソウスル**」のメッセージが表示されます。

▷ システムの正常な機能を維持するために、レーダー・センサーに付着した汚れ、氷、雪などを取り除いてください。

車両のお手入れについて：

▷ 「車両のお手入れ」(288ページ) を参照してください。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」(141ページ) を参照してください。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)機能の基本的な作動

前走車がいないとき – 一般道路での運転

アダプティブ・クルーズ・コンロール(ACC)はクルーズ・コントロールと同様に作動します。設定された希望の速度が常に維持されます。

前走車を検出したとき – フォロー・モード

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は、自車と同一車線上に希望した設定速度よりも遅い前走車を検出すると、あらかじめ設定した車間距離を自動的に維持するように速度を調節します。

前走車が停止すると、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の制御範囲内で減速して停車します。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は前走車が発進するまで停車状態を維持します。

前走車が発進すると、アダプティブ・クルーズ・コントロール（自動車速制御および自動車間距離制御）を再開することができます。

追い越し加速

アクセル・ペダルを踏むことにより、いつでも加速することができます。

設定速度よりも高速で走行すると、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が解除されます。

このとき、マルチファンクション・ディスプレイに「**ACC passive**（アダプティブ・クルーズ・コントロール停止中）」のメッセージが表示されます。

設定された希望の速度は保存されています。

アクセル・ペダルを放すと、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は、前走車がない場合は設定された速度まで加速し、前走車がある場合は車間距離を制御します。

「**ACC passive**（アダプティブ・クルーズ・コントロール停止中）」に関するインフォメーション：

▷ 「アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)ON時の作動モード」(175ページ) を参照してください。

インフォメーション

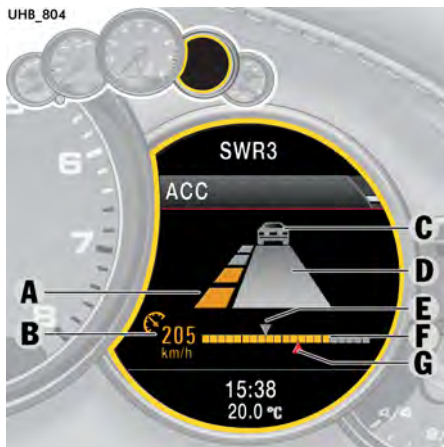
アダプティブ・クルーズ・コントロールがONの場合、前走車が停車すると車両が走行を停止し、エンジンが自動的に停止します（Cayenne S ディーゼル＊には適用されません）。

前走車が発進したとき、アクセル・ペダルを踏んでいるとき、またはクルーズ・コントロール/車間距離制御がコントロール・レバーの操作により再開されたときなどにエンジンが自動的に始動します。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)をOFFにすると、停止している車両のエンジンが自動的に始動し、ギヤが締結されている場合ゆっくり発進します。

オート・スタート/ストップ機能に関するインフォメーション：

▷ 「オート・スタート/ストップ機能」(164ページ) を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

A - 前走車との設定車間距離
B - ステータス表示/設定速度
C - 前走車を検出
D - 前走車との現在の車間距離
E - 前走車の現在の速度
F - 速度制御範囲のバー・グラフ(0～210km/h)
G - 現在の速度

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の表示

アダプティブ・クルーズ・コントロールに関するすべての重要な情報、メッセージおよび警告はマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

「ACC」メイン・メニュー

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのボタン操作により、マルチファンクション・ディスプレイにアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の操作画面を呼び出すことができます。

マルチファンクション・ディスプレイの使用に関するインフォメーション：

▷「マルチファンクション・ディスプレイの操作」（108ページ）を参照してください。

1. メイン・メニュー：「**ACC**」を選択してください。

ステータス・ディスプレイ

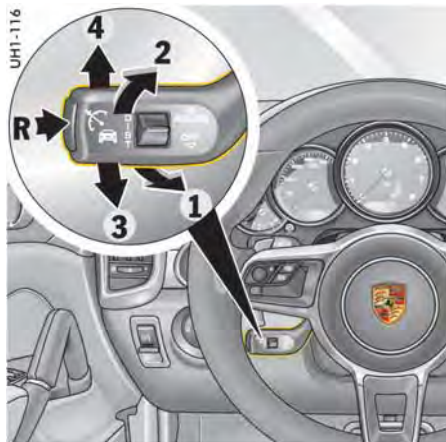
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)をONにすると、マルチファンクション・ディスプレイ左下にステータス・ディスプレイ**B**が表示されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロールが作動すると、ステータス・ディスプレイ**B**が橙色に変わります。
アダプティブ・クルーズ・コントロールの作動を中断すると、ステータス・ディスプレイ**B**が灰色に変わります。

例：

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)をON（スタンバイ状態）にすると、クルーズ・コントロールのシンボル・マークが表示されます。ただし設定速度を設定するまでは、速度表示が空欄になります。

設定速度を設定した後、前走車を検出していないときは、クルーズ・コントロールのシンボル・マークと設定速度が表示されます。

設定速度を設定した後で前走車を検出した場合、車両のシンボル・マークと設定速度が表示されます。

R - アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)のON/OFF
1 - 加速/速度の設定
2 - 減速
3 - 中断(OFF)
4 - スイッチON/クルーズ・コントロールの再開(RESUME)

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の操作

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は、ステアリング・コラム左下にあるレバーで操作してください。

 インフォメーション

フット・ブレーキまたはアクセル・ペダルを操作した場合、いつでもドライバーの意志が優先されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)のON/OFF

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)をONにする

▷ クルーズ・コントロール操作レバーのボタン**R**を押してください。
マルチファンクション・ディスプレイに灰色のシンボル・マークが表示されます。
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)はスタンバイ状態になります。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)をOFFにする

▷ クルーズ・コントロール操作レバーのボタン**R**を押してください。
マルチファンクション・ディスプレイにメッセージ「**ACC off (アダプティブ・クルーズ・コントロールOFF)**」が表示されます。
設定速度が消去されます。
設定距離が初期値（デフォルト値）にリセットされます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)ON時の作動モード

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)ON時には、3種類の作動モードがあります。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の作動

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が、速度および前走車との車間距離を自動的に制御します。
ステータス・ディスプレイ**B**が橙色になります。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)のスタンバイ

フット・ブレーキを踏んだときや、クルーズ・コントロール操作レバーを下方（**3**の位置、**OFF**）に押したときは、アダプティブ・クルーズ・コントロール（自動車速制御および自動車間距離制御）が解除されます。
設定された希望速度および設定距離は保存されています。
ステータス・ディスプレイ**B**が灰色になります。
アダプティブ・クルーズ・コントロール（自動車速制御および自動車間距離制御）の再開に関するのインフォメーション：

▷ 「アダプティブ・クルーズ・コントロール（自動車速制御および自動車間距離制御）の中断と再開」（178ページ）を参照してください。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の速度超過

アクセル・ペダルを踏み込むと、自動車速制御と自動車間距離制御が解除されます。
マルチファンクション・ディスプレイに「**ACC passive**（アダプティブ・クルーズ・コントロール停止中）」が表示されます。
設定された希望速度および設定距離は保存されています。
ステータス・ディスプレイ**B**が灰色になります。
アクセル・ペダルを放した後、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は再開されます。

速度の設定/設定速度の変更

前提条件

– アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)がON
– 車両が動いている
– 前方に静止した物体を検出していない

速度の設定

1. ステアリング・コラムのクルーズ・コントロール操作レバーを前方（**1**の位置）に押してください。
   そのときの速度が保存され、自動的に維持されます（30～210km/hの制御範囲内）。ステータス・ディスプレイ**B**が橙色になります。
   速度制御範囲のバー・グラフの下部に表示されている赤色の▲マーク**G**が、現在の速度を示しています。
2. アクセル・ペダルから足を放してください。
   自車よりも遅い速度の前走車が検出されるまで、設定速度が自動的に維持されます。

 インフォメーション

停止中に操作レバーを前方（**1**の位置）に押すと、マルチファンクション・ディスプレイに「**ACC フカ テイシャチュウ**」のメッセージが表示されます。
前方に静止した物体を検出すると、マルチファンクション・ディスプレイに「**ACC シヨウフカ ショウガイブツ**」のメッセージが表示されます。

設定速度を上げる

▷ ステアリング・コラムのクルーズ・コントロール操作レバーを前方（**1**の位置）に押してください。
速度が1km/h単位で上がります。
または
ステアリング・コラムの操作レバーを希望の速度になるまで前方（**1**の位置）に押し続けてください。
速度が10km/h単位で上がります。
ステータス・ディスプレイ**B**が新しく設定した速度を表示します。
速度制御範囲のバー・グラフの下部に表示されている赤色の▲マーク**G**が、現在の速度を示しています。

設定速度を下げる

▷ ステアリング・コラムのクルーズ・コントロール操作レバーを手前（**2**の位置）に素早く引いてください。
速度が1km/h単位で下がります。
または
ステアリング・コラムの操作レバーを希望の速度になるまで手前（**2**の位置）に引き続けてください。
速度が10km/h単位で下がります。
ステータス・ディスプレイ**B**が新しく設定した速度を表示します。
速度制御範囲のバー・グラフの下部に表示されている赤色の▲マーク**G**が、現在の速度を示しています。

車間距離の設定

前走車との車間距離を4段階に設定できます。

 インフォメーション

車間距離を設定すると、マルチファンクション・ディスプレイにアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の「**ACC**」メイン・メニューが一時的に表示されます。
最初にロッカー・スイッチ**Z**を操作すると、設定車間距離を変更することなく、「**ACC**」メイン・メニューが表示されます。

インフォメーション

実際の車間距離は速度に応じて変化します。速度が低いときは車間距離が短くなり、速度が高くなると車間距離が長くなります。

車間距離を長くする

▷ ロッカー・スイッチ**Z**を上方向に押してください。
設定車間距離が長くなります。
前走車との設定車間距離を示す橙色のセグメント**A**の数が増えます。

車間距離を短くする

▷ ロッカー・スイッチ**Z**を下方向に押してください。
車間距離が短くなります。
前走車との設定車間距離を示す橙色のセグメント**A**の数が減ります。

前走車との車間距離を表示する

前走車を検出すると、マルチファンクション・ディスプレイとステータス・ディスプレイ**B**に車両のシンボル・マーク**C**が表示されます。
灰色のゾーン**D**が、前走車との現在の車間距離を示します。

車間距離の設定オプション

走行速度が高い道路での走行に適した車間距離です。前走車との車間距離は1秒です。この場合、120km/hのときに約33mの車間距離になります。

少し余裕のあるドライビングに適した車間距離です。前走車との車間距離は1.3秒です。この場合、120km/hのときに約43mの車間距離になります。

デフォルト（初期設定値）
道路運行上の安全基準に即した車間距離です。前走車との車間距離は1.8秒です。この場合、120km/hのときに約60mの車間距離になります。

前走車との車間距離は2.3秒です。この場合、120km/hのときに約77mの車間距離になります。

自動ブレーキ制御での停止

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が作動しているときに前走車が停止すると、制御範囲内で減速して停車します。
インストルメント・パネルのインジケーター・ライトHOLDが点灯します。
車両は前走車が発進するまで停止状態を維持します。
HOLD機能に関するインフォメーション：

▷ 「HOLD機能：発進アシスタント、停止制御」（210ページ）を参照してください。

インフォメーション

– 周囲の交通の流れによっては（例えば、ゆっくりとした交通の流れの中では）、車両はゆっくりと徐行してから停車します。
– アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が正常に機能している場合や、HOLD機能が作動したときは、ブレーキ・ペダルの感触が変化したり、ブレーキ・システムの油圧作動音が聞こえることがあります。
これはシステムの正常な作動であり、故障ではありません。

再発進

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の作動モードに応じて、停車後に再発進し、自動車速制御と自動車間距離制御を再開することができます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の作動

1. ステアリング・コラムのクルーズ・コントロール操作レバーを上方 (**4**の位置、**RESUME**) に押してください。
   または
2. アクセル・ペダルを短く踏んでください。
   車両が自動的に再発進します。

 インフォメーション

前走車が停止しているときは発進できません。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)のスタンバイ

車両が動いているときのみ、自動車速制御および自動車間距離制御を再開することができます。

1. 通常の運転操作で発進してください。
2. ステアリング･コラムのクルーズ･コントロール操作レバーを上方 (**4**の位置、**RESUME**) に押してください。
   または
   速度を設定してください。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(自動車速制御および自動車間距離制御）の中断と再開

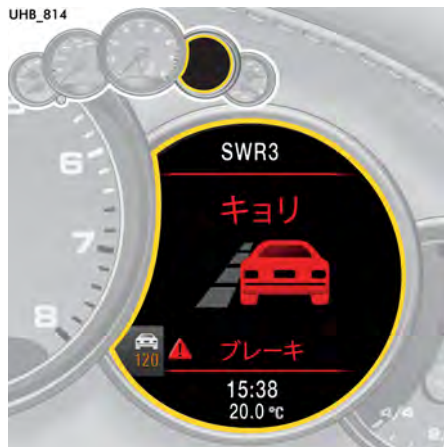
OFF（自動車速制御と自動車間距離制御の中断）

▷ ブレーキ・ペダルを踏んでください。
または
ステアリング・コラムのクルーズ・コントロール操作レバーを下方 (**3**の位置、**OFF**) に押してください。
アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の制御が中断されます。
設定された希望速度および設定距離は保存されています。

RESUME（自動車速制御と自動車間距離制御の再開）

▷ ステアリング･コラムのクルーズ･コントロール操作レバーを上方 (**4**の位置、**RESUME**) に押してください。
自車よりも遅い速度の前走車を検出し、あらかじめ設定した車間距離よりも接近するまでは、設定速度まで加速します。
ステータス･ディスプレイ**B**が灰色から橙色に変わります。
または
ステアリング･コラムのクルーズ･コントロール操作レバーを上方 (**4**の位置、**RESUME**) で保持してください。
通常よりもスポーティーなドライビング・スタイルで、設定速度まで加速します。

 インフォメーション

クルーズ・コントロール操作レバーを**3の位置** (**OFF**)に押して、自動車速制御および自動車間距離制御を中断した場合、発進後、前方に静止した物体を検出していないときのみ制御を再開できます。

警告メッセージ

アダプティブ・クルーズ・コントロール作動中 (ACC active) のドライバーへの運転操作の要求

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が作動しているときに、ドライバーのブレーキ操作が必要であると判断した場合、警告音が鳴り、マルチファンクション・ディスプレイに「**キョリ ブレーキ**」の警告メッセージが表示されます。

⚠ 警告

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)によるオート・ブレーキ時の不十分な制動力

このような場合、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)による制動力は衝突を回避するには不十分です。

▷ 直ちにブレーキをかけてください。

マルチファンクション･ディスプレイのメッセージ

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が自動的に解除されたときや、正常な作動を実行できないときは、マルチファンクション・ディスプレイに該当するメッセージが青色で表示されるか、警告メッセージが表示されます。

– **「ACC シヨウフカ センサーヨゴレ セイソウスル」**
  雪などでレーダー・センサーの機能が損なわれている場合、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は利用できません。
– **「ACC シヨウフカ ABS/PSMサドウ」**
  ABSやPSMが制御を実行しているため、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の制御が中断されました。
– **「ACC フカ Pブレーキモドス」**
  エレクトリック・パーキング・ブレーキが作動したため、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の制御が中断されました。
– **「ACC シヨウフカ セレクターレバー D/Mへ」**
  ティプトロニックSセレクター・レバーが**D**または**M**の位置にないため、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の制御が中断されました。
– **「ACC フカ テイシャチュウ」**
  停車中のため、要求した制御（速度の設定など）を実行できません。
– **「ACC シヨウフカ カイテンタカイ」**
  ティプトロニックSセレクター・レバーが**M**のマニュアル位置のときにエンジン回転数が許容限度に到達したため、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の制御が中断されました。
– **「ACC シヨウフカ キュウコウバイ」**
  坂道の傾斜度が大きすぎるため、速度または車間距離を設定できません。
– **「ACC シヨウフカ ショウガイブツ」**
  前方に静止物を検出したため、制御を実行できません。
– **「ACC シヨウフカ PSMオン」**
  PSMがOFFになっているため、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)を使用できません。
– **「ACC シヨウフカ ダカク オオキイ」**
  ステアリングの操作が速すぎます。
– **「ACC シヨウフカ」**
  ブレーキが過熱しているなどの状況にあるとき、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は利用できません。

ポルシェ･スタビリティ･マネージメント(PSM)に関するインフォメーション：

▷ 「ポルシェ・スタビリティ・マネージメント(PSM)」（204ページ）を参照してください。

一般的なインフォメーション

「スポーツ」および「スポーツ・プラス」モード

「スポーツ」および「スポーツ・プラス」モードでは、アダプティブ・クルーズ・コントロールが通常の制御よりも運動性能が向上した制御になります。

トレーラー車両のけん引

トレーラー車両をけん引しているときもアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)を使用できます。ただし、通常に比べて運動性能が低下します。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の例外

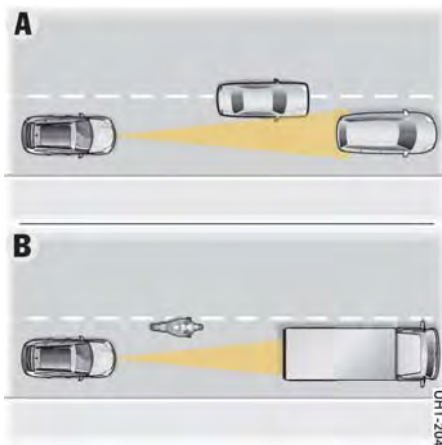
次のような状況では、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は**利用できません。**

– イグニッションがOFFのとき
– PSMがOFFのとき
– 運転席ドアが開き、運転席シートベルトを着用していないとき
– 駐車するとき、または非常に狭い場所を運転するとき
– エレクトリック・パーキング・ブレーキが作動しているとき
– ティプトロニック S セレクター・レバーが**N**、**R**または**P**位置にあるとき
– 上り坂や下り坂の傾斜が20%以上のとき
– ポルシェ・ヒル・コントロール（PHC）が作動中（またはスタンバイ状態）のとき

アダプティブ･クルーズ･コントロール(ACC)ON時に、上記のいずれかの例外状況があてはまる場合、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)がOFFになります。
マルチファンクション･ディスプレイに該当するメッセージが表示されます。

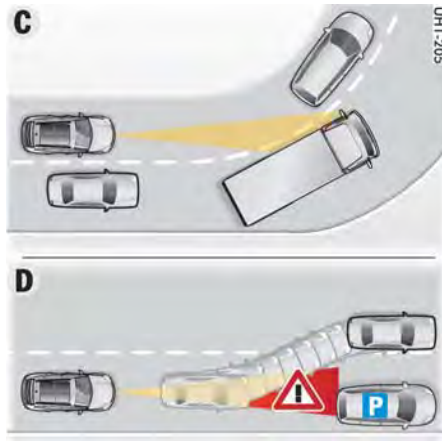
レーダー･センサーが前走車を正常に検出できない状況

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)のレーダー・センサーは、自車正面の比較的狭い範囲を円錐状に監視します。
このため周囲の道路状況や、前走車の大きさによっては、レーダー・センサーが前走車を検知できない、または検知が遅れる場合があります。その結果、アダプティブ・クルーズ・コントロールの制動が遅れたり、ブレーキが突然かかることがあります。停車中の車両は検出されません。アダプティブ・クルーズ・コントロールは停車中の車両に反応できません。

▷ 十分注意して運転してください。
▷ 必要に応じて減速してください。

A – 前走車の車線変更/前方への割り込み

隣の車線を走行する車両が車線変更したり、前方に割り込んだときは、自車と同一車線に完全に移動するまで、その車両を検出しません。

B – 投影面積が小さな車両/幅の狭い車両

小さな車両や幅の狭い車両は検出できないか、または検出のタイミングが遅れます。

C–コーナーへの進入/脱出

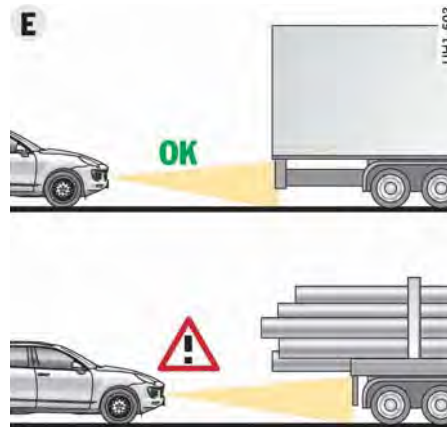
コーナーにさしかかったときは、前走車を検出できなかったり、早すぎるタイミングで検出する場合があります。また、隣の車線を走行する車両に反応する場合もあります。

D – 停車中の車両

レーダー・センサーの監視エリアに突然停車中の車両が現れたとき（前走車が車線変更したときなど）は、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)はその車両を検出しません。

⚠ 警告 停車車両の不検出

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)のレーダー・センサーは停車中の車両を検出しません。

▷ 十分注意して運転してください。

▷ 必要に応じて減速してください。

E – オーバーハングの長い車両

木材運搬トラックなどの車両後部は検出しません。

⚠ 警告 前走車後端の不検出

前走車に長いオーバーハングがある場合、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)のレーダー・センサーはその車両の後端を検出できないか、または正しく検出することができません。

▷ 十分注意して運転してください。

▷ 必要に応じて減速してください。

アクティブ·セーフティー – ポルシェ「アクティブ・セーフ」

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)・センサーは「ポルシェアクティブ・セーフ」機能に使用されます。

機能内容：

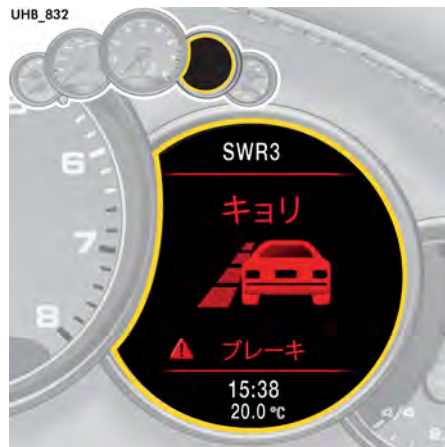
– **ブレーキ・システム・プレフィル**
  前走車に危険なほど近づいていることをレーダー・センサーが検出すると、ブレーキ・システムの圧力をあらかじめ少し高めてブレーキ・パッドをブレーキ・ディスクに軽く押し付け、制動時の応答性を向上させます。
– **ブレーキ・アシスト**
  前走車に危険なほど近づいていることをレーダー・センサーが検出すると、ブレーキ・アシスト機能の作動開始が早まります。ブレーキ・アシスト機能の作動は状況の危険度に応じて3段階で早まります。
– **ターゲット・ブレーキ**
  前走車に危険なほど近づいていることをレーダー・センサーが検出し、更にブレーキ制動力が不十分な場合、状況に応じてブレーキ圧力を増加します（必要に応じて最大の制動力まで）。

 インフォメーション

すべてのポルシェ「アクティブ・セーフ」機能は車速約30km/h以上で作動します。

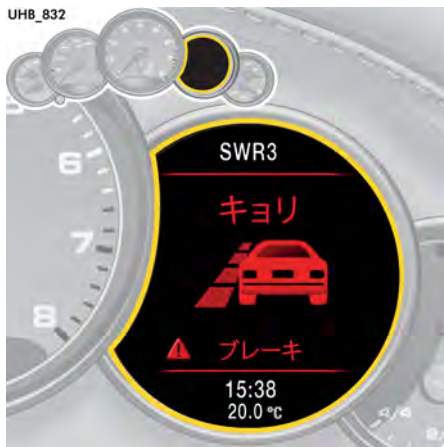
潜在的な警告 （表示）

車間距離が短い状態で長い時間走行している場合、前走車がブレーキをかけたときに衝突することを防ぐため、マルチファンクション・ディスプレイに潜在的な警告を表示してドライバーに警告します。

▷ 必要に応じて前走車との車間距離を十分に確保してください。

予期警告 （警告音、表示）

前走車に危険なほど近づいており、前走車と衝突しそうなことをレーダー・センサーが検出すると、警告音と表示で予期警告を行います。ドライバーに警告を促し、ドライバーが適切に対応することで衝突を回避できます。

⚠ 警告 車間距離の不足

前走車に追突する恐れがあります。

▷ 直ちにブレーキをかけてください。

緊急警告（警告音、表示、触知）

ドライバーが予期警告に対応せず、ブレーキをかけなかった場合、直ちに緊急警告が作動し、警告音と表示に加えてブレーキ振動で知らせます。

ブレーキ圧力を素早く高め、ブレーキ振動を発生させて警告します。これによりドライバーに交通状況を警告します。

ドライバーはこの危険な状況に適切に対応することで衝突を回避できます。

警告 車間距離の不足

前走車に追突する恐れがあります。

▷ 直ちにブレーキをかけてください。

 インフォメーション

下記の状況ではドライバーは慎重に運転していると想定され、予期警告や緊急警告機能は作動しません：

– 急カーブを走行しているとき
– ブレーキをかけているとき
– 追い越ししようとしている場合などドライバーが急加速したとき

ポルシェ「アクティブ・セーフ」警告のON/OFF

潜在的または予期警告機能は初期設定ではOFFになっています。緊急警告機能は作動状態になっています。

潜在的な警告と予期警告はマルチファンクション・ディスプレイの「**Prewarning on（予期警告ON）**」の設定で作動させることができます。

設定はイグニッションのON/OFFを切り替えても保存され続けます。

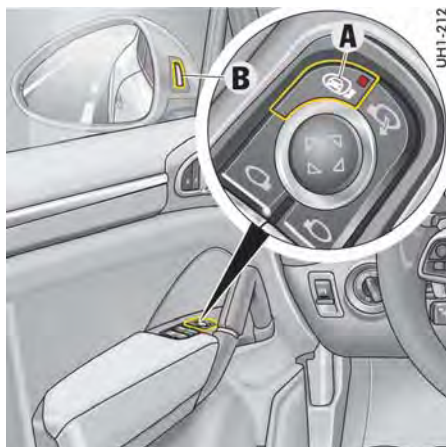
▷ 「ポルシェ・アクティブ・セーフ(PAS)」（131ページ）を参照してください。

規格との適合（欧州圏における）

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は周波数帯域77GHzで作動するレーダー・センサーを使用します。車両を使用する国によっては、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)をOFFにする必要があります。

用途に基づいて使用する場合、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が「欧州議会および理事会指令1999/5/EC」の§3および他の関連規約の基本要件に適合していることを承認します。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)は下記の国で使用できます。

– オーストリア、ベルギー、キプロス、チェコ共和国、デンマーク、エストニア、フィンランド、ドイツ、英国/北アイルランド、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、アイルランド、イタリア（サン・マリノ、バチカン市国）、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、スロバキア共和国、スロベニア、スペイン（アンドラ、バレアレス諸島、カナリア諸島）、スウェーデン、スイス

レーン・チェンジ・アシスト(LCA)

レーン・チェンジ・アシスト(LCA)はレーダー・センサーを使用し、車両後方の死角と交通状況をドライバーが確認することを補助します。

警告インジケーターは両方のドア・ミラーに組み込まれています。レーン・チェンジ・アシスト・システムが車両を検出したことを、車両を検出した側のドア・ミラーにある警告インジケーターを点灯させて表示し、車線変更を行う際の危険に注意を促します。

例えば、左ドア・ミラーの警告インジケーター**B**はドライバーが左車線に車線変更する際に役立ちます。

このインジケーターはドライバーがドア・ミラーを一目見ただけで気づくよう設計されています。

ドライバーが方向指示灯を操作し、レーン・チェンジ・アシストが危険とみなす車両を検出すると、ドア・ミラーの警告インジケーターが数回明るく点滅します。

レーン・チェンジ・アシストのON/OFF

レーン・チェンジ・アシストをONにする

▷ ボタン**A**を押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

レーン・チェンジ・アシストをOFFにする

▷ ボタン**A**を再度押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。

インフォメーション

レーン・チェンジ・アシストは高速道路や郊外道路での走行に役立ちます。このためシステムは約30～250kmの車速で走行する場合に機能します。

⚠ 警告 集中力の低下

レーン・チェンジ・アシストが装備されていても、走行中は周囲の状況に注意し、責任ある運転を心がけてください。車線変更の際は、特に注意を払ってください。

▷ ハンドルをしっかり持ち、周囲の交通状況に常に注意を払ってください。

⚠ 警告 レーダー・センサーの視界の妨げ

雨水、雪、氷、多量の水しぶきなどでレーダー・センサーの機能が阻害される場合があります。車両を正しく検出できないことや、まったく検出できなくなることがあります。

▷ ハンドルをしっかり持ち、周囲の交通状況に常に注意を払ってください。

⚠ 警告 車両が検出されない

センサーは状況により車両を検出できない場合があります。

レーン・チェンジ・アシストは高速で後方から接近する車両や遠ざかる車両に対しては、タイミング良く警告できない場合があります。

レーン・チェンジ・アシストは急カーブ（半径約100m未満のカーブ）では機能しません。

レーン・チェンジ・アシストは約30 km/h以上の速度で走行しているときにのみ、接近車両や死角エリアの車両をドライバーに警告します。

▷ ハンドルをしっかり持ち、周囲の交通状況に常に注意を払ってください。

インフォメーション

▷ レーン・チェンジ・アシストを適切に機能させるには：
リヤ・バンパーのレーダー・センサーの周囲（図を参照）をステッカー、バイク・キャリアなどで塞がないでください。この周囲から汚れや雪、氷も取り除いてください。

▷ ドア・ミラーの警告インジケーターをステッカーなどで覆わないでください。

▷ 運転席側または助手席側ドアのサイド・ウィンドウを着色フィルムで暗くした場合、ドライバーがドア・ミラーの警告インジケーターを視認しにくくなる可能性があります。

検出エリア

レーダー・センサーの検出エリア：

– 後方の約70mの範囲
– 死角エリア

レーダー・センサーは左右の隣接レーンを検出します。その他のレーンはレーダー・センサーで**検出されません。**

 インフォメーション

レーン・チェンジ・アシストはレーンの幅を測定しませんが、システムはレーンが固定した幅であると想定します。センサーはこの想定されたレーン幅で左右のレーンを検出します。

狭い道を走行するとき、またはレーンの中心以外を走行している場合、レーン・チェンジ・アシストはすぐ隣のレーンを走行している車両**以外**の車両を検出することがあります

作動原理

レーン・チェンジ・アシストは自車と検出した車両との距離および速度差を測定します。レーン・チェンジ・アシストがその速度差および距離から車線変更が危険と判断した場合、該当するドア・ミラーに表示します。

他車に追い抜かれるとき、または他車を追い越す場合に、警告インジケーターが点灯することがあります。

他車をゆっくり（速度差約15km/h未満）と追い越す場合、他車が死角エリアに入ったことをレーン・チェンジ・アシストが検出すると、直ちに警告インジケーターが点灯します。速度差がそれ以上の場合は、ドア・ミラーに表示されません。

インフォメーションおよび警告ステージ

レーン・チェンジ・アシストには2種類の警告インジケーター・ステージがあります：

– インフォメーション・ステージ
– 警告ステージ

レーン・チェンジ・アシストは、ドライバーが方向指示灯を操作することで車線変更の意思を表示した場合に該当する警告インジケーター・ステージを作動し、ドライバーを補助します。

インフォメーション・ステージ

ドライバーが方向指示灯を操作していない場合、レーン・チェンジ・アシストは検出した車両が車線変更の際に危険となりうると判断すると、ドライバーに知らせます。レーン・チェンジ・アシストが検出した車両との速度差および距離を危険と判断すると、該当するドア・ミラーの警告インジケーターが弱い光で点灯します。

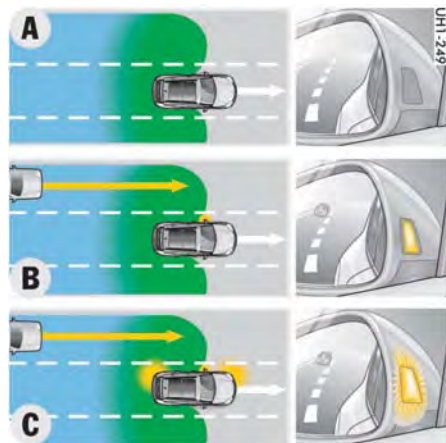
インフォメーション・ステージのインジケーターの明るさは、車線変更の意思がなく、路面を見て走行する際に眩惑しないよう意図的に弱くしてあります。インフォメーション・ステージの表示は、ドア・ミラーを見た際にはっきり確認できます。

警告ステージ

レーン・チェンジ・アシストはドライバーが方向指示灯を操作した場合に、車線変更するには危険とみなされる車両を検出すると、検出した側のドア・ミラーの警告インジケーターを明るく点滅させます。警告ステージの数回の明るい点滅は、ドア・ミラーを見るかまたは肩越しに確認するなど、再度周囲の交通状況を確認するよう促しています。

 インフォメーション

ドア・ミラーの警告インジケーターの明るさは変更可能です。

▷ 「ドア・ミラーの警告表示の明るさを調節する」（187ページ）を参照してください。

運転状況 – 高速で接近する車両

A – ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しない

センサーは車両を検出していません。ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しません。

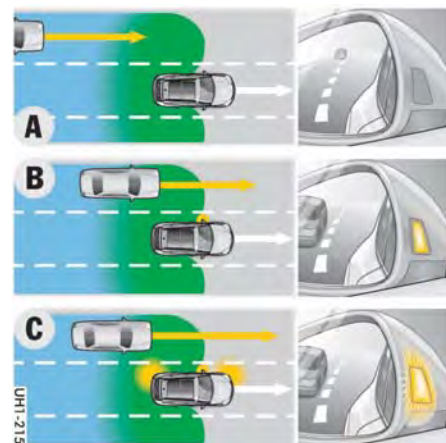
B – 警告インジケーターがインフォメーション・ステージで点灯する

センサーが高速で接近する車両を検出しました（図の例は左レーンを示しています）。車両との距離はまだ離れていますが、著しい速度差があるため、この車両はすでに車速変更を行うには危険と判断されます。ドア・ミラーのインジケーターが点灯します。

C – 警告インジケーターが警告ステージで点滅する

運転状況**B**でドライバーが方向指示灯を操作すると、ドア・ミラーの警告インジケーターが数回明るく点滅します。レーン・チェンジ・アシストはドライバーが車両を見落としている可能性があることを知らせます。

インフォメーション

– 車両がより高速で接近してくると、ドア・ミラーの警告インジケーターはより早いタイミングで点灯します。レーン・チェンジ・アシストによって検出されたすべての車両は、遅くとも「死角エリア」に入るまでにドライバーに警告されます。
– ドア・ミラーの警告インジケーターがまだ表示されていなくても、高速で接近する車両がある場合、車線変更は危険と考えられます。

運転状況 – ゆっくりと接近する車両

A – ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しない

センサーがゆっくりと接近する車両を検出しました（図の例は左レーンを示す）。速度差が小さくて車間距離が長い場合は、ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しません。

B – 警告インジケーターがインフォメーション・ステージで点灯する

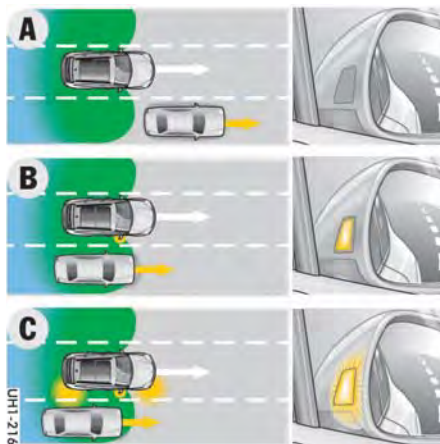
車両がゆっくりと接近してきています。ドア・ミラーのインジケーターが点灯します。

レーン・チェンジ・アシストがその速度差および距離から車線変更は危険と判断する場合のみ、ドア・ミラーに表示されます。レーン・チェンジ・アシストによって検出されたすべての車両は、遅くとも「死角エリア」に入るまでにドライバーに警告されます。

C – 警告インジケーターが警告ステージで点滅する

運転状況**B**でドライバーが方向指示灯を操作すると、ドア・ミラーの警告インジケーターが数回明るく点滅します。レーン・チェンジ・アシストはドライバーが車両を見落としている可能性があることを知らせます。

 インフォメーション

– 車両がより高速で接近してくると、ドア・ミラーの警告インジケーターはより早いタイミングで点灯します。レーン・チェンジ・アシストによって検出されたすべての車両は、遅くとも「死角エリア」に入るまでにドライバーに警告されます。
– ドア・ミラーの警告インジケーターがまだ表示されていなくても、高速で接近する車両がある場合、車線変更は危険と考えられます。

運転状況 – ゆっくりと遠ざかる車両

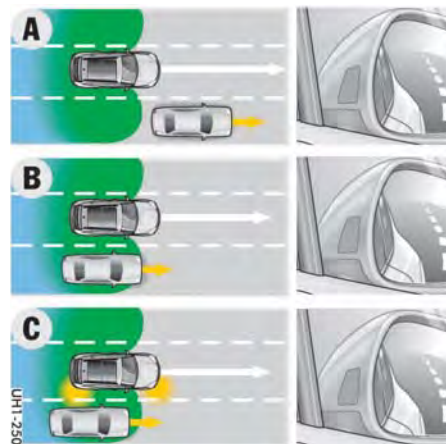
A – ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しない

レーン・チェンジ・アシストはドライバーが追い越した車両をまだ検出していません。ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しません。

B – 警告インジケーターがインフォメーション・ステージで点灯する

この例では、レーン・チェンジ・アシストはゆっくりと遠ざかる車両（速度差約15km/h未満）を右側車線で検出しました。ドア・ミラーのインジケーターが点灯します。

C – 警告インジケーターが警告ステージで点滅する

運転状況**B**でドライバーが方向指示灯を操作すると、ドア・ミラーの警告インジケーターが数回明るく点滅します。レーン・チェンジ・アシストはドライバーが車両を見落としている可能性があることを知らせます。

走行状況 – 高速で遠ざかる車両

A – ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しない

レーン・チェンジ・アシストはドライバーが追い越した車両をまだ検出していません。ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しません。

B – ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しない

この例では、レーン・チェンジ・アシストは高速で遠ざかる車両（速度差約15km/h以上）を右側車線で検出しますが、高速で遠ざかっているため車線変更を行う際の危険とはみなされません。ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しません。

C – ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しない

運転状況**B**でドライバーが方向指示灯を操作しても、ドア・ミラーの警告インジケーターは点灯しません。

ドア·ミラーの警告表示の明るさを調節する

警告インジケーター（インフォメーションおよび警告）は周囲の明るさによって自動的に調節されます。

必要に応じて、基本的な明るさをマルチファンクション·ディスプレイで調節することもできます。

▷ 「ドア・ミラーの警告表示の明るさを調節する」（132ページ）を参照してください。

周囲が非常に暗い、または明るい場合、インジケーターは明るさを自動輝度調整機能によって最低または最高レベルに調節しています。この場合、基本的な明るさを調節する際にドア·ミラーの警告インジケーターの明るさが著しく変化しない可能性があります。

周囲が非常に明るい、または暗い場所で基本的な明るさを変更した場合、周囲の明るさが適度な場所に戻るまで明るさの変化に気づかないことがあります。

 インフォメーション

明るさを調節している間はレーン・チェンジ・アシストは作動しません。警告インジケーターは明るさ設定の補助として短時間のみ点灯します。

レーン・チェンジ・アシストの例外

以下の場合、レーン・チェンジ・アシストは利用できません：

– レーン・チェンジ・アシストのレーダー・センサーが覆われていることが検出された場合
– トレーラー・ソケットにコネクタが接続されるた場合

システムの制限

レーン・チェンジ・アシスト・システムに関連する制限値は走行中に設定されます。

▷ カーブを走行するとき、および標準的な幅でない車線を走行するときは特に注意してください。

カーブを走行する

– レーン・チェンジ・アシストは急カーブでは車両を検出できません（約100m未満の半径のカーブ）。
– カーブを走行する場合、レーン·チェンジ·アシストは1つ離れたレーンを走行する車両に反応し、ドア·ミラーの警告インジケーターを点灯することがあります。

レーンの幅

– 標準的な幅のレーンの場合、ドライバーがレーンの中央部またはレーンの端を走行していても、レーン・チェンジ・アシスト検出エリアは1つ離れたレーン（左/右）も含むよう設計されています。
– 狭いレーンを走行する場合、検出エリアにはより多くのレーンが含まれます（特にレーンの端を走行している場合）。このような状況では1つ離れたレーンを走行する車両も検出されることがあり、レーン・チェンジ・アシストはインフォメーションまたは警告ステージに切り替える可能性があります。
– 同様に、非常に幅の広いレーンの場合は、検出エリアの範囲外であれば隣のレーンの車両も検出されないことがあります。

マルチファンクション·ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

インフォメーション

– レーン・チェンジ・アシストは急カーブ、凹凸のある道路、悪天候では機能が制限されることがあります。
– レーダー・センサーは車両以外の他の障害物（高いまたは隆起した中央分離帯など）を検出することがあります。
– レーン・チェンジ・アシストはレーンの幅を測定しませんが、システムはレーンが固定した幅であると想定します。センサーはこの想定されたレーン幅で左右のレーンを検出します。狭い道を走行するとき、またはレーンの中心以外を走行している場合、レーン・チェンジ・アシストはすぐ隣のレーンを走行している車両**以外**の車両を検出することがあります。

▷ 衝突修理後などレーダー・センサーの位置が変更された場合は、安全上の理由から必ずポルシェ正規販売店でレーン・チェンジ・アシスト・システムを点検してください。

規格との適合（欧州圏における）

レーン・チェンジ・アシストは2つの周波数帯域のいずれかにおいて、24GHzで作動するレーダー・センサーを使用します。

▷ 国によってはこの2つの周波数帯域のうち1つしか許可されていません。国別にポルシェ正規販売店で該当する許可された周波数帯域に設定するか、またはレーン・チェンジ・アシストを解除してください。

用途に基づいて使用する場合、レーン・チェンジ・アシストが「欧州議会および理事会指令1999/5/EC」の§3および他の関連規約の基本要件に適合していることを承認します。

レーン・チェンジ・アシストは下記の国で使用できます。

– オーストリア、ベルギー、キプロス、チェコ共和国、デンマーク、エストニア、フィンランド、ドイツ、英国/北アイルランド、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、アイルランド、イタリア（サン・マリノ、バチカン市国）、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、スロバキア共和国、スロベニア、スペイン（アンドラ、バレアレス諸島、カナリア諸島）、スウェーデン、スイス

制限速度表示＊

制限速度表示は、カメラ**A**を使用して、制限速度と追い越し禁止ゾーンの始点と終点を検出します。

交通標識はナビゲーション・システムの地図データと連動して評価され、マルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

濡れた路面、車線変更、時間、トレーラーけん引車両によって速度が制限されている場合、検出された追加標識の情報が車両に装備されている情報（レイン・センサー、ナビゲーション・データ、時刻、トレーラー・ヒッチなど）と同期されます。

制限速度表示は仕向け国によって異なるため、すべての国別仕様に適用されるわけではありません。ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)の制限速度表示に関するインフォメーションは、別冊の取扱説明書を参照してください。＊

＊ 日本仕様に設定はありません。

警告 集中力の低下

ドライバーは、制限速度表示に関係なく、適切な速度で走行するなど、常に安全運転に努めてください。このシステムは、あくまでも補助的な機能のため運転時には細心の注意を払ってください。
制限速度表示には、車両が制限速度を超過した場合の警告機能はありません。設定した制限速度に車両の速度を調整する機能でもありません。
▷ 十分注意して運転してください。
▷ 交通状況と車両周囲には常に注意を払ってください。
▷ 交通状況に応じた速度で運転してください。

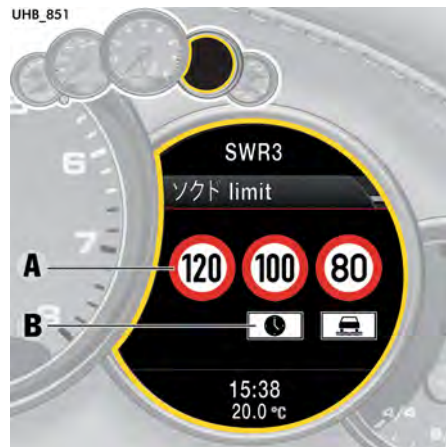
警告 交通標識を検出するカメラの不良

雨水、雪、氷、多量の水しぶき、対向車のヘッドライトなどでカメラの視界が低下すると、カメラは交通標識を検出できない、または正しく検出できない場合があります。このような場合、制限速度が表示されなかったり、誤った制限速度が表示される場合があります。マルチファンクション・ディスプレイに表示された制限速度よりも、実際の道路交通標識を常に優先して確認してください。
▷ 走行中は道路標識に常に注意を払ってください。
▷ 十分注意して運転してください。
▷ 進行方向の状況に常に気を配ってください。

インフォメーション

▷ カメラの作動を干渉する物がないことを確認してください：
ルーム・ミラー上のカメラの視界（図を参照）をステッカーなどで遮断しないでください。
▷ 正常な機能を維持するために、カメラの視界に付着した汚れ、氷、雪などを取り除いてください。
車両のお手入れについて：
「車両のお手入れ」（288ページ）を参照してください。

インフォメーション

交通標識がカメラによって検出されない場合、ナビゲーション・システムに保存されている制限速度が自動的に表示されます。

A - 主要交通標識
B - 補助標識

制限速度の表示＊

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのボタン、またはステアリング・コラム右下のレバー操作により、マルチファンクション・ディスプレイに制限速度の表示を呼び出すことができます。
最大3つの主要交通標識**A**と補助標識**B**を表示できます。最も優先順位の高い交通標識が左側に表示されます。
マルチファンクション・ディスプレイの使用に関するインフォメーション：
▷ 「マルチファンクション・ディスプレイの操作」（108ページ）を参照してください。

1. メイン・メニュー：「**ソクド limit**」を選択してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

イグニッションをONにした後、マルチファンクション･ディスプレイに有効な最新の制限速度が表示されます。

制限速度が検出されない場合（制限速度がない高速道路など）、「**No Speed Limit recognised**（制限速度が認識されない）」がマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

走行しているエリアで制限速度表示が使用できない場合、「**ソクドセイゲンInfo ハンイガイ**」が表示されます。

マルチファンクション･ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

インフォメーション

– 制限速度表示は、メイン・メニューまたはマルチファンクション・ディスプレイの上部ステータス・エリアに表示できます。
「上部のステータス･エリアの表示を変更する」（127ページ）を参照してください。
– 交通静音化対策地域または住宅街では、制限速度表示は「**5km/h**」と表示されます。
– 交通標識のない高速道路や幹線道路の入口／出口では、郊外道路の該当する制限速度が表示されます。

トレーラー用制限速度の表示

トレーラーけん引車両用の制限速度をマルチファンクション・ディスプレイに表示できます。

▷「トレーラーけん引中の制限速度表示＊」（132ページ）を参照してください。

速度制限表示の例外

以下の場合、制限速度表示の機能が制限されます：

– カメラがひどく汚れている、氷で覆われている、あるいは（ステッカーなどで）塞がれている場合
– 悪天候（豪雨など）
– 高速で走行している
– 交通標識が見えにくい状態、または損傷している

車線逸脱警告システム

車線逸脱警告システムは、気づかないうちに車線を逸脱していることを検出すると、警告音および表示によりドライバーに知らせます。

システムがONの場合でも、車線変更前に方向指示灯が作動していれば、ドライバーへの警告はなされません。

カメラ**A**が車線区分線を検出し、車線のコースを継続して再計算します。

約65km/h以上で走行中、システムが車線区分線との距離が危険な状態になったことを検出すると、警告音が鳴り、マルチファンクション・ディスプレイに該当する区分線がハイライトされます。

⚠ 警告 集中力の低下

ドライバーは走行中は常に（車線逸脱警告システムが有効になっている場合は特に）安全運転に努めてください。システム自体は車両を正しい車線に維持することも、ドライバーの継続的な集中力の代わりになることもありません。

▷ 十分注意して運転してください。
▷ 交通状況と車両周囲には常に注意を払ってください。
▷ 交通状況に応じた速度で運転してください。

⚠ 警告 車線を検出するカメラの不良

雨水、雪、氷、多量の水しぶき、対向車のヘッドライトなどでカメラの視界が低下すると、カメラは車線を検出できない、または正しく検出できない場合があります。そのため、システムが警告を出せなくなったり、誤って警告音を鳴らしたりする恐れがあります。

▷ 十分注意して運転してください。
▷ ハンドルをしっかり持ち、車線区分線に注意を払ってください。

インフォメーション

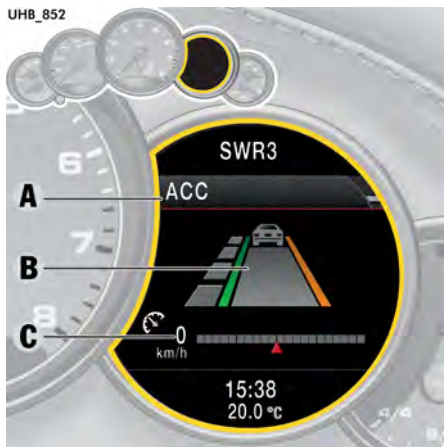
▷ カメラの作動を干渉する物がないことを確認してください：
ルーム・ミラー上のカメラの視界（図を参照）をステッカーなどで遮断しないでください。
▷ 正常な機能を維持するために、カメラの視界に付着した汚れ、氷、雪などを取り除いてください。
車両のお手入れについて：
「車両のお手入れ」（288ページ）を参照してください。

車線逸脱警告システムのON/OFF

車線逸脱警告システムをONにする

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
ドライバーが気づかないうちに車線を逸脱すると、警告音が鳴り、マルチファンクション・ディスプレイの該当する区分線が橙色になります。

車線逸脱警告システムをOFFにする

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
ドライバーが車線を逸脱しても警告は行われません。

A - ACCメイン・メニュー
B - 車線区分線の表示
C - ステータス・ディスプレイ

車線逸脱警告表示

すべての重要な情報、メッセージおよび警告はインストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)装備車では、車線区分線**B**が「**ACC**」メイン・メニュー**A**に表示されます。「**ACC**」メイン・メニューを選択していない場合、車線区分線はステータス・ディスプレイ**C**に表示されます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)非装備車では、この情報はステータス・ディスプレイ**C**にのみ表示されます。

車線逸脱警告システムが作動し、有効である場合、車線区分線は緑色になります。

車線逸脱警告システムが該当する車線区分線からの距離が危険な状態になったことを検出すると、該当する区分線が橙色になります。車線逸脱警告システムが無効である場合（走行速度が約65km/h未満、車線マークがないなど）は、車線区分線は灰色になります。

ACCメイン・メニュー

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのボタン操作により、マルチファンクション・ディスプレイにアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)の操作画面を呼び出すことができます。

マルチファンクション・ディスプレイの使用に関するインフォメーション：

▷ 「マルチファンクション・ディスプレイの操作」（108ページ）を参照してください。

1. メイン・メニュー：「**ACC**」を選択してください。

ステータス・ディスプレイ

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)非装備車、または「**ACC**」メニューを選択していない場合は、車線区分線はマルチファンクション・ディスプレイの左下のステータス・ディスプレイ**C**に表示されます。

「ACC」メイン・メニューの例：

車線逸脱警告システムがONで無効である場合、車線区分線は灰色になります。

車線逸脱警告システムがONで有効である場合、該当する車線区分線は緑色になります。

車線逸脱警告システムがONで有効である場合、ドライバーが気づかないうちに車線を逸脱すると該当する車線区分線が橙色になります。

ステータス・ディスプレイの例：

車線逸脱警告システムがONで無効である場合、車線区分線は灰色になります。

車線逸脱警告システムがONで有効である場合、両側の車線区分線が緑色になります。

車線逸脱警告システムがONで有効である場合に、ドライバーが気づかないうちに車線を逸脱すると、該当する車線区分線が橙色になります。

例えば、車線逸脱警告システムに加えてアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)をONにすると、ステータス・ディスプレイに両方のメッセージが表示されます。

警告タイミングおよび警告音量の調節

警告音が鳴るタイミングおよび音量はマルチファンクション･ディスプレイで個別に調節できます。

▷ 「車線逸脱警告システム」(133ページ) を参照してください。

車線逸脱警告システムの例外

以下の場合、車線逸脱警告システムは利用できません：

– 方向指示灯がON
– PSM作動中
– 走行しているカーブの半径が小さすぎる (約300m以下)
– ブレーキを踏む力が強すぎる
– 車線区分線が隠れている、はっきり見えない、または消えている
– カメラがひどく汚れている、氷で覆われている、あるいは（ステッカーなどで）塞がれている
– 悪天候（豪雨、薄暮など）

自動車電話＊、無線装置＊

▷ 自動車電話を使用する前に、必ず自動車電話の取扱説明書をお読みください。

▷ 運転中の電話の操作や通話については、各国の法律などを遵守してください。

⚠ 警告 運転中の自動車電話の使用

走行中、自動車電話を使用すると運転に対する注意力が低下することがあります。運転操作を誤る恐れがあります。

▷ 安全上の理由から、自動車電話での通話はハンズフリー・システムのみを使用してください。

⚠ 注意 電磁波

外部アンテナに接続せずに車内で自動車電話や無線装置を使用すると、車内の電磁波のレベルが限界値を超えることがあります。

▷ 自動車電話や無線機を使用するときは必ず車外に設置した外部アンテナに接続してください。

ポルシェ･コミュニケーション･システム（PCMおよびCDR）＊

▷ ポルシェ・コミュニケーション・システムを使用する前に、別冊の取扱説明書をよくお読みください。

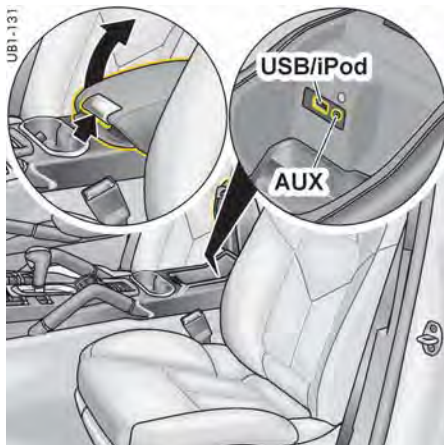
受信の状態

ポルシェ・コミュニケーション・システムPCMまたはCDRの受信状態は走行中、常に変化します。建物、地形および天候による受信障害は避けられません。

特にFMステレオは周囲の状況変化に敏感です。

電子アクセサリーの取り付けは、必ずポルシェ正規販売店で行ってください。

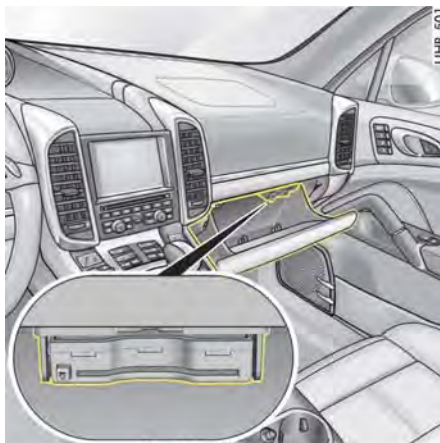
ポルシェ社がテストを実施し、承認したアクセサリーのみを使用してください。それ以外のアクセサリーを使用すると、ラジオの受信状態に悪影響を及ぼす恐れがあります。

＊ 日本仕様に設定はありません。

USB/iPod®およびAUX＊

USB/iPod®およびAUXインターフェースは、フロント・シート間の小物入れにあります。

▷ PCM 取扱説明書（別冊）の「外部オーディオ・ソース」の章を参照してください。

インフォメーション

車内は過酷な条件（気温の変化、湿度）になることがあるため、iPod®、USBメモリー、または外部オーディオ・ソースを長時間車内に放置しないでください。

ETC受信機

ETC本体、およびETC受信機は日本仕様では標準で装備されております。

▷ ETC本体はグローブ・ボックス内に取り付けられています。ご利用前にETC専用カードの利用期限を確認し、カードがスロットに確実に挿入されているか確認してください。

ボイス・コントロール＊

ボイス・コントロール・システムを使用すると、音声によるポルシェ・コミュニケーション・マネージメント(PCM)＊の操作ができます。

▷ 別冊の PCM 取扱説明書＊にある「ボイス・コントロール」の章を参照してください。

ボイス・コントロールの作動

▷ ボタンを押してください。
確認音が鳴り、最も重要な5種類の音声コマンドのヘルプ・テキストが、マルチファンクション・ディスプレイに表示されます。
音声コマンドを入力してください。

マルチファンクション・ディスプレイのヘルプ・テキストの表示/非表示については：

▷ 「マルチファンクション・ディスプレイにPCM インフォメーションを表示する＊」(128ページ) を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ポルシェ・カー・コネクト＊

スマートフォン･アプリケーション｢ポルシェ･カー・コネクト」を使用して、移動通信システムを利用して車両に接続することが可能です。これにより車両固有の情報をスマートフォン経由で直接読み取ることが可能になり、選択した設定をアプリケーションを使用して直接車両で実行することが可能になります。

ポルシェ・カー・コネクト・アプリケーションのインストール、機能および管理に関する詳細情報は www.porsche.com/connect またはポルシェ正規販売店から入手できます。

車両とアプリケーション間の通信の停止

車両とポルシェ・カー・コネクト・アプリケーション間の通信は、インストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイで作動/停止できます。

▷ 「ポルシェ・カー・コネクトの設定＊」（140ページ）を参照してください。

⚠ 警告 運転中の設定および操作

走行中にアプリケーションを使用すると、運転に対する注意力が低下することがあります。運転操作を誤る恐れがあります。

▷ 操作、設定は必ず車両を停止させてから行ってください。

インフォメーション

ポルシェ・カー・コネクト・アプリケーションを使用して車両固有データおよびその他の機能にアクセスすることができます。第三者の不正なアクセスからデータを保護してください。

インフォメーション

ポルシェ・カー・コネクト・アプリケーションを使用すると、データは移動通信システムにより送信されるため、サービス・プロバイダーから追加費用を請求される場合があります。

ティプトロニックS

ポルシェ・ティプトロニックＳは「オートマチック」モードと「マニュアル」ギヤシフト・モードを備えた8段変速オートマチック・トランスミッションです。

オートマチック・モード（セレクター・レバーが**D**の位置）では、変速が自動的に行われます。マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのシフト・パドルを操作することにより、一時的にオートマチック・モードからマニュアル・モードに切り替えることができます。

マニュアル・モード（セレクター・レバーが**M**の位置）では、マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのシフト・パドルの操作、またはセレクター・レバーを前後に押すことで変速できます。

セレクター・レバーの**D**と**M**の機能は、オンロード走行プログラムとオフロード走行プログラムで異なります。

セレクター・レバーの**D** と **M**は、走行中でも切り替えることができます。

現在のギヤは、**D**から**M**にシフトしてもそのまま維持されます。
Mから**D**にシフトした場合は、現在のドライビング・スタイルに適した変速特性が選択され、適切なギヤにシフトされます。

インフォメーション

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのシフト・パドルを誤って操作しないように注意してください。トランスミッションが思わぬタイミングで変速されます。

＊ 日本仕様に設定はありません。

セレクター・レバーの操作

イグニッションがOFFのときは、セレクター・レバーが動かないように固定されています。

セレクター・レバーは下記の一連の操作を行った場合のみ、**P** および **N**の位置から動かすことができます。

– イグニッションをONにしてください。
– ブレーキ・ペダルを踏んでください。
– ロック解除ボタン（**矢印**）を押してください。

ロック解除ボタン

セレクター・レバー前方のロック解除ボタン（**矢印**）は、ギヤ・シフトの誤操作を防止するための機構です。セレクター・レバーを**R**または**P**の位置にシフトするときは、このロック解除ボタンを押さなければなりません。

電気系統に故障がある場合は、セレクター・レバーを操作することができません。

▷ セレクター・レバーが動かなくなった場合の緊急ロック解除に関するインフォメーション：「セレクター・レバーの緊急操作」（202ページ）を参照してください。

始動

セレクター・レバーが**P** または **N** の位置にあり、ブレーキ・ペダルを踏んでいるときのみ、エンジンを始動できます。

 インフォメーション

Cayenne S E-Hybrid：
電動モーター走行のための作動条件（バッテリー電圧、温度など）が満たされている場合、内燃エンジンが始動していなくても車両はスタンバイ状態になります。

発進時

▷ エンジンがアイドリング状態で、ブレーキ・ペダルを踏んでいるときのみ、走行位置（**D**、**M**または**R**）にシフトしてください。

▷ セレクター・レバーを走行位置に動かすと車両がゆっくりと動き出します。発進の準備が整うまでブレーキ・ペダルから足を放さないでください。
HOLD機能が作動しているときは、車両がゆっくりと動き出すことはありません。
HOLD機能に関するインフォメーション：「HOLD機能：発進アシスタント、停止制御」（210ページ）を参照してください。

▷ ギヤを選択した後、ギヤがシフトされたことを感じるまで加速しないでください。

坂道での発進

坂道でドライバーがブレーキ・ペダルからアクセル・ペダルに踏み替えるとき、車両は保持され、ブレーキを放した後すぐにスムーズに発進できます。

▷ HOLD機能に関するインフォメーション：「HOLD機能：発進アシスタント、停止制御」（210ページ）を参照してください。

停止

▷ 信号待ちなど短時間の停車時は、セレクター・レバーを走行位置のまま保持し、ブレーキ・ペダルを踏んでください。

▷ 上り坂ではアクセル・ペダルを踏みながら停止位置を保つようなことはしないでください。ブレーキ・ペダルを踏むか、エレクトリック・パーキング・ブレーキを作動させてください。

▷ **車両から離れるときは、必ずエレクトリック・パーキング・ブレーキを作動させ、セレクター・レバーを**P**の位置にしてください。**

 インフォメーション

セレクター・レバー位置が**D**または**M**のとき、HOLD機能はエンジン作動時にブレーキを踏まない状態での上り坂の発進を容易にします。

▷ HOLD機能の使用に関するインフォメーション：「HOLD機能：発進アシスタント、停止制御」（210ページ）を参照してください。

駐車

▷ アクセル・ペダルは慎重に操作してください。

▷ 特に、狭い場所で駐車や移動をする場合は、フット・ブレーキを使用して速度を調節してください。

冬の走行

冬の滑りやすい急な坂道では、マニュアル・モード**M**の使用を推奨します。このモードでは、ホイール・スピンを誘発する変速が防止できます。

けん引による始動、けん引

▷ 「けん引およびけん引によるエンジンの始動」（335ページ）を参照してください。

セレクター・レバー・ポジション

セレクター・レバー・ポジション・インジケーターおよびギヤ・ポジション・インジケーター

エンジンがかかっているときに、セレクター・レバー位置および選択されたギヤが表示されます。

セレクター・レバーが2つのポジションの間にある場合

影響：

– インストルメント・パネルの対応するセレクター・レバー・ポジションが点滅します。

処置：

▷ フット・ブレーキをかけ、セレクター・レバーを正しい位置に動かしてください。

セレクター・レバー・ポジション

P – パーキング・ロック

セレクター・レバーを**P**の位置にすると、駆動輪は機械的にロックされます。

▷ 車両が完全に停止してからパーキング・ロックをかけてください。

▷ エレクトリック・パーキング・ブレーキをかけた**後に**パーキング・ロックをかけてください。また、エレクトリック・パーキング・ブレーキを解除する**前に**パーキング・ロックを解除してください。

▷ 車両から離れる前に必ずエレクトリック・パーキング・ブレーキをかけてください。

キーは、セレクター・レバーが**P**の位置にあるときのみ、抜き取ることができます。

R – リバース・ギヤ

▷ 車両が完全に停止し、ブレーキをかけてからシフトしてください。

N – ニュートラル

けん引するときや自動洗車機を使用するときなどは、セレクター・レバーを**N**の位置にしてください。

▷ エンジンがアイドリング状態で、ブレーキ・ペダルを踏んでいるときにのみ、走行位置（**D**、**M**または**R**）にシフトしてください。

インフォメーション

Cayenne S E-Hybrid：

電動モーター走行のための作動条件（バッテリー電圧、温度など）が満たされている場合、内燃エンジンが始動していなくても車両はスタンバイ状態になります。

D – オートマチック・モード

(D – ノーマル・モード)

▷ 「通常」の走行時には、セレクター・レバーの**D**の位置を使用してください。
車速とアクセル・ペダルの踏み込み方により、ギヤが自動的に切り替わります。

ドライバーの運転操作（燃費優先のドライビング・スタイルまたはスポーティーなドライビング・スタイル）（Cayenne S E-Hybridは除く）や、車両に作用する負荷（坂道など）に応じて、ギヤが切り替わるタイミングがエンジン低回転域から高回転域まで変化します。また変速の特性は、アクセル・ペダルの位置や車速、エンジン回転数や縦方向および横方向の加速、地形に応じて変化します。

▷ コーナー手前などで素早くアクセル・ペダルを戻すと、不必要なシフトアップを回避できます。

コーナリング中は横方向の加速度に応じて、エンジン回転数がレブリミットに達するまでシフトアップは行われません。

ブレーキを踏むと、減速の程度に応じてトランスミッションが早めにシフトダウンします。コーナー手前でブレーキをかけると、最適なギヤが選択されます。適切なギヤでコーナリングすることができます。これらの機能により、コーナリング後の加速時にシフトダウンする必要はありません。

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールでのギヤ・シフト

マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールのギヤ・シフト操作により、一時的にオートマチック･モード**D**からマニュアル･モード**M**に切り替えることができます。

次のような状況では、マルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールでのギヤ・シフトが役立ちます：

– カーブや市街地に入る前にシフトダウンしたいとき
– 下り坂でエンジン・ブレーキをかけるためにシフトダウンしたいとき
– 急加速時にシフトダウンしたいとき

次の場合は、マニュアル･モードが維持されます：

– コーナリング時（横方向の加速度に応じて）やオーバーラン時
– 車両が交差点などで停車した場合

次の場合は、オートマチック･モードに戻ります：

– コーナリング時やオーバーラン（惰性走行）時以外は、自動的に約8秒後
– 発進後

惰性走行モードで走行する

環境に配慮した運転をしたい時は、惰性走行モードで燃料を節約することができます。車両はエンジンを切り離した状態でエンジン・ブレーキの影響を受けることなく、アイドル回転数を維持したまま走行します。

自動惰性走行モードの作動条件

– セレクター･レバーが**D**位置で走行している
– オート・スタート/ストップ機能/惰性走行モードがONである
  Ⓐボタンのインジケーター・ライトがOFFになっている
– 「スポーツ」および「スポーツ･プラス」モードがOFFである
– PSMが作動している
– クルーズ・コントロールが作動していない
– エンジン、トランスミッション、バッテリーが作動温度に達している
– 穏やかな/エコ走行スタイル
– ゆるやかな上り/下り勾配

▷ ゆっくりとアクセル・ペダルから足を放してください。
  エンジンは切り離され、アイドル回転数で走行します。走行中、エンジン・ブレーキの効果は得られません。

惰性走行モードは、走行中、タコメーターにアイドル回転数が表示されることで認識できます。

 インフォメーション

スポーツ走行や素早くアクセル･ペダルを戻した場合は、エンジン･ブレーキを使用できるように惰性走行モードは抑制されます。急な登り坂では、傾斜の影響で惰性走行距離が短くなり、十分な燃料の節約ができないため、「惰性走行」が行われない場合があります。急な下り坂などでは、エンジン・ブレーキがかかっていても減速せず、オーバーラン・カットオフにより燃料が消費されないため、惰性走行モードの作動は抑制されます。

惰性走行モードを終了する/エンジン・ブレーキを使用する

▷ アクセル・ペダルまたはブレーキ・ペダルを踏んでください。
  または
  左シフト・パドル「–」を手前に引いてください。
  または
  セレクター・レバーでシフト・ダウンしてください。

惰性走行モードを手動で開始する

– **作動条件**：
  セレクター･レバーが**D**または**M**位置で走行している

惰性走行モードが抑制されている場合（スポーツ走行、アクセル・ペダルを急に放す、またはエンジン温度が非常に低い場合など）に、惰性走行モードを手動で開始することができます。

▷ アクセル・ペダルから足を放し、シフト・パドルまたはセレクター・レバーを使用して、可能な最も高いギヤにシフトしてください。

オート・スタート/ストップ・ボタンを使用した惰性走行モードのON/OFF

OFFにする

▷ Ⓐボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
惰性走行モードがOFFになり、エンジンの自動停止が抑制されます。

ONにする

▷ Ⓐボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。
惰性走行モードがONになり、車両が停車すると自動的にエンジンが停止します。

D – オフロード・モード（Cayenne S E-Hybridは除く）

トランスミッションがオフロード用の変速特性に切り替わります。

変速ポイントは様々な地形に対応して最適なコントロールができるように選択されます。

急な下り坂では、エンジン回転数が中速域に達するまでシフトアップは行われません。

オーバーラン時は、エンジン回転数がレブリミットに達するまでシフトアップは行われません。

インフォメーション

ノーマル・モード、スポーツ・モードおよびスポーツ・プラス・モードとは異なり、オフロード・モードのマニュアル・モード**M**ではエンジン回転数がレブリミットに達しても、自動的なシフトアップは行われません。

「スポーツ」モードが作動しているとき

トランスミッションがスポーティーな変速特性に切り替わります。ドライバーのスポーティーなドライビング・スタイルをいち早く認識し、そのときのドライビング・パフォーマンスに応じたギヤ・シフト時間になります。

減速時のシフトダウンが早いタイミングで実行されます（Cayenne S E-Hybridは除く）。また エンジン回転数が高いときでも、わずかな減速でシフトダウンされます。

▷ 「「スポーツ」および「スポーツ・プラス」モード」（215ページ）を参照してください。

「スポーツ・プラス」モードが作動しているとき

「スポーツ・プラス」モードでは、トランスミッションがレース・サーキットでの走行に適したシフト特性に切り替わります。

「スポーツ」モードと比べて、ギヤチェンジ性能が更に格段に向上します。

▷ 「「スポーツ」および「スポーツ・プラス」モード」（215ページ）を参照してください。

キックダウン

キックダウン機能はセレクター・レバーが**D**または**M**のときに機能します。

▷ 追い越し時などで大きな加速力が必要な場合は、アクセル・ペダルをフルスロットルよりも更に（キックダウンの位置まで）踏み込んでください。

車速とエンジン回転数に応じて、トランスミッションがシフトダウンされます。
そのギヤでのエンジン回転数の許容上限に達するまで、シフトアップされません。

パフォーマンス・スタート

パフォーマンス・スタートは停車状態から最大加速で発進することができるシステムです。

⚠ 警告 パフォーマンス・スタートを使用した発進

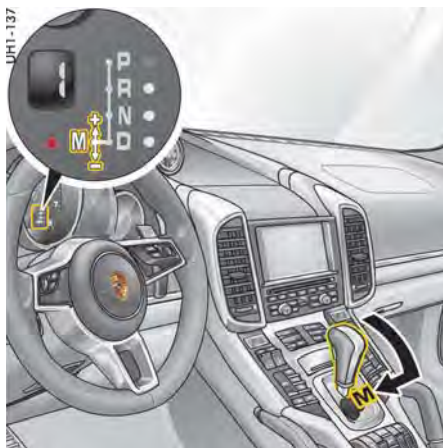
発進時にパフォーマンス・スタートが作動していると車両は非常に早く加速します。そのため、車両のコントロールが失われたり、他のドライバーに危険が及ぶ恐れがあります。

▷ パフォーマンス・スタートはサーキットでの使用をお薦めします。
▷ 路面状況や周囲の交通状況から判断して安全が確保できる場合に限ってパフォーマンス・スタートを使用してください。
▷ 他の通行者を危険にさらしたり、他人の迷惑になるような状況ではパフォーマンス・スタートを使用しないでください。

インフォメーション

– 通常の発進に比べて、最大加速での発進が構成部品に与える負荷は劇的に増大します。
– Cayenne S E-Hybrid：パフォーマンス・スタートは利用できません。

作動条件：
– パフォーマンス・スタートはエンジンが作動温度になってから使用してください。
– 「スポーツ・プラス」モードを ON にしてください（ボタンのインジケーター・ライトが点灯し、**SPORT PLUS**がデジタル・スピードメーターに表示されます）。

1. 左足で強くブレーキ・ペダルを踏んでください。
2. 素早くアクセル・ペダルをいっぱいに踏み込んで、そのまま保持してください（キックダウンが作動）。
   エンジン回転数が上昇します。
   インストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイに「**パフォーマンス スタートサドウ**」のメッセージが表示されます。
3. 数秒以内にブレーキ・ペダルを放してください。
   パフォーマンス・スタートが作動状態で長時間停車しているとトランスミッションに過負荷がかかります。
   トランスミッションの損傷を防ぐため、エンジン出力が制限されてパフォーマンス・スタートがキャンセルされます。

M – マニュアル・モード

現在のギヤは、**D**から**M**にシフトしてもそのまま維持されます。
Mから**D**にシフトした場合は、現在のドライビング・スタイルに適した変速特性が選択され、適切なギヤにシフトされます。

セレクター・レバーおよび上部ステアリング・ホイール・スポークの後ろのシフト・パドルを使用して、快適で正確な8速前進ギヤのシフト・チェンジができます。

シフトアップ (+)

▷ セレクター・レバーを前方に押すか、またはマルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールの右側シフト・パドルを手前に引いてください。

シフトダウン (–)

▷ セレクター・レバーまたはマルチファンクション・スポーツ・ステアリング・ホイールの左側シフト・パドルを手前に引いてください。

車速とエンジン回転数に応じて、いつでもシフトアップ/シフトダウンが可能です。

変速したときにエンジンの許容回転数（最高回転数または最低回転数）を超える場合は、変速が実行されません。

アイドル回転数に達する直前に自動的にシフトダウンされます。

▷ 上り坂ではエンジン・パワーを有効に使用できるように、また下り坂では十分なエンジン・ブレーキがかかるように、適切な低いギヤにシフトダウンしてください。

発進

発進時は1速または2速ギヤを選択できます。

エンジンが最高回転数に達したとき、自動的にシフトアップさせるためには：

▷ アクセル・ペダルをフルスロットルよりも更に（キックダウンの位置まで）踏み込んでください。

 インフォメーション

ノーマル、スポーツ、およびスポーツ・プラス・モード

セレクター・レバーが**M**の位置にあるときは、エンジンが最高許容回転数に達しても自動的にシフトアップされません。ただしノーマルおよびスポーツ・モードでは、キックダウンの操作により、シフトアップ禁止の制御をキャンセルすることができます。

車速とエンジン回転数に応じて、トランスミッションは最適な低いギヤにシフトダウンされます。

例えば、追い越し加速中などでエンジンが最高回転数に達したときでも自動的なシフトアップは実行されませんが、キックダウン操作を行うとシフトアップすることができます。

 インフォメーション

オフロード・モード

オフロード・モードでは、セレクター・レバーが**M**の位置にあるときは、キックダウン機能は使用できません。

例えば、追い越し加速中などでエンジンが許容最高回転数に達したときでも自動的なシフトアップは実行されません。右側シフト・パドル(+)を引くか、またはセレクター・レバーを短く(+)方向に押すことでのみシフトアップすることができます。

低燃費走行のためのシフトアップ・インジケーター

タコメーター内のデジタル・スピードメーター右横にあるシフトアップ・インジケーター**A**は、経済的な運転を促すシフトアップのタイミングを知らせます。

現在選択しているギヤ、エンジン回転数、アクセル・ペダルの踏み込み量に応じてこのインジケーターが点灯し、1段高いギヤにシフトアップする適切なタイミングをお知らせします。

シフトアップ・インジケーターは、「スポーツ」または「スポーツ・プラス」モードがOFFの場合のみ作動します。

▷ シフトアップ・インジケーターが点灯したときは、1段高いギヤにシフトアップしてください。

マニュアル・モードの故障

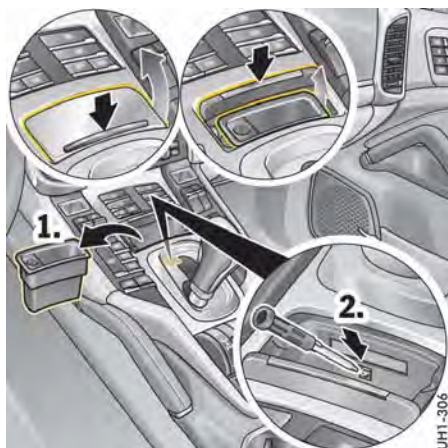
マニュアル・モードで異常が発生した場合は、電子制御システムによりオートマチック・モードに切り替わります。

このとき、インストルメント・パネルにセレクター・レバー位置**D**が表示されます。

▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

警告メッセージ/故障

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

セレクター・レバーの緊急操作

電気系統に故障が生じた場合、セレクター・レバー・ロックを**P**の位置から手動で解除することができます（車両のけん引など）。

1. フロント灰皿のインサートを取り外してください。
   「フロント灰皿/小物入れ」（230ページ）を参照してください。
2. ツール・キットのスクリュードライバーを緊急解除用の開口部（黄色のプラスチック部分）に差し込み、スプリングの反発力に対抗して押し下げてください。
   同時にセレクター・レバーのリリース・ボタンをしっかりと押して、セレクター・レバーを後方に引いてください。

トランスミッションおよびシャーシ・コントロール・システム

車両にはパワー・トランスミッションおよびシャーシに作用する全コントロール・システムで構築された、複合一体型システムが搭載されています。
この連携作動により、走行安全性を最大限に高めつつ優れたドライビング・パフォーマンスを実現します。
車両の装備仕様により、次のコントロール・システムが搭載されています：

システム/名称	適用
PTM ポルシェ・トラクション・マネージメント	– マップ・コントロール多板クラッチ付き電子制御4WDシステム（Cayenne S、Cayenne Sディーゼル＊、Cayenne Turbo） – フルタイム4WD（Cayenneディーゼル＊、Cayenne S E-Hybrid）
PSM ポルシェ・スタビリティ・マネージメント	– ドライビング・スタビリティ・コントロール – アンチロック・ブレーキ・システム(ABS) – ブレーキ・システム・プレフィル – ブレーキ・ブースター – オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル(ABD) – アンチ・スリップ・コントロール(ASR) – エンジン・ドラッグ・トルク・コントロール(MSR) – トレーラー・スタビリティ・マネージメント
PTVプラス ポルシェ・トルク・ベクトリング（Cayenne S、Cayenne Sディーゼル＊、Cayenne Turbo）	– スポーティーで俊敏なコーナリングのためのラテラル・ダイナミック・ブレーキング – 電子制御リヤ・ディファレンシャル・ロック
PDCC ポルシェ・ダイナミック・シャーシ・コントロール	– 走行中のロールを軽減して姿勢を安定させるアクティブ・シャーシ・コントロール・システム
PASM ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント	– 無段階補正コントロール付きショック・アブソーバー・システム
エア・サスペンション レベリング・システムおよび車高調整機能付き	– ショック・アブソーバー内蔵全荷重式エア・スプリング・ストラット – プレッシャー・アキュムレーター付きエア・サプライ・システム

＊ 日本仕様に設定はありません。

⚠ 警告 車両コントロールの喪失

トランスミッションおよびシャーシ・コントロール・システムの利点を過信せず、路面状況、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転を心がけてください。

走行安全性は向上しますが、無謀な運転は避けてください。シャーシ・コントロール・システムが装備されてていても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。また、速度の出し過ぎによる事故の危険性を低減することもできません。

▷ 路面、天候など、周囲の交通状況に合わせたドライビング・スタイルと速度で走行してください。

ポルシェ・トラクション・マネージメント(PTM)

ポルシェ・トラクション・マネージメント(PTM)は、フロントおよびリヤ・アクスルのすべての駆動輪に最適な出力配分を行います。
PTMは条件の悪い路面上での走破性を確保し、駆動力の分配を常に制御します。

PSMとは異なり、PTMは常時作動し、解除することはできません。

PTMの利点

– 車両のトラクション、走行安定性、ステアリング性能が大幅に向上します。
– 性能限界域で走行しているときのコントロール性が高まります。
– 直進安定性が向上します。
– 4WDの利点をフルに活用すれば、よりスポーティーな車両設定が可能です。
– 走行プログラムに基づき、最適な駆動トルク分配を行います。

ポルシェ・スタビリティ・マネージメント(PSM)

PSMは、過酷な走行条件下で車両を安定させるためのアクティブ・コントロール・システムです。

PSMの利点

– 様々な路面状況、運転状況で最適なトラクション性能と直進安定性を確保します。
– コーナリング中、ドライバーがアクセル・ペダルやブレーキ・ペダルから足を放したときの安定性の損失を補正します。この補正は、対横G限界に達するまで持続します。
– PSMは、車線変更や連続したカーブでの急なステアリング操作を行ったときなどに積極的に走行安定性を維持します。
– コーナリング中や変化に富んだ路面状況下でブレーキをかけたときの走行安定性を確保します。
– 急ブレーキをかけたときの制動力を高め、制動距離を短くします。
– トレーラー・スタビリティ・マネージメントが、トレーラー車両の不安定な挙動を検出して走行安定性を高めます。

作動条件

PSMは、エンジンを始動すると自動的にONになります。

機能

センサーが常に車両の状態を監視しています：

- 走行速度
- 作動方向（ステアリング角）
- 横方向加速度
- 縦方向加速度
- 上下軸の回転率

PSMはこれらの数値を利用して、ドライバーの望む進行方向を検出します。

PSMは、ステアリングの切れ角と実際の進行方向の偏差を検出し、その偏差を補正するため、必要に応じて個々のホイールにブレーキをかけます。更に必要であれば、エンジン出力の制御を行います。次の状況ではPSMがドライバーに危険を知らせ、路面状況や走行状態に応じた運転を促します：

- インストルメント・パネルのPSM警告灯が点滅します。
- 油圧ノイズが聞こえます。
- PSMがブレーキを制御することで、減速の度合いやステアリング操作力が変化します。
- エンジン出力が低下します。
- ブレーキ・ペダルが振動し、ペダルの位置が変化します。
  このような場合は最大の制動力を得るため、ブレーキ・ペダルを踏む力を弱めず、更に強く踏み込んでください。

PSMの作動例

- コーナリング中、「フロント・ホイールの横滑り」をセンサーが検出すると、エンジン出力を抑えます。更に、必要に応じてコーナー内側のリヤ・ホイールにブレーキをかけます。
- コーナリング中、リヤ・ホイールの横滑りをセンサーが検出すると、コーナー外側のフロント・ホイールにブレーキをかけ、軌道を修正します。
- ブレーキ予圧：
  ドライバーがアクセル・ペダルから素早く足を放すと、急ブレーキに備えてブレーキ・システムの圧力を少し高めます。このときブレーキ・パッドが弱い力でブレーキ・ディスクに押し付けられ、ドライバーが急ブレーキをかけたときに素早く制動力が立ち上がるようにします。
- ブレーキ・ブースター（油圧ブレーキ・アシスト）：
  急ブレーキ操作時にブレーキ・ペダルを踏む力が弱いと、ブレーキ・ブースターが4輪すべてのブレーキ・システムの圧力を高め最大の制動力をかけます。

PSMおよびPTVプラスの連動作動

車両の安定性を最大限確保するため、PTVプラス装備車でPSMの介入が発生した場合、リヤ・ディファレンシャル・ロックが調節されます。

PSMおよびPTMの連動作動

車両の安定性を最大限確保するため、PSMの介入により、フロントとリヤ・ホイール間で適切なトルク配分を行います。

PSMをOFFにしても、PTMに不具合が発生するとPSMは自動的にONになります。
ボタンを再度押すとPSMはOFFになります。

オフロードPSM（オフロード走行プログラムのPSM）

オフロード走行プログラムが作動した場合、特にオフロード走行に適したオフロードPSMが作動し、自動的にトラクションを強化します。

オフロード走行プログラムに設定されている場合、オフロードPSMの作動を遅らせ、低速走行時に様々な地形に対する安定性を向上させます。

オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル(ABD)

ABDシステムは、フロントおよびリヤ・アクスルを個別に制御します。いずれかのアクスルの一方のホイールが空転し始めると、そのホイールにブレーキをかけて、反対側のホイールの駆動力を確保します。

ABDは走行状況を検出し、適切な制御方法で作動します。水平な砂利道で発進する場合など、トラクションがほとんどかからない状況では、エンジン低回転域からトラクション・コントロールが作動します。上り坂での発進や急加速時など、大きな推進力が必要な場合、その状況に応じてABDシステムが作動します。

アンチ・スリップ・コントロール(ASR)

アンチ・スリップ・コントロールがエンジン出力を制御することで、ホイールのスリップを防ぎ、直進安定性やハンドリング性能が維持されます。

エンジン・ドラッグ・トルク・コントロール(MSR)

オーバーラン時、ホイールの空転が激しい場合、エンジン・ドラッグ・トルク・コントロールが駆動輪のロックアップを防ぎます。滑りやすい路面でシフトダウンした場合も同様です。

マルチコリジョン・ブレーキング

マルチコリジョン・ブレーキングは、事故が起こった際に自動的にブレーキをかけ、衝突後の車両の横滑りや多重事故のリスクを軽減し、ドライバーを補助します。

作動条件

マルチコリジョン・ブレーキングは以下の場合にのみ作動します：

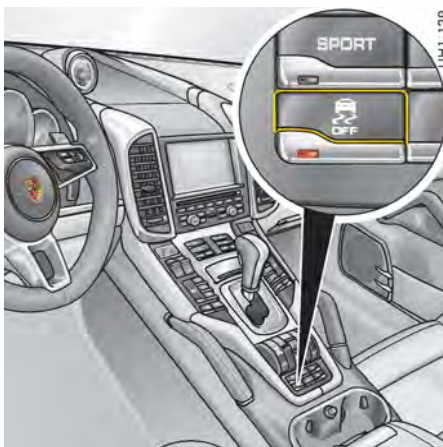
– 車両の前方、横方向および後ろからの衝突時
– エアバッグ・コントロール・ユニットが事故の際に作動しきい値を検出したとき
– 車速約10km/h以上で走行しているときに事故に遭った場合

 インフォメーション

事故後にPSMや電気系統に損傷がなく、作動可能な場合、PSMが自動的に油圧ブレーキを作動させます。

例外

以下の状況では自動的にブレーキが作動しません：

– ドライバーが急激にアクセル・ペダルを踏んだとき
– ドライバーがブレーキ・ペダルを踏み込んだときのブレーキ油圧がシステムのブレーキ油圧より強いとき

PSMをOFFにする

▷ ボタンを押してください。
ボタンを押してから実際にPSMがOFFになるまでには、若干の遅れがあります。
ボタンのインジケーター・ライトとインストルメント・パネルのPSM OFF警告灯が点灯します。
マルチファンクション・ディスプレイに「**PSM オフ**」のメッセージが表示されます。

車両の安定度に応じて、ブレーキ力が増加したとき、PSMがOFFの状態でも車両は安定性を維持します。

片方の駆動輪が空転すると、PSMをOFFにしていてもブレーキをかけて空転を抑制します。

警告 PSMアシストの停止

PSMをOFFにすると、ABS制御範囲外の走行状況でPSMサポートが行われません。

▷ 「通常」走行では常にPSMをONにすることを推奨します。

ただし次の場合は、例外として一時的にPSMをOFFにすることが有効です：

– ぬかるんだ路面（砂など）
– 深い積雪路
– ぬかるみなどから脱出するとき

 インフォメーション

– PSMをOFFにすると、ホイールの個別ブレーキ制御や、アンチ・スリップ・コントロール(ASR)の作動もOFFになります。
– PSM が OFF のときでもオートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル(ABD)は作動状態を維持します。
– PSMOFF時でもブレーキ・システム予圧機能が高い制動性能を維持します。
– PSM が OFF になっている場合、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)も解除されます。

PSMを再度ONにする

▷ ボタンを押してください。
直ちにPSMが復帰します。
ボタンのインジケーター・ライトとインストルメント・パネルのPSM OFF警告灯が消灯します。
マルチファンクション・ディスプレイに「**PSM オン**」のメッセージが表示されます。

「スポーツ・プラス」モード

「スポーツ・プラス」モードをONにすると、よりスポーティーな走行が可能となります。
PSMの作動はノーマル・モードより遅めになります。ドライバーは緊急時のPSMの介入を無効にすることなく、性能限界域で車両をより機敏に操ることができます。これにより、特にドライ・コンディションのサーキットではラップ・タイムの短縮に貢献します。

PSM警告灯

– イグニッションをONにすると、ライト作動点検のためにインストルメント・パネルのPSM警告灯が点灯します。
– この警告灯は、PSMが作動していることを示します。PSMがOFFにされているときでも、片方の駆動輪がスピンしてブレーキ制御した場合は点灯します。
– 警告灯およびマルチファンクション・ディスプレイの警告がPSMに不具合が発生したことを表示します。
  マルチファンクション・ディスプレイに「**PSM コショウ**」のメッセージが表示されます。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141 ページ）を参照してください。
▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。
▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

コラプシブル・スペア・ホイール

▷ コラプシブル・スペア・タイヤを装着して走行している場合は、PSMを解除しないでください。

けん引

▷ けん引に関するインフォメーション：「けん引およびけん引によるエンジンの始動」（335ページ）を参照してください。

トレーラー・スタビリティ・マネージメント

（国別仕様により異なる）

トレーラー・スタビリティー・マネージメントは、PSMの機能の一部です。
トレーラー・スタビリティ・マネージメントは、トレーラー車両の不安定な横揺れを検出します。このような危険な走行状況を検出すると、挙動が安定するまでフロント・アクスルのブレーキに個別にブレーキをかけます。ドライバーはこの時点ではまだトレーラー車両を加速させることができます。より大きな横揺れが発生した場合、トレーラー・スタビリティー・マネージメント機能は挙動が安定するまで車両にブレーキをかけます。
ただし、トレーラー・スタビリティ・マネージメントはあらゆる状況で走行安定性を確保できるものではありません。例えば滑りやすい路面やぬかるんだ路面では、トレーラー車両のジャックナイフ現象が発生する恐れがあります。トレーラー車両の重心位置が高いと、転倒する恐れがあります。

▷ この制御が作動したときは、慎重にステアリングを操作してください。
▷ トレーラー車両をけん引するときの運転に関するインフォメーション：「トレーラー車両のけん引」（247ページ）を参照してください。
▷ 最大けん引重量およびトレーラー車両の最大重量に関するインフォメーション：「重量（メーカー発表値）」（346ページ）を参照してください。

⚠ 警告 トレーラーのジャック・ナイフ現象

滑りやすい路面やぬかるみなどで、トレーラー車両のジャックナイフ現象（車両がトレーラーに押され制御できなくなる現象）が発生した場合、トレーラー・スタビリティ・マネージメントは、走行安定性を維持することができません。

▷ 路面状況に応じた適切な運転を心がけてください。

⚠ 警告 トレーラーの横転

トレーラー車両の重心位置が高いと、転倒する恐れがあります。

▷ 慎重に運転してください。

⚠ 警告 車両コントロールの喪失

トレーラー・スタビリティ・マネージメントを過信せず、路面状況、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転を心がけてください。
走行安全性は向上しますが、無謀な運転は避けてください。トレーラー・スタビリティ・マネージメントが装備されていても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。
トレーラー・スタビリティ・マネージメントは危険なスピードによる事故のリスクを減らすことはできません。

警告 速度超過

トレーラー車両をけん引するときは、道路条件、交通状況、路面状態、車両/トレーラー車両重量に合わせて適切な速度で運転してください。トレーラーけん引中の速度の出し過ぎは、車両およびトレーラーのコントロールを失う可能性があります。

▷ 地域の法律等を遵守してトレーラー車両をけん引してください。
▷ トレーラー車両を連結した場合の走行安定性は、速度が上がるにつれて悪化します。下り坂や悪路、悪天候（強風）のときは特に速度を落として運転してください。
▷ 長い下り坂では適切な低速ギヤに入れ、エンジン・ブレーキを使用してください。
▷ トレーラー車両のみに荷物を積まないでください。重量バランスを考慮し、けん引する車両にも荷物を積んでください。
やむを得ず、トレーラー車両のみに荷物を積載する場合は低速で走行してください。
▷ トレーラー車両が軌道から外れたときは、直ちに減速してください。カウンターステアで走行姿勢を保たないでください。必要に応じてブレーキをかけてください。車両とトレーラー車両の姿勢をまっすぐに立て直すために加速しないでください。

前提条件

- トレーラー･コネクターが接続され、トレーラー車両が検出されていること
- トレーラーのライト類（ライト、ブレーキ・ライト、インジケーター）が正常に作動すること
- 方向指示灯をセットすると、インストルメント･パネル上でトレーラーの方向指示灯インジケーター・ライトが作動すること
「タコメーターの警告灯およびインジケーター・ライト」（103ページ）を参照してください。
- トレーラー車両の整備状況が良好であること

作動条件

- トレーラー・スタビリティ・マネージメントは、PSMがONのときに約65km/h以上の速度で作動します。
▷ 地域の法律等を遵守してトレーラー車両をけん引してください。

インフォメーション

- PSMをOFFにすると、トレーラー･スタビリティ･マネージメントの作動もOFFになります。
- ブレーキ・ペダルを踏むと、PSMが解除されていてもトレーラー･スタビリティ･マネージメントが作動します。
- 電動可倒式トレーラー・ヒッチを搭載した車両は、ヒッチを完全に伸ばし、作動位置にしてください。

ポルシェ・トルク・ベクトリング・プラス（PTVプラス）

ポルシェ・トルク・ベクトリング･プラス（PTVプラス）はスポーティーで俊敏なコーナリングを可能にするラテラル･ダイナミック･ブレーキ制御システムと電子制御式リヤ･ディファレンシャル・ロックで構成されています。

PTVプラスは、コーナー内側のリヤ・ホイールへの穏やかなブレーキ制御によってステアリングのレスポンスおよび精度を向上させます。このブレーキ制御はドライバーには感じられません。車両はフロント・ホイールの舵角に正確に従います。限界域でのアンダーステアはほぼ完全に回避されます。これにより、耐横G性能が向上し、コーナリング・スピードが向上します。

電子制御式リヤ･ディファレンシャル・ロックは車両の走行状況を常時チェックし、最適な駆動トルクをリヤ・アクスルに配分します。以下の利点があります：

- トラクションの向上
- 高速コーナリング時の揺り返しの低減
- 高速走行時の走行安定性の向上
- リヤ・アクスルをしっかりとロックするため、オフロードでのトラクションも著しく向上します。
「オンロードおよびオフロード走行プログラム（オンロード/オフロード・モード）」（219ページ）を参照してください。

⚠ 警告 車両コントロールの喪失

PTVプラスを過信せず、路面状況、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転を心がけてください。

走行安全性は向上しますが、無謀な運転は避けてください。PTVプラス機能が装備されていても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。
PTVプラスは危険なスピードによる事故のリスクを減らすことはできません。

ポルシェ・ダイナミック・シャーシ・コントロール(PDCC)

機能

ポルシェ・ダイナミック・シャーシ・コントロール(PDCC)は、走行中の車両の傾き（ロール）を抑制するシステムです。

フロントおよびリヤ・アクスルのアンチロール・バーをアクティブに制御して、快適性と走行安全性を高めます。車両バランスと俊敏性が最適化されます。

PDCCシステムを個別にコントロールすることはできません。
ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)でシャーシの設定を選択した後：
– 「コンフォート」
– 「スポーツ」
– 「スポーツ・プラス」

PDCCが適切なオンロード走行プログラムを自動的に作動させます。

シャーシ設定の選択に関するインフォメーション：
▷ 「ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)」（212ページ）を参照してください。

オフロード走行プログラムをONにした場合、PDCCがオフロード機能を自動的に作動させます。
▷ オフロード/オンロード走行プログラム（オフロード/オンロード・モード）に関するインフォメーション：
「オンロードおよびオフロード走行プログラム（オンロード/オフロード・モード）」（219ページ）を参照してください。

⚠ 警告 車両コントロールの喪失

PDCCを過信せず、路面状況、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転を心がけてください。

走行安全性は向上しますが、無謀な運転は避けてください。PDCCが装備されていても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。
PDCCは危険なスピードによる事故のリスクを減らすことはできません。

警告メッセージ

システムに故障がある場合、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージ**「PDCCコショウ PSMオン ウンテンカノウ ソクドチュウイ」**が表示されます。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：
▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。
▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。
▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

油圧フルードの点検

油圧フルードの点検と交換は、定期的なメンテナンスの一部です。

メンテナンスに関するインフォメーション：
▷ 「メンテナンスの諸注意」（275ページ）を参照してください。

HOLD機能：発進アシスタント、停止制御

HOLD機能は、上り坂での停車時や発進時に、ドライバーの運転操作を支援します。
この機能により、車両の思わぬ後退を自動的に防ぎます。
HOLD機能が作動すると、メーター・パネルの表示灯HOLDが点灯します。

この機能により、ブレーキ・ペダルを踏んでいないときでも、車両の思わぬ後退を自動的に防ぎます。

アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が正常に機能している場合、HOLD機能は、自動ブレーキの後、停止した車両を保持します。

⚠ 警告 車両コントロールの喪失

HOLD機能を装備していても、車両の物理的限界を超えることはできません。上り坂で発進するときは、HOLD機能を過信せず、常に責任ある運転を心がけてください。
HOLD機能によるアシスタントは、滑りやすい路面（凍結路やぬかるみなど）で停止および発進するときは役立たないことがあります。この場合、発進時に車両がスリップする恐れがあります。

▷ 常に路面状況や車両負荷に応じた適切な運転を心がけてください。必要に応じてフット・ブレーキを使用してください。

HOLD機能が機能しないときは、坂道発進時にシステムが運転操作を支援することができません。

▷ フット・ブレーキをかけて停車してください。

 インフォメーション

– 車両がエレクトリック・パーキング・ブレーキで坂道に停止している場合、通常の運転操作で発進できます。
エレクトリック・パーキング・ブレーキはドライバーの発進操作を検出し、パーキング・ブレーキを自動解除します。
– HOLD　機能が作動中に運転席ドアを開いた場合、または運転席ドアが開いている状態でドライバーが運転席シートベルトを外した場合、エレクトリック・パーキング・ブレーキが自動的に作動します。
エレクトリック・パーキング・ブレーキに関するインフォメーション：

▷ 「エレクトリック・パーキング・ブレーキ」（167ページ）を参照してください。

HOLD機能の例外

次のような状況では、HOLD機能は利用できません：

– ティプトロニックSセレクター・レバーが**P**または**N**位置にあるとき
HOLD機能が作動中にティプトロニックSセレクター・レバーが動くと、HOLD機能は解除されます。
– 車両が停止していない
– エンジンが停止している
– 運転席ドアが開き、運転席シートベルトを着用していない
– 坂道の勾配率が5%以下

 インフォメーション

– 車両が停止している間に素早くブレーキ・ペダルを踏み込むと、勾配に関係なくHOLD機能が作動します。
– この機能により、ブレーキ・ペダルを踏んでいないときでも、車両が動きだすことを防ぎます。
この場合、セレクター・レバーを操作しても、HOLD機能は解除されません。
– アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)が正常に機能している場合や、HOLD機能が作動したときは、ブレーキ・ペダルの感触が変化したり、ブレーキ・システムの油圧作動音が聞こえることがあります。これはシステムの正常な作動であり、故障ではありません。
– ブレーキを使用せずに急な上り坂で車両を停止した場合、HOLD機能で車両が維持される前に後退する恐れがあります。このような状況では、ドライバーはフット・ブレーキを踏んで後退を抑制することができます。

▷ フット・ブレーキをかけて制動力を上げることで、車両の停止維持を補助してください。

ABSブレーキ・システム（アンチロック・ブレーキ・システム）

⚠ 警告 車両コントロールの喪失

ABSを過信せず、路面状況、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転を心がけてください。
走行安全性は向上しますが、無謀な運転は避けてください。ABSが装備されていても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。
ABSは危険なスピードによる事故のリスクを減らすことはできません。

ABSの特徴：

– **ステアリングの操作性の確保**
  安定したステアリング・コントロール性能を維持します。
– **優れた走行安定性**
  ホイール・ロックによるスリップを回避します。
– **制動距離の短縮**
  ほとんどの状況で、ブレーキをかけたときの制動距離が短くなります。
– **ホイール・ロックの回避**
  ホイールがロックしたときに生じるタイヤのフラット・スポットを回避できます。

機能

ABSが最も効果を発揮するのは、緊急回避が必要な状況でブレーキをかけたときです。このような状況下でABSは走行安定性を確保し、安定したステアリング・コントロール性を維持します。
ABSは、あらゆる路面状況下での急ブレーキ時、車両が停止する直前までスリップ（ホイール・ロック）を回避します。
ホイールのロック点付近でブレーキをかけたとき（急ブレーキ時）にABSは作動し始めます。このときドライバーは、ABSのコントロール状況（大変小刻みなポンピング・ブレーキをかけるような状態）をブレーキ・ペダルの脈動とノイズから感じ取ることができます。
この脈動やノイズは、ドライバーが道路状況に対してスピードを調整する警告の役目をします。

▷ 急ブレーキ操作が必要な場面では、安全な速度になるまでしっかりとブレーキ・ペダルを踏み続けてください。ABSが作動してブレーキ・ペダルが振動しても、ペダルを踏む力をゆるめないでください。

ABS警告灯

エンジン作動中もインストルメント・パネルにABS警告灯が点灯する場合、何らかの不具合によりABSの作動がOFFになっていることを示します。
マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージ「**ABS/PSM コショウ ウンテンカノウ ソクドチュウイ**」が表示されます。
マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

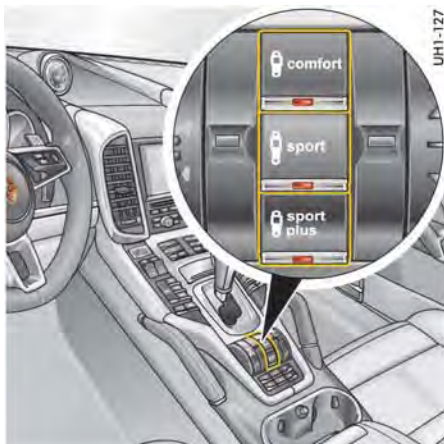
▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

この場合、ブレーキ・システムは**ロックを回避できない状態**、つまりABSを装備していない車と同じ作動になります。

▷ 制動性能の変化に合わせて慎重に運転してください。
  更に思わぬ悪影響を及ぼすような不具合の発生を防止するため、ポルシェ正規販売店でABSの点検を受けてください。
  ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ABSコントロール・ユニットは、ポルシェ社が認可した正規サイズのタイヤに合わせてプログラム調整されています。
不正なタイヤを使用した場合、プログラムと異なったホイール回転速度が検出され、ABSがOFFになることがあります。

オフロードABS
（オフロード走行プログラムのABS）

オフロード走行プログラムが作動した場合、特にオフロード走行に適したABS設定が自動的に作動します。
ぬかるんだ路面上でブレーキをかけた場合、ABSの許容スリップ値が上がり、オフロードでの制動距離が短縮されます（ホイールが路面に食い込む）。
ドライバーがステアリングを操作する必要がある場合は、オフロード走行プログラムが自動的に解除され、ステアリング操作ができるようになります。

ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)

PASMはショック・アブソーバーをアクティブに調整します。アジャスタブル・ダンパー・システムは、走行状態や条件に応じて適切なダンパー・レベルを選択します。走行安全性、俊敏性、および快適性
が最適化されます。

ボタンの操作で、3種類のシャーシ設定を選択できます：

- 「コンフォート」
- 「スポーツ」
- 「スポーツ・プラス」

コンフォート・モードでは快適な乗り心地のシャーシ設定になります。

「スポーツ」シャーシ設定ではスポーティーなショック・アブソーバー設定になります。

「スポーツ・プラス」モードでは、サーキットでの走行などに特化したよりスポーティーなショック・アブソーバー設定になります。

走行状況に合わせて、マニュアル・モードに加えて、PASMもショック・アブソーバーを調整し、スポーティーまたは快適な走行を可能にします。

シャーシ設定の選択

1. イグニッションをONにしてください。
2. 適切なボタンを押してください。
   選択したシャーシ設定のインジケーター・ライトが点灯します。

更に、選択したシャシー設定はマルチファンクション･ディスプレイに約5秒間表示されます。

インフォメーション

イグニッションをOFFにすると、そのとき選択しているシャーシ設定がメモリーに保存されます。

警告メッセージ

システムに故障がある場合、マルチファンクション･ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

マルチファンクション･ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。

▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

エア・サスペンションおよびレベル・コントロール付きポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)

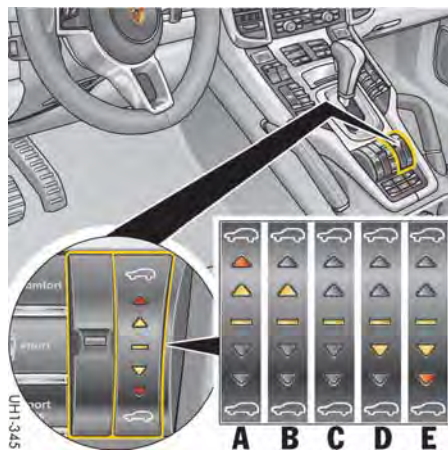
エア・サスペンションおよびレベリング・システム付きポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)装備車では、「コンフォート」、「スポーツ」および「スポーツ・プラス」のシャーシ設定に加えて、5つのレベルに車高を手動で設定できます。

事前に選択された車高レベルは、車速に応じて自動的に調整されます。

重い荷物を積んでいても、車高は自動的に一定の高さに調整されます。各レベルはエンジン作動中にのみ設定することができます。

インフォメーション

- 車両をオフロード・レベルまたはスペシャル・オフロード・レベル設定で公道を走行しないでください。
- レベルを何度も切り替えると、コンプレッサーがオーバーヒートすることがあります。この場合、コンプレッサーが冷えるまで数分間待ってから、レベリング・システムを再度正常に機能させてください。コンプレッサーが冷えると、システムは選択したレベルに自動的に調整します。
- ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)の「コンフォート」、「スポーツ」および「スポーツ・プラス」シャーシ設定に関するインフォメーション：

▷ 「ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)」（212ページ）を参照してください。

A - スペシャル・オフロード・レベル
B - オフロード・レベル
C - ノーマル・レベル
D - ロー・レベル
E - ローディング・レベル

車高のマニュアル設定

前提条件

– エンジンをONにしてください。
– すべてのドアを閉じてください。

車高を上げる

▷ ロッカー・スイッチを前方⬆に短く押してください。
車高が1レベル上がります。

車高を下げる

▷ ロッカー・スイッチを後方⬇に短く引いてください。
車高が1レベル下がります。

 インフォメーション

– イグニッションをOFFにすると、そのとき選択しているレベルがメモリーに保存されます。
– ドアが開いている場合、車高を上げる/下げることはできません。ドアを閉じてからレベルの設定を行ってください。

選択したレベルの表示

選択したレベルはロッカー・スイッチ横のインジケーター・ライトで表示されます（**図を参照**）。

調整プロセス中にロッカー・スイッチ横の該当するインジケーター・ライトが点滅します。その後点灯状態になります。
レベル変更はマルチファンクション・ディスプレイにも表示されます。

例外

ノーマル・レベルからロー・レベルに、またはその逆に自動的に変更された場合は、マルチ・ファンクション・ディスプレイには表示されません。

警告メッセージ

システムが故障した場合、インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに様々なメッセージが表示されます。

▷ マルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージに関するインフォメーション：
「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。

▷ システムの故障修理に関しては正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

スペシャル・オフロード・レベル（ハイ・レベルII）

この設定は最も地上高が必要とされる特に厳しい地形でのみ使用してください。ノーマル・レベルから約58mm（フロント・アクスル）、55mm（リヤ・アクスル）高い設定になっています。

スペシャル・オフロード・レベルは、約30km/h以下の車速でのみ選択することができます。

車速が約30km/hを超えると、車高は自動的にオフロード・レベルまで下がります。

オフロード・レベル（ハイ・レベルI）

このレベルはオフロード走行や野原、林道などに適しています。

ノーマル・レベルから約28mm（フロント・アクスル）、25mm（リヤ・アクスル）高い設定になっています。

オフロード・レベルは車速約80km/h以下で走行している場合にマニュアルでのみ設定できます。

車速が約80km/hを超えると、車高は自動的にノーマル・レベルまで下がります（オフロード走行プログラム作動時は110km/h）。

オフロード走行プログラムを作動させると、車高は自動的にオフロード・レベルまで上昇します。

オフロード/オンロード走行プログラム（オフロード/オンロード・モード）に関するインフォメーション：

▷ 「オンロードおよびオフロード走行プログラム（オンロード/オフロード・モード）」（219ページ）を参照してください。

ノーマル・レベル

ノーマル・レベルの地上高は約190mmです。

ロー・レベル

このレベルは高速走行に適しています。車速が約160km/hを超えると、車高は自動的にノーマル・レベルから約22mm（フロント・アクスル）、25mm（リヤ・アクスル）下がります。

車速が10秒以上約138km/hを超えた場合も、車高は自動的に下がります。

車速がおよそ10秒間約80km/hを下回ると、車高は自動的にノーマル・レベルまで上がります。車速が約40km/hを下回ると、すぐに車高は自動的にノーマル・レベルまで上がります。

インフォメーション

センター・コンソールにあるロッカー・スイッチを使用してロー・レベルをマニュアル設定した場合、車速が約40km/hを下回ってもロー・レベルは作動し続けます。

ロー・レベルII

このレベルは高速走行に適しています。車速が40秒以上約210km/hを超えると、車高は自動的にノーマル・レベルから約32mm（フロント・アクスル）、35mm（リヤ・アクスル）下がります。

車速がおよそ60秒間約170km/hを下回ると、車高は自動的にロー・レベルまで上がります。車速が約120km/hを下回ると、すぐに車高は自動的にロー・レベルまで上がります。

ローディング・レベル

この設定はラゲッジ・コンパートメントへの積載を容易にするものです。ノーマル・レベルから約32mm（フロント・アクスル）、48mm（リヤ・アクスル）低い設定になっています。

車速が約5km/hを超えると、車高は自動的にノーマル・レベルまで上がります。

センター・コンソールのロッカー・スイッチに加えて、ローディング・レベルはラゲッジ・コンパートメント右側トリム・パネルの2つのボタンでも設定することができます。

前提条件

– すべてのドアが閉じている
– リヤ・リッドが開いている

知識

シャーシ部品、アッセンブリーおよび車両下周りを損傷する恐れがあります。

車両をローディング・レベルにしたまま、縁石などから発進すると、地上高が不十分なため車両の下周りが地面に接触することがあります。

▷ 発進する前には必ずノーマル・レベルに切り替えてください。

ラゲッジ・コンパートメントのボタンによるローディング・レベルの設定

車高を下げる

▷ ボタン**A**を押し続けてください。
ボタン**A**および**B**の間にあるインジケーター・ライトが点灯します。
車両がローディング・レベルまで下がります。

車高を上げる

▷ ボタン**B**を押し続けてください。
ボタン**A**および**B**の間にあるインジケーター・ライトが点灯します。
車両がノーマル・レベルまで上がります。

 インフォメーション

ボタン**A**および**B**の間にあるインジケーター・ライトが点滅し続ける場合、(例えばドアが開いているなど) 車両後部を下げることはできません。

ジャッキによるリフトアップ

⚠ 警告 タイヤ交換時のレベリング・システムの作動

ジャッキから車両が滑り落ちる恐れがあります。身体の一部が挟まれたり、ケガをする恐れがあります。

▷ ジャッキを使用して車両を持ち上げる必要がある場合、手動でノーマル・レベルに設定し、その後レベル・コントロール・システムをOFFにしてください。

リフトに乗り入れる前、またはリフト/ジャッキで車両を持ち上げる前に：

▷ 手動でノーマル・レベルに設定し、その後レベル・コントロール・システムをOFFにしてください。

レベル・コントロールをOFFにする

1. イグニッションをONにしてください。
2. ロッカー・スイッチを前方に10～15秒押してください。
   ロッカー・スイッチを放すと、マルチファンクション・ディスプレイにメッセージ「**レベルコント オフ**」が表示されます。
   これで車両をジャッキ・アップできます。

レベル・コントロールをONにする

1. イグニッションをONにしてください。
2. ロッカー・スイッチを前方に10～15秒押してください。
   または
   車両を発進させてください。
   レベリング・システムは自動的にONになります。

鉄道、船舶、積載車での輸送

▷ ロープ等で車両を固定するときは、ホイールのみで固定してください。

「スポーツ」および「スポーツ・プラス」モード

全体的によりスポーティーで多様なシャーシ設定が選択できます。

「スポーツ」モードは日常の走行において、躍動感とパフォーマンスを向上させるようコントロール・システムを切り替えます。

「スポーツ・プラス」モードでは、レース・サーキットでの走行に適した最高性能を発揮できる設定に切り替わります。

– エンジンはスロットル操作に対して忠実に反応します。
  スポーツ・モードがONの状態で車速が40km/hを下回った場合、この機能を作動させるには、アクセル・ペダルをいっぱいまで踏み込むか素早く放す必要があります。
– ダイナミック・コーナリング・ライト(PDLS)およびダイナミック・ハイ・ビーム（PDLSプラス）は、コーナリング中または対向車がいるときの走行などの場合により速く、よりダイナミックな制御を行います。

▷ 「ポルシェ・ダイナミック・ライト・システム(PDLS)」(91ページ) を参照してください。
「ポルシェ・ダイナミック・ライト・システム・プラス(PDLS PLUS)」（91ページ）を参照してください。

– オート・スタート/ストップ機能は解除されます。

▷ 「オート・スタート/ストップ機能」(164ページ) を参照してください。

– アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)はよりダイナミックに車速と距離を制御します。

▷ 「アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)」（172ページ）を参照してください。

– ティプトロニックSトランスミッションはスポーティーな設定に切り替わり、ギヤシフトがより高回転で行われます。シフトアップはより遅く始まり、シフトダウンはより早く行われます。
– PSM（ポルシェ・スタビリティ・マネージメント）コントロールは、「スポーツ・プラス」モードで更にスポーティーな設定になります。PSMの介入がノーマル・モードより遅めになります。ドライバーは緊急時のPSMの介入を無効にすることなく、性能限界域で車両をより機敏に操ることができます。これにより、特にドライ・コンディションのサーキットではラップ・タイムの短縮に貢献します。
▷ 「ポルシェ・スタビリティ・マネージメント(PSM)」（204ページ）を参照してください。
– PTVプラス（ポルシェ・トルク・ベクトリング・プラス）は「スポーツ・プラス」モードが ON のとき更にダイナミックな制御マップに切り替わります。
▷ 「ポルシェ・トルク・ベクトリング・プラス（PTVプラス）」（208ページ）を参照してください。
– PASM（ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント）は自動的に「スポーツ」または「スポーツ・プラス」モードに変わり、サスペンションはハードな設定となります。更に、エア・サスペンション装備車ではロー・レベルに設定されます。
▷ 「ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)」（212ページ）を参照してください。
– PASMと同様に、PDCC（ポルシェ・ダイナミック・シャーシ・コントロール）と連動して「スポーツ」または「スポーツ・プラス」モードに切り替わり、車両のロールを選択されたモードに合わせて、更に抑制します。
▷ 「ポルシェ・ダイナミック・シャーシ・コントロール(PDCC)」（209ページ）を参照してください。
– スポーツ・エキゾースト・システムは排気音最適化モードに切り替わりますが、ボタンで個別にOFFにすることができます。
▷ 「スポーツ・エキゾースト・システム」（217ページ）を参照してください。
– エア・サスペンションが自動的に低レベル設定（車高が最も低い設定）に変わります。
▷ 「エア・サスペンションおよびレベル・コントロール付きポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)」（212ページ）を参照してください。
– エンジンがスポーティーな設定に切り替わります。

インフォメーション

オフロード走行プログラムが作動しているときは、スポーツ・モードは選択できません。メッセージ「**Sportムコウ オフロード キノウサドウ**」がマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

「スポーツ」モードのON/OFF

▷ SPORTボタンを押してください。
「スポーツ」モードがONになると、ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
マルチファンクション・ディスプレイに「**SPORT**」の文字が表示されます。

スポーティーなシフト特性に切り替わり、ギヤ・シフト時間が短くなります。

ドライバーのスポーティーなドライビング・スタイルをいち早く認識し、そのときのドライビング・パフォーマンスに応じたギヤ・シフト時間になります。

減速時のシフトダウンが早いタイミングで実行されます。またエンジン回転数が高いときでも、わずかな減速でシフトダウンされます。

 インフォメーション

イグニッションをOFFにすると、「スポーツ」および「スポーツ・プラス」モードは自動的にリセットされます。

「スポーツ・プラス」モードのON/OFF

▷ SPORT PLUS ボタンを押してください。
「スポーツ・プラス」モードがONになると、ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
マルチファンクション・ディスプレイに「**SPORT PLUS**」の文字が表示されます。

「スポーツ・プラス」モードでは、トランスミッションがレース・サーキットでの走行に適したシフト特性に切り替わります。

警告メッセージ

故障がある場合は、マルチファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。

▷ マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：
「警告と情報メッセージの概要」(141ページ)を参照してください。

「スポーツ」/「スポーツ・プラス」および「PASMスポーツ」/「PASMスポーツ・プラス」モード

「スポーツ」、「スポーツ・プラス」モードおよびスポーツ・エキゾースト・システムの特性を使用しながら、より快適なシャーシ設定を選択したい場合：

– PASMおよびPDCCを個別に「コンフォート」モードに切り替えてください。
– 車両の車高を上昇させます。

▷ センター・コンソールの該当するPASMボタンを押してください。選択したシャシー設定のボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
更に、選択したシャーシ設定はマルチファンクション・ディスプレイに約12秒間表示されます。
「ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)」(212ページ)を参照してください。
「ポルシェ・ダイナミック・シャーシ・コントロール(PDCC)」(209ページ)を参照してください。

▷ センター・コンソールのロッカー・スイッチを前方に押してください。調整プロセス後、ロッカー・スイッチ横の該当するインジケーター・ライトが常時点灯します。レベル変更もマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。
「エア・サスペンションおよびレベル・コントロール付きポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント(PASM)」(212ページ)を参照してください。

スポーツ・エキゾースト・システムON/OFF

スポーツ・エキゾースト・システムはイグニッションがONのときに排気音最適化モードに切り替えることができます。

▷ ボタンを押してください。
スポーツ・エキゾースト・システムがONになると、ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)

ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)は、急な坂道、冬場の山道などで約3km/h～30km/hの速度で下り坂を前進または後退でゆっくりと走行するときにドライバーを支援するアシスタンス・システムです。

システムは4つのホイールすべてにブレーキをかけて、速度を制限します。ABSは作動を続け、ホイールのロックを防ぎます。

通常のブレーキと同様にポルシェ・ヒル・コントロールのブレーキ性能は路面状況（凍結路やぬかるみなど）によって制限されます。

⚠ 警告 ブレーキの効きの低下

滑りやすい路面ではブレーキの効きが低下します。

▷ 常に走行状況に応じた適切な運転を心がけてください。

前提条件：

– ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)がONになっている
– 車速が約30km/hを超えていない
– 坂道の傾斜度が約12%以上
– ドライバーがアクセルまたはブレーキを踏んでいない

ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)をONにする

▷ ボタンを押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

PHCスタンバイ

スタンバイ状態になると、マルチファンクション・ディスプレイに灰色のPHCシンボル・マークが表示されます。

PHCコントロール作動/設定速度

設定速度がPHCシンボルの下に橙色で表示され、その後白色に変わります。

ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)をOFFにする

▷ ボタンを再度押してください。
ボタンのインジケーター・ライトが消灯します。

インフォメーション

坂道の傾斜度が約6%以下の場合、作動状態のシステムはもう1回作動スタンバイ状態になります。

速度の変更

ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)をONにするときの速度を変更できます：

▷ ブレーキまたはアクセル・ペダルを踏んでください。
または
クルーズ・コントロールまたはアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)がONの場合、クルーズ・コントロール・レバーを使用して設定します。

ブレーキまたはアクセル・ペダルを解除する、またはクルーズ・コントロール/アダプティブ・クルーズ・コントロール・レバーで速度を設定し、希望する新しい速度を保存します。

クルーズ・コントロールおよびアダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)に関するインフォメーション：

▷ 「クルーズ・コントロール」（170ページ）を参照してください。
▷ 「アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)」（172ページ）を参照してください。

オンロードおよびオフロード走行プログラム（オンロード/オフロード・モード）

この車両には特別なパワー・トランスミッションおよびシャーシ・コントロール・システム（ABS、オフロードABSおよびPSMなど）による様々な走行プログラムが用意されており、これらのプログラムで最適なドライビング・ダイナミクスを実現するとともに安全性を最大限に高めています：

– オフロード走行プログラム（オフロード・モード）
– オンロード走行プログラム（オンロード・モード）

選択された走行プログラムに応じて、パワー・トランスミッションおよびシャーシ・コントロール・システムが自動的にオフロードまたはオンロード走行用のプログラムで作動します。

パワー・トランスミッションおよびシャーシ・コントロール・システムに関するインフォメーション：

▷ 「トランスミッションおよびシャーシ・コントロール・システム」（203ページ）を参照してください。

走行プログラムの選択

ロッカー・スイッチを使用して、希望する走行プログラムに設定することができます。

ロッカー・スイッチはセンター・コンソールにあります。ロッカー・スイッチはマルチステップ機能を備えており、両方向に操作できます。

インフォメーション

– オフロード走行プログラムで使用できるディファレンシャル・ロックの数は車両の装備によって異なります。
– Cayenneディーゼルでは、オフロード走行プログラム**C**および**D**は使用できません。＊「選択した走行プログラムの表示」（220ページ）を参照してください。
– Cayenne S E-Hybridでは、異なる走行プログラムは使用できません。

マニュアル設定の前提条件

– オフロード・モードは30km/h以下の速度でのみ選択できます。
走行速度が速すぎる場合、インストルメント・パネルに「**Speed too high（速度が速すぎる）**」のメッセージが表示されます：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

– オンロード走行プログラムはいつでも使用できます。

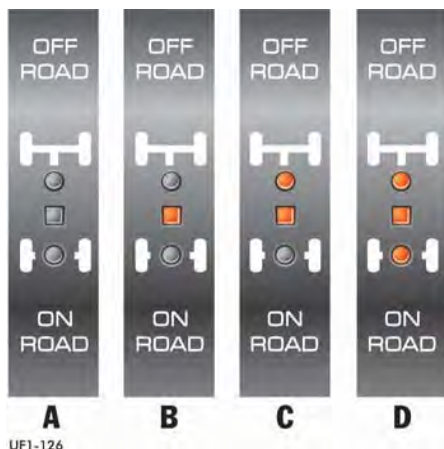
オフロード走行プログラムの選択

▷ ロッカー・スイッチを前方⬆に押してください。
車両の走行が1段階オフロードに適したものになります。

オンロード走行プログラムの選択

▷ ロッカー・スイッチを後方⬇に引いてください。
車両の走行が1段階オンロードに適したものになります。

走行プログラムを選択すると、ロッカー・スイッチはスプリングにより元の位置に戻ります。

＊ 日本仕様に設定はありません。

A - オンロード走行プログラム
B - オフロード走行プログラム
C - オフロード走行プログラムでのセンター・ディファレンシャル・ロック100％固定（直結）
D - オフロード走行プログラムでのリヤ・ディファレンシャル・ロック100％固定（直結）

選択した走行プログラムの表示

選択した走行プログラムはロッカー・スイッチ横のインジケーター・ライトで表示されます（**図を参照**）。
更に、選択した走行プログラムはマルチファンクション・ディスプレイに数秒間表示されます。

センター・ディファレンシャル・ロック**C**が完全固定状態になると、フロント・アクスルとリヤ・アクスル間に回転数の差がなくなります。例えばフロントの左右ホイールがぬかるんだ路面でトラクションを失った場合でも、この機能により走行し続けることができます。

リヤ・ディファレンシャル・ロック**D**が100％完全固定状態になると、左右リヤ・アクスル間に回転数の差がなくなります。例えば、リヤの片方のホイールが凍結した路面またはぬかるんだ路面でトラクションを失った場合でも、この機能により走行し続けることができます。

インフォメーション

– 走行条件が変化しても（車両が舗装路を走行する場合など）、選択したオフロード走行プログラムは作動し続けます。ロッカー・スイッチ横の該当するインジケーター・ライトは点灯したままですが、トランスミッションおよびシャーシ・コントロール・システムは変化した走行条件に合わせて最適化されます。
– ギヤシフト・システムに故障がある場合、インストルメント・パネルに警告メッセージが表示されます。

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

推奨する設定

走行条件	推奨する設定
道路：	
オフロード：	
砂地：	
オフロードの上り坂/下り坂：	
障害物の乗り越え：	
オフロードのわだち：	
滑りやすい路面（草道など）でのトレーラー：	

オフロード走行

オフロード走行に先立って本章を熟読してください。

この車両の優れたオフロード性能がおわかりいただけるとともに、目的地までの安全な走行を可能にします。

まず、適度なオフロードで練習されることをお勧めします。

インフォメーション

オフロード走行では、通常運転時よりもはるかに激しく車両部品が摩耗します。走行のたびに専門家による点検およびメンテナンスを受けることが車両を正しく安全に機能させることの必須条件です。

砂粒、ほこりの粒子など研磨作用のある物質がブレーキ内に入り込むと、過度の摩耗または予測不能なブレーキ作動を引き起こすことがあります。

オフロード走行のルール

▷ 車両の地上高に注意してください。

▷ オフロード走行プログラムを作動させてください。
「走行プログラムの選択」(219ページ) を参照してください。

▷ オフロード走行を開始する前に、必要に応じてオフロード・レベルまたはスペシャル・オフロード・レベルを作動させます。車高レベルを調整している間はブレーキを踏まないでください。

▷ 車高レベルは必ず平坦な場所で調整してください。

▷ 荷物をしっかり固定してください。
荷物の積載に関するインフォメーション：「荷物の積載」(234ページ) を参照してください。

▷ 路面状況が運転席から確認しづらい場合、1回車外に出て歩いて状況を確認した上で慎重に運転してください。
確認することで、障害物が発見しやすくなり、車両への損傷を防ぐことができます。

▷ 必ずエンジンを作動させて走行してください。
パワー・ステアリングはエンジン作動時にのみ使用することができます。

▷ ゆっくり一定の速度で運転してください。

▷ 常に全ホイールが接地した状態で運転してください。

▷ 水たまりや浅瀬を走行する場合は、水の深さ、底の状態、流速を確認してください。

▷ 岩、穴、丸太、わだちなどの障害物に十分注意してください。

▷ 走行中には、スライディング / チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフおよびサイド・ウィンドウを必ず閉じてください。

▷ 路肩に目印がある場合は、そこから外れないようにしてください。

▷ 自然を大切にしてください。
進入禁止標識には必ず従ってください。

オフロード走行用ドライビング・システム

オフロード走行では特別仕様の走行プログラムまたはパワー・トランスミッションおよびシャーシ・コントロール・システムが使用できます：

– オフロードPTM
– オフロードPTVプラス（車両の装備仕様による）
– オフロードPSM
– オフロードABS

▷ シャーシ・コントロール・システムの機能に関する詳しいインフォメーション：
「トランスミッションおよびシャーシ・コントロール・システム」(203ページ) を参照してください。

オフロード走行前

タイヤ

▷ トレッドの深さが十分あるか、タイヤ空気圧は適正か点検してください。

▷ 損傷がないか点検し、トレッドに異物（石など）がある場合は取り除いてください。

▷ バルブ・キャップが紛失している場合は新しいものを取り付けてください。

ホイール

▷ ホイールにへこみや損傷がある場合はオフロード走行前に交換してください。

オフロード走行後

オフロード走行では通常のオンロード走行時より車両に大きな負担がかかります。

オフロード走行後には車両点検を行うことをお勧めします。見えない損傷でも事故の危険があり、走行快適性も損なわれます。車両点検を行うことにより、損傷の拡大を防ぐことができます。

警告 車両の損傷

車両の損傷は後に乗員や通行者に事故を引き起こす原因になる恐れがあります。

▷ 故障の疑いがある場合はポルシェ正規販売店で点検してください。

▷ タイヤの異常（亀裂、損傷、空気圧過多、異物の挟まり）がないか確認してください。必要な場合は、タイヤを交換してください。

▷ 損傷がある場合はポルシェ正規販売店でお早めに修理してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

推奨手順

▷ オフロード走行プログラムを解除してください。

▷ ヘッドライトおよびテールライトを清掃し、損傷していないか点検してください。

▷ フロントおよびリヤのナンバー・プレートを清掃してください。

▷ ウォーター・ジェットでタイヤ・トレッドを洗浄して異物を取り除いてください。

▷ ウォーター・ジェットでホイール、ホイール・ハウジング、車両下周りを洗浄してください。

▷ 車両に木の葉や枝などが挟まっていないか点検してください。
これらは車両火災の原因となる恐れがあります。また、フューエル・ライン、ブレーキ・ホース、アクスル・ジョイント・ブーツ、ドライブ・シャフトなどが損傷する原因になる場合があります。

▷ オフロード走行後にフロア部品全体、タイヤ、ボディ、ステアリング・システム、シャーシ、エキゾースト・システムが損傷していないか、必ず点検してください。

▷ ぬかるんだ道、砂道、水たまりや浅瀬などを長時間走行した場合は、ブレーキ・ディスク、ブレーキ・パッド、ホイール、アクスル・ジョイントを点検して、清掃してください。

▷ オフロード走行後に振動が激しくなった場合は、ホイールに異物がないか点検してください。異物があるとホイール・バランスが損なわれ、振動の原因になる恐れがあります。異物を取り除くと、振動が解消する場合があります。

上り坂でのオフロード走行

危険 車両の横転

▷ 上り坂走行時には方向転換しないでください。

▷ 勾配がきつく登れない場合は、必ずリバース・ギヤに入れてバックしてください。

▷ 土手や下れそうにない急坂路には進入しないでください。

▷ 車両が傾きはじめた場合、すぐに傾いた側にステアリングを切ってください。

▷ 上り坂走行時にニュートラル状態やギヤを入れていない状態で車両を自然にバックさせないでください。
この状態でフット・ブレーキを使用するのは非常に危険です。

インフォメーション

▷ 急坂路を上り下りする場合は、その前にオフロード走行プログラムを作動させてください。

▷ 走行中はマニュアルによるギヤ・チェンジは行わないでください。また、停車もしないでください。

▷ エンジンを過回転させないでください。

上り坂でのトラクション

インフォメーション

▷ オフロード走行プログラムを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。

▷ 上り坂走行時にはアクセル・ペダルの踏み込みを加減して、ホイールが十分なトラクションを得られる（スピンしない）ようにしてください。

▷ 坂道で車高レベルを調整しないでください。

▷ エンジンを過回転させないでください。

▷ スピードを落として運転してください。

下り坂でのオフロード走行

⚠ 危険 車両の横転

▷ 土手や下れそうにない急坂路には進入しないでください。
▷ 下り坂はフロント・ホイールを直進位置に保ち、スピードを落として走行してください。
▷ 車両が傾きはじめた場合、すぐに傾いた側にステアリングを切ってください。
▷ 下り坂をアイドリング状態で自然に下りないでください。
▷ エンジン・ブレーキを使用してください。エンジン・ブレーキでは十分な制動効果が得られない場合は、フット・ブレーキを軽く踏み込んでください。
▷ ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)を作動させてください。
「ポルシェ・ヒル・コントロール(PHC)」(218ページ）を参照してください。

インフォメーション

▷ オフロード走行プログラムを作動させてください。オフロードABSが自動的に作動します。
▷ 走行中はマニュアルによるギヤ・チェンジは行わないでください。また、停車もしないでください。
▷ 坂道で車高レベルを調整しないでください。

オフロードABSの特別制御メカニズムにより、フロント・ホイールが意図的に短時間ロックアップされ、ゆるんだ路面に効果的に食い込みます。
ロックされたホイールはスリップし、ステアリング操作ができなくなります。

▷ 舗装されていない急坂路を下る場合は、ブレーキ操作を慎重に行い、滑らないように注意してください。

隆起

▷ 車両の地上高に注意してください。

インフォメーション

▷ オフロード走行プログラムを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。
▷ 隆起部分にさしかかる前にアクセル・ペダルをゆるめて、慣性運動を利用して隆起を越えてください。隆起を越える際に車両がジャンプせず、下り部分への激しい着地を防ぐことができます。
▷ エンジンを過回転させないでください。

水たまりや浅瀬の走行

▷ 車両の地上高に注意してください。

⚠ 危険 車内への水の浸入

▷ 水たまりや浅瀬を走行する場合は、水の深さ、底の状態、流速を確認してください。
深さが500mmを超える水たまり（川や海を含む）を走行しないでください。
▷ 運転前にドア・シルおよびラバー・シールを清掃してください。
▷ 深く流れの速い場所には進入しないでください。
山間部の小川など、深く流れの速い場所では、意図したコースから外れてしまう場合があります。
▷ 波をかぶらないように適切な速度で走行してください。
▷ 水たまりや浅瀬を走行中は絶対にドアを開かないでください。

⚠ 警告 ブレーキ・ディスクの水膜または汚れ

濡れた路面や泥でぬかるんだ路面を走行すると、ブレーキの効きが悪くなり、ペダルを強く踏まなければならない場合があります。

▷ ブレーキが汚れていないか点検し、必要に応じて清掃してください。

⚠ 警告 パワー・ステアリングの作動不良

水たまりや浅瀬を長時間走行すると、ドライブ・ベルトが滑りやすくなる恐れがあります。ステアリング操作に大きな力が必要になります。

▷ パワー・ステアリングが故障すると、ステアリング操作に大きな力が必要になります。

知識

水の浸入により、エンジンやアクセサリーが損傷する恐れがあります。

▷ 水たまりや浅瀬を走行する場合は、水の深さ、底の状態、流速を確認してください。
深さが500mmを超える水たまり（川や海を含む）を走行しないでください。
▷ 深く流れの速い場所には進入しないでください。
▷ 波をかぶらないように適切な速度で走行してください。

知識

電気系統が故障する恐れがあります。

▷ 塩水の中を走行するのは避けてください。

インフォメーション

- ▷ オフロード走行プログラムを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。
- ▷ エアコン・コンプレッサーをOFFにしてください。
- ▷ ヘッドライトをOFFにしてください。
- ▷ エンジンを過回転させないでください。
- ▷ 走行中はマニュアルによるギヤ・チェンジは行わないでください。また、停車もしないでください。
  水たまりや浅瀬では、抵抗が大きく地面がぬかるんでいるため、発進が困難になる場合があります。
- ▷ 水たまりや浅瀬を走行する前に、車高レベルを上げてください。
- ▷ 水たまりや浅瀬を渡る場合は浅い場所から歩く速度で進入してください。
- ▷ 水の状態を確認した後、最短距離で渡ってください。
- ▷ 高速で水たまりや浅瀬に進入しないでください。波をかぶりエンジンやアクセサリーが損傷する恐れがあります。
- ▷ 状況の変化に対処できるよう慎重に運転してください。
- ▷ 水たまりや浅瀬はゆっくり一定の速度で走行してください。
- ▷ 水たまりや浅瀬を渡るときは方向転換しないでください。
- ▷ 渡り切れない場合はリバース・ギヤに入れ、車両をバックさせて水から出てください。

長時間水たまりや浅瀬を走行すると、パワー・ステアリング・ポンプやオルタネーターが故障する恐れがあります。

- ▷ パワー・ステアリング・ポンプが故障すると、ステアリング操作に大きな力が必要になります。

インフォメーション

水たまりや浅瀬を走行した後は特別な点検が必要になります。

- ▷ タイヤ・トレッドから泥を落としてください。
- ▷ 水たまりや浅瀬を走行した後はブレーキを軽くかけて、ブレーキ・パッドを乾かしてください。

障害物の乗り越え

知識

車両下周りやシャーシ部品を損傷する恐れがあります。

障害物を乗り越える際に誤った運転方法を採ると、これらの部品を損傷する恐れがあります。

- ▷ 車両の地上高を必ず点検してください。
- ▷ 切り株や岩などの障害物を乗り越える場合は、一方のフロント・ホイールが障害物の中央を通るようにゆっくり走行してください。
- ▷ リヤ・ホイールも同様にして障害物を乗り越えてください。

インフォメーション

- ▷ オフロード走行プログラムを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。
- ▷ 必要に応じて同乗者の指示を受けてください。
- ▷ エンジンを過回転させないでください。
- ▷ スピードを落として運転してください。

砂上走行

インフォメーション

- ▷ オフロード走行プログラムを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。

柔らかい砂道はオフロード走行の中でも特に運転しにくい路面です。

運転を誤ると、すぐに立ち往生することになります。

- ▷ すみやかに通過し、決して途中で停車しないでください。立ち往生することになります。
- ▷ わだちが浅く、砂で覆われていない場合、また地上高に余裕がある場合は、わだちに沿って走行してください。
  車両の地上高に注意してください。
- ▷ 砂道の傾斜に停車する必要がある場合は、より容易に発進できるようにできるだけ下り坂を選択してください。

やわらかい砂道の傾斜を走行する場合：

- ▷ 高いエンジン回転数を得るため、必要に応じてオフロード走行プログラムを作動させ、マニュアル・モード**M**を使用してください。

万一車両の動きが取れなくなった場合：

- ▷ ホイール・スピンは避けてください。木の枝やマットなどを使用して、トラクションを確保し、脱出してください。

わだちでのオフロード走行

オフロードや砂利道の多くにはわだちができています。

▷ 車両の地上高に注意してください。

知識

車両の下周りを損傷する恐れがあります。

深いわだちを走行する場合は、車両の下周りを損傷する恐れがあります。

▷ 車両の地上高を常に念頭においてください。

▷ 深すぎるわだちは走行しないでください。

インフォメーション

▷ オフロード走行プログラムを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。

▷ 片方のホイールが脇の草の上を通過するように走行すると、比較的安全にわだちを通過することができます。

▷ エンジンを過回転させないでください。

▷ スピードを落として運転してください。

収納スペース、ラゲッジ・コンパートメントおよびルーフ・トランスポート・システム

収納

⚠ 警告

固定されていない、正しく固定されていない、または不適切な位置にある荷物

荷物を固定しなかったり不適切な位置に載せると、ブレーキをかけたりステアリングを操作したとき、または事故の際に飛び出して、乗員がケガをする恐れがあります。

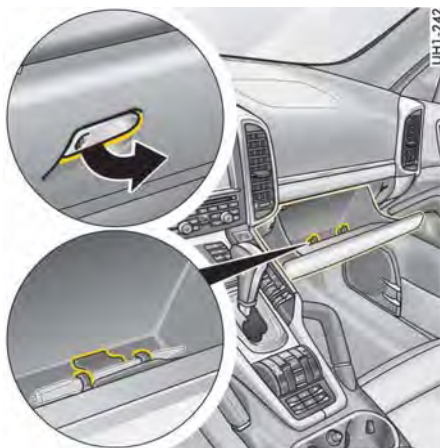
▷ 乗員スペースに荷物や固定していない物を載せて走行しないでください。
▷ 重量物を開いたままの小物入れの中に入れて運搬しないでください。
▷ 走行中は必ず小物入れのカバーを閉じてください。
▷ ラゲッジ・コンパートメント・カバーで乗員スペースを常に保護してください。

荷物の積載に関するインフォメーション：

▷ 「荷物の積載」(234ページ) を参照してください。

収納オプション

車両の装備仕様により、様々な収納オプションが用意されています：

– ペーパー /ペン・ホルダー付きグローブ・ボックス
– フロントおよびリヤ・アームレスト内
– フロントおよびリヤのセンター・コンソール内
– フロントおよびリヤ・ドア・パネルの小物入れおよびボトル・ホルダー
– フロントおよびリヤ・カップ・ホルダー
– フロント・シート下の小物入れ
– フロント・シートのバックレスト背面のマップ・ポケット
– リヤ・グローブ・ハンドルの衣類用フック
– ラゲッジ・コンパートメントの収納ネット

グローブ・ボックス

グローブ･ボックス内には書類などを入れておくための引き出しと、ペン・ホルダーがあります。

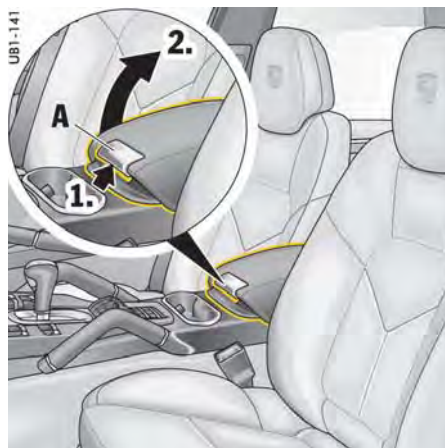
開く

▷ ラッチ・ハンドル（**矢印**）を引いて、グローブ・ボックス・リッドを開いてください。

ロック

▷ 盗難防止のため、大切な物を収納するときはエマージェンシー・キーでラッチ・ハンドルを常にロックしてください。

グローブ･ボックスのクーラー機能に関するインフォメーション：

▷ 「クーラー機能付きグローブ・ボックス」（74ページ）を参照してください。

フロント･シート間のアームレストの小物入れ

リリース・ボタン**A**には2段階の作動位置があります。この2段階の作動位置は、スイッチを操作する際にはっきりと感じ取れます。

アームレストを動かす – 1段階目のボタン位置

アームレストは前後に動かすことができます。

▷ リリース・ボタン**A**を**1段目**まで引き上げ、アームレストを前後に動かして終端位置で止めてください。

インフォメーション

▷ アームレストを閉じているときは、水平にしか動きません。

小物入れを開く – 2段階目のボタン位置

アームレストが後部位置にあるときのみ、小物入れを開くことができます。

1. リリース・ボタン**A**を**2段目**まで引き上げてください。
2. 小物入れを開いてください。

 インフォメーション

リリース・ボタン**A**をいっぱいまで引き上げると、小物入れが開きます。

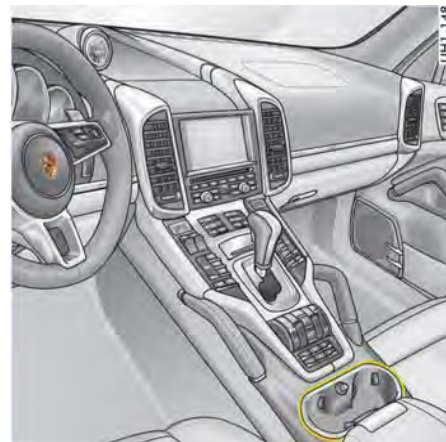
フロント・シート下の小物入れ

両側フロント・シート下の小物入れには、サングラス・ケースなどを収納することができます。

開く

▷ ラッチ・ハンドル（**矢印**）を引いて、小物入れを開いてください。

閉じる

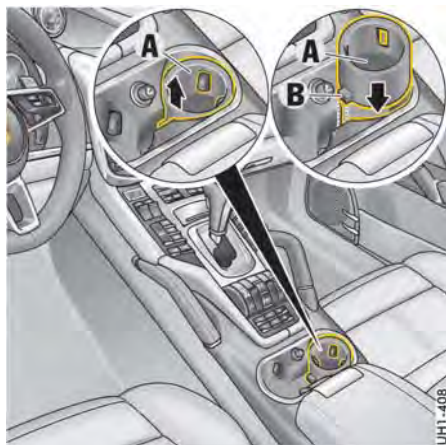
▷ 小物入れを閉じてください。
ラッチ・ハンドルがカチッと音がしてロックされます。

ドリンク・ホルダー /カップホルダー

カップ・ホルダーにはドリンク缶やカップを置くことができます。

▷ 走行中はリヤ・カップ・ホルダーを閉じてください。

注意 液体が入った容器

飲み物がこぼれて乗員がケガ（火傷など）をする恐れがあります

▷ 容器をいっぱいまで満たさないでください。半分程度にとどめてください。
▷ こぼれることのない、密閉式の容器のみを使用してください。
▷ カップ・ホルダーに置いた容器から目を離さないでください。
▷ 熱い飲み物を置かないでください。

知識

飲み物がこぼれて車両を損傷する恐れがあります。

▷ カップ・ホルダーに収まる容器のみを使用してください。

▷ 中身がいっぱいに満たされた容器をカップ・ホルダーに置かないでください。

フロント・カップ・ホルダー・インサート

このインサートにより、小さい容器もしっかり固定できます。また、これは左フロントまたは右フロント・カップ・ホルダーに装着できます。

インサートの取り外し

▷ インサート**A**をカップ・ホルダーから引き抜いてください。

インサートの取り付け

▷ 位置決めラグ**B**をカップ・ホルダーのスロットに合わせて、インサート**A**を押し下げてください。

リヤ・アームレストのカップ・ホルダー

アームレストには2個のカップ・ホルダーがあります。

▷ アームレストを完全に倒してください。

フロント灰皿/小物入れ

知識

熱い灰により小物入れを損傷する恐れがあります。

▷ 熱い灰でいっぱいにしないでください。

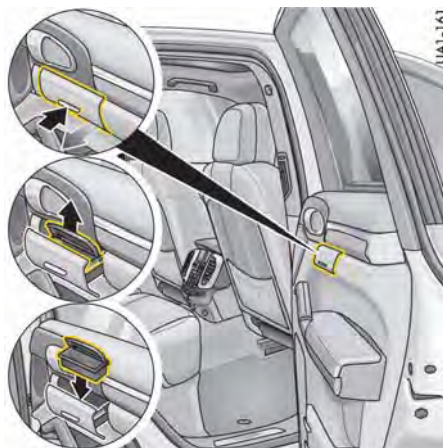
 インフォメーション

禁煙仕様車では、灰皿が小物入れに交換されています。

開く

▷ 灰皿のリッドを軽く押してください。

掃除する

▷ 灰皿のインサートを外すには、灰皿を開き、灰皿のリッドを押し下げてください。
▷ 灰皿のインサートを引き上げて取り外してください。
▷ 灰皿を掃除した後、インサートを取り付けて、カチッと音がするまで所定の位置に押し込んでください。

リヤ灰皿

灰皿はリヤ・ドアにあります。

開く

▷ 灰皿を軽く押してください。

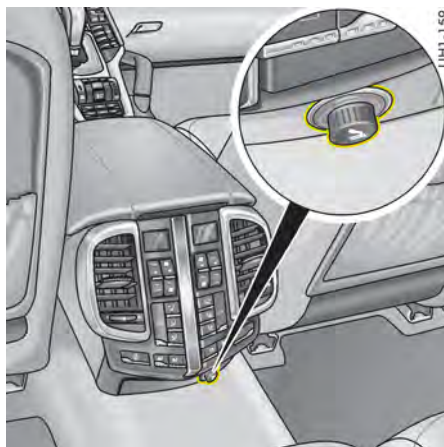
掃除する

▷ 灰皿を開いてください。
▷ インサートのリッド部分を保持して取り外してください。

フロント・シガー・ライター

シガー・ライター

⚠ 警告 高温のシガー・ライター

使用中、シガー・ライターは非常に熱くなります。
▷ お子様のみを車内に残さないでください。
▷ 加熱した後のシガー・ライターは、ノブのみを持ってください。

リヤ・シガー・ライター

シガー・ライターを使用する

シガー・ライターはイグニッションの位置に関係なく使用できます。

1. ライターをソケットに押し込んでください。ライターのフィラメントが赤熱すると、ライターが元の位置まで飛び出します。

シガー・ライターで充電アダプターを使用する際のインフォメーション：

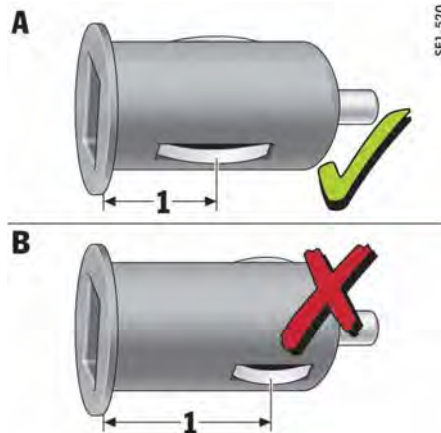
▷ 「12Vソケット/シガー・ライターでの充電アダプターの使用」（232ページ）を参照してください。

12Vソケット

12Vソケットには、12V仕様の電装品（アクセサリー）を接続できます。
車両の装備仕様により、次のいずれかの位置にソケットが取り付けられています。

– グローブ・ボックスの下側
– フロント・カップ・ホルダー内
– センター・コンソールの小物入れの中（右側）
– ラゲッジ・コンパートメント内
– リヤ・センター・コンソール内

インフォメーション

– ソケットは、イグニッションがOFFのときでも、キーを抜いていても使用できます。
エンジンを停止したままアクセサリーをONにすると、バッテリー上がりの原因になります。
車両のバッテリーを保護するため、30分後に電源供給が遮断されます。
電装品への電源供給を再度ONにするには、イグニッションをONにしてください。
– 他の電装品がOFFになっているときのソケットの最大電流値は20Aです。複数の電装品を同時に使用する場合は、1つのソケットの電流値が10Aを超えないようにしてください。
– シールドされていない機器を使用すると、ラジオ、TVおよび車両電装品に電波干渉する恐れがあります。

A - 使用可能な充電アダプター
B - 使用できない充電アダプター

12Vソケット/シガー・ライターでの充電アダプターの使用

知識

電気系統を損傷する恐れがあります。

▷ 下記の条件を満たした使用可能な充電アダプター (**A**)のみを使用してください：
グラウンド（アース）端子と充電アダプターの上端の寸法(**1**)が16mm**以下**であること。
▷ グラウンド（アース）端子と充電アダプターの上端の寸法(**1**)が16mm以上ある使用できない充電アダプター (**B**)を使用すると、ソケットが損傷することがあります。

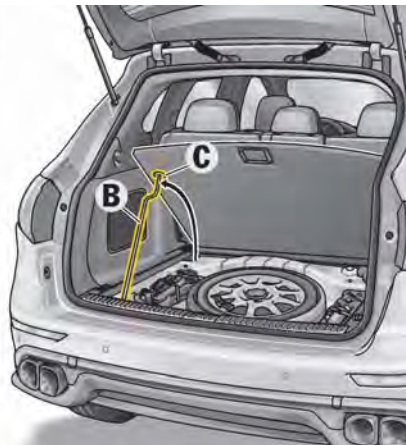
ラゲッジ・コンパートメント

荷室フロアの最大許容積載量は400kgです。床面全体に荷重がかけるように荷物を積載してください。

荷物の積載に関するインフォメーション：

▷ 「荷物の積載」(234ページ) を参照してください。

ラゲッジ・コンパートメント・フロアを開く

1. ハンドル**A**を引いて、ラゲッジ・コンパートメント・フロアを持ち上げてください。
2. サポート・アーム**B**を外し、ラゲッジ・コンパートメント・フロアの固定穴**C**に差し込んでください。

ラゲッジ・コンパートメント・フロアを閉じる

1. ラゲッジ・コンパートメント・フロアを持ち上げ、サポート・アーム**B**を車両フロアのホルダーに戻してください。
2. ラゲッジ・コンパートメント・フロアを閉じてください。

タイダウン・リング

ラゲッジ・コンパートメント・ルームの荷物が移動しないように固定することができます。

タイダウン・ストラップまたはラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットはタイダウン・リング**D**に固定して使用してください。

▷ 荷物を固定するときは各リングに均等に荷重がかかっていることを確認してください。

i インフォメーション

タイダウン・リングは事故の際に重量物を支えることはできません。

荷物の積載

⚠ 危険 有毒な排気ガスの吸引

エンジンがかかっている状態でリヤ･リッドが開いている、または正しく閉じられていない場合、排気ガスが室内に侵入する可能性があります。
▷ エンジンをかけているときは必ずリヤ・リッドを完全に閉じてください。
▷ リヤ・リッドを開いたまま走行しないでください。

⚠ 警告 固定されていない、正しく固定されていない、または不適切な位置にある荷物

荷物を固定していない場合や固定方法が不適切な場合、ブレーキやステアリング操作時、または事故の際に荷物が飛び出して、乗員がケガをする恐れがあります。
▷ 荷物を固定せずに輸送しないでください（事故、ブレーキ、カーブの際に危険です）。
▷ 荷物は常にラゲッジ・コンパートメントに積載してください。乗員スペース（シート前方やシートの上など）には置かないでください。
▷ 荷物は可能な限りシート・バックレストで支えてください。バックレストは常に所定の位置でロックしてください。
▷ 重たい荷物は必ずリヤ・シート・バックレストを立てて、ロックした状態で積載してください。
▷ 荷物は可能な限り乗員が着座していないシートの後方に積載してください。
▷ 重い荷物はできるだけフロアの前方に寄せ、軽い荷物はその後ろに積載してください。
▷ 荷物はシート・バックレストの上端を越えないように積載してください。
▷ ラゲッジ･コンパートメント･パーテーション・ネットで乗員スペースを常に保護してください。
▷ ラゲッジ・コンパートメント・カバーの上に物を置いたまま走行しないでください。
▷ リヤ・シートに乗員がいない場合、シートベルトを使用してシート・バックレストを支えることができます。外側座席のシートベルトを斜めに渡し、反対側のバックルにはめてください。
▷ 重量物を開いたままの小物入れの中に入れて運搬しないでください。
▷ 走行中は必ず小物入れのカバーを閉じてください。

タイダウン・ベルトで荷物を固定する：
▷ 荷物の固定に伸縮性のあるベルトやストラップを使用しないでください。
▷ ベルトやストラップを鋭利な部分にかけないでください。
▷ タイダウン装置を使用する方向、および注意事項を遵守してください。
▷ せん断強さが700kg以上、幅が25mm以内のベルトのみを使用してください。
▷ 荷物の上でベルトを交差させてください。

⚠ 警告 積載時の車両操縦性の変化

車両の操縦性は積載量によって変化します。
▷ 変化した車両の挙動に合わせて慎重に運転してください。
▷ 最大総重量および最大軸荷重を超過しないようにしてください。

最大総重量および最大軸荷重の情報は「テクニカル・データ」の章に掲載されています：
▷ 「重量（メーカー発表値）」（346ページ）を参照してください。

⚠ 警告 不適切なタイヤ空気圧

タイヤ空気圧が正常でない場合、安全な走行に支障をきたす恐れがあります。
▷ 荷重の大きさに合わせてタイヤ空気圧を調整してください。
タイヤ空気圧を変更した場合、タイヤ空気圧モニタリングの設定を更新してください。

マルチファンクション･ディスプレイのタイヤ空気圧モニタリングの設定に関するインフォメーション：
▷ 「TPMメニューの負荷を選択する」（121ページ）を参照してください。

部分積載時と全積載時のタイヤ空気圧に関するインフォメーション：
▷ 「冷間時のタイヤ空気圧(20℃)」（345ページ）を参照してください。

知識

リヤ・ウィンドウ・ヒーターの熱線およびアンテナ・ワイヤーを損傷する恐れがあります。
▷ リヤ・ウィンドウ・ヒーターの熱線およびTVアンテナを傷つけないように注意してください。

カーゴ・マネージメント

カーゴ・マネージメント・システムはラゲッジ・コンパートメントに荷物を固定するための可変システムです。

ラゲッジ・コンパートメントに組み込まれている2個のマウント・レール、テレスコピック・バー、4個のタイダウン・リング、ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネット、リバーシブル・マットから構成されます。

荷物の積載に関するインフォメーション：

▷ 「荷物の積載」(234ページ) を参照してください。

テレスコピック・バーを差し込み、調整する

1. テレスコピック・バーの2個のエンド・エレメントをマウント・レールの開口部**A**に差し込んでください。
2. エンド・エレメントを押し込み、荷物側に押してください。バーが正しく位置決めされると、荷物はそれ以上動きません。
3. エンド・エレメントを放してください。
4. エレメントを押して、エレメントが所定の位置にロックされていることを確認してください。

ストラップ・リールを差し込み、調整する

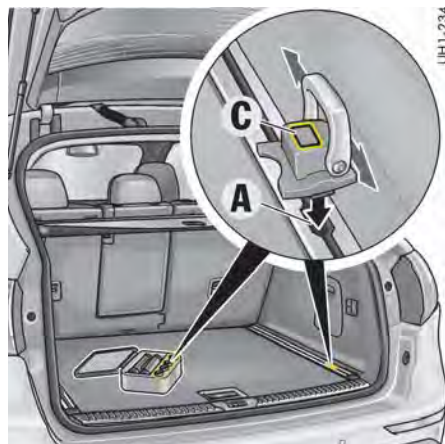
ストラップ・リールはタイダウン・リングと共に供給バッグに収納されて、ラゲッジ・コンパートメントまたはスペア・ホイールの中に収納されています。

1. バッグからストラップ・リールを取り出してください。
2. ストラップ・リールのエンド・エレメントのボタン**B**を押して、両方のエレメントを2個のマウント・レールの幅まで引き出してください。

3. ストラップ・リールの2個のエンド・エレメントをマウント・レールの開口部**A**に差し込んでください。
4. 両方のエンド・エレメントを押し込み、荷物側に押してください。
5. エンド・エレメントを放してください。
6. エレメントを押して、エレメントが所定の位置にロックされていることを確認してください。
7. ボタン**B**を押して、荷物が動かないようにストラップを張ってください。
8. ボタン**B**を放してください。

ストラップ・リールを片方のレールに差し込む

1. エンド・エレメントのボタン**B**を押して、両方のエレメントを少し引き出してください。
2. ストラップ・リールの片方のエンド・エレメントをマウント・レールの開口部**A**に差し込み、押し込んで所定の位置までスライドさせてください。

3. 2つ目のエレメントを同じ開口部**A**に差し込み、押し込んで反対方向にスライドさせてください。
4. エレメントを押して、エレメントが所定の位置にロックされていることを確認してください。
5. ボタン**B**を押して、ストラップを荷物の周囲に取り回してください。
荷物が動かないようにストラップを張ってください。
6. ボタン**B**を放してください。

タイダウン・リングを差し込み、調整する

タイダウン・ストラップまたはラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットはタイダウン・リングに固定することができます。

荷物を固定するときは各リングに均等に荷重がかかっていることを確認してください。

タイダウン・リングは事故の際に重量物を支えることはできません。

1. タイダウン・リングをマウント・レールの開口部**A**に差し込んでください。
2. ボタン**C**を押し込んで、タイダウン・リングを対応する方向にスライドさせてください。
3. ボタン**C**を放してください。
4. タイダウン・リングを押して、エレメントが所定の位置にロックされていることを確認してください。

5. 残りのタイダウン・リングを差し込んでください。

インフォメーション

反対側のタイダウン・リングは必ず反対向きに差し込んでください。

ラゲッジ・コンパートメント・カバー

ラゲッジ・コンパートメント・カバーを使用することで、車外の通行者から荷物を隠すことができます。

▷ ラゲッジ・コンパートメントに荷物を積載しているときは、ラゲッジ・コンパートメント・カバーを常に引き出してください。ラゲッジ・コンパートメント・カバーは荷物を積載できるように設計されていません。

▷ サポート・ブラケットに荷物を引っ掛けたり置いたりしないでください。サポート・ブラケットが破損する恐れがあります。

⚠ 警告 ラゲッジ・コンパートメント・カバー上の荷物

ブレーキをかけたりステアリングを操作したとき、または事故の際に荷物が乗員スペースに飛び出して、乗員がケガをする恐れがあります。

▷ ラゲッジ・コンパートメント・カバーの上に物を置かないでください。

ラゲッジ・コンパートメント・カバーを引き出す

▷ カバーを手で引き出し、左右のサイド・ウォールにあるガイドに差し込んでください。

ラゲッジ・コンパートメント・カバーを収納する

▷ ラゲッジ・コンパートメント・カバーをサイド・ウォールのガイドから外し、カバーをリトラクター・ローラーに慎重に巻き取らせてください。

リトラクター・カバー

ラゲッジ・コンパートメント・カバーと調整式リヤ・シート・バックレスト間の空間は2個のリトラクタブル・カバーで覆うことができます。

リトラクター・カバーを引き出す

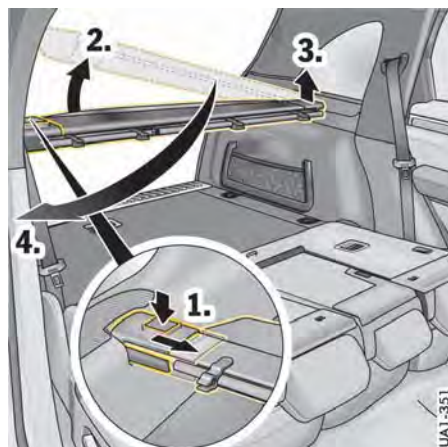
▷ リトラクタブル・カバーを手前に引き、リヤ・シート・バックレストのホルダーから外してください。

リトラクター・カバーを巻き取らせる

▷ リトラクタブル・カバーをホルダーから外し、リトラクタブル・ローラーに慎重に巻き取らせてください。

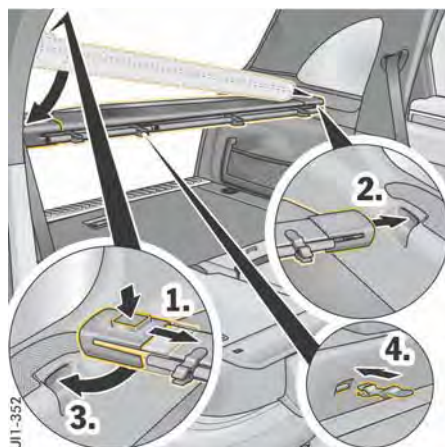
インフォメーション

▷ リヤ・シートを調整するときは（前後調整、バックレスト角度）リトラクタブル・カバーを外してください。

▷ リヤ・シート・バックレストを倒すときは、最初にリトラクタブル・カバーをホルダーから外し、カバーをリトラクタブル・ローラーに慎重に巻き取らせてください。

ラゲッジ・コンパートメント・カバーを取り外す

ラゲッジ・コンパートメント・カバーは右リヤ・ドアから取り外しと取り付けを行います。

▷ 最初にリトラクタブル・カバーをリヤ・シート・バックレストから外し、バックレストを前方に倒してください。
「リヤ・シートのバックレストを倒す、垂直位置に戻す」(37ページ) を参照してください。

1. リリース・ボタンを押して、サイド・パネルを**矢印の方向**に押してください。リリース・ボタンとサイド・パネルが取り外し位置でロックされます。リリース・ボタンがかみ合うと、赤いマークが表示されます。
2. カバーを右側のホルダーから上方に取り出してください。
3. 次にカバーを左側から上方に取り出してください。
4. 開いたドアからカバーを取り外してください。

ラゲッジ・コンパートメント・カバーを取り付ける

ラゲッジ・コンパートメント・カバーは右リヤ・ドアから脱着できます。

1. ラゲッジ・コンパートメント・カバーを取り付ける前に、リリース・ボタンを押して**矢印の方向**にサイド・パネルを押してください。
リリース・ボタンがかみ合うと、赤いマークが表示されます。
2. カバーを左側のホルダーに差し込んでください。
3. カバーを右側のホルダーに差し込み、リリースボタンを押してください。
サイドパネルは、自動的に元の位置に戻ります。赤いマークがまだ表示されている場合は、ラゲッジ・コンパートメント・カバーを取り外し、再度取り付けを行ってください。
4. バックレストを垂直位置に動かし、リトラクタブル・カバーをリヤ・シート・バックレストにはめ込んでください。

ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネット

ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットにより、ブレーキをかけたりステアリングを操作したとき、または事故の際に軽い荷物が荷室から飛び出すのを防ぐことができます。

▷ 荷物の積載に関するインフォメーション：「荷物の積載」(234ページ) を参照してください。

⚠ 警告 固定されていない荷物または損傷したラゲッジ・セーフティー・ネット

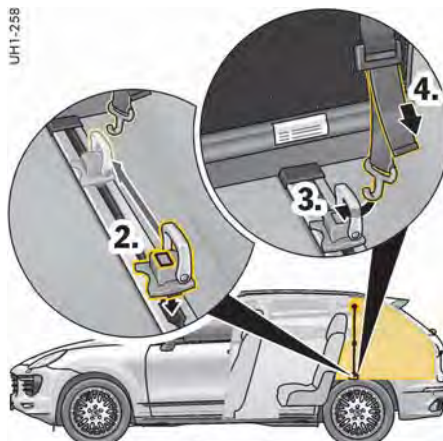
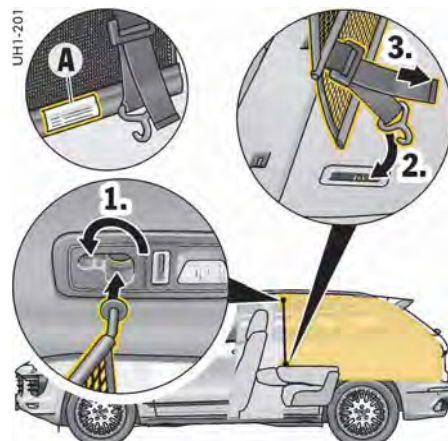
ブレーキをかけたりステアリングを操作したとき、または事故の際に、固定されていない荷物が飛び出して、乗員がケガをする恐れがあります。

▷ ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットで乗員スペースを常に保護してください。
▷ 荷物は必ずタイダウン・リングで固定してください。
▷ 荷物はシート・バックレストの上端を越えないように積載してください。
▷ ブレーキまたは事故などの際にラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットに大きな力がかかったり損傷した場合、パーテーション・ネットとリテーニング・ブラケットをポルシェ正規販売店で点検してください。
この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットの取り付け

▷ ラゲッジ・セーフティー・ネットを取り付ける際、ネットの適切な面が後ろ向きになっているか確認してください（ネットのラベル**A**を参照）。

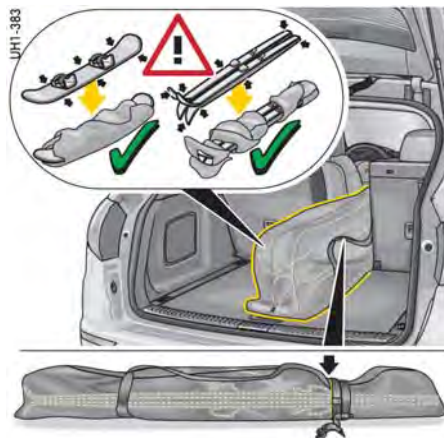
シート・バックレストを倒さないでください

1. ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットの左右の固定フックを天井のリヤ固定リングにはめ込んでください。
2. 左右のタイダウン・リングが、ラゲッジ・コンパートメント・フロアのレールの端からの距離が同じになるように位置決めしてください。このとき、ネットが垂直に張れるように、またネットがリヤ・シートにあたって曲がらないようにしてください。
3. ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットの下部フックをラゲッジ・コンパートメント・フロアの位置決めしたタイダウン・リングにはめ込んでください。
4. ベルト・ストラップを引いてネットを張ってください。

リヤ・シート・バックレストを前方に倒す

▷ リヤ・シート・バックレストを前方に倒すには：
「リヤ・シートのバックレストを倒す、垂直位置に戻す」（37ページ）を参照してください。
バックレストが適切に折り畳まれているか必ず確認してください。

1. ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットの左右の固定フックを天井のフロント固定リングにはめ込んでください。
2. ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットの下部フックをバックレストにはめ込んでください。
3. ベルト・ストラップを引いてネットを張ってください。

インフォメーション

▷ ラゲッジ・コンパートメント・パーテーション・ネットは、荷物を積んだ時の位置やシート・バックレストの位置などに応じて張ってください。

スキー・バッグ

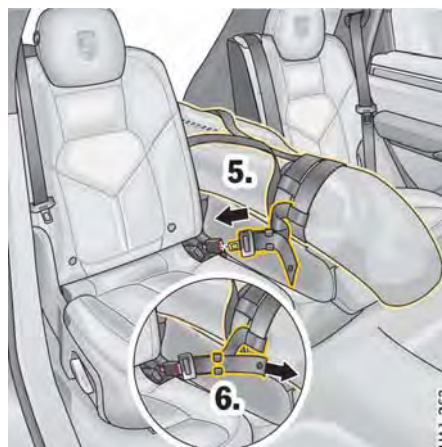
スキー板やスノー・ボードのような長い物も車室内を損傷することなく、安全に運搬できます。

知識

荷物の鋭い端（スノー・ボードなど）によってスキー・バッグが損傷する恐れがあります。

▷ 荷物の鋭い端部を保護してください。

スノー・ボードやスキー板をスキー・バッグに収納する

1. スノー・ボードやスキー板の端部を保護してください。
2. スノー・ボードやスキー板をスキー・バッグに入れて、閉じてください。
   スキー板の後端を前方に向けてスキー・バッグに入れてください。スキー・バッグのファスナーは車両後方に向けてください。
3. スキー板を締め付けストラップで締め付けてください。「ビンディング」部は、このストラップより後方にする必要があります。

スキー・バッグの積載と固定

1. リヤ・シートを後方いっぱいに動かしてください。
   「リヤ・シート」（36ページ）を参照してください。
   または、ミドル・ヘッドレストを取り外してください。
   「中央のリヤ・シートのヘッドレストを取り外す」（38ページ）を参照してください。
2. ミドル・シートのベルト・バックルを持ち上げてください。
3. リヤ・ミドル・シートのバックレストを前方に折り畳んでください：
   「中央のシート・バックレストを前方に折り畳む」（37ページ）を参照してください。
4. スキー・バッグをラゲッジ・コンパートメントから、折り畳んだシート・バックレストの上に押し込んでください。
   スキー・バッグでセンター・コンソールを損傷しないように注意してください。
5. ベルト・タングをバックルに差し込んでください。
6. ベルトを締め付けてください。

スキー・バッグを収納する

1. スキー・バッグを空にして、車内に引き入れてください。
2. ミドル・シート・バックレストを垂直位置に調整してください：
   「中央のシート・バックレストを垂直位置に調節する」（37ページ）を参照してください。
3. スキー・バッグは必ず乾かしてから折り畳み、ギア・バッグに収納してください。
4. バッグをラゲッジ・コンパートメントにマジック・テープで固定してください。

インフォメーション

スキー・バッグの最大積載量（総重量34kg）：

– 4組の標準スキー板とスキー・ストック
  または
– 3組の標準スキー板とスキー・ストックおよび1枚のスノー・ボード

ルーフ・トランスポート・システム

▷ ポルシェ・テクイップメント製品またはポルシェ社がテストを実施し、承認したルーフ・トランスポート・システムのみを使用してください。市販のルーフ・ラック・システムは**装着できません。**

ポルシェ・ルーフ・トランスポート・システムには、様々なスポーツ用品やホビー用品を積載できます。

ルーフ・トランスポート・システムの様々な使用方法については、正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告 固定されていないまたは不適切な位置に固定したルーフ・トランスポート・システムまたは積載機器

ルーフ・トランスポート・システムが固定されていない場合、または正しく固定されていない場合、走行中にルーフ・トランスポート・システムが車両から外れ、重大な事故につながる恐れがあります。

▷ 走行を開始する前に、ルーフ・トランスポート・システム、積載機器、および荷物が正しく固定されていることを必ず確認してください。長距離走行時は、途中で定期的に確認してください。必要に応じて再度締め付け、ロックして更に固定してください。

⚠ 警告 ルーフ・トランスポート・システムを装着した積載時の操縦性の変化

ルーフ・トランスポート・システムを装着して荷物を積載しているときは、車両のハンドリング特性が普段と変化します（重心が高くなり、空気抵抗が大きくなるため）。

▷ 慎重な運転を心がけてください。
▷ ルーフ・トランスポート・システムを装着して荷物を積載しているときは、130km/h以上の車速で走行しないでください。
▷ ベーシック・キャリアを装着して何も積んでいない場合、180km/h以上の車速で走行しないでください。
▷ ルーフ・トランスポート・システムに荷物を載せるときは、ルーフ・トランスポート・システムの左右両端から荷物が突出しないようにしてください。車幅よりも外側には荷物を載せないでください。
▷ 荷物の重心をできる限り低い位置にしてください。ルーフ・トランスポート・システムの積載エリア全体に、均等に荷重がかかるように荷物を載せてください。

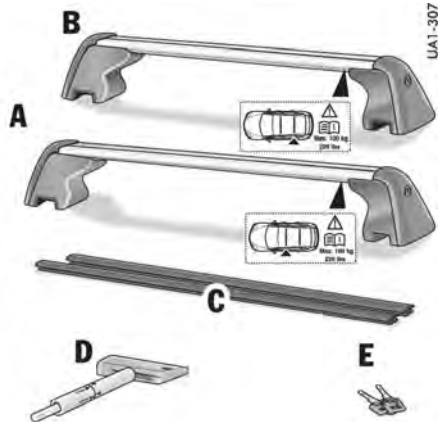
⚠ 警告 固定されていない、または不適切な位置に固定した荷物

固定されていないまたは適切に固定されていない荷物が走行中にルーフ・トランスポート・システムから外れ、重大事故を起こす恐れがあります。

▷ 走行中に荷物が動かないように固定してください。
▷ ゴム製のひもは使用しないでください。
▷ 荷物の重心をできる限り低い位置にしてください。ルーフ・トランスポート・システムの積載エリア全体に、均等に荷重がかかるように荷物を載せてください。

知識

ルーフ・トランスポート・システムを装着したまま自動洗車機を使用したり、運転中に全高に注意を払わなかったり、許容積載荷重を超過すると、車両やルーフ・トランスポート・システムを損傷する恐れがあります。

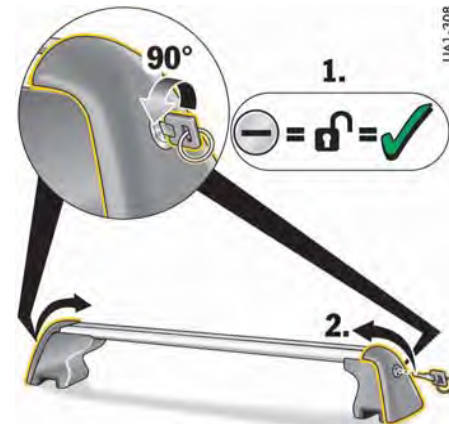
▷ 自動洗車機を使用する前に、ルーフ・トランスポート・システムを完全に取り外してください。
▷ 立体駐車場、屋根付き車庫、トンネルなどに進入するときは、ルーフ・トランスポート・システムを含めた全高を確認してください。
▷ ルーフへの積載荷重は、最大総重量と最大軸荷重の限度を超えないようにしてください。許容最大荷重と重量に関するインフォメーション：
▷ 「重量（メーカー発表値）」（346ページ）を参照してください。
▷ ルーフ・トランスポート・システムの最大許容荷重を超えないようにしてください。
▷ ルーフ・トランスポート・システムを使用しない場合は、ルーフ・トランスポート・システムを完全に取り外すことで、燃料を節約し、ノイズを低減できます。

A - フロント・キャリア
B - リヤ・キャリア
C - カバー・トリム
D - トルク・レンチ
E - キー

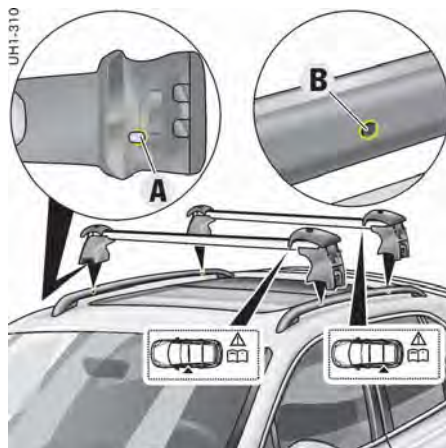
ルーフ・トランスポート・システムの取り付け

キャリア・バーの下側にあるステッカーによりフロント・バーとリヤ・バーを識別してください（**図を参照**）。

▷ ステッカーが車両の左側になるようにキャリアを取り付けてください。
キャリアをルーフ・レールに取り付けるときは、必ずこれらのマークに従ってください。

▷ 取り付ける前に、ルーフ・レールのキャリア・サポート部分を清掃してください。

1. マークが付いた箇所のみにキャリアを固定してください。各ルーフ・レールの内側に穴が1つあります（**図を参照**）。
サポート・アームのロック・ピンをこの穴にはめ込んでください。

2. キャリアを取り付けるため、サポートのカバーを開いてください。このとき、キーを差し込み、反時計回りに水平位置まで回してください。

3. 次にカバーを持ち上げてください。

4. キャリアを取り付ける前に、できるだけファスニング・スクリューをゆるめてください。
5. キャリアをルーフ・レールに慎重に位置決めし、まっすぐはめ込んでください
ロック・ピン**A**をルーフ・レールの該当する穴**B**に差し込み、この位置で固定してください。

6. トルク・レンチを使用して、ファスニング・スクリューをすべてのサポートに8Nmのトルクで1つずつ締め付けてください。
このとき、トルク・レンチの2つの**矢印**を完全に揃えてください(8Nm)。これにより、2つのキャリアは縦横両方向ともに固定されます。

7. すべてのカバーを閉じて、ロックしてください。このとき、キーを時計回りに垂直位置まで回して、抜き取ってください。必要に応じてカバー・トリムを取り付けてください。

インフォメーション

- ▷ 短距離走行させた後にスクリューと留め具を点検してください。必要であれば締め直し、適切な距離を走行後、再度点検してください。
- ▷ 悪路ではスクリューをより頻繁に点検してください。点検を行わない場合、ルーフ・トランスポート・システムがゆるみ、落下して、他の運転者や歩行者などを負傷させる恐れがあります。

アクセサリーの取り付け

1. アクセサリーを取り付けるには、サポート・カバーを開いて引き下げてください。
引き下げたカバーを引っ張らないでください。
2. プロファイル・トリムを取り外し、アクセサリーをT溝にはめ込んでください。サポート・カバーを再度閉じてください。
3. キャリア・アタッチメントの取り付けと固定に関する注意事項を遵守してください。

トレーラー・ヒッチ

トレーラー・ヒッチ

▷ トレーラー車両の取扱説明書をよくお読みください。
▷ トレーラー・ヒッチを改造および修理しないでください。

後付け

トレーラー・ヒッチの後付けはポルシェ正規販売店でのみ行ってください。ポルシェ正規販売店は、取り付けが許可されているトレーラー・ヒッチ、メーカー仕様、必要な変換作業について熟知しています。
この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

電気系統の接続

この車両には、トレーラー車両の電気系統を接続するために13ピンのプラグが用意されています。
▷ トレーラー車両のプラグが7ピンの場合、適切なアダプターを使用してください。

トレーラー車両の検出

車両がトレーラー車両の連結を検出した場合、オート・スタート/ストップが作動解除されるなど、様々な点で車両操作に影響を与えます（イグニッションをONにした後、インストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイに「**スタート/ストップ キノウ シヨウデキマセン**」のメッセージが表示されます）。
スピードメーターのインジケーター・ライトがトレーラー車両が検出されているかどうかを表示します。このインジケーター・ライトは方向指示灯を操作した際に点滅しなければなりません。

定義

車両のけん引能力（トレーラー車両の総重量）とは、トレーラー車両の空車重量と積載重量を合算したものです。
垂直連結荷重とは、車両のトレーラー・ヒッチに取り付けたトレーラー・ドローバーが支えられる重量です。
リヤ軸荷重とは、この車両のリヤ・アクスルの軸荷重、積載重量、およびトレーラー車両の垂直連結荷重を合算したものです。
車両およびトレーラー車両の総重量とは、この車両（けん引する車両）の重量とトレーラー車両の重量を合算したものです。
▷ それぞれの最大許容値を超えないようにしてください。

トレーラー車両のけん引

▷ 車両のけん引能力、垂直連結荷重、リヤ軸荷重を必ず遵守してください。

テクニカル・データに関するインフォメーション：
▷ 「重量（メーカー発表値）」（346ページ）を参照してください。
▷ 車両にトレーラー車両を連結した状態で、トレーラー車両が水平になるよう調整してください。必要に応じて、調整可能なドローバーを使用してください。
▷ 山岳地帯を走行する場合、高度（標高）が上がるにつれてエンジン出力が低下します。
テクニカル・データの許容重量は海抜0mでの数値です。この車両がけん引できる「車両およびトレーラー車両の総重量」は、高度が1,000m上昇するにつれて10%ずつ低下します。このことを念頭において走行ルートを計画してください。

荷物の配置

▷ トレーラー車両に積載する荷物はできるだけアクスルの近くに配置してください。
必ずすべての荷物を動かないように確実に固定してください。
▷ トレーラー・ヒッチの許容垂直連結荷重を最大限に生かしてください。ただし、決して超過しないでください。

タイヤ空気圧

▷ トレーラー車両をけん引するときは、タイヤ空気圧を全積載時の値に調整してください。

タイヤ空気圧に関するインフォメーション：
▷ 「冷間時のタイヤ空気圧(20℃)」（345ページ）を参照してください。
▷ トレーラー・メーカーの取扱説明書にしたがって、トレーラー車両のタイヤ空気圧を設定してください。

ドア・ミラー

▷ トレーラー車両の幅が広く、後方視界が妨げられる場合は、補助ドア・ミラーを装着してください。

ヘッドライト、ライト類

▷ トレーラー車両をけん引する前に、必ずヘッドライトの調整を点検してください。
必要であればヘッドライトの光軸を調整してください。
▷ トレーラー車両のプラグが正しく接続されており、すべてのライトが正常に作動するか点検してください。

トレーラーを連結しての運転

⚠ 警告 トレーラー車両をけん引する場合の車両ハンドリング特性の変化

トレーラー車両のけん引は車両のハンドリング特性に大きく影響します。

▷ トレーラー車両を連結したときのハンドリング特性やブレーキ特性に慣れるまでは、特に慎重に運転してください。

▷ ブレーキング、コーナリング、追い越し、駐車をするときなど、車両のハンドリング特性や車体寸法がいつもと異なることを常に念頭に置いてください。

▷ 急なステアリング操作やブレーキ操作は避けてください。

▷ トレーラー車両のみに荷物を積まないでください。重量バランスを考慮し、けん引する車両にも荷物を積んでください。
やむを得ず、トレーラー車両のみに荷物を積載する場合は低速で走行してください。

⚠ 警告 速度超過

トレーラー車両をけん引するときは、道路条件、交通状況、路面状態、車両/トレーラー車両重量に合わせて適切な速度で運転してください。トレーラーけん引中の速度の出し過ぎは、車両およびトレーラーのコントロールを失う可能性があります。
地域の法律等を遵守してトレーラー車両をけん引してください。

▷ トレーラー車両を連結した場合の走行安定性は、速度が上がるにつれて悪化します。下り坂や悪路、悪天候（強風）のときは特に速度を落として運転してください。

▷ 長い下り坂では適切な低速ギヤに入れ、エンジン・ブレーキを使用してください。

▷ トレーラー車両のみに荷物を積まないでください。重量バランスを考慮し、けん引する車両にも荷物を積んでください。
やむを得ず、トレーラー車両のみに荷物を積載する場合は低速で走行してください。

▷ トレーラー車両が軌道から外れたときは、直ちに減速してください。カウンターステアで走行姿勢を保たないでください。必要に応じてブレーキをかけてください。車両とトレーラー車両の姿勢をまっすぐに立て直すために加速しないでください。

⚠ 警告 後退時に距離警告が利用できないことによる事故

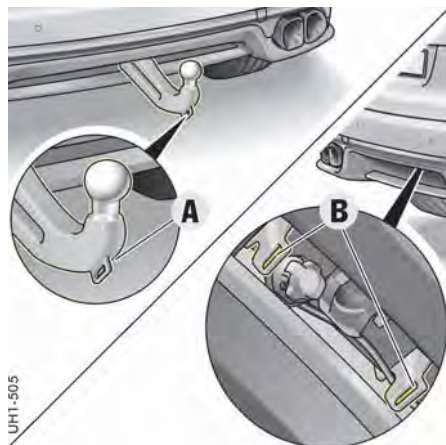
後退中、接続したトレーラー車両を検出すると（トレーラー・コネクター接続）、パーキング・アシスタントが自動的に解除されます。

▷ 十分注意して運転してください。
「パーキング・アシスタント」（258ページ）を参照してください。

インフォメーション

▷ トレーラー車両を連結すると、車両のあらゆる部分に大きな負荷がかかります。車両の機能を正常かつ安全に作動させるには、トレーラー車両をけん引する度に、専門家による点検およびメンテナンスが必要です。

▷ 急な坂道で発進するときは、オフロード走行プログラムを作動させてください。
オフロード走行プログラムに関するインフォメーション：
「オンロードおよびオフロード走行プログラム（オンロード/オフロード・モード）」（219ページ）を参照してください。

▷ 車両が動いているときに、車両とトレーラー車両の間に人、動物、物が入らないようにしてください。

A - 電動格納式トレーラー・ヒッチの固定用フック
B - 着脱式ボール・ジョイント付きトレーラー・ヒッチの固定用フック

トレーラーの連結

▷ トレーラー車両を連結する前に、必ず警報システムをOFFにしてください。傾斜センサー＊が作動して、警報が鳴ることがあります。
傾斜センサー＊に関するインフォメーション：「室内モニタリング・システムおよび傾斜センサー＊を手動でOFFにする」(267ページ)を参照してください。

▷ トレーラーを安全に連結するために、トレーラーの着脱ケーブルをトレーラー・ヒッチの固定用フックに取り付けてください。
車両の装備仕様により、固定用フックはボール・ヒッチ**A**またはバンパー下部**B**にあります。

インフォメーション

着脱式ボール・ジョイント付きトレーラー・ヒッチの場合は、トレーラーの着脱ケーブルを右または左の固定用フック**B**に取り付けてください。

トレーラーの切り離し

▷ トレーラー車両を切り離す前に、必ず警報システムをOFFにしてください。プラグを外すときに警報が鳴ることがあります。

▷ トレーラー車両にオーバーラン（惰性走行用）・ブレーキが装着されている場合、トレーラー車両のブレーキがかかっているときにトレーラー車両を切り離さないでください。

インフォメーション

トレーラー車両のライトがすべてLED仕様の場合は、トレーラー・プラグを切り離しても警報は鳴りません。

アタッチメントおよびアクセサリー

⚠ 警告 不適切なアクセサリー

不適切なアクセサリーを使用すると、トレーラー・ヒッチが破損する恐れがあります。

▷ アタッチメントおよびアクセサリーのメーカーがトレーラー・ヒッチでの使用を承認していることを確認してください。

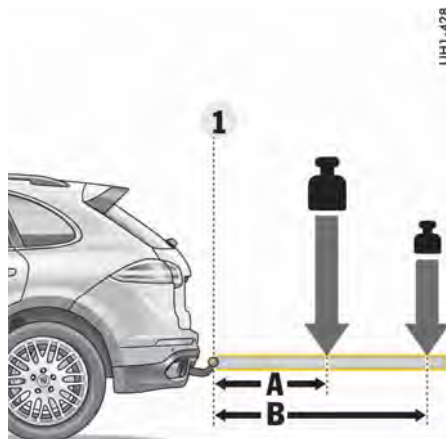
▷ アタッチメントおよびアクセサリーがポルシェ車での使用に適合しており、承認されていることを確認してください。

アタッチメントおよびアクセサリー（バイク・ラック・システムなど）使用時には以下に注意してください：

– 荷物を含むキャリア・システムの許容最大総重量は75kgです。
ただし、ボール・ヒッチから荷物の重心までの距離が長くなると、許容最大総重量は減少します。
「許容最大総重量（キャリア・システムと荷物）」(250ページ）を参照してください。

– バイク・キャリアは最大3台まで積載できるもののみが許可されています。

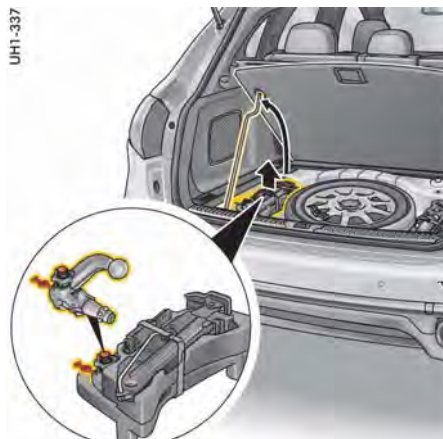
– アクセサリー/アタッチメントからボール・ヒッチ**1**までの距離は700mmを超えてはいけません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

アタッチメントおよびアクセサリーの負荷配分図

許容最大総重量（キャリア・システムと荷物）

ボール・ヒッチ1から荷物の重心までの距離が長くなると、キャリア・システムの許容最大総重量は減少します。

許容値は以下の通りです：

重心までの距離	許容最大総重量（キャリア・システムと荷物）
A = 300 mm	75 kg
B = 600 mm	35 kg

着脱式ボール・ジョイント付きトレーラー・ヒッチ

着脱式ボール・ヒッチはラゲッジ・コンパートメント・フロア左下に収納されています。

▷ ラゲッジ･コンパートメント･フロアのカバーを開き、フロア・ステーで支えてください。
ラゲッジ・コンパートメント・フロアを開くことに関するインフォメーション：
「ラゲッジ・コンパートメント・フロアを開く」（233ページ）を参照してください。

⚠ 警告 適正にロックされていないボール・ヒッチ

▷ ボール・ヒッチをロックしてキーを抜いている場合のみ、トレーラー・ヒッチを使用してください。

⚠ 警告 固定されていないボール・ヒッチ

ボール・ヒッチが確実に固定されていないと、事故が発生したときや、ブレーキまたはステアリング操作をしたときに乗員がケガをする恐れがあります。

▷ ボール・ヒッチが車両に固定されていない状態でトレーラーを連結しないでください。

▷ ボール・ヒッチは必ずツール・ボックスに格納してください。

知識

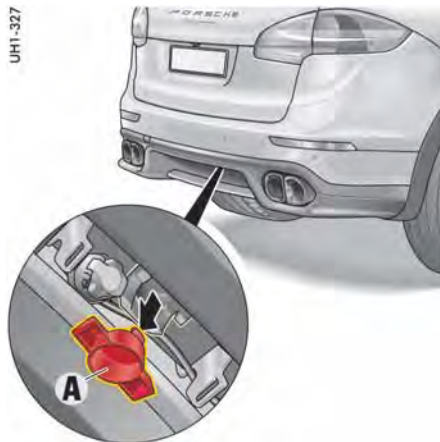
ボール･ヒッチのロック機構を損傷する恐れがあります。

ボール･ヒッチの脱着に補助器具やツールを使用しないでください。使用した場合、ボール・ヒッチが損傷し、トレーラー・ヒッチの使用安全性を失う恐れがあります。

▷ ボール・ヒッチの脱着に補助器具やツールを使用しないでください。
ボール・ヒッチの脱着は通常は手の力で行うことができます。

インフォメーション

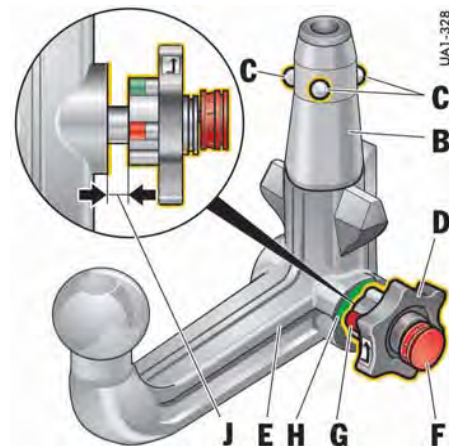
- ▷ ボール・ヒッチまたはマウント・チューブに改造、修理を行わないでください。
- ▷ ハンドリングの異常に気づいた場合、あるいは故障した場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。
- ▷ 運転する前にボール・ヒッチが所定の位置に正しくロックされているか確認してください。
- ▷ トレーラーを連結して運転する場合には、必ずロックを締結し、キーを抜いてください。
- ▷ トレーラーを連結した状態で、ボール・ヒッチをロック解除しないでください。
- ▷ トレーラーを連結していないときは、必ずボール・ヒッチを取り外してツール・ボックスに収納してください。
- ▷ ボール・ヒッチを取り外した後は必ずマウント・チューブをストッパーで塞いでください。
- ▷ 重要：初めてボール・ヒッチを使用するときは、キーに刻印されている番号をメモしてください。

キー番号をこちらに記
録しておいてください。................................

ボール・ヒッチの取り付け

ボール・ヒッチ・マウントおよびソケットはバンパー下部にあります。

マウント・チューブのストッパーにより、汚れが侵入しないように保護されています。

ストッパーの取り外し

- ▷ ストッパー **A**をマウント・チューブから引き抜いてください。
  引き抜いたストッパーはツール・ボックスに収納しておいてください。
- ▷ ボール・ヒッチを取り付ける前に、マウント・チューブが汚れていないか必ず点検してください。ボール・ヒッチを確実にロックするためにはマウント・チューブの汚れを取り除くことが重要です。

ボール・ヒッチの準備

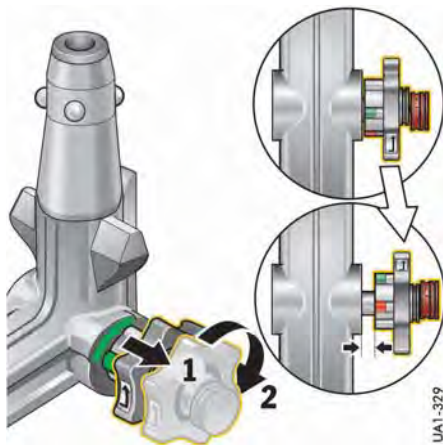
軸**B**、ロック・ボール**C**、ハンドル**D**に汚れや損傷がないか点検してください。

ボール・ヒッチ**E**は差し込む前に必ずプリテンションをかけてください。

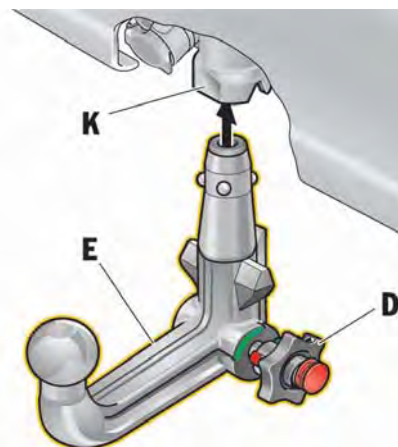
ボール・ヒッチのプリテンション点検

– キー**F**をロックに差し込んでください。キーの**矢印**を「**ロック開**」シンボルに向けてください。この状態ではキーを抜くことができなくなります。
– ハンドルの赤いマーク**G**がボール・ヒッチの緑のエリア**H**に合うようにしてください。
– ハンドルとボール・ヒッチの間のギャップがはっきり確認できるようにしてください。ハンドルとボール・ヒッチ間のギャップ**J**は約5mmにしてください。
– ロック・ボール**C**を軸の中に完全に押し込んでください。

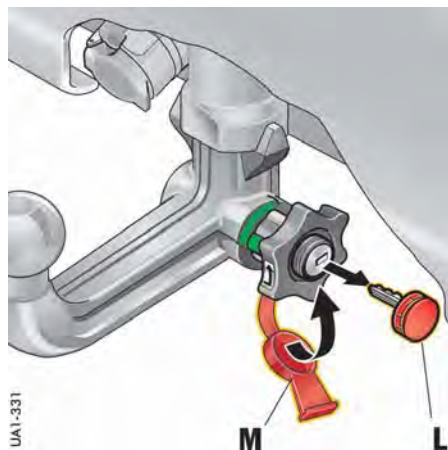
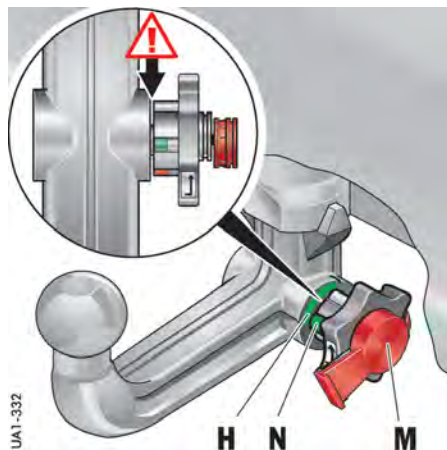
ボール・ヒッチにプリテンションがかかっていない場合、以下のようにテンションをかけてください：

▷ ボール・ヒッチをロック解除します。キーの**矢印**をハンドルの「**ロック開**」シンボルに向けてください。

▷ 左手でボール・ヒッチを持ってください。右手でハンドルを**矢印1の方向**に引き出し、引いたまま**矢印2の方向**に回して締結させてください。
これで、ボール・ヒッチにテンションがかかります。

ボール・ヒッチにプリテンションがかけられない場合、そのボール・ヒッチは使用しないでください。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ボール・ヒッチの車両への取り付け

ボール・ヒッチ**E**を差し込む際、手がハンドル**D**に触れないようにしてください。ボール・ヒッチを所定の位置にロックすると、ハンドルは反時計方向に回転して戻り、ボール・ヒッチに当たります。

1. テンションをかけたボール・ヒッチ **E** をマウント・チューブ**K**に**矢印の方向**に差し込み、押し上げてボール・ヒッチが所定の位置にカチッとはまったことを確認してください。

2. キー**L**を反時計方向に回してボール・ヒッチをロックし、キーを引き抜いてください。キーを引き抜くと、ハンドルを引き出すことはできません。
3. キャップ**M**でロック部を覆ってください。
4. キーはツール･ボックスに収納してください。

安全確認

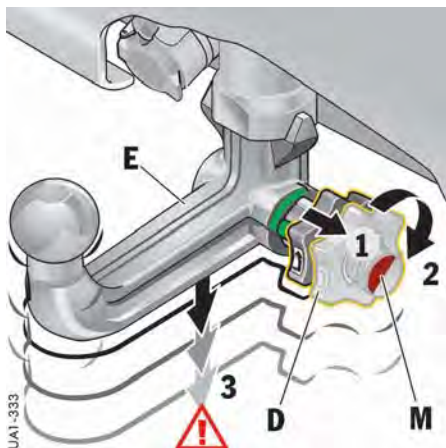
ボール･ヒッチが正しく取り付けられているか点検するには、以下の4つのポイントを確認してください。

⚠ 警告 適正に装着されていないボール・ヒッチ

▷ 4つの確認事項のいずれかでも該当しない場合は、そのトレーラー・ヒッチは使用しないでください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

1. ハンドルの緑のマーク**N**がボール･ヒッチの緑のエリア**H**に合っている。
2. ハンドルがボール･ヒッチに接触している。
3. 手で強くゆすっても、ボール・ヒッチがマウント・チューブに確実にはまっている。
4. キーが抜き取られ、キャップ**M**が所定の位置に取り付けられている。

トレーラー・ソケット

ソケットは差し込んだボール･ヒッチの左側にあります。

ボール・ヒッチの取り外し

1. ロック部のキャップを外してください。
キーを差し込み、時計方向に回してロックを解除してください。
キーの**矢印**をハンドルの**ロック開**シンボルに向けてください。

⚠ 警告 ボール・ヒッチの重量

▷ ボール・ヒッチを取り外すときは、地面とボール・ヒッチの間に手を挟まれないように十分注意してください。

2. 左手でボール・ヒッチ**E**を持ってください。
右手でハンドル**D**を**矢印1の方向**に引き出し、引いたまま**矢印2の方向**にいっぱいに回してください。
この位置でハンドルを保持してください。

3. ボール・ヒッチをマウント・チューブから**矢印3の方向**に取り外してください。
ハンドルを放してください。
ボール・ヒッチのテンションが抜け、この状態でツール・ボックスに格納できます。

4. 必ずストッパーをマウント・チューブに差し込み、汚れが侵入しないようにしてください。

i インフォメーション

– トレーラーを連結していないときは、必ずボール・ヒッチを取り外してください。
– ボール・ヒッチおよびマウント・チューブを正しく機能させるためには必ずきれいな状態に保ってください。
– ボール・ヒッチの取り外しおよびストッパーの取り付けは、高圧洗浄機、スチーム・クリーナーまたは同様の洗浄機を使用して洗浄する前に行ってください。
– ボール・ヒッチは高圧洗浄機、スチーム・クリーナーまたは同様の洗浄機を使用して洗浄しないでください。ボール・ヒッチ内部の潤滑用グリースが洗い流されます。

電動格納式トレーラー・ヒッチ

電動式トレーラー・ヒッチのボタン**A**または**B**のインジケーター・ライトが点灯していれば、該当する機能が作動します。

⚠ 警告 トレーラー・ヒッチの拡張/格納

トレーラー・ヒッチの拡張/格納の際に、動いているトレーラー・ヒッチと車両の固定パーツの間に身体の一部が挟まれる恐れがあります。

▷ ボール・ヒッチの作動を緊急停止するときは、ボタン**A**または**B**を再度押してください。
▷ ボール・ヒッチの可動範囲に人や動物がいないか、物がないか確認してください。

知識

ボール・ヒッチの拡張や格納時に車両を損傷する恐れがあります。

▷ トレーラー車両をけん引しているときや、バイク・キャリアなどがボール・ヒッチに取り付けられている場合、またはボール・ヒッチにより支えられている場合は、ボール・ヒッチを回転させないでください。
▷ トレーラー・ヒッチは、ボール・ヒッチを完全に拡張した状態で使用してください。
▷ 補助具やツールなどを使用してボール・ヒッチの作動を妨げないでください。ロック機構が損傷します。この場合、トレーラー・ヒッチの安全性が保証できません。
▷ 運転する前にボール・ヒッチが所定の位置に正しくロックされているか確認してください。

ボール・ヒッチの拡張

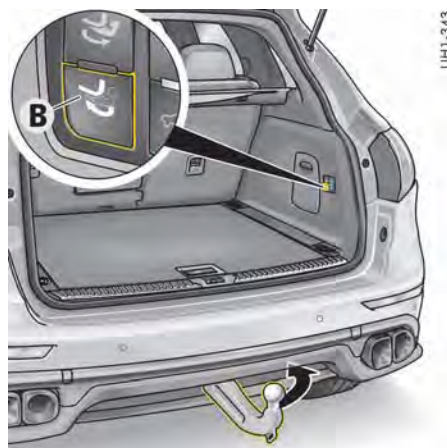
作動条件

– 停車してください。
– リヤ・リッドを開いてください。

拡張

▷ ボタン**A**を押してください。
ボール・ヒッチが自動的に拡張して、けん引位置になります。
ヒッチの拡張中は、ボタンのインジケーター・ライトが点滅します。
作動位置になると、ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

知識

トレーラー・ヒッチにアダプターが接続された状態でトレーラー・ヒッチを格納すると、車両またはトレーラー・ヒッチに損傷を与える恐れがあります。
▷ トレーラー・ヒッチを格納する前に必ずアダプターを取り外してください。

ボール・ヒッチの格納

作動条件

– 停車してください。
– リヤ・リッドを開いてください。
– トレーラー車両の連結を外してください。
– プラグ（および、すべてのアダプター）をソケットから切り離してください。
– ボール・ヒッチの保護キャップ、バイク・キャリアなど、ボール・ヒッチに取り付けられているものがあれば必ず取り外してください。

格納

▷ ボタン**B**を押してください。
ボール・ヒッチが自動的に格納します。
ヒッチの格納中は、ボタンのインジケーター・ライトが点滅します。
ヒッチが完全に格納されると、ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。

インフォメーション

– ボール・ヒッチを使用しないときは格納してください。
– トレーラー・ヒッチを使用するときは、トレーラー（バイク・キャリアなど）のプラグを必ず接続してください。
– ボール・ヒッチの作動を緊急停止するときは、ボタン**A**または**B**を再度押してください。
このときボタン**A**および**B**のインジケーター・ライトが交互に点滅し、作動が中断されたことを知らせます。
作動の途中位置でトレーラー・ヒッチを使用しないでください。

トレーラー・ヒッチが故障した場合は、マルチファンクション・ディスプレイに「**テンケン トレーラーヒッチ**」の警告メッセージが表示されます。
▷ マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：
「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

トレーラー・ソケット

ソケットは拡張したボール・ヒッチの右側にあります。

オーバーロード・プロテクション（過負荷時の保護機能）

動きを妨げる抵抗を検知するとボール・ヒッチの作動が中断されます。

オーバーロード・プロテクションの一時的な停止

▷ ボール・ヒッチが作動位置または格納位置になるまで、ボタン**A**または**B**を押し続けてください。

 インフォメーション

高圧洗浄機、スチーム・クリーナーなどを使用して車両を洗浄するときは、回転アームのシール部分やトレーラー・ソケットに直接噴射ノズルを向けないでください。ボール・ヒッチに水分が入ります。

トレーラー・カップリングの固定位置の保存

バッテリーの接続を切り離したときや故障の後は、電子回路に保存されているトレーラー・ヒッチの固定位置が消去されます。
この場合、ボタン**A**および**B**のインジケーター・ライトが同時に点滅します。

固定位置の保存方法：

▷ ボール・ヒッチが1回作動位置になり、次に完全に格納されるまで、ボタン**A**または**B**を押し続けてください。
固定位置が保存されます。

異常

▷ ハンドリングの異常に気づいた場合、あるいは故障した場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。
この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

駐車

＊ 日本仕様に設定はありません。

パーキング・アシスタント

ドライバーが車庫入れをする場合にパーキング・アシスタントが車両と障害物の距離を警告音でお知らせします。

▷ パーキング・アシスタントのディスプレイ表示とリバース・カメラに関するインフォメーションは、ポルシェ・コミュニケーション・システムPCM/CDR操作説明書＊のセクション「パーキング・アシスタント」も参照してください。

イグニッションがONのときにリバース（後退）ギヤを選択すると、パーキング・アシスタントが自動的に作動します。

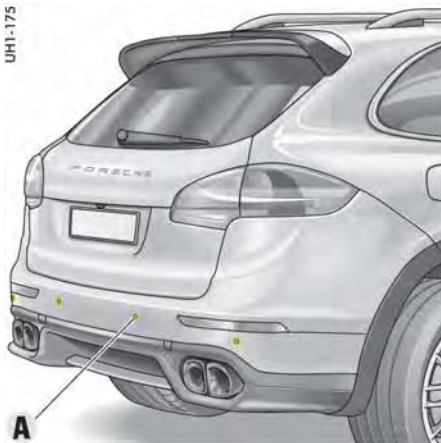
フロント・パーキング・アシスタント装備車では、次の場合にも自動警告が作動します：

– 車両と車両前方の障害物の距離が約120cm以下になると、警告音が鳴ります。
– 車両と車両前方の障害物の距離が約80cm以下になると、ポルシェ・コミュニケーション・システムのセンター・スクリーンにパーキング・アシスタントのディスプレイが表示されます。＊

次の場合、パーキング・アシスタント（フロントおよびリヤ）は**作動しません**：

– 速度が約15km/h以上のとき
– エレクトリック・パーキング・ブレーキが作動しているとき
– ティプトロニックSセレクター・レバーが**P**位置にあるとき

パーキング・アシスタントの手動による停止に関するインフォメーション：

▷ 「パーキング・アシスタントの停止」（259ページ）を参照してください。

リヤ超音波センサー

⚠ 警告 運転中または駐車中の不注意

パーキング・アシスタントにより操作の快適性は向上しますが、無謀な運転は避けてください。パーキング・アシスタントを使用している場合も、ドライバーには駐車時や障害物に注意を払う責任があります。

このシステムはドライバーの注意力の代わりになるものではありません。

▷ 移動範囲内に人、動物、障害物がないか必ず十分に確認してください。

フロント超音波センサー

センサー

車両の装備仕様により、リヤ・バンパーに4個の超音波センサー**A**、フロント・バンパーに4個の超音波センサー**B**が組み込まれており、直近の障害物との距離を測定します：

– 車体後方の検出範囲：約180cm
– 車体側方の検出範囲：約60cm
– 車体前方の検出範囲：約120cm

天井から吊り下がっている物体や地面の近くにある障害物など、センサーの検出範囲よりも上または下にある物体はセンサーの死角になります。このためパーキング・アシスタントが障害物として検出できません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

インフォメーション

- ▷ センサーの正常な機能を維持するため、センサーに付着した汚れ、氷、雪などは取り除いてください。
- ▷ センサーを擦ると故障の原因になります。
- ▷ 高圧洗浄機を使用して清掃するときは、センサーとの距離を十分に確保してください。
  圧力が高すぎるとセンサーが損傷します。
- ▷ ナンバー・プレート・ホルダーの改造、またはナンバー・プレートの移設、曲がり、取り付け不良などはシステムに悪影響を及ぼす恐れがあります。

警告音/機能

リバース（後退）ギヤを選択すると、パーキング・アシスタントがONになったことを知らせる**短い確認音**が鳴ります。

フロント・パーキング・アシスタント装備車では、リバース（後退）ギヤを選択しても確認音が**鳴りません。**

その代わり、ポルシェ・コミュニケーション・システムのセンター・スクリーンにパーキング・アシスタントのディスプレイが表示されます。＊

障害物を検出すると**警告音が断続的に**鳴ります。障害物との距離が近づくにつれて警告音の断続間隔が短くなります。

障害物との距離が約35cm以下になると、**警告音が連続して**鳴ります。

- ▷ 警告音が聞こえるようにオーディオの音量を調節してください。

警告音のボリュ－ムを個別に変更できます。

警告音量の調節に関するインフォメーション：

- ▷ 「パーキング・アシスタントの警告音量を設定する」（138ページ）を参照してください。

⚠ 警告 連続した警告音の無視

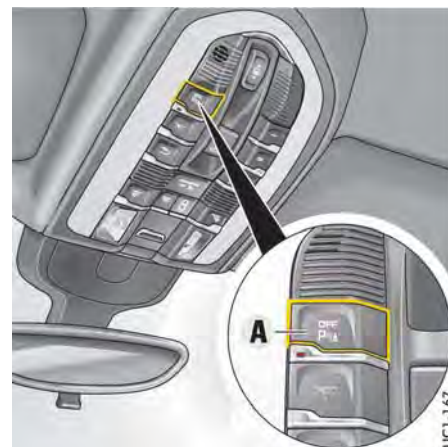
警告音が連続して鳴った後も運転を続けると、検出された障害物と衝突する可能性があります。その結果、車内または車外の人が負傷する恐れがあります。

- ▷ 警告音が連続して鳴ったときは、車両を停止してください。

超音波センサーの限界

- 粉雪、布または毛皮の衣類など、音波を吸収する物体があるとき
- ガラスの表面や平らな塗装面など、音波を反射する物体があるとき
- または細い棒状の物体

  などに対して、パーキング・アシスタントは正常に作動しません。

その他、大型車の排気ブレーキやエア・ジャッキなどを近くで使用したときも、超音波が乱れて正常な作動が妨げられることがあります。

パーキング・アシスタントの停止

フロントおよびリヤ・パーキング・アシスタント装備車両では、パーキング・アシスタント機能を手動で作動解除できます。

- ▷ オーバー・ヘッド・コンソールのボタン**A**を押してください。
  ボタンのインジケーター・ライトが点灯します。
  パーキング・アシスタントがOFFになります。

＊ 日本仕様に設定はありません。

故障の表示

一時的な故障（センサーへの氷結や泥汚れなど）があると、正常な作動が保証できません。

一時的な故障の原因が取り除かれると、パーキング・アシスタントの作動が正常に復帰します。

パーキング・アシスタントに**継続的な故障**が発生した場合、リバース（後退）ギヤを選択したときに3秒間の連続音が鳴ります。

考えられる原因：

– センサーに汚れ、氷、雪が付着したとき

▷ センサーを丁寧に清掃してください。

– システムの作動不良や故障が発生したとき

▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

トレーラー車両のけん引

トレーラー・ヒッチを拡張位置にしたときは、車両後方の障害物との距離が約45cm以下になると、警告音が連続して鳴ります。

トレーラー電源が接続されると、パーキング・アシスタントの後方エリアのモニタリングがOFFになります。

リバース・カメラ

リバース・カメラはリヤ・リッドの下部に取り付けられています。（**図を参照**）

▷ 別冊のPCM/CDR取扱説明書＊にある「リバース・カメラ」の章を参照してください。

▷ リバース・カメラはいつもきれいな状態を維持し、氷や雪が付着したときは取り除いてください。カメラの視界が遮られます。

車両のお手入れについて：

▷ 「車両のお手入れ」（288ページ）を参照してください。

サラウンド・ビュー[1)]

サラウンド・ビュー・カメラはフロント・バンパー**A**の中央、両側のドア・ミラー**B**、およびライセンス・プレート取り付け部のライセンス・プレートの上側**C**に取り付けられています。

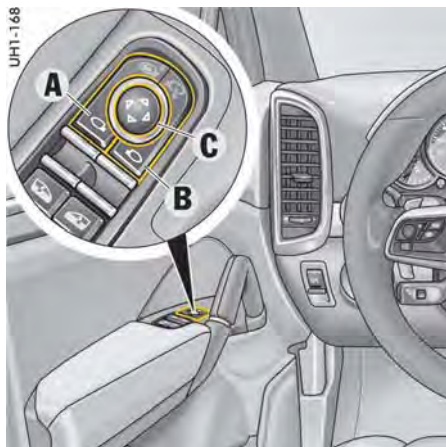
▷ 別冊のPCM/CDR取扱説明書＊にある「サラウンド・ビュー」の章を参照してください。

▷ サラウンド・ビュー・カメラはいつもきれいな状態を維持し、氷や雪が付着したときは取り除いてください。カメラの視界が遮られます。

車両のお手入れについて：

▷ 「車両のお手入れ」（288ページ）を参照してください。

1) 設定はありません。（2015年1月現在）

＊ 日本仕様に設定はありません。

駐車時の助手席ドア・ミラー下向き自動切り替え

運転席メモリーまたはコンフォート・メモリー装備車は、リバース（後退）ギヤを選択すると、**助手席ドア・ミラー**が自動的に下向きになり、助手席側の車体後方下部にある障害物を視認しやすくなります。

作動条件

– イグニッションをONにしてください。
– マルチファンクション・ディスプレイで、この機能を作動させる設定に切り替えてください。

助手席ドア・ミラーの下向き自動切り替えの設定に関するインフォメーション：

▷ 「駐車時に助手席ドア・ミラーを下向きにする」（135ページ）を参照してください。

ドア・ミラーを手動で下向きにする

マルチファンクション・ディスプレイで、この機能の作動を解除しているときでも、手動操作で助手席ドア・ミラーを下向きにすることができます。

1. ギヤをリバース（後退）に入れてください。
運転席ドア・ミラーを調節するためのボタン**A**のインジケーター・ライトが点灯します。

2. 助手席ドア・ミラーを調節するためのボタン**B**を押してください。
助手席のドア・ミラーが下向きになります。

 インフォメーション

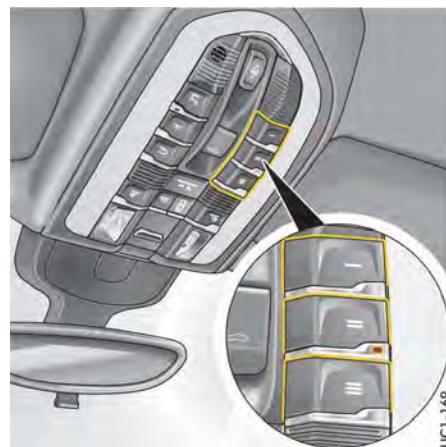
自動的に下向きになっているミラー・ガラスの位置は、調整ボタン**C**を使用して必要に応じて変更することができます。運転席メモリーまたはコンフォート・メモリー装備車は、この設定をキーや運転席ドアのメモリー・ボタンに保存することができます。

ドア・ミラーを通常位置に戻す

次の場合、ドア・ミラーが通常の位置に戻ります：

– リバース（後退）以外のギヤを選択してから一定時間が経過した後、**または**
– 速度が約15km/h以上になったとき

手動操作で助手席のドア・ミラーを通常位置に戻すこともできます。

▷ 運転席ドア・ミラーのボタン**A**を押してください。

ガレージ・ドア・オープナー＊（汎用リモート・コントロール）

この車両のガレージ・ドア・オープナーは、様々なリモート・コントロール装置（ガレージ・ドア、自宅の門や警報システム、ライトなど）を車内から作動させることができます。

ホームリンク®は最大3種類のリモート・コントロールを登録することができます。オーバーヘッド・コンソール・キーパッドの3つのメモリー・ボタン▬、═、≡にリモート・コントロール信号を割り当てることができます。プログラミングしたメモリー・ボタンを使用して、各装置を作動させることができます。

信号の送信は═ボタンのインジケーター・ライトに表示されます。

＊ 日本仕様に設定はありません。

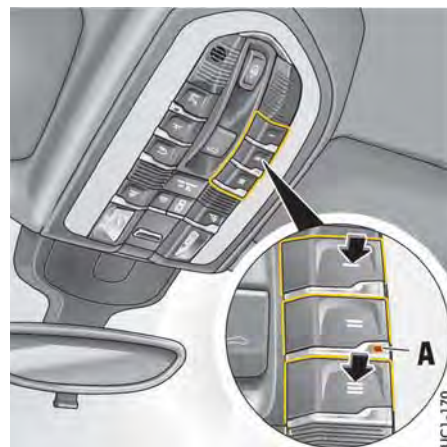
インフォメーション

▷ 各種装置のリモート・コントロールの取扱説明書をよくお読みください。
▷ ホームリンク®システムと各種装置のリモート・コントロールの互換性に関する情報は、ポルシェ正規販売店、ホームリンク®のウェブサイト(www.homelink.com)、またはホームリンク®のフリーコール(0800 0466 35465)から確認することができます。

警告 操作した機器による挟み込み、締め付けまたは圧迫

ガレージ・ドア・オープナーの使用時またはプログラミング時に、ガレージ・ドア・オープナーで操作する装置の可動範囲に人や動物がいたり、物があると、事故につながる恐れがあります。
▷ ホームリンク®システムを操作またはプログラミングするときは、装置の可動範囲に人や動物がいないか、物がないか確認してください。
▷ 装置のリモート・コントロール取扱説明書の注意事項を遵守してください。

 インフォメーション

▷ ボタンを押すと、トランスミッター・ユニットが車両の正面前方に向けて信号を送ります。必ず装置の受信機の方向に車両を向けてください。
これを怠ると、信号の送信エリアから外れることがあります。
▷ 車両を売却するときは、ガレージ・ドア・オープナーのプログラム信号をキーパッドから消去してください。
▷ プログラミング作業を初めて実施した後、装置が作動しない場合は、各種装置のリモート・コントロールの取扱説明書をよく読み、各種装置のリモート・コントロールが固定コード式か、可変コード式かを確認してください。

ガレージ・ドア・オープナーの操作

イグニッションをONにしてください。
▷ オーバーヘッド・コンソール・キーパッドの該当するホームリンク®ボタンを押したまま保持してください。
信号送信中にインジケーター・ライト**A**が点灯します。

ガレージ・ドア・オープナーのプログラミング：登録した信号の消去

ホームリンク®システムは、オーバーヘッド・コンソールとラジエーター・グリル付近でプログラミングします。

前提条件

プログラミングした信号を消去するときや、ガレージ・ドア・オープナー信号を登録するときは:
– イグニッションをONにしてください。
– 方向指示灯の作動をOFFにしてください。
– エンジンをOFFにしてください。
▷ ガレージ・ドア・オープナーを使用するときは、信号の送信エリア内に装置の受信機がなければなりません。

プログラミングした信号をキーから消去する

この操作では、ホームリンク®のすべてのプログラムを消去します。各ボタンのプログラムを個別に消去することはできません。
ボタンに信号を追加登録するときは、この操作を行わないでください。

1. オーバーヘッド・コンソール・キーパッドボタンのインジケーター・ライトAが素早く点滅し始めるまで、外側の2つのおよびボタンを約20秒間押し続けてください。
2. ボタンを放してください。
   ホームリンク®ボタンは消去され、再プログラミングすることができます。

固定コード式システムのガレージ・ドア・オープナー信号をキーに登録する

オーバーヘッド・コンソールから：

1. イグニッションをONにしてください。
2. プログラミング作業を**初めて**実施する前に、新車出荷時に設定されている標準コードを消去しなければなりません。

新車出荷時に設定されているコードの消去に関するインフォメーション：

▷ 「ガレージ・ドア・オープナーのプログラミング：登録した信号の消去」（262ページ）を参照してください。

3. オーバーヘッド・コンソール・キーパッドのボタンのインジケーター・ライトAがゆっくりと点滅するまで、お好みのボタンを押し続けてください。
   ボタンの登録作業は5分以内に完了しなければなりません（タイムアウト時間）。
4. プログラミングするシステムの**装置のリモート・コントロール**を持って車両の前方に移動してください。

車両の前側（ラジエーター・グリル付近）：

5. 受信部（**図を参照**）から約30cmの位置で、装置のリモート・コントロールを保持してください。車両の方向指示灯が**3回**点滅するまで、またはオーバーヘッド・コンソールのインジケーター・ライトAが素早く点滅し始めるまで、**送信ボタン**を押し続けてください（場合によっては約1分以上）。
   新しい信号のプログラミングが完了すると、車両の方向指示灯が3回点滅し、インジケーター・ライトAが素早く点滅します。
   車両と装置のリモート・コントロールの距離を変えて、数回実行しなければならない場合があります。
   システムによっては、装置のリモート・コントロールのインジケーター・ライトを消灯するときに、装置のリモート・コントロールの送信ボタンをもう1回押す必要があります。
6. 登録作業開始から5分が経過するとタイムアウトになり、方向指示灯が1回点滅します。
   手順3〜5を繰り返してください。
7. 上記の手順3〜5を繰り返して、その他のボタンにも別の装置を登録してください。

可変コード式システムのガレージ・ドア・オープナー信号をボタンに登録する

システムによっては、可変式コードもホームリンク®システムにプログラミングする必要があります。作業を2人で行うと、プログラミングが容易になります。

可変式コードを識別する

▷ プログラミング済みのホームリンク®ボタンを再度押し続けてください。

オーバーヘッド・コンソールのボタンのインジケーター・ライトAが素早く点滅し始め、約2秒後に常時点灯する場合、装置は可変コード・システムです。

▷ 同期に関するインフォメーションは、プログラミングするシステムの取扱説明書も参照してください。

ガレージ・ドア・オープナー信号をキーに登録する

▷ リモート・コントロールされる装置の範囲内に車両を停止してください。

オーバーヘッド・コンソールから：

1. イグニッションをONにしてください。
2. プログラミング作業を**初めて**実施する前に、新車出荷時に設定されている標準コードを消去しなければなりません。

新車出荷時に設定されているコードの消去に関するインフォメーション：

▷ 「ガレージ・ドア・オープナーのプログラミング：登録した信号の消去」（262ページ）を参照してください。

3. オーバーヘッド・コンソール・キーパッドの☰ボタンのインジケーター・ライト**A**がゆっくりと点滅するまで、お好みのボタンを押し続けてください。
   ボタンの登録作業は5分以内に完了しなければなりません（タイムアウト時間）。
4. プログラミングする**装置のリモート・コントロール**を持って車両の前方に移動してください。

車両の前側（ラジエーター・グリル付近）：

5. 受信部（**図を参照**）から約30cmの位置で、装置のリモート・コントロールを保持してください。車両の方向指示灯が**3回**点滅するまで、またはオーバーヘッド・コンソールのインジケーター・ライト**A**が素早く点滅し始めるまで、**送信ボタン**を押し続けてください（場合によっては約1分以上）。
   新しい信号のプログラミングが完了すると、車両の方向指示灯が3回点滅し、インジケーター・ライト**A**が素早く点滅します。
   車両と装置のリモート・コントロールの距離を変えて、数回実行しなければならない場合があります。
   システムによっては、装置のリモート・コントロールのインジケーター・ライトを消灯するときに、装置のリモート・コントロールの送信ボタンをもう1回押す必要があります。
6. 登録作業開始から5分が経過するとタイムアウトになり、方向指示灯が1回点滅します。
   手順3～5を繰り返してください。
7. 上記の手順3～5を繰り返して、その他のボタンにも別の装置を登録してください。
8. ガレージ・ドア・オープナーのモーター・ユニットなどプログラミングする装置の受信機のプログラミング・ボタンの位置を特定してください。

システムを同期する

9. **モーター・ユニットを作動させる：**
   ガレージ・ドア・オープナーの受信機のプログラミング・ボタンを押してください。
   その後、約30秒以内に次の手順10に進んでください（通常、モーター・ユニットの設定インジケーターが作動します）。
10. **オーバーヘッド・コンソールからプログラミングする：**
    手順3で選んだオーバーヘッド・コンソール・キーパッドのボタンを3回押してください（装置によっては、登録を完了するまでにキーパッドのボタンを数回押さなければならない場合があります）。
11. 上記の手順3～10を繰り返して、その他のボタンにも別の装置を登録してください。
12. オーバーヘッド・コンソールのプログラミングが完了した後、イグニッションをONにしてメモリー・ボタンを押したとき、速やかにホームリンク®信号を認識して起動することを確認してください。

キーパッドの各ボタンを再プログラミングする

ホームリンク®ボタンは、残りのボタンの登録を消去せずに個別に再プログラミングすることができます。

オーバーヘッド・コンソールから：

1. イグニッションをONにしてください。
2. オーバーヘッド・コンソール・キーパッドのボタンのインジケーター・ライト**A**がゆっくりと点滅するまで、プログラミングしたいボタンを（約20秒間）押し続けてください。
   ボタンの登録作業は5分以内に完了しなければなりません（タイムアウト時間）。
3. プログラミングする**装置のリモート・コントロール**を持って車両の前方に移動してください。

車両の前側（ラジエーター・グリル付近）：

4. 受信部（**図を参照**）から約30cmの位置で、装置のリモート・コントロールを保持してください。車両の方向指示灯が**3回**点滅するまで、またはオーバーヘッド・コンソールのインジケーター・ライト**A**が素早く点滅し始めるまで、**送信ボタン**を押し続けてください（場合によっては約1分以上）。
   新しい信号のプログラミングが完了すると、車両の方向指示灯が3回点滅し、インジケーター・ライト**A**が素早く点滅します。
   車両と装置のリモート・コントロールの距離を変えて、数回実行しなければならない場合があります。
   システムによっては、装置のリモート・コントロールのインジケーター・ライトを消灯するときに、装置のリモート・コントロールの送信ボタンをもう1回押す必要があります。
5. 登録作業開始から5分が経過するとタイムアウトになり、方向指示灯が**1回**点滅します。
   手順1～4を繰り返してください。
6. 上記の手順1～4を繰り返して、その他のボタンにも別の装置を登録してください。

インフォメーション

▷ 本書の手順、および各装置のリモート・コントロール取扱説明書の記述にしたがって慎重に登録作業を行っても、ボタンに信号を登録できない場合は、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ正規販売店にはガレージ・ドア・オープナー信号に関する情報が取り揃えてあります。

▷ ガレージ・ドア・オープナーのリモート・コントロールに新品の電池が入っていることを確認してください。電池が弱っていると、信号の送信不良が生じることがあります。その結果、ガレージ・ドア・オープナー機構が正しく認識できない誤ったコードが登録されることがあります。

警報システムおよび盗難防止

＊ 日本仕様に設定はありません。

警報システム

警報システムは、次の警報接点を監視します：

– ドア、リヤ・リッド、エンジン・コンパートメント・リッド、およびヘッドライトの警報接点
– 室内モニタリング・システム：車両をロックした後の車内への侵入（例えばウィンドウを壊して車内に侵入したとき）
– 傾斜センサー＊：車体の傾き（例えば車両をけん引して盗難しようとしたとき）
– トレーラー・ヒッチ・ソケット（例えばトレーラー車両を不正に外そうとしたとき）

これらの警報接点のいずれか1つでも不正な動きを検出すると、アラーム・ホーンが約30秒間鳴り、ハザード・ライトが点滅します。
それから5秒間警告が中断され、再度警報が作動します。この作動を最大10回繰り返します（国により異なります）。

ONにする

▷ 車両をロックすると、警報システムが作動します。

OFFにする

▷ 車両をロック解除すると、警報システムが解除されます。

 インフォメーション

– ドア・ロックにエマージェンシー・キーを差し込んで車両のロックを解除した場合、警報システムの作動を回避するために、ドアを開いてから15秒以内にイグニッションをON（イグニッション・ロックの**1**の位置）にしなければなりません。その他のドアはロックしたままになります。
いずれのドアも開かなかった場合、約30秒後に車両は自動的に再ロックされます。

エマージェンシー・キーによる車両のロック解除に関するインフォメーション：

▷ 「エマージェンシー・キーによるロック解除」（27ページ）を参照してください。

– 警報システムが作動するまでの時間は、国によって異なる場合があります。

作動した警報システムをOFFにする

▷ ドアをロック解除してください。**または**
イグニッションをONにしてください。

室内モニタリング・システムおよび傾斜センサー＊を手動でOFFにする

車内に人や動物を残して車両をロックするときや、鉄道または船舶などで車両を輸送する場合、室内モニタリング・システムと傾斜センサー＊を一時的にOFFにする必要があります。

▷ 「ドアをロックする」（17ページ）を参照してください。

▷ ドアを開いた場合、警報システムが作動することを車内に残る人に伝えてください。

キーの使用

▷ キーの🔒ボタンを2秒以内に**2回**押してください。
ハザード・ライトがゆっくり1回点滅します。
ドアはロックされますが、内側から開くことができます。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車

▷ ドア・ハンドルのボタン**A**を2秒以内に**2回**押してください。
ハザード・ライトがゆっくり1回点滅します。
ドアはロックされますが、内側から開くことができます。

室内モニタリング・システムと傾斜センサー＊は、ロック解除後30秒後に自動的にロックされた場合、いずれのドアも開かれていないためOFFの状態を維持します。

＊ 日本仕様に設定はありません。

B - 警報システムのインジケーター・ライト –
例：運転席ドア

機能表示

車両のロック状態は、フロント・ドアのインジケーター・ライト**B**の点滅頻度で示されます。
車両をロック解除すると、インジケーター・ライトが消灯します。

警報システムを起動させたとき

– 車両をロックしたときにインジケーター・ライトが素早く点滅し、その後は通常の速さで点滅します。

警報システムを起動させたとき（室内モニタリング・システムと傾斜センサー＊がOFFのとき）

– 車両をロックしたときにインジケーター・ライトが素早く点滅し、10秒間消灯し、その後通常の速さで点滅します。

セントラル・ロッキング・システムと警報システムの故障

インジケーター・ライトが10秒間点灯し、次に通常の倍の速さで20秒間点滅し、その後は通常の速さで点滅します。

警報システムの誤作動を回避するために

▷ 車内に人や動物を残して車両をロックするときや、鉄道または船舶などで車両を輸送する場合は、室内モニタリング・システムと傾斜センサー＊を一時的にOFFにする必要があります。
「ドアをロックする」（17ページ）を参照してください。

▷ スライディング/チルティング・ルーフ、パノラマ・ルーフおよびすべてのドア・ウィンドウを必ず閉じてください。

▷ トレーラー車両を連結または切り離す前に、必ず警報システムをOFFにしてください。警報システムが作動して、警報が鳴ることがあります。

イモビライザー

各キーには、コード信号を保存したトランスポンダー（電子回路）が組み込まれています。
イグニッションをONにする前に、イグニッション・ロックがコードを照合します。
あらかじめ登録されているキーを使用したときのみイモビライザーが解除され、エンジンを始動することができます。
ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、データを電波通信で伝達します。

ステアリング・コラム・ロック

ポルシェ・エントリー &ドライブ非装備車

ステアリング・コラムを自動的にロック解除する

▷ キーのリモート・コントロールによって車両をロック解除してください。
または
キーをイグニッション・ロックに完全に差し込んでください。

ステアリング・コラムを自動的にロックする

▷ キーを抜き取ってください。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車

ステアリング・コラムを自動的にロック解除する

▷ キーのリモート・コントロールによって警報システムを解除し、運転席ドアを開いてください。
または
ポルシェ・エントリー＆ドライブを使用して、運転席ドアを開いてください。
または
イグニッションをONにしてください。

ステアリング・コラムを自動的にロックする

▷ 運転席ドアを開いてください（イグニッションをOFFにした状態で）、または車両をロックしてください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

盗難を防止するために

車両から離れるときは、必ず次のことを守ってください：

▷ すべてのドア・ウィンドウを閉じてください。
▷ スライディング/チルティング・ルーフ、またはパノラマ・ルーフを閉じてください。
▷ エレクトリック・パーキング・ブレーキを作動させてください。
▷ キーを抜き取ってください（またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車ではイグニッションをOFFにしてください）。
▷ グローブ・ボックスをロックしてください。
▷ すべての小物入れを閉じてください。
▷ 貴重品、車両の登録書類、携帯電話機、自宅の鍵などを車内に残さないでください。
▷ ラゲッジ・コンパートメントをラゲッジ・コンパートメント・カバーで覆い隠してください。
▷ リヤ・リッドを閉じてください。
▷ すべてのドアをロックしてください。

ポルシェ車両追跡システム・プラス（PVTSプラス）・コントロール・ユニット＊

ポルシェ車両追跡システム・プラス（PVTSプラス）＊は、車両が盗難された場合にコントロール・センターで車両の位置を特定できるGSM/GPSベースの追跡システムです。これにより車両を発見することが可能となります。

ポルシェ車両追跡システム・プラス（PVTSプラス）＊は車両盗難時の警告を検出すると、即時当該車両の位置をコントロール・センターに送信します。

PVTSプラス＊には3つの異なる装備仕様があります：

– ドライバー・カード付きPVTSプラス＊
– リモート・キーパッド付きPVTSプラス＊
– ドライバー・カード/リモート・キーパッドなしのPVTSプラス＊

国別の保険および法律に応じて、PVTSプラスの装備仕様は異なります。車両に装備されているPVTSプラスの仕様については、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

インフォメーション

スマートフォン・アプリのポルシェ・カー・コネクト＊装備車では、アプリを使用して直接ポルシェ車両追跡システム・プラス（PVTSプラス）＊を設定することができます。

ポルシェ・カー・コネクト・アプリケーションのインストール、機能および管理に関する詳細情報は www.porsche.com/connect またはポルシェ正規販売店から入手できます。

▷ 「ポルシェ・カー・コネクト＊」（195ページ）を参照してください。

付属品およびシステムの初回アクティベーション

ポルシェ車両追跡システム・プラス（PVTSプラス）＊はポルシェ正規販売店によりテストを行っています。アクティベーションに関するご質問はポルシェ正規販売店までお問い合わせください。

システムのアクティベーションの後、お近くのコントロール・センターおよびサービス・プロバイダーの電話番号などの重要な情報が与えられます。

システムのアクティベーションに関する更に詳しい情報はwww.porsche.com/connectまたはポルシェ正規販売店から入手できます。

機能範囲

車両の追跡は車両が盗難にあった場合にのみ実施されます。盗難が発生した場合、テキスト・メッセージが登録した携帯電話に送信されます。車両の位置は安全上の理由からテキスト・メッセージには記載されません。

▷ 車両の盗難が発生した際はコントロール・センターにご相談ください。
盗難が発生した際は、最寄りの警察にも届け出る必要があります。

以下の場合、警報が作動します：

– **車両の不正な移動**：イグニッションがOFFの状態で車両が移動された場合（ドライバー・カード/リモート・キーパッド装備車：ドライバー・カード/リモート・キーパッドがない状態で車両が移動された場合）
– **妨害**：何者かによりPVTSプラス＊に変更が加えられた場合
– **侵入警報**：警報システムが作動し、警報が15秒間以上作動し続けた場合（ポルシェ純正警報システム装備車にのみ適用されます）
– **イグニッション・ロック警報**（リモート・キーパッド付きPVTSプラス用）：イグニッションをONにした後、3分以上リモート・キーパッドにコードが入力されなかった場合

＊ 日本仕様に設定はありません。

– **コード警報**（リモート・キーパッド付きPVTSプラス用）：間違ったコードをリモート・キーパッドに連続5回入力した場合

インフォメーション

– どのような場合でも必ず車両の盗難を検出できるわけではありません。
– PVTSプラス警報はバッテリーが上がった場合にも起動します。
バッテリーに関するインフォメーション：「バッテリー（12V）」（324ページ）を参照してください。

インフォメーション

– 車両が盗難された場合、コントロール・センターは当該車両のエンジンを始動できないように操作することができます。
– スマートフォン・アプリのポルシェ・カー・コネクト＊装備車では、盗難された際にアプリを使用して車両へのアクセスを禁止できます。

ドライバー・カード/リモート・キーパッドなしのPVTSプラス＊の操作

ポルシェ車両追跡システム・プラス（PVTSプラス）＊が通常作動していれば、お客様が操作を行う必要はありません。

ドライバー・カードによるPVTSプラス＊の操作

作動中（スイッチON）のドライバー・カードにより、PVTSプラスが自動的に作動を停止します。

ドライバー・カードのスイッチON

▷ ドライバー・カードのボタン**A**を押してください。
LED **B**が早く点滅します。ボタン**A**から手を離すと、LEDが約3秒間隔で点滅します。

作動中のドライバー・カードのLEDが点滅しなくなった、またはドライバー・カードのボタン**A**を押したときに点滅しない場合は、電池が消耗しています。電池を交換してください。

電池交換に関するインフォメーション：

▷ 「ドライバー・カード/リモート・キーパッド用電池の交換」（272ページ）を参照してください。

ドライバー・カードのスイッチOFF

▷ ドライバー・カードのボタン**A**を押し、LED **B**が消灯するまで約8秒間押し続けてください。
▷ 電池の寿命を延ばすため、長期間使用しない場合はドライバー・カードの電源をOFFにしてください。

インフォメーション

航空便での輸送中は、ドライバー・カードを飛行機で適用されるガイドラインにしたがってOFFにしなければなりません。

ドライバー・カードでPVTSプラス＊を作動する

▷ 車両から離れるときはイグニッションをOFFにし、ドライバー・カードを持って降りてください。
ドライバー・カードが車両から十分離れると、PVTSプラスが約70秒後に作動します。
車両を盗難しようとする試みをすべて検出します。

ドライバー・カードでPVTSプラス＊を停止する

▷ 車両のセンター・コンソールにドライバー・カードを保管するか、または常に携行してください。
作動中のドライバー・カードが車内、または車両のすぐ近くにある場合にPVTSプラスが停止します。

インフォメーション

– ドライバー・カードをラゲッジ・コンパートメント、エンジン・コンパートメント内に置いたり、コインなどの金属の近くに置かないでください。
– 盗難されたキーを使用して車両が盗難にあうことがあります。キーにドライバー・カードを取り付けないでください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

インフォメーション

PVTSプラス＊は1車両につき最高7個のドライバー・カードを検出できます。ドライバー・カードの追加、消去、または交換を希望される場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。
車両には作動中のドライバー・カードを1枚のみ置いてください。2枚目のドライバー・カードは2人目のドライバーのために用意されています。スペア・カードとして使用することも可能です。

ドライバー・カードの不具合

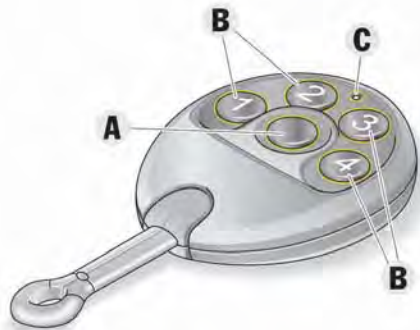
特別な状況下では（電波干渉を受けるなど）、ドライバー・カードが検出できないことがあります。マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ ドライバー・カードのボタン**A**を押して、ドライバーの検出を開始してください。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141 ページ）を参照してください。

ドライバー・カードの緊急停止

▷ ドライバー・カードを使用してPVTSプラスが停止できない場合（ドライバー・カードの電池が消耗している、またはドライバー・カードの紛失の場合）は、コントロール・センターでシステムの停止を行ってもらってください。

リモート・キーパッドによるPVTSプラス＊の操作

PVTSプラスを停止するためには、リモート・キーパッドのボタンを使用してコードを入力しなければなりません。PVTSプラス＊を作動するとすぐに、テキスト・メッセージによりコードが送信されます。

リモート・キーパッドでPVTSプラス＊を作動する

▷ 車両から離れるときはイグニッションをOFFにし、リモート・キーパッドを持って降車してください。
PVTSプラスは約3分後に作動します。
車両を盗難しようとする試みをすべて検出します。

リモート・キーパッドでPVTSプラス＊を停止する

1. ボタン**A**を押してください。
リモート・キーパッドのLED **C**が点滅し始めます。
2. キーパッドのボタン**B**を使用してコードを入力し、ボタン**A**を押して、決定してください。
LEDが消灯します。PVTSプラスが停止します。

コードを入力してもシステムが停止しない場合、再度コードを入力できます。5回入力に失敗すると、警報がコントロール・センターに送信されます。

イグニッションをONにした後3分以内にPVTSプラスを停止**しなかった場合**、警報がコントロール・センターに送信されます。コントロール・センターはお客様に電話で連絡します。

マルチファンクション・ディスプレイのメッセージ

イグニッションONの後1分以内に正しいコードが入力**されなかった場合**、インストルメント・パネルのマルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

正しいコードが入力されないままの場合、1分後に再度警告シンボルが表示されます。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

インフォメーション

– コードを変更しなければならない場合（コードを忘れた、または不正な人がコードにアクセスしようとしたなど）、サービス・プロバイダーにお問い合わせください。新しいコードがテキスト・メッセージで登録した携帯電話に送信されます。
– PVTSプラスは1車両につき最高7個のリモート・キーパッドを検出できます。リモート・キーパッドの追加、消去、または交換を希望される場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。

リモート・キーパッドの緊急停止

▷ リモート・キーパッドを使用してPVTSプラスが停止できない場合（リモート・キーパッドの電池が消耗している、またはリモート・キーパッドの紛失の場合）、コントロール・センターでシステムの停止を行ってもらってください。

輸送

イグニッションをOFFにして車両を輸送する場合（フェリーなど）、トランスポート・モードを作動させてください。
車両をトランスポート・モードを作動させて輸送しなかった場合、警報システムの誤作動の原因となり、それに対する支払いが発生します（更に詳しい情報はwww.porsche.com/connectから入手できます）。

トランスポート・モードの作動/停止

▷ 車両の輸送前および車両の輸送が完了した時にコントロール・センターにご連絡ください。

メンテナンス

PVTSプラスは以下の状況でメンテナンス・モードに設定してください：
– 規定のカスタマー・サービス（定期点検など）の実施時
– バッテリーの接続を外している場合

車両のサービス点検中、車両をメンテナンス・モードにしていなかった場合、警報システムの誤作動の原因となり、それに対する支払いが発生します（更に詳しい情報はwww.porsche.com/connectから入手できます）。

メンテナンス・モードの作動/停止

▷ 車両の修理実施前後にコントロール・センターにご連絡ください。
▷ サービス点検時は、ポルシェ正規販売店にポルシェ車両追跡システム・プラス（PVTSプラス）＊が装備されていることをお知らせください。
更に：
▷ ドライバー・カード付きPVTSプラス：
PVTSプラスを停止するため、サービス点検時はドライバー・カードを車両に残してください。
▷ リモート・キーパッド付きPVTSプラス：
サービス点検時はリモート・キーパッドをポルシェ正規販売店にお渡しください。コードを知らせる必要はありません。

インフォメーション

サービス点検後、ドライバー・カード/リモート・キーパッドが返却されたことを確認してください。

ドライバー・カード/リモート・キーパッド用電池の交換

ドライバー・カード/リモート・キーパッドの電池が消耗した場合は、登録した携帯電話に自動的にテキスト・メッセージが送信されます。マルチファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。
▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

ドライバー・カード用電池の交換

1. ドライバー・カードをOFFにし、スクリュードライバーを使用して慎重に開いてください。
「ドライバー・カードのスイッチOFF」（270ページ）を参照してください。
2. 電池を交換してください（電極の向きに注意してください）。
3. ドライバー・カードを組み立てて、確実にはめ合わせてください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

リモート・キーパッド用電池の交換

1. スクリュードライバーを使用してリモート・キーパッドを慎重に開いてください。
2. 電池を交換してください（電極の向きに注意してください）。
3. リモート・キーパッドを組み立てて、確実にはめ合わせてください。

規格との適合

ポルシェ車両追跡システム・プラス（PVTSプラス）＊は、現在の欧州規格に準拠しており、該当するEUガイドラインにしたがって操作することができます。

現在システムに適用されている電磁波適合仕様は確実に遵守しなければなりません。他の電装品/電気機器からのシステムへの干渉およびお客様のシステムからの他の電装品/電気機器への干渉はほぼ完全に回避されます。

ドライバー・カード/リモート・キーパッド

Cobra Automotive Technologies s.P.A.は、装置2781および8015は使用上の義務であるEUガイドラインの基本的要件に適合しており、特に「R&TTE理事会指令1999/5/EC」および他の関連規約の基本要件に適合していることを承認します。装置にはCE 0678のマークが付いています。

テレマチック・ユニット

Cobra Automotive Technologies s.P.A.は、装置ICD40(2140)が使用上の義務であるEUガイドラインの基本的要件に完全に適合しており、特に「R&TTE理事会指令1999/5/EC、ECER10」および他の関連規約の基本要件に適合していることを承認します。関連法規にしたがって装置にはE24 10R-03 0425 CE 0678マークが付いています。

GSM認可国（抜粋）

アルバニア、アンドラ、オーストリア、ベルギー、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、カナダ、中国、クロアチア、チェコ共和国、キプロス、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ジョージア、ドイツ、英国、ギリシャ、ガーンジー、ハンガリー、アイスランド、アイルランド、マン島、イタリア、ジャージー、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マケドニア、マルタ、モルドバ、モナコ、モンテネグロ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、レユニオン、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロバキア、スロベニア、スウェーデン、スイス、スペイン、トルコ、米国

PVTSプラスの使用に関する詳細情報はwww.porsche.com/connectから入手できます。

CE 0678

＊ 日本仕様に設定はありません。

車両のお手入れ

＊ 日本仕様に設定はありません。

メンテナンスの諸注意

ポルシェ車に関するすべてのメンテナンス作業は、ポルシェ正規販売店で実施することを推奨致します。
十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
お客様ご自身でメンテナンスされる場合につきましても、細心の注意を払っていただくようお願い致します。本書に掲載した注意事項を守った場合にのみ、信頼できる走行性能が保証されます。
不適切なメンテナンスを行いますと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

危険 有毒な排気ガスの吸引

排気ガスには無色無臭の一酸化炭素を含んでいます。一酸化炭素は少量でも人体に有害で、中毒を起こす危険があります。

▷ エンジンを作動させた状態で作業するときは、必ず車両を屋外に駐車させるか、または換気の良い場所で行ってください。

警告 車両の油脂類、燃料蒸発ガスへの引火、爆発性ガスの爆発

燃料、エンジン・オイル、トランスミッション・オイルなど、車両に使用される油脂類の多くは非常に引火しやすい性質を持っています。燃料蒸発ガスは発火、爆発する恐れがあります。バッテリー充電時は爆発性の高い混合ガスが発生することがあります。

▷ バッテリーや燃料系統の近くで喫煙したり、裸火を近づけないでください。ケーブル接触等による火花にも注意してください。
▷ メンテナンス作業は屋外か、または屋内の換気が良い場所でのみ実施してください。

警告 有害な補充液

エンジン・オイル、ブレーキ液、クーラントなどは人体に有害（毒性、刺激性、腐食性）です。

▷ メンテナンス作業は屋外か、または屋内の換気が良い場所でのみ実施してください。
▷ これらの油脂類は、お子様の手が届かない所に保管し、廃棄する場合は定められた処理方法を遵守してください。

警告 高温のエンジン部品やクーラント

エンジンが作動しているときは、エンジンと周辺の部品、エキゾースト・システム、クーラントなどが非常に熱くなっています。
クーラント・リザーバー・タンクには圧力がかかっています。クーラント・リザーバー・タンクを不用意に開くと、熱いクーラントが突然吹き出す恐れがあります。

▷ 加熱した車両部品、特にエンジンやエキゾースト・システムの近くでは、十分注意して作業を行ってください。
▷ エンジン・コンパートメント内の作業を行う前に、エンジンをOFFにし、十分冷やしてください。
▷ エンジンが熱いときはリザーバーのキャップを開かないでください。
▷ 水平な場所に停車し、**エンジンが冷えているときのみ**クーラントを補充してください。

警告 ラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、エンジン周りの他の作動部品

エンジン・コンパートメントでの作業中、手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）、ネックレス、長い髪などがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルトなどの作動部品に巻き込まれないように十分注意してください。
エンジンをOFFにし、キーを抜き取っている状態でも、温度によってはラジエーター・ファンが作動を開始することがあります。

▷ エンジンとラジエーター・ファンの近くで作業するときは十分注意してください。ラジエーターおよびラジエーター・ファンは、車両の前側にあります。

▷ 身体の一部、衣服、アクセサリーなどがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、その他の作動部品に巻き込まれないように、十分注意してください。

⚠ 警告 イグニッション・システムによる感電

イグニッションがONのときは、イグニッション・システムのすべてのケーブルと配線に高電圧が作用しています。

▷ イグニッション・システムの作業を行うときは、感電しないように十分注意してください。

⚠ 警告 不十分な車両の固定

車両がしっかり固定されていない、または正しく固定されていない場合、不意に動き出したり、ジャッキやリフティング・プラットフォームなどのリフト装置から落下したりする恐れがあります。

▷ やむを得ずエンジンをかけたまま作業する場合は、必ずエレクトリック・パーキング・ブレーキを作動させてください。**また**、ティプトロニックSセレクター・レバーを**P**の位置にしてください。

▷ やむを得ず車両の下に入って作業する場合は、必ず安定したサポート・スタンドで車体を支えてください。

▷ 車両は必ず、車両下回りにある規定のジャッキアップ・ポイントで持ち上げてください。

▷ 車両をジャッキアップ後は、エンジンを始動しないでください。エンジンの振動により車両が落下する恐れがあります。

テスト・スタンドでの測定

パフォーマンス・テスト

ポルシェ社ではローラー・タイプ・テスト・スタンドでのパフォーマンス・テストを承認していません。

ブレーキ・テスト

ブレーキ・テストはローラー・タイプ・テスト・スタンドのみを使用して行ってください。

ローラー・タイプ・テスト・スタンドを使用する場合は、次の条件を守ってください：

– 測定速度：7.5km/h以下
– 測定時間：20秒以内

エレクトリック・パーキング・ブレーキのテスト

ブレーキ・テスト・スタンドでエレクトリック・パーキング・ブレーキを測定するときは、イグニッションをONにし、セレクター・レバーを**N**の位置にしなければなりません。アクセル・ペダルを踏まないでください。

車両が自動的にブレーキ・テスト・モードに切り替わり、エレクトリック・パーキング・ブレーキのテストが可能になります。

このときマルチファンクション・ディスプレイに「**パーキング ブレーキ サービスモード**」のメッセージが表示されます。

オン・ザ・カー・ホイール・バランス

車両にタイヤを装着した状態でホイール・バランスを計測するときは、車両全体をリフト・アップし、ホイールが自由に回転できる状態にしなければなりません。

エンジン・オイル・レベルの点検

▷ オイル・レベルは、給油の前に定期的にマルチファンクション・ディスプレイで点検してください。

▷ 「エンジン・オイル・レベルの表示と測定」（113ページ）を参照してください。

エンジン・オイルの補充量

オイル・レベルが下限(Min)まで低下すると、最大補充量がマルチファンクション・ディスプレイに表示されます。

▷ 上限(Max)を超えてエンジン・オイルを補充しないでください。

オイル・レベルの警告

オイル・レベルが低くなると、マルチファンクション・ディスプレイのオイル警告灯でお知らせします

▷ 早急にエンジン・オイルを補充してください。

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

エンジン・オイル補充後、またはエンジン・コンパートメント・リッドを開いたときのオイル・レベルの測定

エンジンが作動温度に達した状態で平坦な場所に駐車し、約2分間待った後、測定可能になります。

⚠ 警告 ラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、エンジン周りの他の作動部品

エンジン・コンパートメントでの作業中、手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）、ネックレス、長い髪などがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルトなどの作動部品に巻き込まれないように十分注意してください。
エンジンをOFFにし、キーを抜き取っている状態でも、温度によってはラジエーター・ファンが作動を開始することがあります。

▷ エンジンとラジエーター・ファンの近くで作業するときは十分注意してください。ラジエーターおよびラジエーター・ファンは、車両の前側にあります。
▷ 身体の一部、衣服、アクセサリーなどがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、その他の作動部品に巻き込まれないように、十分注意してください。

⚠ 警告 高温のエンジン部品

エンジンがかかっているときは、エンジンと周辺の部品が非常に熱くなっています。

▷ エンジン・コンパートメント内で作業するときは十分注意してください。
▷ エンジン・コンパートメント内の作業を行う前に、エンジンをOFFにし、十分冷やしてください。

エンジン・オイルの補充

Porsche recommends Mobil 1

適合オイル

車両	規格[1]	粘度等級[2]
Cayenne S、Cayenne Turbo	Porsche A40	SAE 0W - 40[3] SAE 5W - 40[4] SAE 5W - 50[4]
Cayenne ディーゼル＊ Cayenne S ディーゼル＊	Porsche C30 **または** VW 507 00	SAE 0W - 30[3] SAE 5W - 30[3]

1) 一般に、メーカーが推奨するエンジン・オイルの仕様や規格は、オイル缶に記載されているかまたは販売店に表示されています。
最新の承認オイルについてはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

2) 粘度等級 – 例：SAE 0W - 40
粘度0W = 低温時の粘度（冬）
粘度40 = 高温粘度

3) すべての温度範囲に適応

4) –25°C以上の温度に対応

下記の点を必ず守ってください：

– ポルシェ社が認証したエンジン・オイルのみを使用してください。これは、車両の信頼性を高め、故障を回避するための前提条件です。
– 定期的なエンジン・オイルの交換はメンテナンスの一部です。
「整備手帳」に記載された規定のサービス・インターバルで定期的なサービス（特にオイル交換サイクル）を行うことが重要です。
– エンジンに適合するオイルであれば、互いに混ぜ合わせることができます。
– ポルシェ車のエンジンはオイル添加剤を必要としません。
– エンジン・コンパートメントには、この車両に適したオイルの情報を記したステッカーが貼り付けてあります。

詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告 エンジン・オイルの発火

エンジン・オイルが過熱したエンジン部品に触れると発火する恐れがあります。

▷ エンジン・オイルの補充は十分に注意して行ってください。
▷ エンジン・オイルの補充はエンジンを停止し、イグニッションをOFFにしてから行ってください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

Cayenne Sのエンジン・オイル給油口

Cayenne Turboのエンジン・オイル給油口

Cayenne Diesel＊のエンジン・オイル給油口

知識

エンジン・オイルがドライブ・ベルトに付着すると損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・オイルの補充は十分に注意して行ってください。

▷ エンジン・オイルの補充はエンジンを停止し、イグニッションをOFFにしてから行ってください。

▷ 「メンテナンスの諸注意」（275ページ）を参照してください。

1. オイル・フィラー・キャップを取り外してください。
2. マルチファンクション・ディスプレイのオイル・ゲージにしたがってオイルを補充してください。
3. オイル・フィラー・キャップを慎重に取り付けてください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

Cayenne S Diesel＊のエンジン・オイル給油口

ウォッシャー液

下記の点を必ず守ってください：

▷ 季節に合わせて、水と適切な溶剤（ウィンドウ・クリーナーの濃縮液、凍結防止剤）を正しい比率で混ぜ合わせてください。
夏季は水とウィンドウ・クリーナーの濃縮液をウィンドウ・クリーナーの容器に記載されている混合比率にしたがって混ぜてください。
冬季は水とウィンドウ・クリーナーの濃縮液に、凍結防止剤を容器に記載されている混合比率にしたがって加えてください。

▷ ウィンドウ・クリーナーや凍結防止剤の容器に記載されている注意事項を遵守してください。

▷ 次の条件を満たしているウィンドウ・クリーナーのみを使用してください：

– 濃度1:100
– 無リン
– プラスチック・ヘッドライト・レンズに適しているもの

ポルシェ社が推奨するウィンドウ・クリーナー濃縮液の使用を推奨します。詳しくは、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

フロント/リヤ・ウィンドウ・ウォッシャーおよびヘッドライト・ウォッシャー・システムのウォッシャー液タンクは、エンジン・ルーム内の左奥にあり、青色のキャップが付いています。

警告メッセージ

ウォッシャー液が少ない場合、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ 次の機会にウォッシャー液を補充してください。

このときウォッシャー液の残量は約0.5リットルになっています。ウォッシャー液タンクの容量は約4.5リットルまたはヘッドライト・クリーニング・システム装備車では7.5リットルです。

ウォッシャー液の補充

1. ウォッシャー液タンクのキャップを開いてください。
2. ウォッシャー液を補充してください。
3. キャップを慎重に閉じてください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

エア・クリーナーの交換

定期的なフィルター・エレメントの交換は、メンテナンスの一部です。

▷ ほこりの多い場所では、より頻繁に清掃し、必要に応じて交換してください。

▷ 「メンテナンスの諸注意」(275ページ) を参照してください。

室内防塵用フィルターの交換

定期的なフィルターの交換は、メンテナンスの一部です。

フィルターが汚れると、空気の流入量が減り、ウィンドウが曇るなどの現象が起こります。

▷ ポルシェ正規販売店でフィルターを交換してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

 インフォメーション

室内防塵用フィルターは、車内に取り込む外気から、ほこりや花粉などを取り除きます。

▷ 外気が排気ガスなどで汚れている場所では、内気循環に切り替えてください。

ワイパー・ブレード

知識

ワイパー・ブレードのお手入れが適切でない場合、損傷する恐れがあります。

ワイパー・ブレードのグラファイト・コーティングが損傷する恐れがあります。

▷ 布またはスポンジでワイパー・ブレードを拭き取らないでください。きれいな水で洗い流すのみにしてください。

知識

ワイパー・アームが不意に倒れたり、ワイパー・ブレードが凍結することにより損傷する恐れがあります。

▷ ワイパー・ブレードを交換する場合は、ワイパー・アームをしっかり持ってください。

▷ フロント・ウィンドウから剥がす前に、ワイパー・ブレードの凍結を溶かしてください。

ワイパー・ブレードをきれいな状態に保つことで、良好な視界を確保できます。

▷ ワイパー・ブレードは1年に2回（冬季の前後）またはワイパーの払拭性能が低下したときや、ワイパー・ブレードが損傷した場合に交換してください。

▷ ウィンドウ・クリーナーを使用してフロント・ウィンドウを定期的に清掃してください。特に洗車機を使用した後は清掃してください。
ポルシェ・ウィンドウ・クリーナーの使用を推奨します。ワイパー・ブレードの汚れが激しいとき（昆虫の死骸が頑固に付着しているときなど）は、スポンジまたは布で拭き取ってください。

ワイパー・ブレードのびびりや異音が発生するときは、次の原因が考えられます：

– 自動洗車機を使用すると、フロント・ウィンドウにワックス成分が付着します。このワックスはウィンドウ・クリーナーの濃縮液を使用しないと除去できません。

– ワイパー・ブレードが損傷または摩耗しています。

▷ 損傷したワイパー・ブレードは、速やかに交換してください。

▷ 「ウォッシャー液」(279ページ) を参照してください。

ワイパー・ブレードの交換

知識

ワイパー・ブレードの交換が適切でない場合、損傷する恐れがあります。

ワイパー・ブレードを交換したときに、ブレードが確実に取り付けられていないと、走行中に脱落することがあります。

▷ ワイパー・ブレードが正しく取り付けられているか点検してください。
ワイパー・ブレードは、ワイパー・アームに正しく固定されていなければなりません。

▷ ワイパー・ブレードの取り付けは、ワイパー・ブレードに付属の取扱説明書を参照してください。

▷ ワイパー・ブレードの交換作業は、ポルシェ正規販売店で実施することを推奨します。

エミッション・コントロール・システム

エミッション・コントロール・システム（三元触媒コンバーター、O2センサー、エレクトロニック・コントロール・ユニット）の効率を維持するために、

– 定期点検時期（サービス・インターバル）を遵守してください。
– Cayenne S、Cayenne S E-Hybrid、Cayenne Turboは**金属系添加物を含まない無鉛ガソリンのみ**を使用してください。
– Cayenneディーゼル＊、Cayenne Sディーゼル＊は**ロー・サルファー・ディーゼル燃料(低硫黄軽油)のみ**を使用してください。

 インフォメーション

エンジンの空燃比制御システムに不具合が発生すると、触媒コンバーターが過熱して損傷する恐れがあります。

警告 エキゾースト・システム付近の可燃物

エンジン作動中のエキゾースト・システムは非常に熱くなっています。エキゾースト・システムの近くに燃えやすい物があると、引火する恐れがあります。
エキゾースト・システム部に防錆剤やアンダーコーティング剤を塗布すると、運転中に過熱して発火する恐れがあります。

▷ エキゾースト・マニホールド、エキゾースト・パイプ、触媒コンバーター、ヒート・シールド、およびその周囲には、アンダー・コーティング剤や防錆剤を塗布しないでください。走行中、排気系の熱でこれらの素材が発火することがあります。
▷ 可燃物（乾燥した草や枯れ葉など）が高温のエキゾースト・システムに接触するような場所に駐車したり、走行しないでください。

知識

エミッション・コントロール・システムに損傷をあたえる恐れがあります。

▷ 通常の操作でエンジンが始動しない場合にスターター・モーターを何度も繰り返し作動させたり、長時間作動させ続けたりしないでください。
▷ 走行中にミス・ファイヤーが発生したとき（エンジンの回転が安定しないときや、エンジン出力が低下したとき）は、直ちにポルシェ正規販売店で修理してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
▷ 燃料残量警告灯が点灯した場合は高速でコーナリングしないでください。
▷ 燃料タンクが空になるまで走行しないでください。
▷ この車両では、トランスミッションの重大な損傷を避けるため、けん引または押しがけによるエンジンの始動ができません。

予備燃料タンク

警告 予備燃料タンクの携行

事故などで予備燃料タンクが損傷した場合、漏れた燃料が発火する恐れがあります。

▷ 走行中は予備燃料タンクを携行しないでください。
▷ 関連する法規制を遵守してください。

警告 燃料蒸気ガスの吸引

燃料蒸発ガスは人体に有害です。

▷ 走行中は予備燃料タンクを携行しないでください。

ディーゼル・パティキュレート・フィルター＊

ディーゼル・パティキュレート・フィルターはディーゼル燃料の燃焼で発生する「すす」を集積し、燃焼させます。

ディーゼル・パティキュレート・フィルターは排出ガスのすすをほぼすべて取り除きます。
ディーゼル・パティキュレート・フィルターは運転スタイルに応じた間隔で清掃されます。清掃プロセスには数分かかり、この間に低い頻度で一時的にエンジン・ノイズが変化したり、短時間ギヤシフトの調整をすることがあります。

オートマチック・フィルター・クリーニング機能が、短距離での使用が多いなどの理由から十分に行われなかった場合、マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：
「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

▷ フィルターを自動清掃するためのドライビング・スタイルで運転してください。
約15分間、60km/h以上の速度と2,000rpm以上のエンジン回転数を維持して走行してください。

⚠ 警告 不適切な速度

▷ 市街地、オフロード、天候など、周囲の交通状況に合わせたドライビング・スタイルと速度で走行してください。
▷ 推奨する運転方法は、交通規則を無視することを促すためのものではありません。

▷ 警告メッセージが消えない場合、ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

インフォメーション

警告メッセージが消えると、一定の条件下での燃費向上、出力向上が期待できます。

⚠ 警告 エキゾースト・システム付近の可燃物

エンジン作動中のエキゾースト・システムは非常に熱くなっています。エキゾースト・システムの近くに燃えやすい物があると、引火する恐れがあります。
エキゾースト・システム部に防錆剤やアンダーコーティング剤を塗布すると、運転中に高温になり、保護剤を過熱して発火することがあります。

▷ エキゾースト・マニホールド、エキゾースト・パイプ、ディーゼル・パティキュレート・フィルター、ヒート・シールド、およびその周囲には、アンダー・コーティング剤や防錆剤を塗布しないでください。
走行中、排気系の熱でこれらの素材が発火することがあります。
▷ 可燃物（乾燥した草や枯れ葉など）が高温のエキゾースト・システムに接触するような場所に駐車したり、走行しないでください。

燃料の給油

イグニッションをONにすると、インストルメント・パネルに燃料の残量が表示されます。

▷ 「Q – 燃料計」（106ページ）を参照してください。

⚠ 警告 給油時の火災の危険

燃料は強燃性であり、燃焼または爆発が発生する恐れがあります。

▷ 燃料を取り扱うときは、火気や裸火を近づけたり、喫煙をしたりしないでください。
▷ 燃料を給油する前に補助ヒーター＊をOFFにしてください。

⚠ 警告 燃料蒸発ガスの吸引、および燃料の皮膚への付着

燃料と燃料蒸発ガスは人体に有害です。

▷ 燃料蒸発ガスを吸い込まないようにしてください。
▷ 皮膚や衣類に燃料が付着しないように注意してください。

燃料

触媒コンバーターおよびO2センサーの故障を避けるため、**金属系添加物を含まない無鉛ガソリンのみ**を使用してください。

この車両のエンジンは、**EN228に基づき、金属系添加剤を含まない、オクタン価が98RON/88MON（Cayenne S E-Hybrid：95RON/85MON）の無鉛プレミアム・ガソリン（Cayenne S E-Hybrid：無鉛ガソリン）**を使用したときに最高の性能と燃費を達成するように設計されています。
この車両のエンジンはエタノール含有量10％以下の燃料の使用に対応しています。エタノール含有燃料を使用すると燃費が悪化することがあります。

オクタン価が**95RON/85MON以上（Cayenne S E-Hybrid：95RON/85MON未満）**の金属系添加物を含まない無鉛ガソリンを使用した場合、エンジンのノック・コントロールが自動的に点火時期を調整します。
オクタン価が95RON/85MON未満の金属系添加物を含まない無鉛ガソリンを使用した場合、エンジン出力が低下し、燃費が悪化することがあります。

▷ このような燃料を使用した場合はアクセル・ペダルを全開にしないでください。
▷ 燃料タンクが空になるまで走行しないでください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

インフォメーション

通常、燃料の品質(オクタン価など)に関する情報は、ガソリン・スタンドの給油機に掲載されています。
表示されていない場合などはガソリン・スタンドのスタッフにお問い合わせください。

推奨燃料が入手困難な状況では、緊急措置として無鉛ガソリン(91RON/82.5MON)を使用することもできます。

ただし、この場合はエンジン出力が低下し、燃費が悪化することがあります。

▷ 無鉛ガソリン(91RON/82.5MON)を使用する場合は、アクセル・ペダルを全開にしないでください。

地域によっては、市販の燃料がポルシェ社の基準を満たさず、インテーク・バルブにすすが堆積することがあります。

ポルシェ社の基準を満たす燃料を入手できない場合は、推奨する添加剤を混ぜ合わせてください。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

ポルシェ部品番号:000 043 206 89

▷ 混合比率は、添加剤に付属の取扱説明書にしたがってください。

「整備手帳」に記載された規定のサービス・インターバルで定期的なサービス(特にオイル交換サイクル)を行うことが重要です。

知識

ポルシェ社が**承認していない**添加剤を使用した場合、エンジン、燃料系統、エキゾースト・システムに重大な損傷を与える恐れがあります。

▷ ポルシェ社が承認した添加剤のみを使用してください。
ポルシェ社が承認していない添加剤を使用した場合、エンジン、燃料系統、エキゾースト・システムに損傷を与える恐れがあります。

インフォメーション

場合により燃料に硫黄が多く含まれることがあります。このため、エンジンで燃焼する際に特定の運転条件下で不快な臭い(いわゆる腐った卵の匂い)が発生する可能性があります。これは硫化水素(H_2S)の特性です。
ポルシェ社にはこの特性に対する責任はなく、車両の故障を示すものではありません。

ディーゼル燃料*

ディーゼル燃料はヨーロッパ標準のEN 590に準じており、セタン価が51以上の物を使用してください。セタン価はディーゼル燃料の燃焼品質を示す値です。

燃料添加剤

燃料添加剤(いわゆる「フロー・エンハンサー」)、燃焼促進剤または同様の添加剤などを燃料と混ぜないでください。

冬季用ディーゼル燃料

冬季のディーゼル燃料は粘着物を発生させる場合があります。冬季にはガソリン・スタンドで対策されたディーゼル燃料を入手できます(冬季用ディーゼル燃料)。

知識

燃焼促進剤を使用した場合、エンジンまたは燃料系統、またはその両方に損傷を与える恐れがあります。

ディーゼル・エンジン車は燃焼促進剤の使用を考慮して設計されていません。燃焼促進剤を使用して走行しないでください。

▷ 燃焼促進剤を補充した場合は、どのような状況でもイグニッションをONにしたり、エンジンを始動したりしないでください。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

* 日本仕様に設定はありません。

知識

低品質な燃料を使用した場合、エンジンに問題が発生する恐れがあります。
低品質な燃料を使用した場合は燃料フィルターの水抜き栓から指定されたサービス期間より頻繁に排水する必要があります。燃料フィルターに水がたまると、エンジンに問題が発生する場合があります。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

知識

バイオディーゼル燃料を使用した場合、エンジンまたは燃料系統、またはその両方に損傷を与える恐れがあります。
ディーゼル・エンジン車はバイオディーゼル燃料(FAME fuel)の使用を考慮して設計されていません。バイオディーゼル燃料を使用して走行しないでください。

▷ バイオディーゼル燃料を給油しないでください。

 インフォメーション

ディーゼル燃料の製造メーカーでは標準のEN 590に準ずる範囲内でバイオディーゼル燃料をディーゼル燃料に混合することを認証しています。このような混合ディーゼル燃料は使用してもエンジンや燃料系統に損傷をあたえることはありません。

補給（Cayenne S E-Hybridを除く）

この車両に使用できる燃料の種類については、フィラー・フラップの裏のステッカーに明示されています。

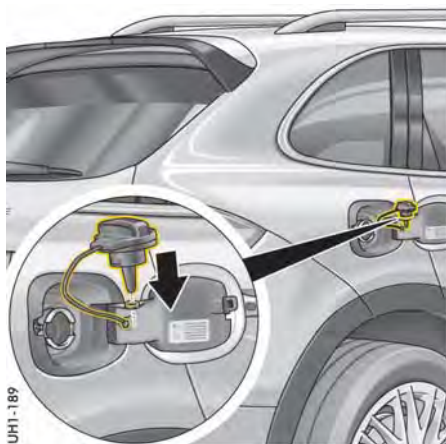
車両	燃料タンク容量	予備
Cayenne Turbo	約100リットル	約15リットル
Cayenne S	約85リットル（オプション：約100リットル＊）	約15リットル
Cayenne S ディーゼル＊	約85リットル（オプション：約100リットル）	約13リットル
Cayenne ディーゼル＊	約85リットル（オプション：約100リットル）	約13リットル

 インフォメーション

Cayenne S E-Hybridの給油手順の詳細に関するインフォメーション：

▷ Cayenne S E-Hybridの追補版取扱説明書を参照してください。

1. エンジンを停止して、イグニッションをOFFにしてください。
2. ドアとウィンドウを閉じてください。
3. フィラー・フラップの後部（**矢印**）を押すと、フラップが開きます。
   このとき、車両のロックを解除しておいてください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

4. タンクのキャップをゆっくりと回して取り外してください。
   取り外したキャップをホルダー（**矢印**）にかけてください。
5. 必要に応じて、ポルシェ社が推奨する燃料添加剤を入れてください。
6. 給油口の奥まで給油ノズルを差し込んでください。このとき、給油ノズルのハンドルが下向きでなければなりません。
7. 給油ノズルを操作して、燃料を給油してください。
   給油ノズルが自動的にOFFになったら、それ以上給油を続けないでください。無理に給油すると、タンクの燃料が吹き返したり、燃料が温まったときにあふれ出したりすることがあります。
8. 給油後は直ちにキャップを取り付け、ロック音と手ごたえを感じるまで、確実に閉じてください。
9. フィラー・フラップを閉じてフィラー・フラップの後部（矢印）を押し、確実に閉じてください。

インフォメーション

燃料タンクの給油キャップを紛失したときは、必ずポルシェ純正部品を使用してください。

知識

燃料が付着すると、デコラティブ・フィルムが損傷する恐れがあります。

デコラティブ・フィルムに燃料が付着すると、フィルムが色褪せる原因になります。

▷ デコラティブ・フィルムに燃料がこぼれたときは、直ちに拭き取ってください。

燃料給油ミス防止装置（Cayenneディーゼル、Cayenne Sディーゼル）＊

Cayenneディーゼル、Cayenne Sディーゼルには燃料給油ミス防止装置が装着されています。タンクへの給油はディーゼル・ポンプ・ノズルでのみ行うことができます。

インフォメーション

ポンプ・ノズルが摩耗または損傷すると、場合により燃料給油ミス防止装置が開かないことがあります。

▷ 給油口内でポンプ・ノズルを回転させるか、または他のポンプを使用してください。

予備燃料タンクから給油するときは、燃料給油ミス防止装置は開きません。

▷ ディーゼル燃料をゆっくりと補充することで対処してください。

フィラー・フラップの緊急操作

フィラー･フラップの電動ロック解除機構が故障したときは、次の手順で開くことができます：

1. リヤ・リッドを開いてください。
2. ラゲッジ･コンパートメント右側のトリム･パネルの裏側にある緊急ロック解除ストラップを引いてください。
   フィラー・フラップが開きます。

＊ 日本仕様に設定はありません。

AdBlue®の補充＊

選択式還元触媒(SCR)装備車では、特殊尿素溶剤(AdBlue®)がNOx（窒素酸化物）の排出を低減するため、エキゾースト・システム内に噴射されます。
AdBlue®はGerman Association of the Automotive Industry（ドイツ自動車工業会）(VDA)の登録商標です。
AdBlue®は車両の独立したタンク（容量約20リットル）に貯蔵されており、ラゲッジ・コンパートメント・フロアの下にあるAdBlue®フィラー・ネックから補充します。
AdBlue®の消費量は、ドライバーの運転スタイル、システムの作動温度、外気温によって左右されます。
AdBlue®の補充作業はポルシェ正規販売店で実施することを推奨いたします。

⚠ 警告 AdBlue®の不適切な保管

中毒を起こす恐れがあります。AdBlue®を空になった食品や飲料の容器に入れて保管しないでください。他の人が誤飲する恐れがあります。
▷ AdBlue®はポルシェ純正のAdBlue®補充容器のみに入れて、安全な場所で保管してください。
▷ AdBlue®は常に、お子様の手が届かない場所に保管してください

⚠ 警告 腐食性のある液体による皮膚への刺激

AdBlue®は腐食性の液体です。皮膚に刺激を与えたり、目や粘膜、呼吸器を傷つけたりすることがあります。
▷ 皮膚や目、口などに触れた場合、速やかにきれいな多量の水で洗い流してください。（約15分間）
必要に応じて医師の診察を受けてください。
▷ 医師からの指示がない限り、無理に嘔吐しないでください。
すぐに医師の診察を受けてください。

知識

AdBlue®タンクは、ポンプによる補充に適して**いません**。AdBlue®をポンプ・ノズルを使用して補充すると、あふれ出して塗装面を痛めることがあります。
▷ AdBlue®を補充する際は、ポルシェ純正のAdBlue®補充容器のみを使用してください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

知識

AdBlue®が付着した場合、車両の塗装部品、プラスチック部品、衣服やカーペットに損傷を与える恐れがあります。
▷ AdBlue®がこぼれた場合、速やかに濡れた布と多量の水を使用して清掃してください。
▷ 乾いて結晶化したAdBlue®は温水とスポンジを使用して取り除いてください。

知識

不適切なAdBlue®を使用すると、エンジンに損傷を与える恐れがあります。
▷ ポルシェ社が承認するISO 22241-1要件に適合したAdBlue®のみを使用してください。不適切なAdBlue®を使用すると、エンジンに損傷を与える恐れがあります。
▷ AdBlue®に水や添加剤などを混ぜないでください。
これによって生じた損傷については、メーカー保証の対象外となります。
▷ 絶対にAdBlue®をディーゼル燃料タンクに補充しないでください。
▷ 補充容器を長時間に車内に放置しないでください。気温の変化により、補充容器からAdBlue®が漏れ出し、車内に損傷を与える恐れがあります。

マルチファンクション・ディスプレイのメッセージ

残りのAdBlue®充填量での走行可能距離が約2,400kmになると、マルチファンクション・ディスプレイに補充を促すメッセージが表示されます。
補充を促すメッセージを無視して走行を続けた場合、イグニッションをOFFにした後、エンジンを始動することができなくなる場合があります。
この場合、エンジンはジャンパー・ケーブルによる始動もできなくなります。
マルチファンクション・ディスプレイに赤色の警告 または黄色の警告 が表示された場合、故障していることを示しています。

＊ 日本仕様に設定はありません。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：
▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

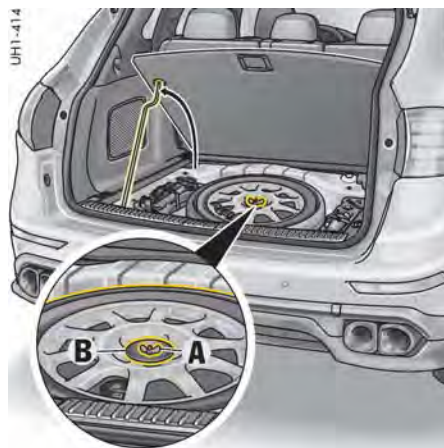
 インフォメーション

▷ AdBlue®が空になるまで走行しないでください。

AdBlue®の補充＊

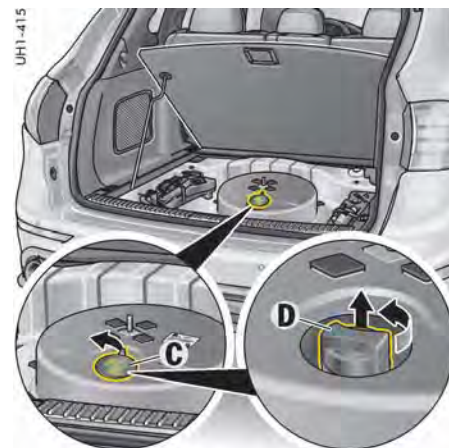
▷ AdBlue®を補充するときは、車両を平坦な場所に駐車してください（車両が傾いている、または片側のホイールを縁石に乗せている状態で補充しないでください）。
車両が平坦な場所に駐車していない場合、充填レベル・ゲージが補充量を正しく測定できない場合があります。

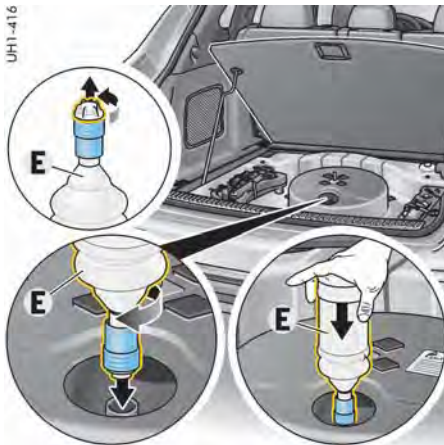
 インフォメーション

適切なAdBlue®補充容器については、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

コラプシブル・スペア・ホイール装備車

AdBlue®フィラー・ネックを開く

AdBlue®タンクはラゲッジ・コンパートメント・フロアの下にあります。コラプシブル・スペア・ホイール装備車では、AdBlue®はコラプシブル・スペア・ホイールの下にあります。

1. リヤ・リッドを開いてください。
2. ラゲッジ・コンパートメント・フロアを開いてください。
3. コラプシブル・スペア・ホイール装備車：ファスニング・スクリュー**A**を反時計回りに回して外し、ワッシャー**B**とコラプシブル・スペア・ホイールを取り外してください。

4. カバー**C**を開いてください。
5. キャップ**D**をゆるめ、フィラー・ネックを反時計回りに回して取り外してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

AdBlue®の補充

▷ ポルシェ社が承認するISO 22241-1要件に適合したAdBlue®のみを使用してください。
▷ 最低5.7リットル以上のAdBlue®を補充してください（ポルシェが推奨するAdBlue®補充容器3個分）。
▷ AdBlue®製造メーカーからのインフォメーションをよく読み、有効期限を確認してください。

1. 補充容器**E**のキャップを取り外してください。
2. 補充容器**E**を垂直にAdBlue®フィラー・ネックに挿入し、手で時計回りに回して締め付けてください。
3. 補充容器**E**の底を押してフィラー・ネックに押し付け、しっかりと保持してください。
強く押し付けないでください。補充容器が損傷する恐れがあります。
4. 補充容器の中身が、AdBlue®タンクに充填されるまで待ってください。
AdBlue®タンク容量の上限に達すると、補充容器からAdBlue®が充填されなくなり、あふれ出すのを防止します。
5. 補充容器を反時計回りに回してゆるめ、慎重に取り外してください。

AdBlue®フィラー・ネックを閉じる

1. キャップ**D**を締め付け、フィラー・ネックを時計回りに回して締め付けてください。
2. カバー**C**を閉じて、適切に固定してください。
3. コラプシブル・スペア・ホイール装備車：コラプシブル・スペア・ホイールを格納し、ファスニング・スクリュー**A**とワッシャー**B**で締め付けてください。
4. ラゲッジ・コンパートメント・フロアを閉じてください。

お出かけの前に

▷ AdBlue®を補充し終わった後に**のみ**、イグニッションをONにしてください。
▷ 30秒以上イグニッションをONにしたままにしてください。この間にシステムが補充作業が行われたことを検出します。
▷ 30秒間はエンジンを始動しないでください。

車両のお手入れ

適切な方法で定期的に車両のお手入れを行うことは、車両の価値を長持ちさせるのみでなく、保証を受ける際の有利な条件になります。

ポルシェ正規販売店は、車両に相応しいカー・ケア用品を各種取り揃えており、用途に応じて単品またはセットで販売しています。

▷ カー・ケア用品の使用に際しては、パッケージ等に記載された注意事項を必ず守ってください。
▷ これらの製品は、お子様の手が届かない安全な場所に保管してください
▷ 不要になった製品は、適切な方法で廃棄してください。

車両の状態がしっかりと点検されているか、保証を受けるための条件が満たされているかを調査するため、すべてのポルシェ正規販売店ではお手入れの状態や整備状況を記録しています。このため、ポルシェ正規販売店ではコンディション・リポートを発行し、「整備手帳」にその結果を記録します。

高圧洗浄機、スチーム・クリーナー

知識

高圧洗浄機やスチーム・クリーナーを使用すると、以下のコンポーネントを損傷する恐れがあります。

– タイヤ
– ロゴ、エンブレム
– 塗装面
– ホイール・アーチ・エクステンション
– 取り外し式トレーラー・ヒッチのロックおよびロック機構
– 電動格納式トレーラー・ヒッチのシール
– オルタネーター、バルブ・カバー
– エンジン・コンパートメント内の電装部品やコネクター
– パーキング・アシスタント・センサー
– アダプティブ・クルーズ・コントロール用レーダー・センサー(ACC)
– カメラ

▷ 各装置に付属の取扱説明書をよくお読みください。
▷ 洗車の前に、ブレーキ液タンクのキャップにカバーをかけてください。洗車ノズルを直接キャップに向けないでください。
▷ フラット・ジェット・ノズルやダート・ブラスターなどで洗車するときは、50cm以上離れた距離で使用してください。
▷ 高圧洗浄機またはスチーム・クリーナーと丸型ジェット・ノズルを組み合わせて使用しないでください。
▷ 高圧洗浄機またはスチーム・クリーナーと丸型ジェット・ノズルを組み合わせて使用すると、車両が損傷する原因になります。特にタイヤは損傷しやすいため、丸型ジェット・ノズルで洗浄しないでください。
▷ 高圧洗浄機を使用するときは、これらのコンポーネントにジェット・ノズルを直接向けないでください。

デコラティブ・フィルム

知識

高圧洗浄機またはスチーム・クリーナーを使用すると、デコラティブ・フィルムが剥れて損傷する恐れがあります。

▷ デコラティブ・フィルムを洗浄するときは、高圧洗浄機またはスチーム・クリーナーを使用しないでください。

ドア・ロックの保護

▷ ロック・シリンダーを無理に操作するなど、過大な力をかけないでください。
▷ 万一、ドア・ロックが凍結した場合は、市販の解凍剤を使用できます。
▷ 凍結したドア・ロックをキーで解除できない場合は、エマージェンシー・キーを使用してドア・ロックを解除してください。
「エマージェンシー・キーによるロック」(27ページ)を参照してください。

洗車

車両の外観を美しく保つには、日頃のお手入れが大切です。こまめに洗車し、ワックスで保護してください。

解氷剤(塩分)、砂塵、ばい煙、昆虫の死骸、鳥の糞、樹液や花粉などは、車両に付着してからの時間が長くなるほど塗装に悪影響を与えます。

車体の塗装面に損傷を与えることなく洗車するために、次の点に注意してください:

▷ 車体下部は汚れが激しいため、少なくとも季節の変わり目には洗車して汚れを落としてください。
▷ グリース、オイル、金属粉などが適切に処理できる場所でのみ洗車を行ってください。
▷ 濃色車は塗料の組成上、傷が付きやすい性質があります。淡色車に比べてこまめにお手入れしてください。
また濃色車の塗装は、小さな引っかき傷でも淡色車に比べて傷が目立ちやすい特性があります。
▷ 直射日光の下や、塗装面の温度が高いときは洗車しないでください。
▷ 手洗いを行うときは、柔らかいスポンジ、洗車用ブラシ、カー・シャンプーを使用して多量の水で洗ってください。
ポルシェ・カー・シャンプーの使用を推奨します。
▷ 洗車を開始するときは、はじめに車体にたっぷりと水をかけ、表面の主な汚れを洗い流してください。
▷ 洗剤を使った後は、水で十分にすすぎ、セームで拭き取ってください。
ウィンドウには、ボディを洗ったときと同じセームを使用しないでください。

警告 ブレーキ・ディスクの水膜

洗車後は、ブレーキの効きが悪くなり、ペダルを強く踏まなければならない場合があります。

▷ 洗車後は、ブレーキとステアリングの作動を点検してください。

▷ 後方の安全を確認した上で定期的にブレーキをかけ、ブレーキを乾かしてください。このとき、後方の交通状況に注意してください。

自動洗車機

自動洗車機によっては、取り付けたオプション部品やボディ表面から突出しているパーツが損傷する恐れがあります。

特に次のパーツは、損傷の可能性が高まります：

– フロント/リヤ・ワイパー：レイン・センサー機能により不意に作動することのないよう、洗車機で洗車する前に必ずワイパー・レバーをOFF（**0**の位置）にしてください。
– ドア・ミラー：必ず格納してください。
– 外部アンテナ：必ず取り外してください。
– ルーフ・トランスポート・システム：必ず完全に取り外してください。
– スポイラー
– ホイール：幅広リム、低偏平タイヤは特に注意が必要です。
– 高光沢ホイールまたはシルク･グロス･ホイール：傷が付きやすいため、洗車時にホイール洗浄用ブラシで擦らないでください。

▷ 自動洗車機を使用する前に、洗車スタッフに確認してください。

▷ ドアやリッドのすき間、またはドア・シルなど洗車機で洗えない箇所は手で洗い、手作業で拭き取ってください。

塗装の保護

車両の塗装を機械的、化学的なダメージから保護するためには以下の作業が必要です：

– 定期的に手入れをしてください。
– 必要に応じて磨いてください。
– 染みや汚れを取り除いてください。
– 塗装の損傷箇所は、速やかに補修してください。

インフォメーション

▷ ほこりの粒子で塗装面を傷めることがあるため、乾いた布で車両のほこりを払わないでください。

▷ 艶消し仕上げの部品にワックスや光沢剤を塗布すると、艶消し効果がなくなります。

保護

塗装面は、経年変化で徐々に艶が失われます。

▷ 定期的にワックスをかけて保護してください。

▷ 洗車後は塗装保護剤を塗布し、塗装面を保護するために丁寧に磨いてください。

この作業により塗装の光沢と強度を保つことができます。また、塗装面に新しい汚れが付着しにくくなり、ばい煙が浸透しにくくなります。

つや出し（ポリッシュ）

通常のワックスでは塗装の艶が戻らないときにのみ光沢剤を使用してください。

ポルシェ・ペイント・ポリッシュの使用を推奨します。

汚れ、染みの除去

▷ タール、グリース、昆虫の死骸などは色褪せの原因になるため、ポルシェ推奨のタール除去剤か、インセクト・リムーバーで速やかに取り除いてください。

▷ 除去処理を行った後は、直ちに水で洗い流してください。

小さな傷の補修

▷ 亀裂、引っかき傷、飛び石による塗装面の小さな傷は、ボディの腐食が進行する前に修理してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ボディが腐食したときは、はじめに錆を完全に除去してください。錆を取り除いたら、その箇所にプライマー（防錆剤）を塗布してから、上塗り塗装を施してください。

ペイント・データは車両のデータ・バンクに表示されています。

▷ 「データ・バンク」（341ページ）を参照してください。

エンジン・コンパートメントの清掃

知識

オルタネーター、コネクター、塗装面、バルブ・カバーなどを損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・コンパートメント内の作業を行う前に、エンジンをOFFにし、十分に冷やしてください。

▷ 高圧洗浄機と丸型ジェット・ノズルを組み合わせて使用しないでください。

▷ 高圧洗浄機を使用する場合、ノズルから50cm以上離してください。

▷ 高圧洗浄機を使用して清掃する前に、ブレーキ液タンクのキャップにカバーをかけてください。洗車ノズルを直接キャップに向けないでください。

▷ スパーク・プラグ・シャフトをカバーしてください。

▷ 高圧洗浄機を使用するときは、これらのコンポーネントにジェット・ノズルを直接向けないでください。

ウィンドウの清掃

▷ 定期的にウィンドウ・クリーナーを使用して、ウィンドウの内側と外側を清掃してください。
ポルシェ・ウィンドウ・クリーナーの使用を推奨します。

▷ ボディを拭き取ったセームで乾いたウィンドウを拭かないでください。
ワックスや光沢剤がウィンドウに付着し、視界が悪くなる恐れがあります。

▷ 昆虫の死骸は、ポルシェ推奨のインセクト・リムーバーで取り除いてください。

インフォメーション

フロント・サイド・ウィンドウには、ガラスの汚れを抑制する（疎水性の）撥水剤がコーティングされています。

このコーティングは経年変化で徐々に劣化します。また新たにコーティングすることもできます。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ワイパー・ブレードのお手入れ

良好な視界を確保するためには、完全な状態のワイパー・ブレードが不可欠です。

▷ 「ワイパー・ブレード」（280ページ）を参照してください。

アンダーコーティングの補修

車両下部は、化学的および物理的なダメージに耐えるよう保護されています。しかし、走行中に保護コーティングが損傷することは避けられません。

▷ ポルシェ正規販売店で定期的に点検、補修を受けてください。

⚠ 警告 エキゾースト・システム付近の可燃物

エキゾースト・システム部に防錆剤やアンダーコーティング剤を塗布すると、運転中に高温になり、保護剤が過熱して発火することがあります。

▷ エキゾースト・マニホールド、エキゾースト・パイプ、触媒コンバーター、ヒート・シールド、およびその周囲には、アンダー・コーティング剤や防錆剤を塗布しないでください。

ヘッドライト、ライト、内外装のプラスチック部品、接着フィルム、アダプティブ・クルーズ・コントロール(ACC)のレーダー・センサー、およびカメラの清掃

下記の点を必ず守ってください：

▷ ヘッドライト、ライト類、プラスチック部品およびパーツの表面を清掃するときは、きれいな水と少量の中性洗剤、またはインテリア・ウィンドウ・クリーナー**のみ**を使用してください。
柔らかいスポンジや不織布を使用してください。

▷ 内装のプラスチック部品に直接水やウィンドウ・クリーナーをスプレーしないでください。最初はスポンジまたは布にスプレーしてください。洗剤などがコントローラやスイッチなどに侵入し、損傷させる恐れがあります。

インフォメーション

プラスチック表面の清掃には、インテリア・ウィンドウ・クリーナーを使用することもできます。クリーナーの容器に記載されている注意事項を遵守してください。
ポルシェ・インテリア・ウィンドウ・クリーナーの使用を推奨します。

▷ 力をかけずに優しく表面を拭いてください。
▷ 表面が乾いた状態で清掃しないでください。
▷ 他の化学成分が入ったクリーナーや溶剤を使用しないでください。
▷ 清掃した部分を、きれいな水で洗い流してください。

軽合金製ホイール

軽合金製ホイールの表面に付着した金属の微粒子（ブレーキ・ダストに含まれる黄銅や銅など）は長期間放置しないでください。
金属同士の接触による腐食が発生し、小さな穴（ピッチング）が生じます。

インフォメーション

保護塗装の酸化被膜を破壊するような光沢剤やpH値の不正なクリーナー、研磨機具、研磨剤などは使用しないでください。

▷ ポルシェ指定軽合金製ホイール・クリーナー（pH値9.5）の使用を推奨します。pH値が不正な洗剤を使用すると、ホイール表面の保護層を傷めます。
ポルシェ軽合金製ホイール・クリーナーの使用を推奨します。

▷ 可能であれば2週間毎にスポンジか洗車ブラシを使用してホイールを洗浄してください。冬季に凍結防止剤がまかれる地域や、ばい煙が多い地域では、毎週洗浄する必要があります。

▷ 3ヶ月に1回、ホイールを洗浄した後にワックスまたは腐食性がないグリース（例：ワセリン）を塗布してください。
柔らかい布を使用して、ホイール表面にグリースをすり込んでください。

▷ 「自動洗車機」（290ページ）を参照してください。

⚠ 警告　クリーナーなどの溶剤によるブレーキ・ディスク上の膜の発生

ブレーキ・ディスクにホイール・クリーナーなどが付着したままにすると、ブレーキ・ディスクに膜ができて、ブレーキ性能を損なう恐れがあります。

▷ ブレーキ・ディスクにホイール・クリーナーなどの溶剤が付着しないようにしてください。
▷ ブレーキ・ディスクにホイール・クリーナーなどの溶剤が付着した場合、高圧洗浄機などで完全に洗い流してください。
▷ 周囲の交通状況に注意してブレーキを作動させ、ブレーキ・ディスクを乾かしてください。

ステンレス・テール・パイプ

ステンレス製テール・パイプは、ほこり、高温の熱、排気ガスの残留物で変色することがあります。
市販のポリッシュ・ペーストまたは金属用のつや出し剤を使用することによって元の光沢を取り戻すことができます。

ドア、ルーフ、リッドとウィンドウ・シールの清掃

知識

インナー・ドア・シールをコーティングしている潤滑剤は、不適切な清掃や洗剤の使用によりダメージを受けることがあります。
▷ 合成洗剤や溶剤を使用しないでください。
▷ 防錆剤を使用しないでください。

▷ シールの汚れ（傷、汚れ、凍結防止剤、砂塵など）は、温かい石鹸水で定期的に洗浄してください。
▷ 凍結する恐れがある場合は、適切なカー・ケア用品でアウター・ドア・シール、リッドやフラップのシールを保護してください。

革製品のお手入れ

本革の表面に見られる天然のしわや傷、虫が刺したような跡、模様の違いや色合いの微妙な変化が、高品質本革の天然素材としての魅力を一層引き立てます。
下記の点に注意して、お手入れを行ってください：

知識

不適切なクリーナー、洗剤、保護剤などを使用すると、本革を傷める原因になります。
▷ 刺激性の強い洗剤や、硬い清掃具を使用しないでください。
▷ 表面に小さな穴を開けたメッシュ加工の本革は、裏側まで湿らせないよう注意してください。
▷ 革製品上の水滴は直ちに取り除いてください。

▷ 無色の柔らかい毛織物または市販のマイクロ・ファイバー布を湿らせて、表面の細かな汚れを拭き取り、すべてのタイプの本革を定期的にお手入れしてください。
▷ 汚れがひどいときは、レザー・クリーナーを使用してください（水染み/湿気による染み以外）。
容器の取扱説明書をよく読んでから使用してください。
ポルシェ・レザー・ケア・リキッドの使用を推奨します。
▷ 清掃後は、本革専用のケア剤でお手入れしてください。
ポルシェ・レザー・ケア・リキッドの使用を推奨します。

シート・ベンチレーション付きシート

水染み/湿気による染みのお手入れの諸注意

雨水や湿気により、表面に小さな穴を開けたメッシュ加工の本革に染みが付く可能性があります。

水染み/湿気による染みを取り除く

前提条件：
– シート・ヒーターおよびシート・ベンチレーションをOFFにしてください。
– 直射日光が当たらないようにしてください。
– 水染み/湿気による染みを取り除く際、レザー・クリーナーやお手入れ製品を使用しないでください。
▷ 清潔な吸水性スポンジと蒸留水を使用して、シート・クッションまたはバックレストの表面全体を拭き取ってください。
表面に小さな穴を開けたメッシュ加工の本革は、裏側まで湿らせないよう注意してください。
▷ シート・カバーは直射日光を避けて室温で完全に乾かしてください。
シート・カバーを乾かす際、シート・ヒーターやシート・ベンチレーションをONにしないでください。
▷ 乾いた後、シート・カバーを乾燥した不織布で拭いてください。

カーペット、フロア・マットの清掃

▷ 掃除機か、中程度の硬さのブラシで清掃してください。

▷ ひどい汚れや染みは、染み抜き剤で除去してください。
ポルシェ・ステイン・リムーバーの使用を推奨します。

フロア・カーペットの汚れや傷つきを防ぐため、この車両に適したサイズの固定具付きフロア・マットをカー・アクセサリーとして用意しています。

警告 ペダル操作の妨げ

不適切なフロア・マットや正しく固定されていないフロア・マットはペダルの可動域を制限したり、ペダル操作の妨げになる可能性があります。

▷ フロア・マットなどでペダルの動きを妨げないようにしてください。
フロア・カーペットの上に敷くのみのマットを使用しないでください。

エアバッグ・カバーの清掃

危険 不適切な清掃

エアバッグの周りを不適切な方法で清掃すると、エアバッグ・システムが故障する恐れがあります。事故が起きた場合にエアバッグ・システムが作動しない恐れがあります。

▷ ステアリング・ホイールのパッド、インストルメント・パネルの下、フロント・シート、ルーフ・ピラー、ルーフ・ライナー、リヤ・インテリア・トリム・パネル、シート・バックレストの周辺などの部品を改造しないでください。

▷ これらの部品を清掃するときは、ポルシェ正規販売店にお任せください。

ファブリック・ライニングの清掃

▷ ピラー、ヘッドライナー、サンバイザーなどのファブリック・ライニングは、素材に適した洗剤やドライ・フォームと柔らかいブラシを使用して清掃してください。

Alcantara®のお手入れ

Alcantara®の清掃に、本革用のカー・ケア用品を使用しないでください。

日常のお手入れとしては、表面を柔らかいブラシで拭けば十分です。

研磨材を使用したり強く擦ったりすると、表面が傷むため注意してください。

軽度の汚れの清掃

▷ 柔らかい布を水または中性の石鹸水で濡らして、汚れを拭き取ってください。

頑固な汚れの清掃

▷ 柔らかい布を、ぬるま湯または薄めたクリーニング用溶剤で濡らして、外側から汚れた部分を軽くたたいてください。

シートベルトの清掃

▷ シートベルトは、刺激性の少ない洗剤で清掃してください。

▷ シートベルトを乾燥させるときは、直射日光を避けてください。

▷ 適切な洗剤のみを使用してください。

▷ シートベルトを染色および脱色しないでください。
シートベルト素材の強度が低下し、安全性が損なわれます。

車両の長期保管

車両を長期間保管する場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。
スタッフが、腐食防止対策、特別なお手入れとメンテナンス、保管方法などについてアドバイス致します。

また、車両の保管に関する重要な情報が、他の章にも掲載されています。

▷ 「バッテリー(12V)」(324ページ)を参照してください。

▷ バッテリーを切り離した状態で車両をロックする場合のインフォメーション：
「車両のすべてのドアを同時にロックできない」(28ページ)を参照してください。

軽修理

＊ 日本仕様に設定はありません。

軽修理について

ポルシェ車に関するすべてのメンテナンス作業は、ポルシェ正規販売店で実施することを推奨いたします。

十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

お客様ご自身でメンテナンスされる場合につきましても、細心の注意を払っていただくようお願い致します。本書に掲載した注意事項を守ったときのみ、信頼できる走行性能が保証されます。

不適切なメンテナンスを行うと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

インフォメーション

国別の法規によっては、工具セットやスペア・パーツの携行が義務付けられている場合があります。運転前には必ず確認してください。

⚠ 危険　有毒な排気ガスの吸引

排気ガスには無色無臭の一酸化炭素を含んでいます。一酸化炭素は少量でも人体に有害で、中毒を起こす危険があります。

▷ エンジンを作動させた状態で作業するときは、必ず車両を屋外に駐車させるか、または換気の良い場所で行ってください。

⚠ 警告　車両の油脂類、燃料蒸発ガスへの引火、爆発性ガスの爆発

燃料、エンジン・オイル、トランスミッション・オイルなど、車両に使用される油脂類の多くは非常に引火しやすい性質を持っています。燃料蒸発ガスは発火、爆発する恐れがあります。バッテリー充電中には爆発性の高い混合ガスが発生することがあります。

▷ バッテリーや燃料系統の近くで喫煙したり、裸火を近づけたりしないでください。ケーブル接触等による火花にも注意してください。

▷ メンテナンス作業は屋外か、または屋内の換気が良い場所でのみ実施してください。

⚠ 警告　有害な補充液

エンジン・オイル、ブレーキ液、クーラントなどは人体に有害（毒性、刺激性、腐食性）です。

▷ メンテナンス作業は屋外か、または屋内の換気が良い場所でのみ実施してください。

▷ 油脂類はお子様の手が届かない所に保管し、廃棄する場合は定められた処理方法を遵守してください。

⚠ 警告　高温のエンジン部品やクーラント

エンジン作動中は、エンジンと周辺の部品、エキゾースト・システム、クーラントなどが非常に熱くなっています。

クーラント・タンクには圧力がかかっています。クーラント・リザーバー・タンクを不用意に開くと、熱いクーラントが突然吹き出す恐れがあります。

▷ 高温の車両部品、特にエンジンやエキゾースト・システムの近くでは、十分注意して作業を行ってください。

▷ エンジン・コンパートメント内の作業を行う前に、エンジンをOFFにし、十分冷やしてください。

▷ エンジンが熱いときはリザーバーのキャップを開かないでください。

▷ 水平な場所に駐車し、**エンジンが冷えているときのみクーラントを補充してください。**

⚠ 警告 ラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、エンジン周りの作動部品

エンジン・コンパートメントでの作業中、手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）、ネックレス、長い髪などがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルトなどの作動部品に巻き込まれないように十分注意してください。
エンジンをOFFにし、キーを抜き取っている状態でも、温度によってはラジエーター・ファンが作動を開始することがあります。

▷ エンジンとラジエーター・ファンの近くで作業するときは十分注意してください。ラジエーターおよびラジエーター・ファンは、車両の前側にあります。
▷ 身体の一部、衣服、アクセサリーなどがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、その他の作動部品に巻き込まれないように、十分注意してください。

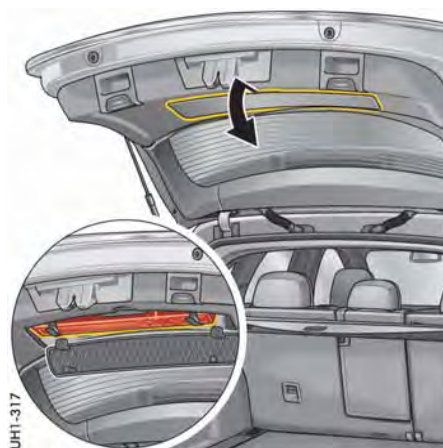
⚠ 警告 イグニッション・システムによる感電

イグニッションがONのときは、イグニッション・システムのすべてのケーブルと配線に高電圧が作用しています。

▷ イグニッション・システムの作業を行うときは、感電しないように十分注意してください。

⚠ 警告 不十分な車両の固定

車両がしっかり固定されていない、または正しく固定されていない場合、不意に動き出したり、ジャッキやリフティング・プラットフォームなどのリフト装置から落下したりする恐れがあります。

▷ やむを得ずエンジンをかけたまま作業する場合は、必ずエレクトリック・パーキング・ブレーキを作動させてください。更に、ティプトロニックSセレクター・レバーを**P**の位置にしてください。
▷ やむを得ず車両の下に入って作業する場合は、必ず安定したサポート・スタンドで車体を支えてください。
▷ 必ず車両フロアの指定されたジャッキ･ポイントで持ち上げてください。
▷ 車両をジャッキアップ後は、エンジンを始動しないでください。エンジンの振動により車両が落下する恐れがあります。

停止表示板＊

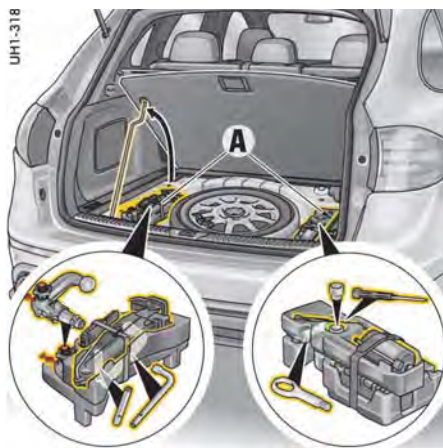
停止表示板は、リヤ・リッド・カバーの裏側に収納されています（装備車の場合)。

1. リヤ・リッドを開いてください。
2. カバーを開いてください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

応急処置セット＊

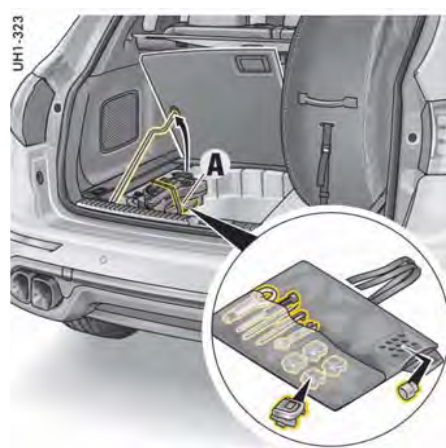
応急処置セットはラゲッジ・コンパートメント・カバーの裏側に収納されています（装備車の場合）。

▷ 応急処置セットの内容物を使用したときは早急に補充してください。

コラプシブル・スペア・ホイール装備車

工具セット

工具セットAはラゲッジ・コンパートメントの床下に収納されています。工具セットの内容は車両の装備によって異なります。

インフォメーション

タイヤ交換に必要な工具（ジャッキ、ホイール・ボルト・レンチ、ホイール取り付け補助工具など）はコラプシブル・スペア・ホイールまたはフルサイズ・スペア・ホイール装備車のみに標準装備されています。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

スペア・ホイール装備車

スペア・ホイール非装着車では、圧力計付き追加コンプレッサーがリヤ・ラゲッジ・コンパートメントの右の床下に収納されています。

パンク時の荷室床下のコンプレッサーの使用に関するインフォメーション：

▷ 「タイヤ空気の充填」（319ページ）を参照してください。

コラプシブル・スペア・ホイールまたはスペア・ホイール非装着車では、タイヤ・シーラントおよび圧力計付きコンプレッサーがリヤ・ラゲッジ・コンパートメントの右の床下に収納されています。

▷ 「タイヤ・シーラントの充填」（311ページ）を参照してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

クーラント・レベルの点検と補充

エンジン・クーラントには、年間を通じた腐食防止と、–37℃までの凍結防止の働きがあります。

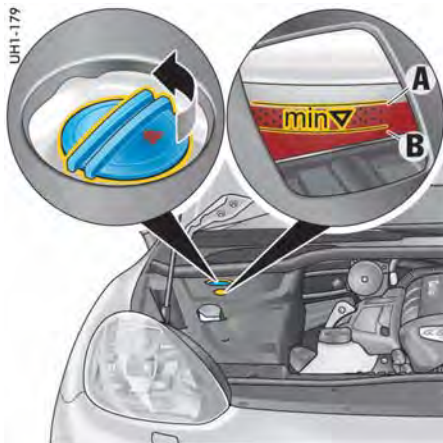
クーラント・レベルを定期的に点検することは、メンテナンスの一部です。クーラント・レベルはマルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されているときのみ点検する必要があります。

▷ 「警告と情報メッセージの概要」(141ページ)を参照してください。

▷ ポルシェ社が認証した不凍液のみを使用してください。

マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されているときのクーラント・レベルの点検：

▷ クーラント・レベルを読み取ってください。水平な場所に停車して**エンジンが冷えているとき**にクーラント・レベルが**A**マークと**B**マークの中間になければなりません。

▷ クーラント・レベルがMINマーク**B**より下にある場合はクーラントを補充してください。

⚠ 警告 高温のクーラント

エンジン作動中のクーラントは非常に熱くなっています。クーラント・タンクには圧力がかかっています。クーラント・タンクを不用意に開くと、熱いクーラントが突然吹き出す恐れがあります。

▷ エンジンが熱いときはリザーバーのキャップを開かないでください。

▷ 水平な場所に停車し、**エンジンが冷えているとき**のみクーラントを補充してください。

---

1. 慎重にリザーバーのキャップを開き、内部の圧力を逃がしてください。
   圧力が完全に抜けてから、キャップを完全に取り外してください。
2. **A**マークを超えないように補充してください。
   不凍液と蒸留水を同量混ぜ合わせたもののみを補充してください。
   クーラントの不凍液の割合：50%
   (–37℃までの凍結防止)
3. リザーバーのキャップをしっかりとロックするまでねじ込んでください。
4. 冷却システムを点検してください。
   ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

i インフォメーション

緊急で水のみを補充した場合は、速やかに不凍液の混合比率を修正してください。クーラントの減りが著しい場合は、冷却システムに漏れが発生しています。

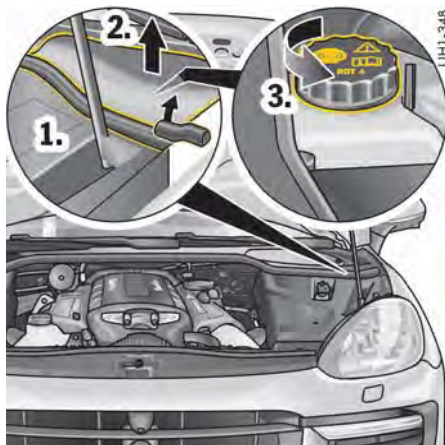
▷ 早急に修理してください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ラジエーター・ファン

ラジエーターおよびラジエーター・ファンは、車両の前側にあります。

⚠ 警告 ラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、エンジン周りの作動部品

エンジン・コンパートメントでの作業中、手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）、ネックレス、長い髪などがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルトなどの作動部品に巻き込まれないように十分注意してください。
エンジンをOFFにし、キーを抜き取っている状態でも、温度によってはラジエーター・ファンが作動を開始することがあります。

▷ エンジンとラジエーター・ファンの近くで作業するときは十分注意してください。ラジエーターおよびラジエーター・ファンは、車両の前側にあります。
▷ 身体の一部、衣服、アクセサリーなどがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、その他の作動部品に巻き込まれないように、十分注意してください。

ブレーキ・フルード

ブレーキ・フルードを定期的に点検することは、メンテナンスの一部です。
フルード液量は常にMINマークとMAXマークの間に維持されなければなりません。
ブレーキ・パッド/ディスクの摩耗に伴って液面が自動的に調整され、液面が少し低下することがありますが、これは正常な現象です。
液量の減少が著しいときや、MINマークよりも下回ったときは、ブレーキ・システムに漏れが発生していることが考えられます。

▷ ポルシェ正規販売店で、直ちにブレーキ・システムの点検を受けてください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ブレーキ・フルードの交換

ブレーキ液には吸湿性があり、長期間使用すると大気中の水分を吸収します。ブレーキ液が水分を含むと沸点が下がり、ブレーキ性能に悪影響を及ぼします。

▷ 「整備手帳」に記載された規定の使用期間に従って、定期的にブレーキ・フルードを交換することが重要です。

(!) 警告灯および警告メッセージ

ブレーキ液量が許容範囲を下回ったときや、ブレーキ回路に不具合が発生してペダルの踏み代が過大になると、インストルメント・パネルの警告灯、およびマルチファンクション・ディスプレイの警告メッセージが異常を知らせます。

i インフォメーション

走行中に警告灯および警告メッセージが表示されたときは：

▷ 直ちに適切な場所に停車してください。
▷ 運転を続けないでください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

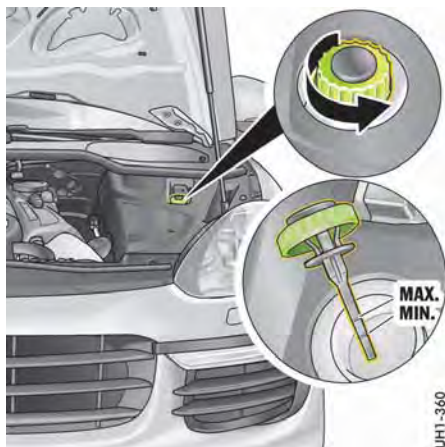
パワー・ステアリング

⚠ 警告 パワー・ステアリングの作動不良

エンジンを停止しているとき（けん引時など）や、油圧機構に異常がある場合、操舵力がアシストされません。
ステアリング操作に大きな力が必要になります。

▷ 車両をけん引するときは十分注意してください。
▷ ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ハイドロリック・フルードを定期的に点検することは、メンテナンスの一部です。

ステアリングをいっぱいに切ったときに聞こえるノイズは、パワー・ステアリング・システムの構造上の特性であり、システムの故障ではありません。

マルチファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されているときのハイドロリック・フルード・レベルの点検：

▷ ポルシェ純正ハイドロリック・フルード、またはポルシェ社が要求する性能、品質基準に適合するハイドロリック・フルードのみを使用してください。
▷ フルード・レベルの点検は、エンジンを停止して、冷間時（エンジン温度約20°C）に行ってください。

1. リザーバーのキャップを開いてください。
2. フルード液量はレベル・ゲージのMINマークとMAXマークの間に維持されなければなりません。
3. 必要に応じてフルードを補充してください。
4. キャップを慎重に閉じてください。
5. エンジン・コンパートメント・リッドを閉じてください。

 インフォメーション

▷ フルードの減りが著しい場合、ポルシェ正規販売店で直ちに故障を修理してください。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

マルチファンクション・ディスプレイに表示される警告メッセージに関するインフォメーション：

▷ 「警告と情報メッセージの概要」（141ページ）を参照してください。

タイヤとホイール

タイヤの寿命は、空気圧やホイール・アライメント以外に、お客様の運転スタイルにも大きく左右されます。
急加速や高速でのコーナリング、ブレーキを酷使する運転スタイルは、タイヤの摩耗を早めます。また、外気温度が高いときや悪路での走行も、タイヤのトレッド面の摩耗を早める原因です。エンジンと同様、タイヤも正常な状態で使用しなければなりません。タイヤを正しく取り扱うことで、長期にわたって安全な走行が可能になります。
いつまでも安全に車両をおい使いただくために、以下のタイヤの取り扱い方法を守ってください。

荷重と速度

▷ 過積載をしないでください。規定荷重を超える荷物をルーフに積まないでください。

下記のような使用は大変危険です：

- 過積載
- タイヤの空気圧不足
- スピードの出し過ぎ
- 高い外気温度（例：真夏の暑い日のドライブなど）

タイヤ空気圧

規定の空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧の規定値は、以下で確認ができます：

- 運転席ドア開口部にあるタイヤ空気圧プレート**A**、および本書の「タイヤ空気圧とテクニカル・データ」の章に掲載されています：

▷ 「冷間時のタイヤ空気圧(20°C)」（345ページ）を参照してください。

タイヤ空気圧の規定値は、タイヤが冷えているとき(20°C)を基準にしています。

▷ 少なくとも2週間に1回はタイヤ空気圧を点検してください。必ずタイヤが冷えているときに点検してください。

▷ 「タイヤ空気圧メニュー（タイヤ空気圧モニタリング、TPM）」（118ページ）を参照してください。

タイヤの温度が上昇すると、空気圧も高まります。

▷ タイヤの温度が高い状態で空気圧を調整しない（空気を抜かない）でください。温度が下がったときに空気圧が不足する原因になります。

タイヤのバルブ・キャップは、バルブ部分へのほこりや汚れの侵入を防ぎ、空気漏れを防ぎます。

▷ 必ずキャップをしっかりと締め付けてください。

▷ 紛失した場合は、直ちに新しいキャップを取り付けてください。

タイヤ空気圧が不足しているとタイヤが過熱して、目に見えない損傷が発生します。このような損傷が発生した場合は、空気圧を調整しても正常な機能を回復できません。

タイヤの損傷

高圧洗浄機を使用すると、タイヤを傷付けることがあります。

▷ 「高圧洗浄機、スチーム・クリーナー」（289ページ）を参照してください。

⚠ 警告 目に見えないタイヤの損傷

高速走行時にタイヤがバースト（破裂）する恐れがあります。

▷ 定期的にタイヤの状態（側面も含めて）を点検し、異物の噛み込み、欠損、切り傷、亀裂、側面の膨れなどがないか確認してください。

▷ 縁石を乗り越えるときは速度を下げ、できるだけ直角に通過してください。
段差が大きな縁石や、尖った縁石を乗り越えないでください。

▷ ホイール・リムを損傷した可能性があるとき（特に内側）は、専門家による点検を受けてください。

タイヤに次のような損傷を受けた場合は、安全のためにタイヤを交換してください：
– タイヤ内部の構造物の層が損傷した可能性があるとき
– タイヤ空気圧が不足しているときや、損傷箇所がある場合など、それらが原因でタイヤが過熱したり、異常な負荷がかかった可能性があるとき

 インフォメーション

いかなる場合も、タイヤを修理しないでください。
▷ オフロードを走行した後は、タイヤに亀裂、損傷、腫れ、異物の噛み込みなどがないか確認してください。必要に応じて、タイヤを交換してください。

縁石

段差が大きな縁石や尖った物（石など）を急な角度で乗り越えると、その衝撃で目に見えない損傷が生じ、しばらくしてから不具合が現れることがあります。また、衝撃が大きいときは、ホイール・リム・フランジを損傷することもあります。

タイヤの保管

▷ タイヤは、常に乾燥した冷暗場所に保管してください。ホイールに装着していないタイヤは、立たせた状態で保管してください。
▷ 外気温が–15℃を下回るような場所にサマー・タイヤを保管したり、サマー・タイヤ装着車を停車したりしないでください。
▷ 燃料、オイル、グリースなどがタイヤに触れないようにしてください。

製造から6年以上が経過したタイヤを使用しないでください。

「タイヤは、保管して古くなった方が摩耗しにくい」という説がありますが、これは完全な誤りです。
年数が経過すると、ゴムに伸縮性をた与えるために添加している化学薬品の効果が弱まり、ゴムがもろくなります。
タイヤの製造時期は、タイヤ側面のDOTコードでわかります。
コードの下4桁が製造年と週を示しており、例えば「1211」というコードであれば2011年の第12週目に製造されたタイヤということになります。

トレッド（接地面の溝）

トレッドが摩耗して溝の深さが浅くなると、ハイドロプレーニング現象が発生する危険性が高まります。
▷ 安全のため、トレッドの溝にスリップ・サイン（深さ1.6mm）が**現れる前に**タイヤを交換してください。
ウインター・タイヤは、トレッド溝深さが4mm以下になると性能が低下します。
▷ タイヤのトレッドを定期的に点検してください。特に長距離走行の前後は、入念に調べてください。

ホイール・バランス

▷ 走行安全性を維持するため、サマー・タイヤは春に、マッド/ウインター（スノー）・タイヤは冬に入る前にホイール・バランスの点検をしてください。

ホイール・バランスは、必ず適切なバランス・ウエイトを使用して行ってください。
接着式のバランス・ウエイトは洗剤などで落下することがあります。

タイヤ空気圧モニタリング(TPM)用センサー付きホイール

▷ ホイールを交換する前に、この車両のTPMシステムに適合するホイールであることを確認してください。
詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

ホイールの交換

▷ 車両からホイールを取り外す場合は、それぞれのタイヤが付いていた位置（前後左右）と、前進時のタイヤの回転方向をマーキングしてください。
例：
右前のホイールは「FR」、左前は「FL」、右後ろは「RR」、左後ろは「RL」
▷ ホイールを再度取り付けるときは、マーキングにしたがって同じ位置に取り付けてください。

ホイール・アライメント

トレッドの摩耗度合いに偏りがあるときは、ホイール・アライメントに狂いがあることを示しています。この場合にはホイール・アライメントを点検してください。

▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ 警告 走行時にハンドルをとられたり、振動が発生したりする

タイヤに損傷があると、走行中に不規則な回転や振動が発生することがあります。運転操作を誤る恐れがあります。

▷ 急ブレーキをかけないように、スピードを落としてください。

▷ 停車してタイヤを点検してください。
不具合の原因がわからないときは注意して運転し、最寄りのポルシェ正規販売店で点検を受けてください。
この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

タイヤ交換

▷ 新しいタイヤに交換する前に、最新の認証タイヤについてポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

▷ ポルシェ社がテストを行い、承認したタイヤのみを使用してください。
タイヤ側面にある「N...」ではじまる仕様番号（例：N0、N1、N2）を確認してください。

原則として、4輪に装着するタイヤは同一メーカーの同一仕様(N0、N1...)に統一してください。

新品のタイヤはグリップ性能を十分に発揮できません。

▷ 新品のタイヤを装着してから最初の100～200kmは、高速走行を避けて慎重に運転してください。

フロントまたはリヤ・タイヤ**のみ**を交換した場合、前後タイヤのトレッド溝の深さに差異が生じ、それまでの走行とはっきりした違いが感じられます。この変化は、特にリヤ・アクスルに新品タイヤを取り付けた場合に生じやすくなります。

この違和感は、走行距離が伸びるにつれて次第に減少します。

▷ ハンドリング特性の変化に合わせた運転をしてください。

タイヤの交換は、必ず専門の整備工場で実施してください。

損傷したタイヤを1本のみ交換する場合、左右のタイヤ・トレッド溝の深さに30%以上の差がないことを確認してください。

▷ 使用経歴が不明な中古タイヤは使用しないでください。

タイヤ・バルブ

▷ プラスチック製のバルブ・キャップのみを使用してください。

タイヤを交換する場合、ゴム製のタイヤ・バルブも必ず交換してください。

金属製バルブの場合は、取り付けまたは交換に関する注意事項を遵守してください。

ポルシェ純正品の金属製バルブ、またはポルシェ社が要求する性能、品質基準を満たす同等部品を使用してください。

▷ バルブの汚れを防ぐため、必ずバルブ・キャップを取り付けてください。
バルブが汚れると、タイヤの空気圧減少の原因となります。

ウインター・タイヤ

⚠ 警告 最高許容速度の超過

最高許容速度を超えると、タイヤが破損する場合があります。その結果、タイヤがバースト（破裂）する恐れがあります。

▷ 装着しているタイヤの最高許容速度を超えて走行しないでください。

▷ 最高速度を示すステッカーを、ドライバーの目に付く場所に貼り付けてください。
法定速度を遵守してください。

▷ 積雪や凍結の恐れがある時期が近づいたら、早めにウインター・タイヤを4輪すべてに装着してください。
詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

▷ 新しいタイヤに交換する前に、最新の認証タイヤについてポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

▷ ポルシェ社がテストを行い、承認したメーカーのタイヤのみを使用してください。

インフォメーション

サマー・タイヤは外気温度が低くなると性能と快適性が低下するため、外気温度が7°C以下の状況ではウインター・タイヤの使用を推奨します。サマー・タイヤの使用を続けると、ドライ/ウェット路面に関係なく、走行中やコーナリング後の加速中にジャダー・ノイズが発生することがあります。

更に外気温度が極端に低くなると（–15°C以下）、サマー・タイヤに恒久的な損傷が生じることがあります。

ウインター・タイヤは、トレッド溝の深さが4mm以下になると性能が低下します。

▷ ウインター・タイヤと同様、オール・シーズン・タイヤやオール・ラウンド・タイヤも「M+S」のカテゴリーに属します。

ホイールの交換

▷ 車両からホイールを取り外す場合は、それぞれのタイヤが付いていた位置（前後左右）と、前進時のタイヤの回転方向をマーキングしてください。
例：右前のホイールは「FR」、左前は「FL」、右後ろは「RR」、左後ろは「RL」

▷ ホイールを再度取り付けるときは、マーキングにしたがって同じ位置に取り付けてください。

インフォメーション

冬季は、雪や氷を除去するためのハンド・ブラシやプラスチック製スクレーパー、凍結した坂道で発進するための乾いた砂の携行を推奨します。

スノー・チェーン

スノー・チェーンはリヤ・タイヤのみに装着してください。また「テクニカル・データ」の章を参照して、スノー・チェーンの装着に適したタイヤ/ホイールを使用しなければなりません。

▷ スノー・チェーンとホイール・ハウジングのクリアランスを十分に確保するため、ポルシェ社が推奨または承認したファイン・リンク・チェーンのみを使用してください。

ポルシェ社が承認したスノー・チェーンに関するインフォメーション：

▷ 「タイヤとホイール」（302ページ）を参照してください。

▷ 18インチ・ホイール装着車の場合、ポルシェ社が4輪に装着することを認証したチェーンであれば、フロント・アクスルにもチェーンを装着することができます。

▷ スノー・チェーンを取り付ける前にスペーサーを取り外してください。

スペーサーの取り外しに関するインフォメーション：

▷ 「タイヤ交換および17mmスペーサーの取り外し」（315ページ）を参照してください。

▷ 「タイヤ交換および 5mm スペーサーの取り外し＊」（314ページ）を参照してください。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、ホイール・ハウジングの内側にこびりついた雪や氷を取り除いてください。

▷ 最高速度については各国の法規にしたがってください。

知識

スノー・チェーンを取り付ける前にスペーサーを取り外さなかった場合、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ リヤ・アクスルにスノー・チェーンを取り付ける前に5mmまたは17mmスペーサーを必ず取り外してください。

A - タイヤ幅(mm)
B - 偏平率(%)
C - タイヤの構造記号（ラジアル）
D - リム径（インチ）
E - ロード・インデックス
F - 速度記号

ラジアル・タイヤの見方

速度記号

速度記号**F**は、そのタイヤの最高許容速度を示します。
この記号はタイヤの側面（サイド・ウォール）に表示されています。

T = 190km/hまで
H = 210km/hまで
V = 240km/hまで
W = 270 km/hまで
Y = 300km/hまで

インフォメーション

▷ タイヤの側面に「M+S」の表示があるタイヤに限り、最高許容速度がこの車両の最高速度に満たないタイヤを装着できます。
ウインター・タイヤと同様、オール・シーズン・タイヤやオール・ラウンド・タイヤも「M+S」のカテゴリーに属します。

A - リム幅（インチ）
B - リムフランジ形状記号
C - ドロップ・センター・リム記号
D - リム径（インチ）
E - ダブル・ハンプ
F - リム・オフセット(mm)

軽合金製ホイールの記号

ホイールの情報は、タイヤ・バルブの近くのホイール・スポーク裏面に刻印されています。

ジャッキ

ジャッキによるリフトアップ

⚠ 警告 車両下側での作業

ジャッキから車両が滑り落ちる恐れがあります。身体の一部が挟まれたり、ケガをする恐れがあります。

▷ ジャッキ･アップしてタイヤを交換する前に、すべての乗員を車両から降ろしてください。
▷ 車両は必ず、車両下回りにある規定のジャッキアップ・ポイントで持ち上げてください。
▷ 車両が斜面（上り坂や下り坂など）や道路脇に駐車されている場合は絶対にジャッキ・アップしないでください。
▷ ジャッキは、タイヤ交換時に車体を持ち上げるためのみに使用してください。
▷ やむを得ず車体の下に入って作業する場合は、必ず強固なサポート・スタンドで車体を支えてください
車載のジャッキで車両を支えるのは危険ですのでおやめください。

⚠ 警告 固定されていない車両

車両が不意に動き出す恐れがあります。身体の一部が挟まれたり、ケガをする恐れがあります。

▷ 車両が不意に動き出さないように固定してください：
「車両の固定」（311ページ）を参照してください。

ジャッキは工具セットと共に、ラゲッジ・コンパートメントの左側の床下に収納されています。

▷ 「工具セット」（298ページ）を参照してください。

1. 取り外すホイールのボルトを少しだけゆるめてください。
2. 指定されたジャッキ・ポイントにジャッキをセットしてください。このとき、ジャッキが傾かないように、ジャッキ・ポイントの真下にジャッキを置いてください。
必要な場合、リジット・ラックを併用してください。
3. 車両下部のジャッキ・ポイントを清掃してください。

4. ジャッキが動かないように固定し、ジャッキの皿がジャッキ・ポイントに接するまでジャッキを伸ばしてください。
このとき、ジャッキの皿がジャッキ・ポイントの切り欠き（**図を参照**）にしっかりとはまるようにジャッキの位置を調整してください。
5. 取り外すタイヤが地面から離れるまで車体を持ち上げてください。
6. 車体を下げた後でジャッキを取り外してください。

リフトおよびトロリー・ジャッキによるリフト・アップ

⚠ 警告 不十分な車両の固定

車両がしっかり固定されていない、または正しく固定されていない場合、不意に動き出したり、ジャッキやリフティング・プラットフォームなどのリフト装置から落下したりする恐れがあります。

▷ やむを得ず車体の下に入って作業する場合は、必ず安定したサポート・スタンドで車体を支えてください。

▷ 必ず車両フロアの指定されたジャッキ･ポイントで持ち上げてください。

▷ 車両をジャッキアップ後は、エンジンを始動しないでください。エンジンの振動により車両が落下する恐れがあります。

▷ タイヤ交換に関するインフォメーション：「タイヤ交換」(313ページ) を参照してください。

▷ 車両は必ず、前後にある規定のジャッキアップ・ポイントで持ち上げてください。

▷ リフトに乗り入れるときは、車体下部とリフト・プラットフォームの間に十分なスペースがあることを確認してください。

▷ エンジン、トランスミッション、アクスルにはジャッキをかけないでください。重大な損傷を招く恐れがあります。

レベル・コントロール・システム装備車のリフト・アップ

⚠ 警告 タイヤ交換時のレベリング・システムの作動

ジャッキから車両が滑り落ちる恐れがあります。身体の一部が挟まれたり、ケガをする恐れがあります。

▷ ジャッキを使用して車両を持ち上げる必要がある場合、手動でノーマル・レベルに設定し、その後レベル・コントロール・システムをOFFにしてください。
「ジャッキによるリフトアップ」(215ページ) を参照してください。

リフトに乗り入れる前、またはリフト/ジャッキで車両を持ち上げる前に、オートマチック・レベル・コントロール・システムを解除してください：

▷ 手動でノーマル・レベルに設定し、その後レベル・コントロール・システムをOFFにしてください。
「ジャッキによるリフトアップ」(215ページ) を参照してください。

スペーサー *

⚠ 警告 スペーサーの不適切な使用

17mmスペーサーはリヤ・アクスルにのみ装着できます。フロント・アクスルに装着すると、安全な走行が保証できません。

スペーサーは、必ずポルシェ認定ホイールとの組み合わせでのみ使用してください。

▷ 17mmスペーサーは、必ずリヤ・アクスルに、かつポルシェ認定ホイールとの組み合わせでのみ使用してください。
スペーサーを取り付ける前に、最新の認証状況についてポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告 クリアランス不足

コラプシブル・スペア・ホイールを取り付ける前にスペーサーを取り外さなかった場合、事故を起こす恐れがあります。

▷ コラプシブル・スペア・ホイールを取り付ける前に5mmまたは17mmスペーサーを取り外さなかった場合、ホイールを正しく取り付けられません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

⚠ 警告 不適切なホイール・ボルト

5mmスペーサーを装着する場合は、ホイールはロング・ホイール・ボルト(54mm)を使用しなければ確実に固定できません。短いホイール・ボルトで取り付けると、運転中にホイールがゆるむ恐れがあります。

▷ 5mmスペーサーを装着した場合は、4輪とも必ずロング・ホイール・ボルト(54mm)を使用してホイールを取り付けてください。
ロング・ホイール・ボルトに関する詳しいインフォメーション：
「5mmスペーサー装着時のホイール・ボルト」（310ページ）を参照してください。

知識

スノー・チェーンを取り付ける前にスペーサーを取り外さなかった場合、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ リヤ・アクスルにスノー・チェーンを取り付ける前に5mmまたは17mmスペーサーを必ず取り外してください。

▷ スペーサーを取り付けるときは、ポルシェ社が認証したホイールを使用してください。スペーサーを取り付ける前に、最新の認証状況についてポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

▷ スノー・チェーン、コラプシブル・スペア・ホイールを取り付けるときは、スペーサーを取り外してください。

▷ スペーサーの脱着：
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

インフォメーション

▷ 5mmまたは17mmスペーサーの取り外しに関するインフォメーション：
「タイヤ交換および5mmスペーサーの取り外し＊」（314ページ）を参照してください。
または
「タイヤ交換および17mmスペーサーの取り外し」（315ページ）を参照してください。

ホイール・ボルト

▷ ホイール・ボルトを取り付ける前に、必ず清掃してください。

▷ ホイール・ボルトには油脂類を塗布しないでください。

▷ 損傷したホイール・ボルトは交換してください。
この車両専用のポルシェ純正ホイール・ボルト、またはポルシェ社が要求する性能、品質基準を満たす同等部品のみを使用してください。

締め付けトルク

ホイール・ボルトの締め付けトルク：**160Nm**

盗難防止ホイール・ボルト

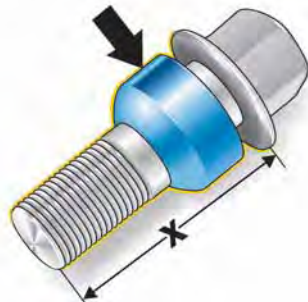
盗難防止ホイール・ボルトを脱着するためのアダプター（ソケット・レンチ）は、工具セットに収納されています。

▷ 盗難防止ホイール・ボルトを脱着するときは、このアダプターをホイール・ボルトとホイール・ボルト・レンチの間に入れて使用してください。

▷ アダプターを取り付けるときは、ホイール・ボルトの歯が確実に噛み合っていることを確認してください。

インフォメーション

17mmスペーサーがリヤ・アクスルに取り付けられている場合は、盗難防止機能のないスチール・ナットを使用してホイールを取り付けてください。

▷ 車両を修理工場に預けるときなど、ホイールを脱着する可能性があるときは、キーと一緒に盗難防止ホイール・ボルト用のアダプターも忘れずにお渡しください

青い球面キャップ・リング付きロング・ホイール・ボルト

5mmスペーサー装着時のホイール・ボルト

▷ スペーサーを装着する場合は、**ロング・ホイール・ボルト**(54mm)でホイールを取り付けてください。

ロング・ホイール・ボルトは、ボルトの頭に青色のマークが付いているか、球面キャップ・リングが青色にメッキされています（**矢印**）。

ホイール・ボルトの締め付けトルク：**160Nm**

⚠ 警告 不適切なホイール・ボルト

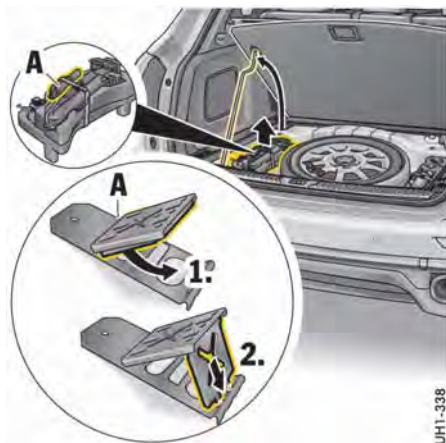
5mmスペーサーを装着する場合、ホイールはロング・ホイール・ボルト(54mm)を使用しなければ確実に固定できません。短いホイール・ボルトで取り付けると、運転中にホイールがゆるむ恐れがあります。

▷ 5mmスペーサーを装着した場合は、4輪とも必ずロング・ホイール・ボルト(54mm)を使用してホイールを取り付けてください。

パンク修理

インフォメーション

タイヤ交換に必要な工具（ジャッキ、ホイール・ボルト・レンチ、ホイール取り付け補助工具など）はコラプシブル・スペア・ホイールまたはフルサイズ・スペア・ホイール装備車のみに標準装備されています。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

1. 走行車線からできるだけ離れた安全な場所に停車してください。
   ジャッキがセットできる固く平坦な滑りにくい場所に駐車してください。
2. ハザード・ライトを点滅させてください。
3. エレクトリック・パーキング・ブレーキを作動させてください。
4. ティプトロニックSセレクター・レバーを**P**の位置にしてください。
5. フロント・ホイールを直進位置にしてください。
6. 誤ってエンジンが始動しないように、またステアリングをロックするため、イグニッション・ロックからキーまたはコントロール・ユニット（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車）を抜き取ってください。
7. すべての乗員を安全な場所に交通状況に注意して避難させてください。
8. 停止表示板を適切な場所に設置してください。

A - 輪止め

車両の固定

工具セットの2個の輪止め**A**で車両を固定してください。

マジック・テープをゆるめ、輪止めを取り出してください。

1. 折り畳んである輪止めを起こして固定してください。

2. 取り外すタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを設置してください。

タイヤ・シーラントの充填

タイヤ・シーラントおよび圧力計付きコンプレッサーがリヤ・ラゲッジ・コンパートメントの右の床下に収納されています。

▷ 「工具セット」(298ページ) を参照してください。

タイヤ・シーラントは、タイヤ・トレッドの小さな傷から空気が漏れている場合に使用できます。

パンク修理剤を使用したタイヤのシーリングは、緊急の場合に1回のみ、最寄りの修理工場までの短距離移動を可能にします。パンク修理剤を使用するとタイヤの気密性が一時的に保持されますが、緊急の場合の応急処置であり、短距離移動のみに使用してください。

タイヤ・シーラント・セットの構成：

- 充填ボトル
- 充填ホース
- バルブ回し
- スペア・バルブ・インサート
- 最高許容速度表示用ステッカー
- 取扱説明書

⚠ 警告 損傷したタイヤおよびリム

タイヤ・シーラントはタイヤの小さな傷にのみ使用できます。ホイールが損傷している場合は、タイヤ・シーラントを使用しないでください。

▷ タイヤ・シーラントは4mm以下の切傷や刺傷のみに使用してください。

▷ ホイールが損傷している場合は、タイヤ・シーラントを使用しないでください

⚠ 警告 人体に有害な可燃性シーラント

シーラントは強燃性で、人体に有害です。

▷ タイヤ・シーラントを取り扱う際は、火気や裸火を近づけたり、喫煙をしないでください。

▷ 皮膚、目、衣類にシーラントが付着しないように注意してください。

▷ お子様の手の届かない場所に保管してください。

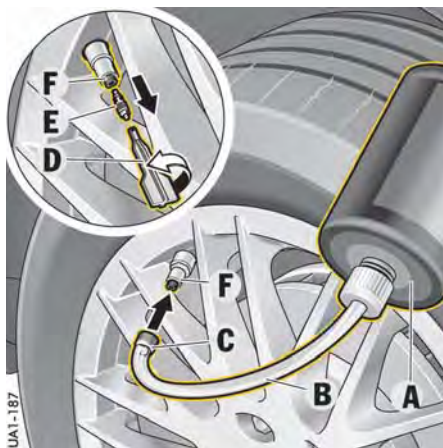
▷ シーラントの蒸発ガスを吸い込まないようにしてください。

シーラントが付着したとき：

▷ 皮膚に付着したり目に入ったときは、直ちに多量の水で洗い流してください。

▷ 衣服に付着したときは、すぐに着替えてください。

▷ パンク修理剤でアレルギー反応を起こしたときは、直ちに医師の診察を受けてください。

▷ 誤って飲み込んだときは、口の中を多量の水でゆすぎ、更に多量の水を飲んでください。無理に嘔吐しないでください。至急医師の診察を受けてください。

A - 充填ボトル
B - 充填ホース
C - 充填ホース・プラグ
D - バルブ回し
E - バルブ・インサート
F - タイヤ・バルブ

シーラントの充填

1. タイヤの空気が抜けた原因の異物は取り除かず、そのままタイヤに残しておいてください。
2. ラゲッジ･コンパートメントからパンク修理剤と同封のステッカーを取り出してください。
3. 最高許容速度を示すステッカーを、ドライバーの目に付く場所に貼り付けてください。
4. 充填ボトル**A**をよく振ってください。
5. 充填ホース**B**を充填ボトルに取り付けてください。
   ここで充填ボトルを開封してください。
6. タイヤ・バルブ**F**からバルブ・キャップを外してください。
7. バルブ回し**D**を使用して、バルブ・インサート**E**をタイヤ・バルブから取り外してください。
   バルブ・インサートは、乾いた汚れのない場所に置いてください。
8. 充填ホース**B**のプラグ**C**を取り外してください。
9. 充填ホースをタイヤ・バルブに押し付けてください。
10. 充填ボトルをタイヤ・バルブより上方に持ち上げ、ボトルを強く握って中身をすべてタイヤに充填してください。
11. 充填ホースをタイヤ・バルブから引き抜いてください。
12. バルブ回し**D**を使用して、バルブ･インサート**E**をタイヤ・バルブにしっかりねじ込んでください。
13. コンプレッサーを接続し、圧力が2.5bar以上になるまでタイヤに空気を入れてください。
    タイヤ空気圧がこの規定値に達しない場合は、タイヤが激しく損傷しています。
    このようなタイヤで走行を続けないでください。
    タイヤ空気の充填に関するインフォメーション：
    「タイヤ空気の充填」（319ページ）を参照してください。
14. バルブ・キャップをタイヤ・バルブ**F**にねじ込んでください。
15. 約10分間走行した後、タイヤ空気圧を点検してください。
    タイヤ空気圧が1.5bar以下の場合は、運転を中止してください。
    タイヤ空気圧が1.5bar以上ある場合は、指定のタイヤ空気圧に調整してください。
    タイヤ空気圧に関するインフォメーション：
    「冷間時のタイヤ空気圧(20℃)」（345ページ）を参照してください。
16. ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ タイヤ・シーラントに添付されている取り扱い上の注意事項を遵守してください。

警告 タイヤ空気圧が検出されない

シーラントが付着したタイヤ空気圧センサーでは、タイヤ空気圧を正しく検出できません。

▷ 損傷したタイヤを交換する際に、タイヤ空気圧センサーも交換してください。

警告 タイヤの損傷

タイヤ・シーラントによるタイヤの補修は、緊急の場合に限ります。

▷ 速やかにポルシェ正規販売店でタイヤを交換してください。
ポルシェ正規販売店にタイヤ・シーラントを使用したことを伝えてください。

▷ 急加速や高速でのコーナリングは避けてください。

▷ 80km/hの最高速度を遵守してください。

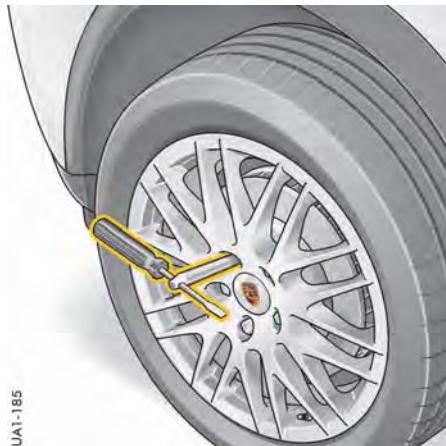
▷ パンク修理剤およびコンプレッサーに添付している安全および取り扱い上の注意事項を遵守してください。

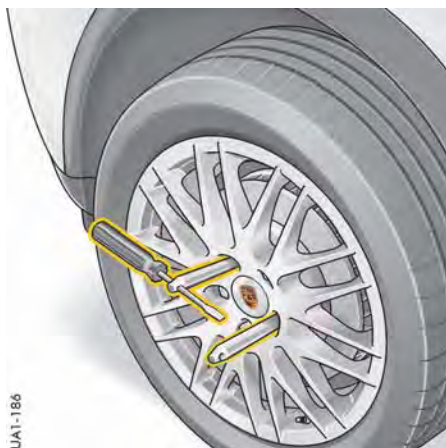
タイヤ交換

1. ホイール・ボルトを1本または2本取り外してください（図を参照）。

知識

ブレーキ・ディスクを損傷する恐れがあります。

▷ タイヤを交換する場合は、必ず補助工具を挿入してください。

取り付け補助工具1本を使用（PCCB非装備車）

2. 取り外したホイール・ボルトの代わりに、ホイール取り付け補助工具をねじ込んでください。
3. 残りのホイール・ボルトを少しだけゆるめた後、ジャッキを使用して車体をリフト・アップしてください。
ジャッキを使用した車体のリフト・アップに関するインフォメーション：
▷ 「ジャッキ」(307ページ) を参照してください。
4. 残りのホイール・ボルトを取り外してください。
ホイール・ボルトに関するインフォメーション：
▷ 「ホイール・ボルト」(309ページ) を参照してください。

取り付け補助具**2本**を使用（**PCCB装着車**）

5. 交換するタイヤを外し、新品のタイヤを取り付けてください。
6. ホイール・ボルトを挿入し、対角線方向の順に少しだけ締め付けてください。
7. ホイール取り付け補助工具を外し、残りのホイール・ボルトを取り付けてください。
すべてのホイール・ボルトを対角線方向の順に少しだけ締め付け、ホイールの中心位置を合わせてください。
8. 必要に応じてタイヤの空気圧を調整してください。
「冷間時のタイヤ空気圧(20℃)」（345ページ）を参照してください。
9. 車体を完全に下げた後、ジャッキを取り外してください。
10. ホイール・ボルトを対角線方向の順に完全に締め付けてください。
11. ホイール・ボルトを締め付けたら、直ちにトルク・レンチを使用してホイール・ボルトを160Nmの締め付けトルクで増し締めしてください。

タイヤ空気圧モニタリング(TPM)システム装備車の操作に関する知識

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システム装備車は、ホイール交換の後、マルチファンクション・ディスプレイで設定を更新しなければなりません。
「タイヤ空気圧メニュー（タイヤ空気圧モニタリング、TPM）」（118ページ）を参照してください。

タイヤ交換および5mmスペーサーの取り外し＊

⚠ 警告 コラプシブル・スペア・ホイールの不適切な取り付け

コラプシブル・スペア・ホイールを取り付ける前にスペーサーを取り外さなかった場合、事故を起こす恐れがあります。

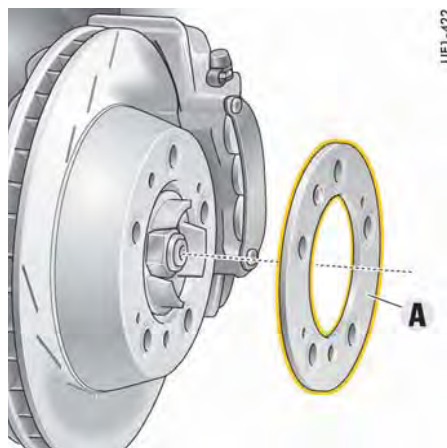
▷ コラプシブル・スペア・ホイールを取り付ける前に5mmスペーサーを取り外さなかった場合、ホイールを正しく取り付けられません。

知識

スノー・チェーンを取り付ける前にスペーサーを取り外さなかった場合、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ リヤ・アクスルにスノー・チェーンを取り付ける前に5mmスペーサーを必ず取り外してください。

▷ スノー・チェーン、コラプシブル・スペア・ホイールを取り付けるときは、スペーサーを取り外してください。

▷ スペーサーに関するインフォメーション：「スペーサー＊」（308ページ）を参照してください。

1. ホイール・ボルト（PCCB非装備車：1本、PCCB装備車：2本）を取り外してください。
2. 取り外したホイール・ボルトの代わりに、ホイール取り付け補助工具をねじ込んでください。
取り付け保護具に関するインフォメーション：「タイヤ交換」（313ページ）を参照してください。
3. 残りのホイール・ボルトを少しだけゆるめ、ジャッキを使用して車体をリフト・アップしてください。
ジャッキを使用した車体のリフト・アップに関するインフォメーション：
▷ 「ジャッキ」（307ページ）を参照してください。
4. 残りのホイール・ボルトを取り外してください。
ホイール・ボルトに関するインフォメーション：
▷ 「ホイール・ボルト」（309ページ）を参照してください。
ホイールを取り外してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

5. スペーサー Aを取り外してください。
6. ホイールを取り付けてください。
7. ホイール・ボルトを挿入し、手で仮締めしてください。
8. ホイール取り付け補助工具を外し、残りのホイール・ボルトを取り付けてください。
   すべてのホイール・ボルトを対角線方向の順に少し締め付け、ホイールの中心位置を合わせてください。
9. 必要に応じてタイヤの空気圧を調整してください。
   タイヤ空気圧に関するインフォメーション：
   「冷間時のタイヤ空気圧(20℃)」(345ページ)を参照してください。
10. 車両を下げた後、ジャッキを取り外してください。
11. ホイール・ボルトを対角線方向の順に完全に締め付けてください。
12. ホイール・ボルトを締め付けたら、直ちにトルク・レンチを使用してホイール・ボルトを160Nmの締め付けトルクで増し締めしてください。

インフォメーション

▷ スペーサーを取り外した状態でホイールを取り付けるときは、ねじ部の長さが5mm短いホイール・ボルトを使用してください。アクセサリーについてご不明な点は、ポルシェ正規販売店にお気軽にご相談ください。
▷ タイヤ空気圧モニタリング・システム装備車は、ホイール交換の後、マルチファンクション・ディスプレイで設定を更新しなければなりません。
「タイヤ空気圧メニュー（タイヤ空気圧モニタリング、TPM)」(118ページ）を参照してください。

タイヤ交換および17mmスペーサーの取り外し

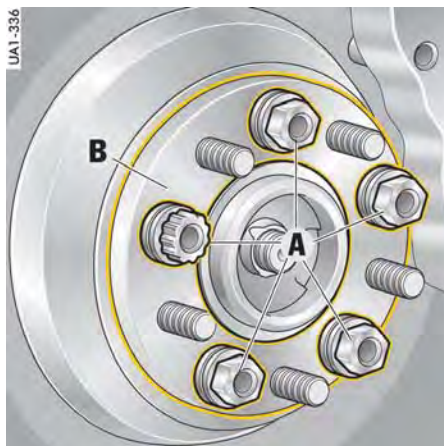
警告 コラプシブル・スペア・ホイールの不適切な取り付け

コラプシブル・スペア・ホイールを取り付ける前にスペーサーを取り外さなかった場合、事故を起こす恐れがあります。
▷ コラプシブル・スペア・ホイールを取り付ける前に17mm スペーサーを取り外さなかった場合、ホイールを正しく取り付けられません。

知識

スノー・チェーンを取り付ける前にスペーサーを取り外さなかった場合、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。
▷ リヤ・アクスルにスノー・チェーンを取り付ける前に17mmスペーサーを必ず取り外してください。

▷ スノー・チェーン、コラプシブル・スペア・ホイールを取り付けるときは、スペーサーを取り外してください。
▷ スペーサーを取り外さない場合、交換用ホイールまたはフルサイズ・スペア・ホイールを取り付ける際に取り付け補助工具を使用する必要はありません。
▷ スペーサーに関するインフォメーション：
「スペーサー＊」(308ページ) を参照してください。

1. ホイール・ナットを取り外してください。
   ジャッキを使用した車体のリフト・アップに関するインフォメーション：
▷ 「ジャッキ」(307ページ) を参照してください。

2. スペーサー **B**を固定しているホイール・ボルト**A**を取り外してください。
3. スペーサー **B**を取り外してください。
4. 取り外したホイール・ボルトの代わりに、ホイール取り付け補助工具をねじ込んでください。
5. ホイールを取り付けてください。
6. スペーサー **B**を固定していたホイール・ボルト**A**を使用して、ホイールを固定してください。
   ホイール・ボルトを挿入し、手で仮締めしてください。ホイール取り付け補助工具を取り外し、残りのホイール・ボルトを取り付けてください。
   すべてのホイール・ボルトを対角線方向の順に少しだけ締め付け、ホイールの中心位置を合わせてください。
7. 必要に応じてタイヤの空気圧を調整してください。
   タイヤ空気圧に関するインフォメーションは「テクニカル・データ」の章に掲載されています：
   「冷間時のタイヤ空気圧(20℃)」（345ページ）を参照してください。
8. 車両を下げた後、ジャッキを取り外してください。
9. ホイール・ボルトを対角線方向の順に完全に締め付けてください。
10. ホイール・ボルトを締め付けたら、直ちにトルク・レンチを使用してホイール・ボルトを160Nmの締め付けトルクで増し締めしてください。

インフォメーション

▷ 取り外したスペーサー、ナットおよびプラスチック・カバーは紛失しないよう、一緒に保管してください。

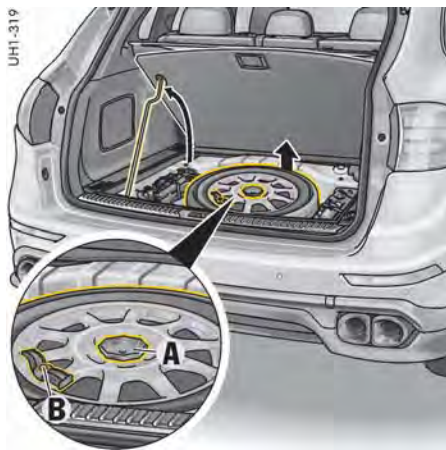
タイヤ空気圧モニタリング・システム装備車は、ホイール交換の後、マルチファンクション・ディスプレイで設定を更新しなければなりません。

▷ 「タイヤ空気圧メニュー（タイヤ空気圧モニタリング、TPM）」（118ページ）を参照してください。

コラプシブル・スペア・ホイール

コラプシブル・スペア・ホイールはラゲッジ・コンパートメントのフロア下に収納されています。

スペーサー装備車：

▷ コラプシブル・スペア・ホイールを取り付ける前に、必ずホイール・スペーサーを取り外してください。
   スペーサーに関するインフォメーション：
   「スペーサー＊」（308ページ）を参照してください。
   スペーサーの取り外しに関するインフォメーション：
   「タイヤ交換および5mmスペーサーの取り外し＊」（314ページ）を参照してください。
   または
   「タイヤ交換および17mmスペーサーの取り外し」（315ページ）を参照してください。

1. ロータリー・ノブ**A**を取り外し、スクリュー**B**に取り付けてください。
2. スクリュー **B**をゆるめて固定クリップを外し、コラプシブル・スペア・ホイールを取り出してください。
3. 車両を**ジャッキ・アップ**した状態で、車両に空気の入っていないコラプシブル・スペア・ホイールを取り付けてください。
   タイヤ交換に関するインフォメーション：
   「ホイールの交換」(303ページ)を参照してください。
4. タイヤに空気を入れてください。
   タイヤ空気圧に関するインフォメーション：
   「冷間時のタイヤ空気圧(20℃)」(345ページ)を参照してください。

⚠ 警告 車両操縦性の変化

コラプシブル・スペア・ホイールを装着すると車両の挙動が乱れる場合があります。

▷ コラプシブル・スペア・ホイールは緊急時に短距離を走行する場合にのみ使用してください。
  走行安全性を維持するため、トレッドのスリップ・サインが現れる**前**にタイヤを交換してください。スリップ・サインは、溝の深さが1.6mmまで摩耗すると現れます。
▷ ポルシェ・スタビリティ・マネージメント(PSM)システムを解除しないでください。
▷ 急加速や高速でのコーナリングは避けてください。
  コラプシブル・スペア・ホイールを装着すると車両の走行特性が大きく変化します。また、タイヤの摩耗を避けるためにも**80km/h**の最高速度を厳守してください。
▷ 他車用のコラプシブル・スペア・ホイールを使用しないでください。
▷ この車両用のコラプシブル・スペア・ホイールを他車で使用しないでください。
▷ 1度に**複数のコラプシブル・スペア・ホイール**を使用しないでください。

コラプシブル・スペア・ホイールを使用した後は

▷ バルブをゆるめて充填されている空気を抜いてください。

インフォメーション

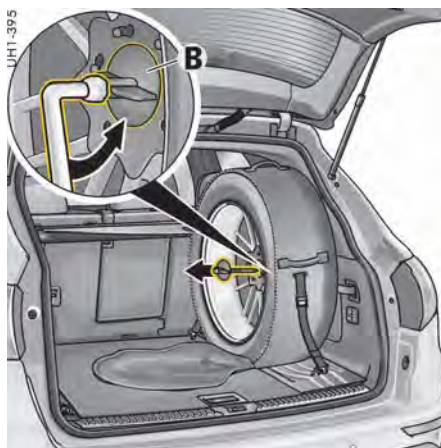
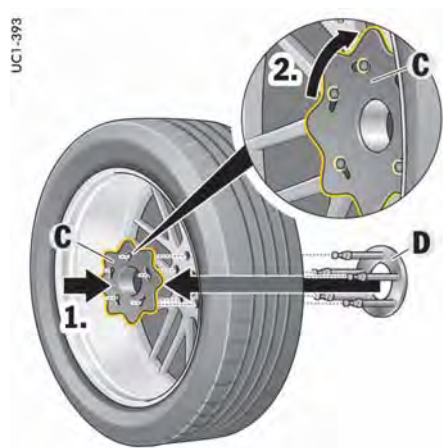
– コラプシブル・スペア・ホイールは元の形状に戻るのに空気を抜いてから数時間かかります。コラプシブル・スペア・ホイールは元の形状に戻ってからでないと、ラゲッジ・コンパートメントのフロア下に収納できません。
– コラプシブル・スペア・ホイールの修理は必ずメーカーに依頼してください。

▷ コラプシブル・スペア・ホイールに不具合が発生した場合は：
  ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

スペア・ホイール

⚠ 警告 車両操縦性の変化

取り付けられているタイヤとスペア・タイヤのホイール・サイズ、タイヤ・サイズ、タイヤ規格を確認してください。取り付けられているタイヤとスペア・タイヤが異なる場合、車両の挙動が乱れる場合があります。

▷ スペア・ホイールは緊急時に短距離を走行する場合にのみ使用してください。
  走行安全性を維持するため、トレッドのスリップ・サインが現れる**前**にタイヤを交換してください。スリップ・サインは、溝の深さが1.6mmまで摩耗すると現れます。
▷ ポルシェ・スタビリティ・マネージメント(PSM)システムを解除しないでください。
▷ スペア・ホイールのタイヤが製造から4年以上経過している場合、タイヤがパンクした時の緊急用としてのみ使用してください。
▷ 急加速や高速でのコーナリングは避けてください。
  車両に取り付けられている他の3本のホイールとスペア・ホイールが異なっている場合、最高許容速度の**80km/h**を厳守してください。走行特性が大きく変化するため、また摩耗を避けるため、最高許容速度を超えた速度で走行しないでください。

ブラケット（取り付け金具）からスペア・ホイールを取り外す

⚠ 警告 スペア・ホイールの不適切な取り外し

ホイールの重量はとても重くなっています（最大約35kg）。

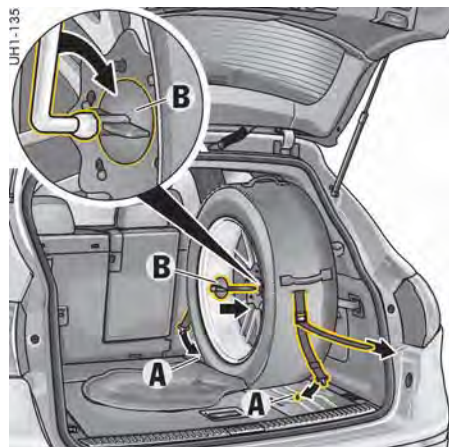
▷ 注意してスペア・ホイールをスペア・ホイール・ブラケット（取り付け金具）から取り外してください。

---

1. ホイール・カバー（ジッパー）を開いてください。
2. 締め付けベルトをゆるめ、ラゲッジ・コンパートメント・フロアの前後の取り付け位置**A**から取り外してください。

3. 工具セットのホイール・ボルト・レンチを使用して、ホイール・ホルダー**B**を緩めてください。
4. ホイール・ホルダーからホイールを取り外してください。
5. リテーニング･プレート**C**を反時計回りに回してください。
6. アダプター**D**とリテーニング･プレート**C**を取り外してください。

スペア・ホイールをブラケットに取り付ける

1. アダプター**D**とリテーニング･プレート**C**を取り付けてください。
2. リテーニング･プレート**C**を時計回りに止まるまで回してください
3. ホイールをホイール・カバーにしまい、締め付けベルトをタイヤ・トレッドの付近に取り付け、ジッパーを閉じてください。
4. ホイールをホイール・カバーと共に取り付け位置まで持ち上げてください。

5. ジッパーを開き、工具セットのホイール・ボルト・レンチを使用してホイール・ホルダー**B**をねじ込んでください。

警告 ホルダーの締め付け不良

ホルダーがしっかりと締め付けられていない場合、ブレーキや車線変更、または衝突の際にスペア・ホイールがホルダーから外れて飛び出し、乗員がケガをする恐れがあります。

▷ ホイール・ホルダー**B**の締め付けトルク(20Nm)を遵守してください。

6. トルク・レンチ（別途ご用意ください）を使用して、ホイール・ホルダーが20Nmの締め付けトルクで締め付けられているか確認してください。
7. 締め付けベルトをラゲッジ・コンパートメント・フロアの前後の取り付け位置**A**に取り付けてください。
8. タイヤ・トレッド付近の締め付けベルトの位置を点検し、必要な場合は調整してください。
9. 締め付けベルトを締め付けてください。
10. ホイール・カバー（ジッパー）を閉じてください。

 インフォメーション

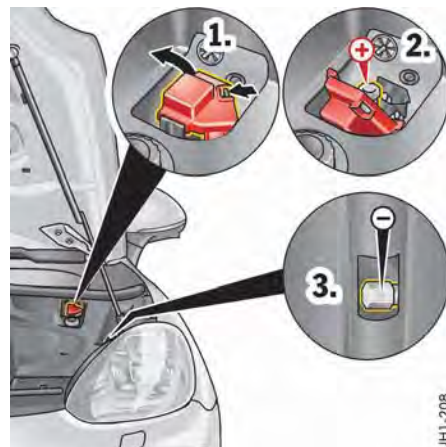
リヤ・シート位置によっては、スペア・ホイールを装着するとノイズが発生することがあります。

▷ リヤ･シートをできるだけ前方に動かし､バックレストを垂直位置に調節してください。

タイヤ空気の充填

圧力計付きコンプレッサーがリヤ・ラゲッジ・コンパートメントの右の床下に収納されています。

▷ コンプレッサーの取扱説明書をよくお読みください。

1. 充填ホースをタイヤ・バルブにねじ込んでください。
2. エンジン・フード内の端子カバーを取り外してください。

+ = ジャンパー・ケーブルによる始動用のプラス端子
– = ジャンパー・ケーブル接続用のマイナス端子

3. コンプレッサーの電源クリップをジャンパー・ケーブル接続用の端子に接続してください。
   下記の手順を必ず守ってください：
   – ジャンパー・ケーブル接続用のプラス(**+**)端子カバーを開いてください。
   – ジャンパー・ケーブル接続用のプラス(**+**)端子にコンプレッサーのプラス・ケーブル（赤）を接続してください。
   – ジャンパー・ケーブル接続用のマイナス(**–**)端子にコンプレッサーのマイナス・ケーブル（黒）を接続してください。

警告 高温のコンプレッサー充填ホース

タイヤに空気を充填する間、コンプレッサーの充填ホースは高温になります。
▷ 作業用手袋を着用してください。

4. コンプレッサーをONにしてください。
   規定のタイヤ空気圧が充填されるまで、数分間かかる場合があります。
5. コンプレッサーをOFFにしてください。
6. 空気圧計で充填した圧力を点検し、必要であれば調整してください。
   もう一回タイヤ空気圧を点検してください。
7. コンプレッサーの充填ホースをタイヤ・バルブから取り外してください。

タイヤ空気圧を下げる

1. コンプレッサーをOFFにしてください。
2. 充填ホースのエア抜きスクリューを規定のタイヤ空気圧になるまで開いてください。

電気系統

車両の電気/電子回路の損傷を回避するため、電装品（アクセサリー）などの取り付け作業はポルシェ正規販売店にお任せください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
▷ ポルシェ社が承認した電装品（アクセサリー）のみを使用してください。

警告 作業時の電気系統のショート

車両の電気系統の作業により、回路がショートする恐れがあります。回路のショートが原因で火災が発生する恐れがあります。
▷ 電気系統の作業をするときは、必ずバッテリー・マイナス(–)ケーブルの端子を外してください。

リレー

リレーの点検および交換は、必ずポルシェ正規販売店で実施してください。

ヒューズの交換

ショートや過負荷による電気系統の損傷を防ぐために、各々の回路がヒューズで保護されています。

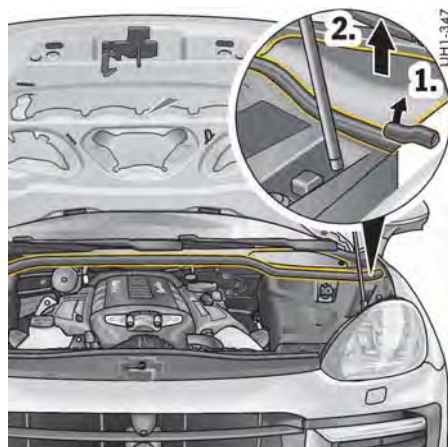
ヒューズ・ボックスはエンジン・コンパートメント内に1個あります。ダッシュボードの両端に更に2個のヒューズ・ボックスがあります。

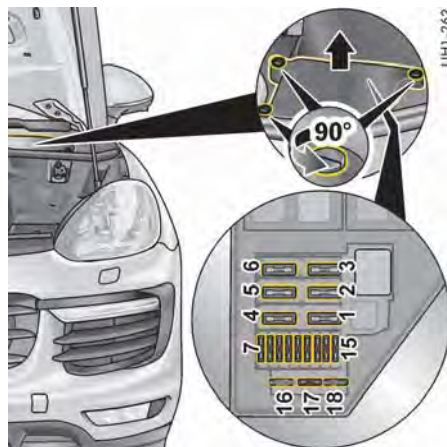
1. 交換するヒューズと関係のある電装品をOFFにしてください。
2. ヒューズ・ボックス・カバーを開いてください。
3. ヒューズを点検するため、プラスチック製のヒューズ･リムーバーを使用して、スロットから対応するヒューズを引き抜いてください。
   切れたヒューズは、内部の金属線が溶けていることで判別できます。
4. 同じ容量のヒューズと交換してください。
   交換する際は、ポルシェ純正ヒューズの使用を推奨します。

インフォメーション

ヒューズを交換するときは、交換するヒューズに目印をつけて、ポルシェ純正ヒューズと交換してください。目印をつけることにより、緊急対応者が安全に高電圧システムを解除することができます。
▷ ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

インフォメーション

▷ ヒューズが何度も切れる場合は、直ちに修理をする必要があります。
  ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
▷ ヒューズを交換する際は、プラスチック製のヒューズ・リムーバーを使用してください。リムーバーは、ダッシュボードのヒューズ・ボックスのカバーに収納されています。
▷ 交換用ヒューズは、ダッシュボード左右のヒューズ・ボックス・カバーに収納されています。(左側:7.5Aと10A、右側:20Aと25A)

エンジン・ルームのヒューズ・ボックス・カバーを開く

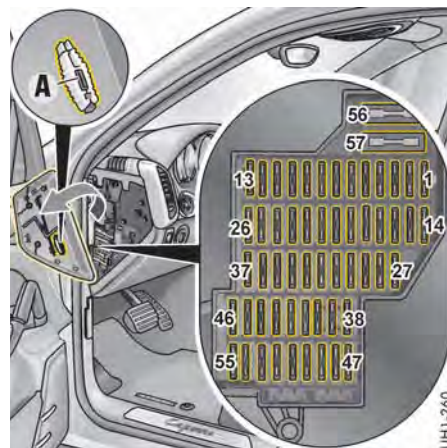
1. カバーを取り外してください。

2. ヒューズ・ボックス・カバーのツイスト・ロックをドライバーで反時計回りに90°回し、カバーを取り外してください。

エンジン・ルームのヒューズおよびリレー・ボックス

No.	ヒューズ・キャリアA	A（アンペア）
1	Cayenne Turbo、Cayenne S、Cayenne Sディーゼル＊、Cayenneディーゼル＊：スターター・リレー	40
3	Cayenne Turbo、Cayenne S、Cayenne S E-Hybrid：セカンダリ・エア・ポンプ	40
4	Cayenne S E-Hybrid：バキューム・ポンプ・リレー	30
7	Cayenne Turbo、Cayenne S：ロッド・イグニッション・コイル	15
	Cayenne Sディーゼル＊、Cayenneディーゼル＊：高圧コントロール・バルブ、高圧ポンプ	15
	Cayenne S E-Hybrid：ロッド・イグニッション・コイル	20
8	Cayenne Turbo：タンク・ベント・バルブ、ブースト・プレッシャー・バルブ、誘導バルブ、クランク・ケース・デアイサー	15
	Cayenne Sディーゼル＊ウォーター・サーキュレーション・ポンプ	10
	Cayenne S E-Hybrid：ウォーター・ポンプ・チャージエア・クーラー	10
	Cayenne S：タンク・ベント・バルブ、エレクトロニックニューマチック・コンバーター、クランク・ケース・デアイサー、誘導バルブ、セカンダリ・エア・ポンプ・リレー、サウンド・シンポーザー	10
9	Cayenne Turbo：エンジン・コントロール・ユニット、フロー・コントロール・バルブ	20
	Cayenne S、Cayenneディーゼル＊、Cayenne S E-Hybrid：エンジン・コントロール・ユニット	30
	Cayenne Sディーゼル＊：エンジン・コントロール・ユニット（マスター）	30

＊ 日本仕様に設定はありません。

No.	ヒューズ・キャリアA	A (アンペア)
10	Cayenne Turbo：タンク漏れ自己診断、セカンダリ・エア・ポンプ・リレー、電子制御式エキゾースト・フラップ、ホール・センサー、オイル・レベル・センサー	10
	Cayenne S：タンク漏れ自己診断、電子制御式エキゾースト・フラップ	10
	Cayenne S E-Hybrid：バキューム・ポンプ、セカンダリ・エア・ポンプ、タンク漏れ自己診断	10
	Cayenneディーゼル＊：グロー・プラグ・コントロール・ユニット、EGRクーラー切り替えバルブ、制御式オイル・ポンプ用コントロール・バルブ、マップ・サーモスタット、エンジン・マウント、プレッシャー・コンバーター	10
	Cayenne Sディーゼル＊：グロー・プラグ・コントロール・ユニット、制御式オイル・ポンプ用コントロール・バルブ、EGRクーラー切り替えバルブ、冷却水切り替えバルブ	10
	ラジエーター・ファン・コントロール・ユニット、ブレーキ・ペダル・センサー、ラジエーター・シャッター	10
11	Cayenne Turbo：バルブ・リフト・アジャスター、カムシャフト・コントローラー、マップ・サーモスタット	15
	Cayenne S：マップ・サーモスタット、カムシャフト・コントローラー、バルブ・リフト・アジャスター、	10
	Cayenneディーゼル＊：オイル・レベル・センサー	5
	Cayenne Sディーゼル＊：オイル・レベル・センサー、クランク・ケース・デアイサー	15
	Cayenne S E-Hybrid：温度/オイル・レベル・センサー	10
12	Cayenne S E-Hybrid：カムシャフト・コントロール、チャージ・モーション・フラップ	10
13	燃料ポンプ・システム・コントロール・ユニット	25

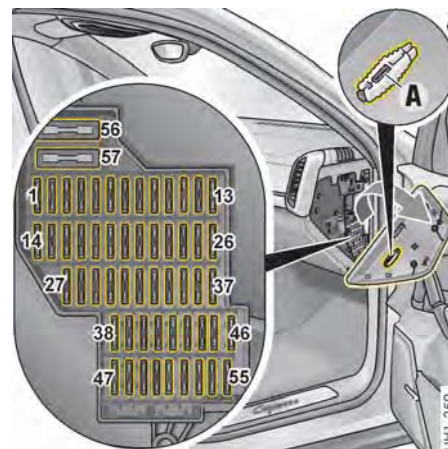
No.	ヒューズ・キャリアA	A (アンペア)
14	Cayenne S E-Hybrid：制御式オイル・ポンプ・コントロール・バルブ、高圧ポンプ用フロー・コントロール・バルブ、タンク・ベント・バルブ、セカンダリ・エア・バルブ、メイン・ウォーター・ポンプ・バルブ、モーター・ジェネレーター・バイパス・バルブ	15
	Cayenne S：カムシャフト・センサー、オイル・レベル・センサー	7.5
	Cayenneディーゼル＊：SCR供給モジュール、電子制御タンク	15
	Cayenne Sディーゼル＊：エンジン・コントロール・ユニット（スレーブ）	30
15	メイン・リレーに追加 Cayenne S E-Hybrid： エンジン・コントロール・ユニット	10
16	Cayenne S E-Hybrid：電気式ウォーター・ポンプ	10
17	Cayenne Turbo、Cayenne Sディーゼル＊、Cayenne S E-Hybrid：触媒コンバーター上流O2センサー	15
	Cayenne S：触媒コンバーター上流O_2センサー	10
	Cayenneディーゼル＊：O2センサー、触媒コンバーター上流Noxセンサー、触媒コンバーター下流Noxセンサー、パティキュレート・センサー	15
18	Cayenne Turbo、Cayenne S E-Hybrid：触媒コンバーター下流O2センサー	

ダッシュボード左側のヒューズ・ボックス

ダッシュボード左右のヒューズ・ボックス・カバーの開き方

1. ドライバーでプラスチック・カバーを慎重にこじって取り外してください。
2. プラスチック製のヒューズ・リムーバー **A** を使用して、慎重にヒューズを抜き取ってください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ダッシュボード左側のヒューズ・ボックス

No.	用途	A (アンペア)
1	シート・メモリー・コントロール・ユニット、左 左側シートのシート調整スイッチ	25
2	補助ヒーター・コントロール・ユニット＊	30
3	ホーン用リレー	15
4	フロント・ワイパー・モーター	30
5	スライディング/チルティング・ルーフ用モーター、パノラマ・ルーフ	30
7	ステアリング・コラム調整用コントロール・ユニット	15
8	タイヤ空気圧モニタリング・システム・コントロール・ユニット、シャーシ・コントロール・スイッチ	5
9	フロント・ウィンドウ・ヒーター、レイン・センサー/ライト・センサー、Bluetooth ハンドセット充電トレイ＊	5
10	パノラマ・ルーフ・システム用ロール・アップ式サンブラインド	30
13	サブ・ウーファー (Bose/Burmester＊)	30
14	BCM1	30
15	Cayenne S E-Hybrid： 高電圧充電器	5
16	セントラル・ロッキング・コントロール・ユニット、運転席パワー・ウィンドウ	30
17	エンジン・コンパートメント・リッド・コンタクト・スイッチ、ホーン予備	5
18	BCM1	30
19	Cayenne Turbo、Cayenne S、Cayenneディーゼル＊、Cayenne Sディーゼル＊：エンジン・コントロール・ユニット	5
20	BCM1	30
21	補助ヒーター用サーキュレーター・ポンプ・リレー＊	10
22	BCM1	30
23	CANネットワーク・ゲートウェイ/故障診断用ソケット、イグニッション・ロック、ステアリング・コラム・ロック、ライト・スイッチ	7.5
24	フロント・ウィンドウ・ヒーター、左	30
25	フロント・ウィンドウ・ヒーター、右	30
27	Cayenne S E-Hybrid：バッテリー制御システム	5
28	Cayenne S E-Hybrid：パワー・エレクトロニクス	5
29	Cayenne S E-Hybrid：スピンドル・アクチュエーター	5
30	Cayenne S E-Hybrid：シングル・パワー・パック（油圧ポンプ)、ステアリング	5
31	Cayenne S E-Hybrid：アウトサイド・サウンド、インテリア・サウンド	5
32	Cayenne S E-Hybrid：アクセル・モジュール	5
33	セントラル・ロッキング・コントロール・ユニット、後席左パワー・ウィンドウ	30
36	エレクトリック・パーキング・ブレーキ・スイッチ	5
38	Cayenne S E-Hybrid：パワー・エレクトロニクス	5
39	Cayenne S E-Hybrid：スピンドル・アクチュエーター	30
40	Cayenne S E-Hybrid：断路器	10
41	Cayenne S E-Hybrid：バッテリー制御システム	10
42	ルーム・ミラー	5
43	ヘッドライト・ビーム調整（キセノン)、ダイナミック・フロント・ライティング・コントロール・ユニット	5
44	シート・ベンチレーター	7.5
45	ポルシェ車両追跡システム・プラスコントロール・ユニット＊、BCM2、エンジン・コントロール・ユニット	5
46	レーン・チェンジ・アシスト(LCA)	5
47	CANネットワーク・ゲートウェイ/故障診断ソケット、ガレージ・ドア・オープナー＊、パーキング・アシスタント	5
48	Cayenne Turbo、Cayenne S：スターター・リレー、冷媒圧力センサー	10
	Cayenneディーゼル＊、Cayenne Sディーゼル＊：スターター・リレー、冷媒圧力センサー、マス・エアフロー・センサー	10
	Cayenne S E-Hybrid：冷媒圧力センサー	10
49	アダプティブ・クルーズ・コントロール用レーダー・センサー(ACC)、アダプティブ・クルーズ・コントロール用スタビリゼーション・リレー (ACC)	7.5
50	フロント・カメラ・コントロール・ユニット	5
52	リヤ・ワイパー・モーター	15
53	ステアリング・コラム・スイッチ・モジュール	5
54	キセノン・ヘッドライト、左	25

ダッシュボード右側のヒューズ・ボックス

＊ 日本仕様に設定はありません。

ダッシュボード右側のヒューズ・ボックス

No.	用途	A（アンペア）
1	PDCCコントロール・ユニット	10
2	PASMコントロール・ユニット	15
3	リヤ・ディファレンシャル・ロック・コントロール・ユニット	10
4	リヤ・ディファレンシャル・ロック・コントロール・ユニット	30
5	トレーラー・ヒッチ・ピボット・モーター・コントロール・ユニット、ブレーキ・ブースター・プレパレーション、トレーラーヒッチ・プレパレーション、ウェストファリア・カップリング・ポイント	25
6	トレーラー・ヒッチ・コントロール・ユニット	15
7	トレーラー・ヒッチ・コントロール・ユニット	15
8	トレーラー・ヒッチ・コントロール・ユニット	15
9	セントラル・ロッキング・コントロール・ユニット、後席右パワー・ウィンドウ	30
10	ラゲッジ・コンパートメント・ライト	5
11	セントラル・ロッキング・コントロール・ユニット、助手席パワー・ウィンドウ	30
12	ハングオン・アクチュエーター	30
14	エアバッグ・コントロール・ユニット、シート・センサー	10
16	PSMコントロール・ユニット、エレクトリック・パーキング・ブレーキ、PDCC	5
17	キセノン・ヘッドライト、右	25
19	トランスミッション・コントロール・ユニット/トランスミッション予備配線	5
20	シート・メモリー・コントロール・ユニット、右： 右側シートのシート調整スイッチ	25
21	シート・ヒーター、リヤ	25
22	シート・ヒーター、フロント	25
23	オートマチック・リヤ・リッド・コントロール・ユニット	25
24	TVチューナー＊	10
25	リヤ・ブロア・レギュレーター	30
26	リヤ・ウィンドウ・ヒーター	30
27	補助ヒーター＊、ラジオ・レシーバー	5
29	PSMコントロール・ユニット、PSMバルブ	30
30	ハングオン・アクチュエーター	5
31	BCM2	20
32	Cayenne S E-Hybrid：NT回路2/3ウェイ・バルブ、フロント・エバポレーター・シャットオフ・バルブ、ウォーター・ポンプ・リレー	7.5
33	BCM2	15
34	BCM2	15
35	ポルシェ車両追跡システム・プラス（PVTSプラス）・コントロール・ユニット＊	5
36	BCM2	20
37	トランスミッション・コントロール・ユニット（スタート・ストップ無し）、トランスミッション・オイル・ポンプ	20
38	シガー・ライター、小物入れのソケット、グローブ・ボックスのソケット	15
39	リヤ・ソケット、ラゲッジ・コンパートメントのソケット	15
40	リヤ・シート・エンターテインメント	10
42	トレーラー・ヒッチ・コントロール・ユニット	5
43	リヤ・ディファレンシャル・ロック・コントロール・ユニット、ハングオン・アクチュエーター	10
44	エア・クオリティ・センサー	5
45	DC/DCコンバーター（スタート/ストップ）	30
46	DC/DCコンバーター（スタート/ストップ）	30
50	フロント・エアコン、リヤ・エアコン・コントロール・パネル	10
51	PCM 3.1＊、ラジオ＊、ナビゲーション・システム（日本仕様）	10
52	マルチファンクション・ディスプレイ	5
53	ステアリング・コラム・スイッチ・モジュール、ステアリング・ヒーター、リバース・カメラ・コントロール・ユニット、Boseアンプ（日本仕様）	10
54	ルーフ・コンソール	7.5
55	アダプティブ・クルーズ・コントロール用スタビリゼーション・リレー（ACC）	7.5

バッテリー（12V）

バッテリーはフロント左シートの下にあります。

▷ バッテリーの脱着は、ポルシェ正規販売店など専門知識があるワークショップのみで実施してください。

⚠ 警告 感電、ショートまたは火災

車両の通電部品に触れると、感電する恐れがあります。

車両の電気系統への作業が原因で、ショートが発生する恐れがあります。回路のショートが原因で火災が発生する恐れがあります。

▷ 電気系統の作業を行うときは、必ずバッテリー・マイナス(–)ケーブルの端子を外してください。

▷ 工具、指輪、ブレスレット、時計バンドなど電気を通す装飾品が車両の電機部品と接触しないように注意してください。

⚠ 警告 爆発性ガスへの引火または爆発

バッテリー充電時には爆発性の高い混合ガスが発生することがあります。

▷ 電気系統の作業をするときは、必ずバッテリー・マイナス(–)ケーブルの端子を外してください。

▷ 静電気を防ぐため、乾いた布でバッテリーを拭かないでください。

▷ バッテリーを取り扱う前に、車体などに触れて静電気を逃がしてください。

▷ バッテリーの近くで喫煙したり、裸火を近づけないでください。ケーブル接触等による火花にも注意してください。

▷ メンテナンス作業は屋外か、または屋内の換気が良い場所のみで実施してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

知識

回路のショート、火災またはオルタネーターおよび電気系統を損傷する恐れがあります。

▷ バッテリーの脱着は、ポルシェ正規販売店など専門知識があるワークショップのみで実施してください。
▷ 電気系統の作業をするときは、必ずバッテリー・マイナス(–)ケーブルの端子を外してください。
▷ 工具、指輪、ブレスレット、時計バンドなど電気を通す装飾品が車両の電機部品と接触しないように注意してください。
▷ 充電用ケーブル/ジャンパー・ケーブルは絶対にバッテリーへ直接接続しないでください。バッテリー・センサーが損傷する恐れがあります。
充電用ケーブル/ジャンパー・ケーブルは、必ずエンジン・コンパートメント内のジャンパー・ケーブル接続用端子に接続してください。

外部電源/ジャンパー・ケーブルによる始動に関するインフォメーション：

▷ 「外部電源、ジャンパー・ケーブルによる始動」（327ページ）を参照してください。

バッテリー取り扱い上の注意

作業の前に取扱説明書をお読みください。

保護眼鏡を必ず着用してください。

お子様を絶対に近づけないでください。

爆発の危険があります。
バッテリー充電中は爆発性の高い電解質のガスが発生します：

火気、火花、裸火を近づけたり、そばで喫煙することは絶対に避けてください。
電気配線や電装品を取り扱うときは、火花を発生させたり、ショートさせたりしないでください。
ガス抜きホースが付いたバッテリーは、ホース出口から高濃度の電解質ガスが放出されます。
ガス抜きホースによじれや詰まりがないようにしてください。

酸による火傷の危険があります。
バッテリー液には極めて強い腐食性があります。
保護手袋と保護眼鏡を必ず着用してください。
ガス抜き穴からバッテリー液が漏れる恐れがあるため、バッテリーを傾けないでください。

応急処置
バッテリー液が目に入った場合、直ちに水で数分間洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

皮膚、衣服にかかった場合、直ちに石鹸水で中和し、大量の水で洗い流してください。
万一バッテリー液を飲み込んでしまった場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

廃棄
古いバッテリーは、適切な廃棄場にて廃棄してください。

古いバッテリーを家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。

充電状態

バッテリーを十分に充電することにより、始動時のトラブルがなくなり、バッテリーの寿命も延びます。
交通渋滞および騒音、排気ガス、燃費に関する要求により、エンジン回転数、つまりオルタネーター出力は抑えられます。
その一方で、電気装備類が驚異的に増え、必要な電力は増加しています。

不意のバッテリー上がりを防ぐため、次の点に注意してください：

▷ 市街地/短距離の運転時、および渋滞時には、不要な電気装備類をOFFにしてください。
▷ 車両から離れるときは必ずキーを抜いてください。またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車ではイグニッションをOFFにしてください。
▷ エンジン停止時には、ポルシェ・コミュニケーション・システムPCMやCDRを使用しないでください。＊
▷ 「バッテリーの充電」(329ページ) を参照してください。

インフォメーション

特に外気温度が低くなる冬季や、短距離での運転が多い車両は、バッテリーを定期的に充電する必要があります。

バッテリーのお手入れ

▷ バッテリー表面は清潔で乾いた状態に保ってください。
▷ バッテリー端子とガス抜きホースは必ず確実に接続してください。

冬季の走行

外気温度が低下すると、バッテリーの電圧供給および蓄電効率が低下します。更に、リヤ・ウィンドウ・ヒーター、ライト類、ヒーター、フロント・ワイパーなどの使用頻度が増えるため、冬季はより大きなバッテリー電力が必要となります。

▷ 冬になる前に、ポルシェ正規販売店でバッテリーの点検を受けてください。

インフォメーション

バッテリーの凍結を防ぐため、常に完全な充電状態を維持してください。

バッテリーが充電不足の場合、–5°C程度の温度でも凍結することがあります。完全に充電されている場合は–40°Cまで凍結しません。

▷ ジャンパー・ケーブルを接続する前に必ず凍結したバッテリーを解凍してください。

車両を保管するとき

車両を使用せず、車庫や修理工場に長期間保管する場合は、ドアやリッド類を確実に閉じてください。

▷ キーを抜き、必要に応じてバッテリーの端子を外してください。ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車では、イグニッションをOFFにしてください。

インフォメーション

▷ バッテリーを切り離している場合、警報装置は作動しません。
バッテリーを切り離す前に車両がロックされていた場合、バッテリーを再接続したときに警報システムが作動します。
警報システムの作動を解除するには：
▷ 1回車両をロックし、再度ロックを解除してください。

警報システム、セントラル・ロッキング

▷ バッテリーの接続を外しても、警報システムやセントラル・ロッキングの作動状態は切り替わりません。

インフォメーション

車両を使用せず、保管している間も、バッテリーは常に放電しています。

▷ 正常に使用可能な状態に保つには、約6週間毎の充電が必要です。
▷ 取り外したバッテリーは、湿気がなく風通しのいい冷暗所に保管し、氷結に注意してください。

バッテリーの交換

バッテリーは年月の経過とともに消耗します：バッテリーの寿命は通常の使用状態に左右され、特に、お手入れ、気候、走行条件（距離、荷物）によって違ってきます。

バッテリー本体に表示された規格/仕様のみでは、そのバッテリーがポルシェ社の要求する基準を満たしているかどうかを判断することができません。

▷ バッテリーの脱着は、ポルシェ正規販売店など専門知識があるワークショップのみで実施してください。
▷ バッテリーを交換するときは、車両に合った性能のバッテリーのみを使用してください。
ポルシェ純正バッテリーを使用することを推奨します。
▷ 新しいバッテリーを取り付けた後は、コントロール・ユニットの初期化が必要です。
ポルシェ正規販売店にご相談ください。この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
▷ バッテリーの廃棄に関する指示を遵守してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

車両の作動復帰

バッテリーを接続した後、または**完全に上がってしまった**バッテリーを充電した場合は、インストルメント・パネルのPSM警告灯が点灯し、マルチファンクション・ディスプレイに故障を示すメッセージが表示されます。

この場合は以下の手順により対処することができます：

1. エンジンを始動してください。
   キーまたはコントロール・ユニット（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車）をイグニッション・ロック位置**2**の位置に**2回**回してください。
2. 車両停止状態でステアリングを左右に少しずつ回し、PSM警告灯が消灯してマルチファンクション・ディスプレイのメッセージが消去されるまで短距離を直線走行させてください。
3. 警告灯および警告メッセージが**消えない**場合：
   最寄りのポルシェ正規販売まで慎重に運転してください。
   ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。
4. 警告灯および警告メッセージが消えた場合：
   安全な場所に停車してください。
5. パワー・ウィンドウの停止位置を保存してください。

パワー・ウィンドウの停止位置の保存に関するインフォメーション：

▷ 「バッテリー接続後のウィンドウ停止位置の保存」（81ページ）を参照してください。

6. タイヤ空気圧モニタリング・システム装備車では、タイヤの情報を保存してください。

タイヤ空気圧モニタリング・システムの登録に関する一般情報：

▷ 「タイヤ空気圧メニュー（タイヤ空気圧モニタリング、TPM）」（118ページ）を参照してください。

7. 電動格納式トレーラー・ヒッチ装備車は、固定位置を保存してください。

トレーラー・ヒッチの固定位置の保存に関するインフォメーション：

▷ 「トレーラー・カップリングの固定位置の保存」（256ページ）を参照してください。

8. スライディング/チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフの停止位置を保存してください。

スライディング/チルティング・ルーフの停止位置の保存に関するインフォメーション：

▷ 「スライディング/チルティング・ルーフの停止位置の保存」（83ページ）を参照してください。

外部電源、ジャンパー・ケーブルによる始動

バッテリーが上がったときは、他の車両のバッテリーを使用してエンジンを始動したり、ジャンパー・ケーブルを使用して外部電源を接続することができます。

両方の車両が12Vバッテリー搭載車でなくてはなりません。供給側のバッテリーの容量(Ah)が、バッテリーが上がった車両のバッテリーの容量に比べて低すぎないよう確認してください。

上がったバッテリーを車両の電気系統に正しく接続する必要があります。

「バッテリー（12V）」（324ページ）を参照してください。

⚠ 警告 ラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、エンジン周りの作動部品

エンジン・コンパートメントでの作業中、手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）、ネックレス、長い髪などがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルトなどの作動部品に巻き込まれないように十分注意してください。

エンジンをOFFにし、キーを抜き取っている状態でも、温度によってはラジエーター・ファンが作動を開始することがあります。

▷ エンジンとラジエーター・ファンの近くで作業するときは十分注意してください。ラジエーターおよびラジエーター・ファンは、車両の前側にあります。

▷ 身体の一部、衣服、アクセサリーなどがラジエーター・ファン、ドライブ・ベルト、その他の作動部品に巻き込まれないように、十分注意してください。

▷ エンジン・コンパートメント内の作動部に絡まないようにジャンパー・ケーブルを通してください。

⚠ 警告 電気系統またはジャンパー・ケーブルのショートおよび火災

不適切なジャンパー・ケーブルを使用したり、ジャンパー・ケーブルによる始動を適切に行わなかった場合は、回路がショートする恐れがあります。ショートが原因で火災が発生する恐れがあります。

▷ ジャンパー・ケーブルはエンジン始動に適した製品を使用し、バッテリー容量に対して十分な断面積があることを確認してください。また、端子接続部のクリップが完全に絶縁体で覆われているものを使用してください。ジャンパー・ケーブルのメーカーが定めた取り扱い方法を遵守してください。

▷ 車両同士を接触させないでください。電流が流れ、ショートする危険性があります。

▷ 工具、指輪、ブレスレット、時計バンドなど電気を通す装飾品が車両の電機部品と接触しないように注意してください。

⚠ 警告 腐食性の酸

バッテリーには腐食性のあるバッテリー液が入っています。

▷ バッテリーを傾けないでください。

⚠ 警告 爆発性ガスへの引火または爆発

ジャンパー・ケーブルによるエンジンの始動中に、バッテリー内で爆発性の高い電解質のガスが発生します。

▷ 火気、火花、裸火を近づけたり、そばで喫煙することは絶対に避けてください。また ケーブルを接続した瞬間の火花にも注意してください。

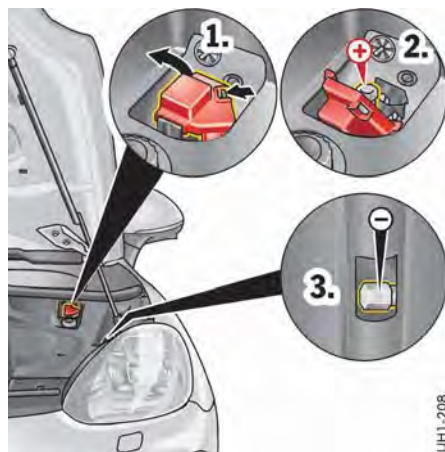
知識

ショートによる損傷の恐れがあります。

▷ ジャンパー・ケーブルを接続する前に必ず凍結したバッテリーを解凍してください。

外部電源/ジャンパー・ケーブルによる始動

必ず下記の手順にしたがってください：

1. ジャンパー・ケーブル接続用のプラス(+)端子カバーを開いてください。
2. ジャンパー・ケーブル接続用のプラス(+)端子にプラス（赤）ケーブルを接続してください。次に、支援車のバッテリー・プラス(+)端子に接続してください。
3. 支援車のバッテリー・マイナス(–)端子にマイナス（黒）ケーブルを接続してください。次に、ジャンパー・ケーブル接続用のマイナス(–)端子に接続してください。

+ = ジャンパー・ケーブル接続用のプラス端子
– = ジャンパー・ケーブル接続用のマイナス端子

4. 支援車のエンジンを始動し、回転数を上げてください。
5. エンジンを始動してください。
   ジャンパー・ケーブルを使用してエンジンを始動するときは、スターターを15秒以上作動させないでください。始動に失敗したときは、1分以上待ってから再試行してください。
6. エンジン始動後、ジャンパー・ケーブル接続用のマイナス(–)端子からケーブルを外してください。次に、支援車のバッテリー・マイナス(–)端子からケーブルを外してください。
7. 支援車のバッテリー・プラス(+)端子からケーブルを外してください。次に、ジャンパー・ケーブル接続用のプラス(+)端子からケーブルを外してください。
8. ジャンパー・ケーブル接続用のプラス(+)端子カバーを閉じてください。

バッテリーの充電

この車両に適したバッテリー充電器については、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

▷ バッテリー充電器メーカーの取扱説明書にしたがってください。
▷ バッテリーが凍結している場合は、充電する前に解凍してください。
▷ 十分に換気ができる場所でバッテリーを充電してください。

1. バッテリー充電器のケーブルを、ジャンパー・ケーブル接続用の端子に接続してください。
   ケーブルを確実に接続してから、バッテリー充電器の電源プラグを差し込み、充電器の電源をONにしてください。
2. 充電器の電源をONにしてください。
3. バッテリーの充電が完了したら、充電器の電源をOFFにしてから、ケーブルを外してください。
4. 「車両の作動復帰」(327ページ)を参照してください。

バルブの交換

バルブ・リスト

適用	形状	ワット数
スタティック・コーナリング・ライト（PDLS付きバイキセノン・ヘッドライト）	H7	55W
補助ハイ・ビーム（バイキセノン・ヘッドライト/PDLS付きバイキセノン・ヘッドライト）	H7	55W

バルブ交換に関するインフォメーション：

▷ 「スタティック・コーナリング・ライトのバルブ交換(H7)」（332ページ）を参照してください。
▷ 「補助ハイ・ビーム・ヘッドライトのバルブ交換(H7)」（333ページ）を参照してください。

発光ダイオード(LED)とロングライフ・バルブの交換

LEDヘッドライトおよびその他のライトには、ロングライフ・バルブと発光ダイオード(LED)が使用されています。LEDは個別に交換できません。

バイキセノン・ヘッドライトのガス・ディスチャージ・バルブの交換には専門知識が必要です。

▷ これらのバルブの交換はポルシェ正規販売店にお任せください。
   この作業はポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ 警告 バイキセノン・ヘッドライトの構成部品による感電

ヘッドライトには高電圧が作用するため、感電する恐れがあります。

▷ ヘッドライト周辺の作業を行うときは、感電しないように十分注意してください。
▷ バルブ交換の前に、ライトをOFFにし、イグニッションをOFFにしてください。

知識

不適切な容量（ワット数）のバルブを取り付けると、損傷する恐れがあります。

高出力（ハイ・ワット）バルブを使用すると、ライト・ハウジングが損傷する恐れがあります。

▷ 必ず取扱説明書に記載されているバルブを使用してください。

知識

ショートによる損傷の恐れがあります。

▷ バルブを交換するときは、必ず電装関係のスイッチをOFFにしてください。

インフォメーション

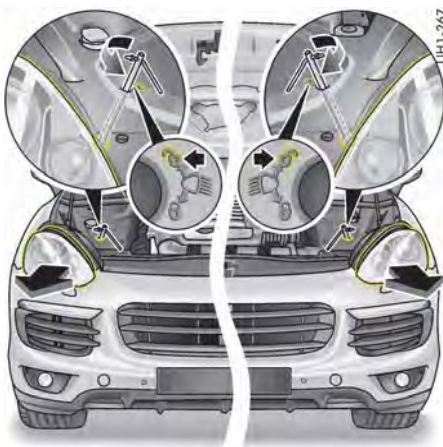
▷ バルブに汚れやグリースを付着させないでください。
▷ バルブを素手で触れないでください。
   バルブ交換時は、きれいな布または柔らかい紙でバルブを包んでください。
▷ 国によってはスペア・バルブの携行が義務付けられています。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

ヘッドライト

知識

摩擦や過熱によりヘッドライトが損傷する恐れがあります。
▷ ヘッドライトにカバー（フィルムやストーン・ガードなど）を装着しないでください。

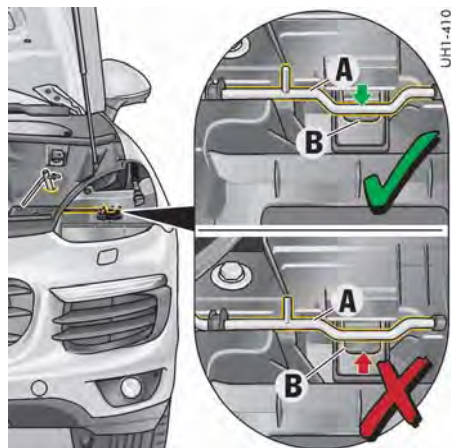
 インフォメーション

気温と湿度により、ヘッドライトが曇ることがあります。十分な距離を走行すると、この曇りは取れます。
▷ 通気を確保するため、ヘッドライトとボディの隙間にカバーをしないでください。

ヘッドライトの取り外し

1. イグニッションをOFFにしてキーを抜き取ってください。ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車はコントロール・ユニットを取り外してください。

イグニッション・ロックからのコントロール・ユニットの取り外しに関するインフォメーション：
▷ 「緊急操作 – キー /コントロール・ユニットのロック解除」（162ページ）を参照してください。

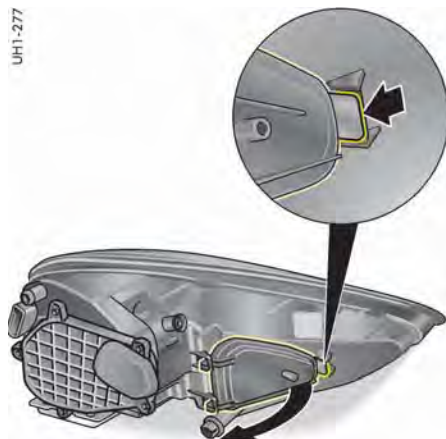
2. エンジン・コンパートメント・リッドを開いてください。
3. 工具セットからソケット・レンチを取り出してください。
4. ソケット・レンチをヘッドライト・ヘッドライト・ロッキング機構にセットし、ヘッドライトが外れる音と感触があるまで、（車両の前進方向に対して）左側のヘッドライトは時計回りに/右側のヘッドライトは反時計回りに回してください。続けてヘッドライトがフェンダーから押し出されるまで回してください。

5. ヘッドライトをフェンダーから約10cm前方に引き出してください。
6. コネクターのリリース・タブを押してコネクターを引き抜いてください。
7. ヘッドライトを完全に取り外してください。

ヘッドライトの取り付け

インフォメーション

ヘッドライトを取り付ける場合、スプリング**B**が完全に押し下げられた状態で、ロッキング・ロッド**A**が保持されている必要があります。
スプリング**B**が完全に押し下げられておらず、ロッキング・ロッド**A**保持されていない場合：

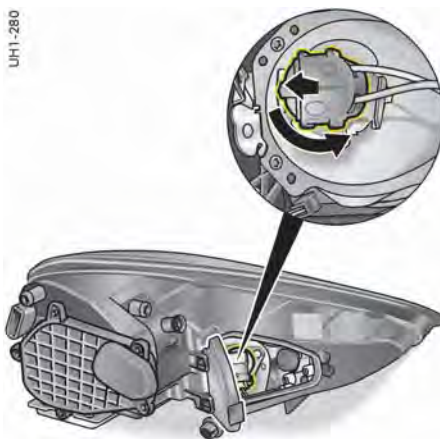
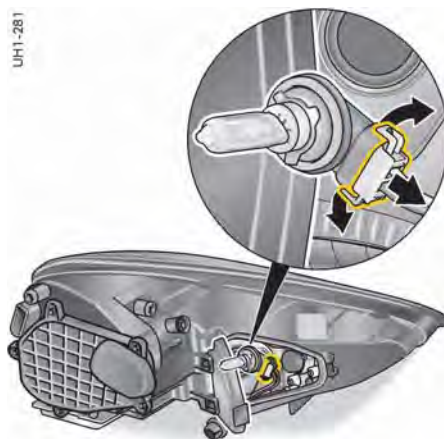
▷ 必要な場合、ソケット・レンチを（車両の前進方向に対して）左側のヘッドライトは時計回りに/右側のヘッドライトは反時計回りに回して保持させてください。

1. ヘッドライトをフェンダーに差し込み、コネクターを接続した後、フェンダー内に完全に押し込んでください。
2. ヘッドライトを後方へ押しながら、ソケット・レンチを（車両の前進方向に対して）左側のヘッドライトでは反時計回りに/右側のヘッドライトでは時計回りに止まるまで回し、ヘッドライトをロックしてください。
ヘッドライト・ロック機構が噛み合う音と感触を感じ取ることができます。
3. ヘッドライトが確実に取り付けられていることを確認してください。
4. ソケット・レンチを取り外し、工具セットに収納してください。
5. エンジン・コンパートメント・リッドを閉じてください。

スタティック・コーナリング・ライトのバルブ交換(H7)

1. ヘッドライトを取り外してください。

ヘッドライトの取り外しに関するインフォメーション：

▷ 「ヘッドライトの取り外し」(330ページ) を参照してください。

2. リリース・タブを押して、カバーを開いてください。

3. バルブ・ソケットを反時計方向に回して取り外してください。

4. 不具合のあるバルブを交換してください。

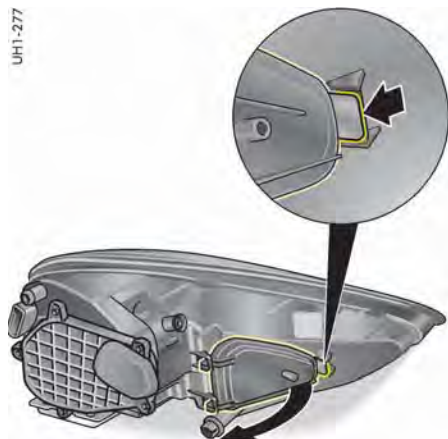
5. バルブ・ソケットを差し込み、時計方向に回してください。
バルブが正しい位置にセットされたことを確認してください。

6. ヘッドライトのカバーを閉じてください。
カバーのリリース・タブを確実にかみ合わせてください。

7. ヘッドライトを取り付けてください。

ヘッドライトの取り付けに関するインフォメーション：

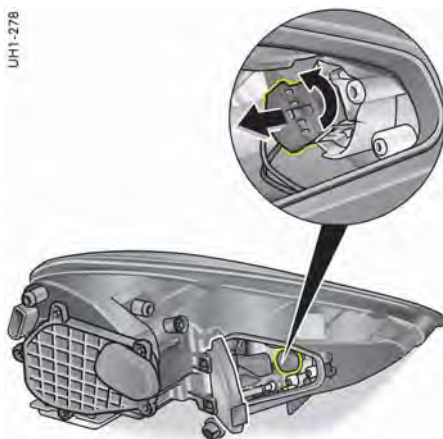
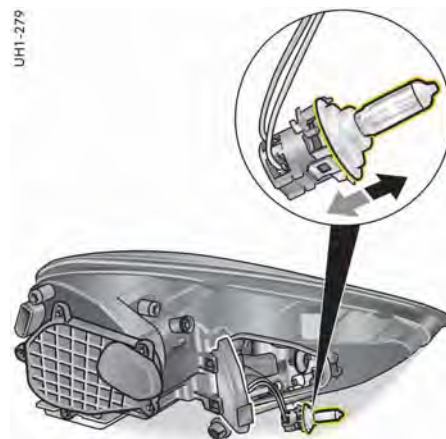
▷ 「ヘッドライトの取り付け」(331ページ) を参照してください。

8. ライトの作動を確認してください。

補助ハイ・ビーム・ヘッドライトのバルブ交換(H7)

1. ヘッドライトを取り外してください。

ヘッドライトの取り外しに関するインフォメーション：

▷ 「ヘッドライトの取り外し」(330ページ) を参照してください。

2. リリース・タブを押して、カバーを開いてください。

3. バルブ・ソケットを反時計方向に回して取り外してください。

4. 不具合のあるバルブを取り外して交換してください。

5. バルブ・ソケットを差し込み、時計方向に回してください。
バルブが正しい位置にセットされたことを確認してください。

6. ヘッドライトのカバーを閉じてください。
カバーのリリース・タブを確実にかみ合わせてください。

7. ヘッドライトを取り付けてください。

ヘッドライトの取り付けに関するインフォメーション：

▷ 「ヘッドライトの取り付け」(331ページ) を参照してください。

8. ライトの作動を確認してください。

ヘッドライトの調整

ヘッドライトの調整は、専用の調整装置がある整備工場のみで実施可能です。
調整時は車両を走行中と同じ状態にし、燃料タンクを満タンにして行ってください。

左側通行から右側通行への変更に伴うヘッドライトの切り替え

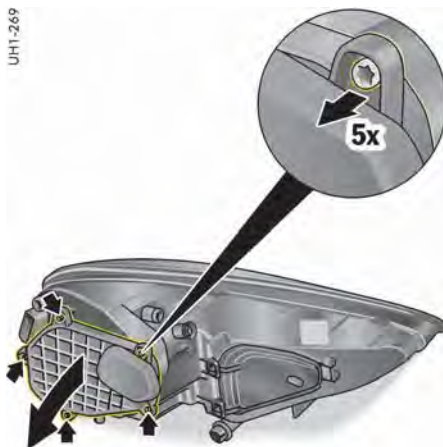
車両通行帯（右側通行または左側通行）が異なる国で走行するときは、ヘッドライトの照射方向を切り替える必要があります。これによりロー・ビームの照射方向が左右対称に切り替わり、対向車のドライバーの幻惑を防ぐことができます。

インフォメーション

ダイナミック・コーナリング・ライト装備車のヘッドライトは、マルチファンクション・ディスプレイで切り替えます。

▷ 「右側/左側通行でヘッドライトを切り替える（ポルシェ・ダイナミック・ライト・システム）」(134ページ)を参照してください。

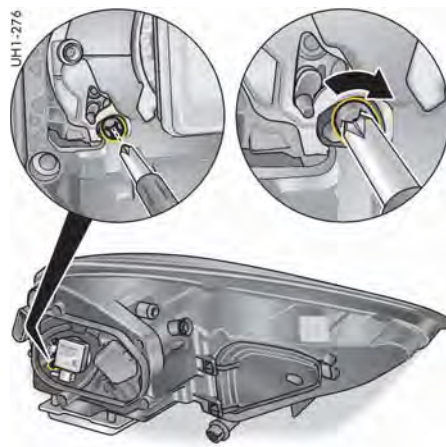
イグニッションをONにして、ロー・ビーム・ヘッドライトを点灯するたびに、マルチファンクション・ディスプレイに「**LHD/RHDヘッドライト テキオウ**」のメッセージが表示されます。

ヘッドライトの照射方向を切り替えたときは、元に戻すことを忘れないでください。

ヘッドライトの照射方向の切り替え（ダイナミック・コーナリング・ライト非装備車）

1. ヘッドライトを取り外してください。

ヘッドライトの取り外しに関するインフォメーション：

▷ 「ヘッドライトの取り外し」(330ページ)を参照してください。

2. ヘッドライト・ユニット裏側カバーの両方のリリース・タブを押して、カバーを取り外してください。

3. スピンドルをプラス・ドライバーで時計回りにいっぱいまで回してください。
4. ヘッドライトのカバーを取り付けてください。両方のリリース・タブがしっかりと噛み合っていなければなりません。
5. ヘッドライトを取り付けてください。

ヘッドライトの取り付けに関するインフォメーション：

▷ 「ヘッドライトの取り付け」(331ページ)を参照してください。

6. もう一方のヘッドライトも同様に切り替えてください。

けん引およびけん引によるエンジンの始動

インフォメーション

▷ けん引およびけん引によるエンジンの始動を行うときは、法規等を遵守してください。
▷ 車両をけん引するときは十分注意してください。
発進する前に、けん引する車両とけん引される車両のドライバーが、けん引によるエンジンの始動とけん引についての通常とは異なる運転特性を確実に理解しておくことが大切です。
▷ 電気系統の不具合が発生している場合、エレクトリック・パーキング・ブレーキやステアリング・コラム・ロックを解除するために外部電源の接続が必要なことがあります。

けん引ロープ

▷ けん引ロープの規格と取り扱い方法は、製品メーカーの取扱説明書を参照してください。製品メーカーが指示する注意事項と取り扱い方法に従ってください。
▷ けん引ロープの定格荷重を遵守してください。けん引ロープの許容荷重が、けん引される車両の重量よりも大きいことを確認してください。製品メーカーが指定する定格荷重を超えてはなりません。
▷ けん引ロープでけん引するときは、けん引フックにけん引ロープを取り付ける前に、けん引フックを車両に取り付けてください。
けん引フックの取り付け/取り外しに関するインフォメーション：
「けん引フック」（336ページ）を参照してください。
▷ ブレーキが故障した車両をけん引しないでください。
▷ けん引による走行中は、ロープがたるまないように注意し、ロープに急な衝撃を与えないでください。

けん引バー

▷ けん引バーの規格と取り扱い方法は、製品メーカーの取扱説明書を参照してください。製品メーカーが指示する注意事項と取り扱い方法に従ってください。
▷ けん引バーの定格荷重を遵守してください。けん引バーの許容荷重が、けん引される車両の重量よりも大きいことを確認してください。製品メーカーが指定する定格荷重を超えてはなりません。
▷ けん引バーを斜め方向に**取り付けない**でください。
▷ ブレーキが故障した車両を**けん引しない**でください。

けん引または押しがけによる始動

バッテリーに不具合があるとき、あるいはバッテリーが完全に上がってしまった場合には、バッテリーを交換するかジャンパー・ケーブルを使用してエンジンを始動させてください。
▷ 「バッテリー（12V）」（324ページ）を参照してください。
▷ 「外部電源、ジャンパー・ケーブルによる始動」（327ページ）を参照してください。
▷ この車両では、トランスミッションの重大な損傷を避けるため、けん引または押しがけによるエンジンの始動ができません。

けん引

車両をけん引する場合、この車両より車両重量の大きい車両はけん引しないでください。

⚠ 警告 パワー・アシスト機能が作動しないことによる操舵力とブレーキ踏力の増加

けん引される車両のエンジンがかかっていない場合、倍力装置が働きません。ブレーキやハンドル操作に大きな力が必要となります。
▷ このような車両をけん引するときは十分注意してください。

エンジンがかかっていない場合、トランスミッション・オイルが循環しません。トランスミッションの損傷を回避するため、次の点に注意してください：

4輪が接地した状態でのけん引

▷ ティプトロニックSセレクター・レバーを**N**の位置にしてください。
電気系統に故障がある場合は、ティプトロニックSセレクター・レバーを操作することはできません。ティプトロニックSセレクター・レバーが**P**の位置でロックされている場合、手動で解除することができます：
「セレクター・レバーの緊急操作」(202ページ)を参照してください。

▷ けん引中は、4輪すべてが常に接地していなければなりません。
また、けん引中にブレーキ・ライトと方向指示灯が作動し、ステアリング・ロックがかからないようにするため、イグニッションをONにしておかなければなりません。

▷ けん引されるときの速度は50km/h以下にしてください。
けん引距離は50km以内にしてください。
50kmを超える場合は、車両輸送専用車またはトレーラーを使用してください。

片側のアクスルを持ち上げた状態でのけん引

▷ けん引されるとき、または車両輸送専用車で輸送されるときは、4輪すべてが接地していなければなりません。
フロント、リヤいずれかのアクスルを上げてのけん引は原則として認められません。
このようなけん引方法が避けられない場合は、回転させるアクスルのドライブ・シャフト（カルダン・シャフト）を取り外してけん引してください。

▷ ティプトロニックSセレクター・レバーを**N**の位置にしてください。電気系統に故障がある場合は、ティプトロニックSセレクター・レバーを操作することはできません。ティプトロニックSセレクター・レバーが**P**の位置でロックされている場合、手動で解除することができます：
「セレクター・レバーの緊急操作」(202ページ）を参照してください。

▷ イグニッションをOFFにしてください。
キーをイグニッション・ロックに残して、ステアリングがロックしないようにしてください。
ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車では、コントロール・ユニットをイグニッション・ロックから取り外して、キーを挿入してください。
「緊急操作 – キー/コントロール・ユニットのロック解除」（162ページ）を参照してください。

▷ けん引される車両が周囲から目立つようにしてけん引してください。

▷ けん引されるときの速度は50km/h以下にしてください。
けん引距離は50km以内にしてください。
50kmを超える場合は、車両輸送専用車またはトレーラーを使用してください。

雪や砂などで立ち往生した車両の救援

▷ 立ち往生した車両を救出するときは十分に注意してください。

▷ 車両を急に引っ張ったり、角度を付けて斜め方向に引かないでください。

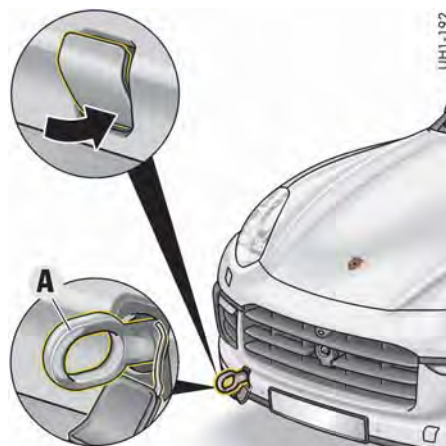
▷ 可能な限り、立ち往生した車両を進入したタイヤの軌跡に沿って、元の方向に引き出してください。

▷ トレーラー車両を連結した状態でけん引しないでください。

けん引フック

けん引フックはラゲッジ・コンパートメント・フロア下の工具セットの中に収納されています。

けん引フックの取り付け

1. プラスチック・カバーの下端をバンパー内に押し込んで、カバーを外してください。
2. カバーをバンパーから引き出し、カバーに付いているひもで吊り下げられた状態にしてください。
3. けん引フック**A**をいっぱいにねじ込み（逆ねじ）、手で締め付けてください。

けん引フックの取り外し

1. けん引フック**A**を外してください。
2. 開口部の下端にプラスチック・カバーを差し込んでください
3. カバーをかぶせ、上端を押してバンパーにはめ込んでください。

鉄道、船舶、積載車での輸送

▷ ロープ等で車両を固定するときは、ホイールのみで固定してください。
▷ 室内モニタリング・システムと傾斜センサー＊を解除してください。
▷ 「警報システム」（267ページ）を参照してください。

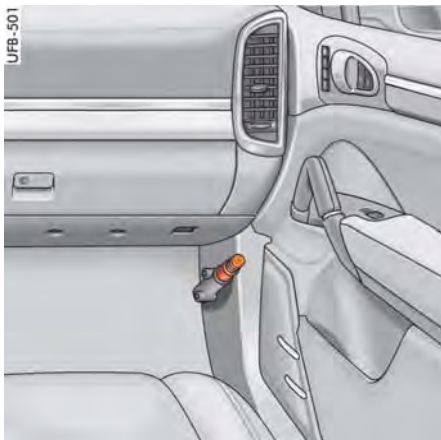
消火器＊

消火器を装備している車両では、助手席側フロント・シートの前部に消火器が取り付けられています。

▷ 緊急時に消火器を取り外す場合、片手で消火器を押さえて、消火器ホルダーの**PRESS**ボタン（**矢印**）をもう片方の手で押してください。

インフォメーション

▷ 消火器の最終点検日を確認してください。定期点検の期間を過ぎた消火器は正しく作動しないことがあります。
▷ 必ず消火器の取扱説明書の指示にしたがってください。
▷ 消火器のハンドルに貼付されている消火器メーカーの安全に関する指示にしたがってください。
▷ 消火器は1～2年ごとにポルシェ正規販売店で点検を行ってください。
▷ 消火器を使用した後は、消火剤を再充填してください。

＊ 日本仕様に設定はありません。

発炎筒

発炎筒は、事故や故障で路上に停車したとき、周囲に危険を知らせるために使用します。

発炎筒は、助手席足元前部のドア側に固定してあります。

⚠ 警告 火傷や火災につながる恐れがあります

▷ 燃料などの可燃物の近くでは使用しないでください。引火する恐れがあります。

▷ 発炎筒を使用するときは、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。火傷をする恐れがあります。

▷ お子様がさわらないように注意してください。誤って使用すると火傷をしたり、車両を損傷する恐れがあります。

⚠ 注意 トンネルの中などで使用すると、事故につながる恐れがあります

▷ トンネルの中など換気が悪い場所で使用すると、発炎筒の煙で視界が遮られて事故につながる恐れがあります。必要に応じてハザード・ライトを使用してください。

発炎筒の使い方

1. キャップを外してください。本体をひねりながら、ケースから取り出してください。
2. 本体を逆に向けて、ケースに差し込んでください。
3. 本体の点火部を、キャップの擦り薬でこすると着火します。

知識

▷ 発炎筒の燃焼時間は約5分間です。

発炎筒には有効期限があります。表示してある有効期限が切れる前に、新しい発炎筒に交換してください。ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

タイヤ空気圧とテクニカル・データ

車両の識別データ

スペア・パーツの注文や問い合わせをする場合は、必ず車台番号を明示してください。

データ・バンク

車両の大切な情報が記載されているデータ・バンクは、整備手帳の中に添付されています。

 インフォメーション

データ・バンクは紛失したり、破損したりしても再注文することはできません。

車台番号(VIN)

車台番号はフロント・ウィンドウ枠の左下と助手席足元のカーペットのカバー下にあります。

タイヤ空気圧プレート

プレート**A**は左側ドア・シル（ドア開口部）に貼られています。

ビークル・プレート＊

ビークル・プレート**B**は右側ドア・シル（ドア開口部）に貼られています。

＊ 日本仕様に設定はありません。

エンジン・データ（メーカー発表値）

	Cayenne Turbo	Cayenne S	Cayenne S ディーゼル＊	Cayenne ディーゼル＊
形状	8気筒 V型エンジン	6気筒 V型エンジン	8気筒 V型エンジン	6気筒 V型エンジン
シリンダー数	8	6	8	6
総排気量	4,806 cm^3	3,604 cm^3	4,134 cm^3	2,967 cm^3
最高出力(80/1269/EEC)	382 kW (520 hp)	309 kW (420 hp)	283 kW (385 hp)	193 kW (262 hp) 155 kW (211 hp)[1)] 184 kW (250 hp)[2)] 180 kW (245 hp)[3)]
エンジン回転数	6,000 rpm	6,000 rpm	3,750 rpm	4,000 rpm 2,750 – 5,000 rpm[1)] 3,500 – 4,500 rpm[2)] 3,800 – 4,400 rpm[3)]
最大トルク(80/1269/EEC)	750 Nm	550 Nm	850 Nm	580 Nm 550 Nm[3)]
エンジン回転数	2,250 – 4,000 rpm	1,350 – 4,500 rpm	2,000 – 2,750 rpm	1,750 – 2,500 rpm 1,750 – 2,750 rpm[3)]
エンジン・オイル消費量	最大0.8ℓ/1,000 km	最大0.8ℓ/1,000 km	最大0.3ℓ/1,000 km	最大0.3ℓ/1,000 km
エンジン最高許容回転数	6,700 rpm	6,700 rpm	5,300 rpm	5,300 rpm

1) ベルギー、ノルウェー
2) イタリア
3) Euro 5 / Euro 4 / Euro 3

＊ 日本仕様に設定はありません。

燃費と排出ガス（メーカー発表値）

Euro 5およびEuro 6に基づく測定法：このデータはNEDC(New European Driving Cycle)のEuro5および6 EU規制No.195/2013に基づく測定方法に則って標準仕様車で測定したものです。このデータは、すべての仕様の車両に合致するものではありません。また、メーカーがそれを保証するものでもありません。これらのデータは各仕様別のモデル比較のために利用できますが、詳細についてはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。
Euro 3およびEuro 4に基づく測定法：ECE-R.83およびECE-R.101の基準に則って測定したデータです。

	市街地走行 (ℓ/100 km)	ハイウェイ走行 (ℓ/100 km)	複合 (ℓ/100 km)	総CO_2 (g/km)
	Euro 6のオート・スタート/ストップ機能装備車の燃費			
Cayenne Turbo	15.5 – 15.9	8.7 – 8.9	11.2 – 11.5	261 – 267
Cayenne S	12.4 – 13.0	7.8 – 8.0	9.5 – 9.8	223 – 229
Cayenne ディーゼル＊	7.6 – 7.8	6.0 – 6.2	6.6 – 6.8	173 – 179
	Euro 5のオート・スタート/ストップ機能装備車の燃費			
Cayenne Turbo	15.9	8.9	11.5	267
Cayenne S	12.4	7.8	9.5	223
Cayenne S ディーゼル＊	10.0	7.0	8.0	209
Cayenne ディーゼル＊	8.4	6.5	7.2	189
	Euro 4のオート・スタート/ストップ機能装備車の燃費			
Cayenne Turbo	15.9	8.9	11.5	267
Cayenne S	12.4	7.8	9.5	223
	Euro 4のオート・スタート/ストップ機能非装備車の燃費			
Cayenne S ディーゼル＊	11.7	7.3	8.9	234
	Euro 4およびEuro 3のオート・スタート/ストップ機能非装備車の燃費			
Cayenne ディーゼル＊	9.8	6.4	7.7	201

＊ 日本仕様に設定はありません。

タイヤ、ホイール

▷ 指定のタイヤとホイールのサイズは広範囲のテストを元に認可されているものです。ポルシェ社が承認したタイヤを装着することで、この車両に最適な走行性能が得られます。タイヤは積載容量係数（「109」など）と最大速度記号文字（「V」など）以上の性能のものを使用してください。新しいタイヤを装着するときやタイヤ交換時は：「タイヤとホイール」（302ページ）を参照してください。
▷ スノー・チェーンのクリアランスは、[1)]のマークがついたタイヤ/ホイールを組み合わせた場合にのみ保証されます。19/20インチ・タイヤを使用している場合は、リヤ・ホイールにのみチェーンを装着できます。18インチ・ホイール装着車の場合、4輪全てに装着可能なチェーンであれば、フロント・アクスルにもチェーンを装着することができます。スノー・チェーンを装着したときの最高速度については各国の法規に従ってください。ポルシェ社の認可したファインリンク・クロスタイプ・チェーンまたはエッジ・チェーンのみをご使用ください。
▷ [2)]ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ(PCCB)との併用はできません。
▷ [3)] 5mmスペーサーは、フロント・アクスル/リヤ・アクスルに装着可能です。
▷ [4)]ホイール・アーチ・エクステンション装備車のみ、5mmスペーサーをフロント・アクスル/リヤ・アクスルに装着することができます。
▷ [5)]17mmスペーサーはリヤ・アクスルに装着することができます(ホイール・アーチ・エクステンション装備車のみ)。
▷ [6)]ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ(PCCB)装備車は、車両の仕様とホイール・タイプに応じて装着することができます。
▷ 異なるタイヤ/ホイールを装着する前に、EU規格に適合しているか確認してください。必要であればタイヤ/ホイールの組み合わせがこの車両に適合するか参照してください。
▷ タイヤ、ホイール、スノー・チェーンに関する最新の認可情報については、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

	Cayenne Turbo	**Cayenne S、Cayenne S ディーゼル＊、Cayenne ディーゼル＊**
18インチ・ホイール	–	8J x 18、RO 53[2),3),5)]
サマー・タイヤ	–	255/55 R 18 109Y XL
オール・シーズン・タイヤおよびウインター・タイヤ	–	255/55 R 18 109V XL M+S[1)]
19インチ・ホイール	8.5J x 19、RO 59[2),3),5)]	8.5J x 19、RO 59[3),5)]
サマー・タイヤ	265/50 R 19 110Y XL	265/50 R 19 110Y XL
オール・シーズン・タイヤおよびウインター・タイヤ	265/50 R 19 110V XL M+S[1)]	265/50 R 19 110V XL M+S[1)]
20インチ・ホイール	9J x 20、RO 57[3),5),6)]/ 9.5J x 20、RO 47[4)]	
サマー・タイヤ	275/45 R 20 110Y XL / 275/45 R 20 110Y XL	
オール・シーズン・タイヤおよびウインター・タイヤ	275/45 R 20 110V XL M+S[1)] / 275/45 R 20 110V XL M+S	
21インチ・ホイール	10J x 21、RO 50 [4)]	
サマー・タイヤ	295/35 R 21 107Y XL	
スペア・ホイール	6.5B x 19、RO 28[2)] / 6.5B x 20、RO 28	6.5B x 18、RO 28[2)] / 6.5B x 19、RO 28
コラプシブル・スペア・ホイール	195/65 – 19 106P / 195/55 – 20 102P	195/75 – 18 106P / 195/65 – 19 106P

＊ 日本仕様に設定はありません。

冷間時のタイヤ空気圧(20°C)

これらのタイヤ空気圧はポルシェ社が認可したメーカーおよび仕様のタイヤのみに適用されます。

積載荷重

部分積載時 = 積載重量<260 kg(575 lbs)
全積載時 = 積載重量>260 kg(575 lbs)

冷間時の標準タイヤ空気圧(20°C)

	Cayenne Turbo				Cayenne S、Cayenne S ディーゼル＊、Cayenne ディーゼル＊			
	部分積載時		全積載時		部分積載時		全積載時	
	FA	RA	FA	RA	FA	RA	FA	RA
サマー・タイヤ 255/55 R 18 109Y XL	–	–	–	–	2.5 bar (36 psi)	2.8 bar (41 psi)	2.6 bar (38 psi)	3.0 bar (44 psi)
240km/hまでに適応するオール・シーズン・タイヤおよびウインター・タイヤ 255/55 R 18 109V XL M+S	–	–	–	–	2.5 bar (36 psi)	2.8 bar (41 psi)	2.6 bar (38 psi)	3.0 bar (44 psi)
サマー・タイヤ 265/50 R 19 110Y XL 275/45 R 20 110Y XL	2.5 bar (36 psi)	2.7 bar (39 psi)	2.6 bar (38 psi)	3.0 bar (44 psi)	2.4 bar (35 psi)	2.6 bar (38 psi)	2.6 bar (38 psi)	3.0 bar (44 psi)
240km/hまでに適応するオール・シーズン・タイヤおよびウインター・タイヤ 265/50 R 19 110V XL M+S 275/45 R 20 110V XL M+S	2.4 bar (35 psi)	2.6 bar (38 psi)	2.6 bar (38 psi)	3.0 bar (44 psi)	2.4 bar (35 psi)	2.6 bar (38 psi)	2.6 bar (38 psi)	3.0 bar (44 psi)
サマー・タイヤ 295/35 R 21 107Y XL	2.5 bar (36 psi)	2.7 bar (39 psi)	2.6 bar (38 psi)	3.0 bar (44 psi)	2.4 bar (35 psi)	2.6 bar (38 psi)	2.6 bar (38 psi)	3.0 bar (44 psi)
80km/hの速度までに適応するスペア・ホイール 195/75-18 106P、195/65-19 106P、 195/55-20 102P	3.5 bar (51 psi)							

▷ 車両の積載荷重はマルチファンクション・ディスプレイで設定してください。車両重量によりタイヤ空気圧を変更してください。
「TPMメニューの負荷を選択する」（121ページ）を参照してください。

FA = フロント・アクスル、RA = リヤ・アクスル

＊ 日本仕様に設定はありません。

重量（メーカー発表値）

Cayenne Turbo、Cayenne S、Cayenne S ディーゼル＊、Cayenne ディーゼル＊

	Cayenne Turbo	Cayenne S	Cayenne S ディーゼル＊	Cayenne ディーゼル＊
空車重量 （装備仕様により異なります）				
DIN 70020規格	2,185-2,480 kg	2,085-2,445 kg	2,215-2,540 kg	2,110-2,455 kg
70/156/EEC規格[1]	2,260-2,555 kg	2,160-2,520 kg	2,290-2,615 kg	2,185-2,530 kg
最大軸荷重、フロント[2]	1,400 kg	1,360 kg	1,440 kg	1,380 kg
最大軸荷重、リヤ[2]	1,540 kg	1,550 kg	1,550 kg	1,550 kg
総重量[2]	2,895 kg	2,860 kg	2,955 kg	2,870 kg
速度100km/hまでのトレーラーけん引時 – EU				
総重量	2,995 kg	2,960 kg	3,055 kg	2,970 kg
最大軸荷重、フロント・アクスル	1,400 kg	1,360 kg	1,440 kg	1,380 kg
最大軸荷重、リヤ・アクスル	1,680 kg	1,690 kg	1,690 kg	1,690 kg
ルーフ積載荷重				
最大ルーフ積載荷重[3]	100 kg	100 kg	100 kg	100 kg
トレーラー荷重/車両+トレーラー重量				
最大けん引重量（ブレーキ装備車）[4]	3,500 kg	3,500 kg	3,500 kg	3,500 kg
最大けん引重量（ブレーキ非装備車）[4]	750 kg	750 kg	750 kg	750 kg
最大車両重量+トレーラー重量	6,395 kg	6,360 kg	6,455 kg	6,370 kg
最大垂直連結荷重	140 kg	140 kg	140 kg	140 kg

[1] 車両重量には運転者1名+荷物分(75kg)の重量が含まれています。
[2] 最大総重量および最大軸荷重を超えないようにしてください。
知識：追加アクセサリーなどが装備されている場合は、それに応じて積載重量が減少します。
[3] Porsche Tequipmentまたはポルシェ社がテストを実施し、承認したルーフ・トランスポート・システムのみを使用してください。
[4] 坂道の勾配率が12%以下のとき

＊ 日本仕様に設定はありません。

充填容量

ポルシェ社が承認したフルード、燃料のみを使用してください。詳しくは、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

	Cayenne Turbo	Cayenne S	Cayenne S ディーゼル＊	Cayenne ディーゼル＊
オイル・フィルターを含むエンジン・オイルの交換量（最大）	約9.5リットル	約8.5リットル	約9.0リットル	約7.7リットル
燃料タンク	約100リットル（予備用の約15リットルを含む）	約85リットル（予備用の約15リットルを含む）（オプション：約100リットル＊）	約85リットル（予備用の約13リットルを含む）（オプション：約100リットル）	
燃料品質	この車両のエンジンは、**EN228に基づき、オクタン価が98RON/88MON(Hybrid：95RON/85MON)の金属系添加物を含まない無鉛プレミアム･ガソリン(Hybrid：無鉛プレミアム・ガソリン)**を使用したときに、最高の性能と燃費を達成するように設計されています。 この車両のエンジンはエタノール含有量10％以下の燃料の使用に対応しています。エタノール含有燃料を使用すると燃費が悪化することがあります。 オクタン価が**95RON/85MON以上(Hybrid：95RON/85MON未満）の無鉛ガソリン**を使用すると、エンジンのノック・コントロールが自動的に点火時期を調整します。 オクタン価が95RON/85MON未満の金属系添加物を含まない無鉛ガソリンを使用すると、エンジン出力が低下し、燃費が悪化することがあります。 ▷ このような燃料を使用した場合、アクセル・ペダルを全開にしないでください。		ディーゼル燃料はヨーロッパ規格EN 590に準拠している必要があります。 セタン価が51以上の物を使用してください。セタン価はディーゼル燃料の燃焼品質を示す値です。	
AdBlue®タンク	–	–	–	約20リットル[1]
フロント・ウィンドウ/ヘッドライト・ウォッシャー・システム	約4.5リットルまたは7.5リットル（ヘッドライト・ウォッシャー・システム装備車）			

[1] 国によって異なります

＊ 日本仕様に設定はありません。

動力性能（メーカー発表値）

DIN規格の空車重量で測定しています。なお動力性能を損なう付加装置（特殊タイヤなど）は使用していません。

	最高速度	0～100km/h発進加速（括弧内の数値は「スポーツ・プラス」モード）	トレーラーけん引時の最高速度
Cayenne Turbo	279 km/h	4.5 (4.4) 秒	地域の法律等を遵守してトレーラー車両をけん引してください。
Cayenne S	259 km/h	5.5 (5.4) 秒	
Cayenne S ディーゼル＊	252 km/h	5.4 (5.3) 秒	
Cayenne ディーゼル＊	221 km/h 209 km/h[1)] 220 km/h[2)] 218 km/h[3)]	7.3 (7.2) 秒 8.5 (8.4) 秒[1)] 7.5 (7.4) 秒[2)] 7.6 (7.5) 秒[3)]	

1) ベルギー、ノルウェー
2) イタリア
3) Euro 5 / Euro 4 / Euro 3

＊ 日本仕様に設定はありません。

車両寸法（メーカー発表値）

	Cayenne Turbo	Cayenne S、 Cayenne S ディーゼル＊、 Cayenne ディーゼル＊
全長	4,855 mm	4,855 mm
全幅	1,939 mm	1,939 mm
ホイール・アーチ・エクステンション含む全幅	1,954 mm	1,954 mm
ドア・ミラーを含む全幅	2,165 mm	2,165 mm
ノーマル・レベルの全高、18/19インチ・エア・スプリング		
ノーマル・レベルの車高	1,702 mm	1,699 mm
ノーマル・レベルの全高（ルーフ・レール含む）	1,721 mm	1,717 mm
ノーマル・レベルの全高（ルーフ・トランスポート・システム用ベース・キャリア含む）	1,817 mm	1,813 mm
ノーマル・レベルの全高（リヤ・リッド・オープン含む）	2,196 mm	2,192 mm
DIN規格空車重量での全高、スチール・サスペンション		
DIN規格空車重量での全高	–	1,705 mm
DIN規格空車重量での全高（ルーフ・レール含む）	–	1,724 mm
DIN規格空車重量での全高（ルーフ・トランスポート・システム用ベース・キャリア含む）	–	1,820 mm
リヤ・リッド・オープン時のDIN規格空車重量での全高	–	2,190 mm
スペシャル・オフロード・レベル使用時の全高		
スペシャル・オフロード・レベル使用時の全高	1,758 mm	1,754 mm
スペシャル・オフロード・レベル使用時の全高（ルーフ・レール含む）	1,777 mm	1,773 mm
オフ・ロード・レベル使用時の全高 （トランスポート・システム用ベース・キャリア含む）	1,873 mm	1,869 mm
スペシャル・オフロード・レベル使用時かつリヤ・リッド・オープン時の車高	2,250 mm	2,246 mm

＊ 日本仕様に設定はありません。

	Cayenne Turbo	Cayenne S、 Cayenne S ディーゼル＊、 Cayenne ディーゼル＊
最大渡河能力	500 mm[1)]	500 mm[1)]
ホイールベース	2,895 mm	2,895 mm
オーバーハング、フロント	960 mm	960 mm
オーバーハング、リヤ	1,000 mm	1,000 mm
最小回転直径	11.9 m	11.9 m

[1)] エア・サスペンション装備車のスペシャル・オフロード・レベル時の最大渡河能力は555mmまでです。

＊ 日本仕様に設定はありません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

い

う

え

＊ 日本仕様に設定はありません。

お

＊ 日本仕様に設定はありません。

か

き

＊ 日本仕様に設定はありません。

く

け

こ

さ

＊ 日本仕様に設定はありません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

す

せ

そ

＊ 日本仕様に設定はありません。

た

ち

て

と

＊ 日本仕様に設定はありません。

な

に

ね

の

は

＊ 日本仕様に設定はありません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

＊ 日本仕様に設定はありません。

ま

み

む

め

も

よ

ら

り

＊ 日本仕様に設定はありません。

る

れ

ろ

わ

- 車両の仕様およびオプションの変更により、この取扱説明書の内容の一部が車両と一致しない場合があります。
- 説明図は一部日本仕様と異なる点があります。
- この取扱説明書に関してのお問い合わせは下記までお願い致します。

ポルシェ ジャパン株式会社　アフターセールス部

〒153-0064
東京都目黒区下目黒1-8-1
アルコタワー16F

車両受領証
（販売店で保管）

VIN：車両識別ナンバー

エンジンナンバー

上記車両については、取扱説明書および整備手帳に記載されている車両の取扱い、および保証内容、並びに納車点検内容の説明を受け了承の上、車両およびツールキットを完全な状態で受領しました。

販売店スタンプ

日時　　お客様の署名

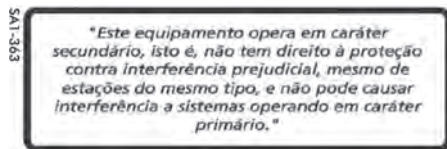
無線装置の検査マーク

ヨーロッパ

ポルシェ社では、当社車両に装着されている無線装置が指令1999/5/ECおよび他の関連規約の基本要件に適合していることを承認します。

ブラジル

SA1-363

"Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito à proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário."

イスラエル

שם הדגם (Hebrew :Model name)
5Wk50137 / 28-4003-61004-3-00 / 7PP905865

SA1-366

שם היצרן וכתובתו (Hebrew : Manufacturer and address)
Continental AG
Siemensstraße 12
93055 Regensburg

SA1-367

マレーシア

RAAU/25A/0409/S(09-0408)

シンガポール

IDA標準DB01752に準拠
IDA標準DA103858に準拠

中国

CMIIT ID：2013DJ5507

インドネシア

22097/SDPPI/2011 2181

ヨルダン

Type approval No.：TRC/LPD/2011/106

台湾

CCAB10LP3800T1

日本

カタール

ictQATAR Type Approval Reg. No.：R-2419

オマーン

Oman - TRA R/0686/12 D090016

アラブ首長国連邦

TRA REGISTERED No：ER0075624/11,
DEALER No：DA0053436/10
TRA REGISTERED No：0016889 / 09,
DEALER No：0014972/08

メキシコ

Sistema de apertura de automóviles base y llave electrónica Hella KGaA Hueck & Co,
COFETEL：(RLVHELC11-1185)
Radar de largo alcance, 77GHz,
MARCA：BOSCH, MODELO：LRR3,
COFETEL：(RCPBOLR09-0828)

モロッコ

AGREE PAR L'ANRT MAROC
Numéro d'agrément：MR 5371 ANRT 2010
Date d'agrément：02 / 02 / 2010

韓国

南アフリカ